加納古墳群・平石古墳群発掘調査概要・Ⅲ

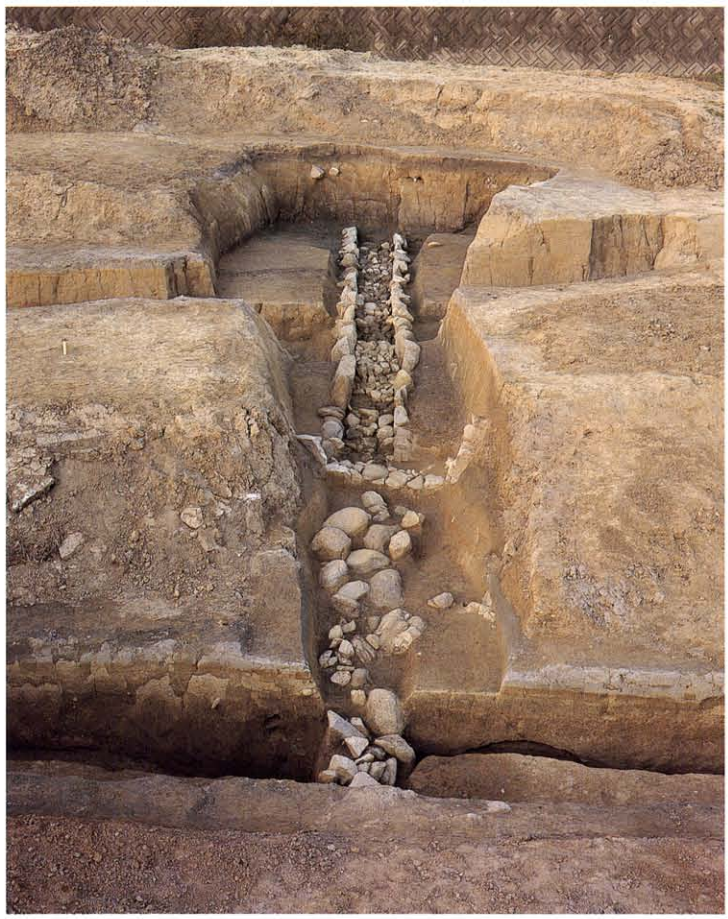
—中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」に伴う—

２００４年３月

大阪府教育委員会

巻頭写真

駕田古墳全景（南西から）



石組溝全景（南から）

はじめに

6世紀から7世紀にかけて、河内の葛城山麓、河南町平石川右岸段丘上に、谷間を見下ろす古墳が下流から上流へと築かれました。このうち、昭和40、50年代に内部調査が行われたアカハゲ古墳やツカマリ古墳に、精美な切石の埋葬施設が構築され、葬送にあたっては漆塗り籠棺や緑釉棺台が用いられていました。7世紀中頃の造墓活動を特徴づける学術的にも貴重な成果として知られています。ところが四半世紀を経てこの地区に大規模なほ場整備事業が計画され、それに伴う事業地全体の文化財調査がはじまると、かつての調査成果に倍する重要な発見が相次ぎました。平成12年度の加納古墳群の1・2・5・6号墳、13年度のシシヨツカ古墳、そして今回報告する14年度の駕田古墳等々です。シシヨツカ古墳の東北に接して築かれた駕田古墳は、ひとつの墳丘に同時にふたつの石室を設ける双室墳と呼ばれる形態をとっています。さらにこの古墳の東では、古代宮都の石溝と見まがうかのような8世紀代の立派な石組の溝が、段丘斜面に築かれていることも判明しました。どれをとりあげても予想を超える発見です。このように平石谷は大和と河内を繋ぐ要路上の位置も相俟って、その重要性は今後ますますクローズアップされるでしょう。

本府教育委員会としましては、この地区の整備事業について関係機関と十分に調整を図りつつ、文化財の保護に努めていきたいと思っています。今後もこれまで以上に地元の方々や広く府民の皆様にご協力をよろしくお願い申し上げます。

今回の発掘調査の実施にご協力いただきました地元の皆様ならびに関係機関に深く感謝申し上げます。

平成16年3月

大阪府教育委員会
文化財保護課長　向井　正博

例　　言

1．本書は、中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」に伴う、南河内郡河南町所在加納古墳群・平石古墳群の発掘調査概要報告書である。

2．調査と遺物整理は、大阪府環境農林水産部の依頼を受けて大阪府教育委員会が実施した。

3．調査は、文化財保護課調査第二グループ主任技師枡本哲を担当者として、平成14年7月より平成14年11月まで行った。遺物整理は、調査管理グループ技師林日佐子、同小浜成を担当者として、平成16年3月まで行った。

4．本書に使用した国土座標は、日本測地系国土座標第Ⅵ系に基づき、括弧内には世界測地系の数値を書き加えた。方位は座標北、標高はT.P.で示している。特に必要な場合は磁北の表示を加えている。

5．航空写真は、和歌山航測株式会社に委託して実施した。なお、撮影フィルムは同社において保管している。

6．遺構・遺物の写真撮影を（有）阿南写真工房に、石器の実測を（株）アルカに委託して実施した。

7．調査と遺物整理にあたり、下記の機関および方々から格別のご協力とご指導を賜った。ここに記して感謝申し上げます（団体五十音順・団体内五十音順・敬称略）。

赤井毅彦（河南町教育委員会）、木下光弘（河南町給食センター）、竹本勇、吉年研一（北加納地区委員長）、北野耕平（神戸商船大学）、堀田啓一（高野山大学）、森村健一（堺市教育委員会）、江浦洋（財団法人大阪府文化財センター）、置田雅昭（天理大学）、奥田尚（奈良県立橿原考古学研究所）、西谷安一（平石地区委員長）、岩瀬透、上林史郎、岡本敏行、山本彰（府立近つ飛鳥博物館）。

8．発掘調査および遺物整理・調査概要の作成に要した経費は、農林水産省の補助を受けた大阪府環境農林水産部と文部科学省の補助を受けた大阪府教育委員会が負担した。

9．本書は、枡本が執筆、編集し、第3章については、奈良県立橿原考古学研究所共同研究員奥田尚氏から玉稿を賜った。

10．本概要は、300部作成し、一部あたりの単価は3,329円である。

本　文　目　次

はじめに
例言
第１章　調査の契機と経過 …… 1頁
第２章　調査の概要 …… 7頁
第３章　駕田古墳の石材の石種とその採石地 …… 39頁
第４章　まとめ …… 43頁
付　章　平成13年度の調査の概要−シシヨツカ古墳以外の調査区 …… 46頁
遺物観察表 …… 78頁

挿　図　目　次

第１図　平石谷古墳分布図
第２図　南河内こごせ地区事業位置図
第３図　平成14年度調査区位置図
第４図　平成12～14年度調査区位置関係図
第５図　第1調査区北壁断面図ほか
第６図　第2調査区断面図
第７図　第3調査区断面図
第８図　第5～7調査区断面図
第９図　第3・5調査区拡張部溝・落ち込み平面・断面図
第10図　第3・5調査区拡張部ピット群平面・断面図
第11図　第1～3・5・7調査区出土土器
第12図　第8調査区断面図
第13図　第8調査区出土土器
第14図　第9調査区断面図
第15図　第9調査区石組溝平面・断面図
第16図　第10調査区平面図ほか
第17図　第10調査区断面図
第18図　第11調査区平面図
第19図　第11調査区断面図（1）
第20図　第11調査区断面図（2）
第21図　第11調査区駕田古墳平面図
第22図　第11調査区駕田古墳埋葬施設平面図
第23図　第11調査区駕田古墳東西石室前方立面図
第24図　第9～11調査区出土土器
第25図　第10調査区出土榛原石
第26図　第12調査区断面図
第27図　各調査区出土石器
第28図　駕田古墳の石材の石種
第29図　平成13年度調査区位置図
第30図　第2調査区横穴式石室跡平面・断面図
第31図　第3調査区断面図
第32図　第1～3トレンチ断面図
第33図　第4・5トレンチ断面図

第34図　第4トレンチ拡張部流跡平面・断面図
第35図　第2調査区・第4トレンチおよび拡張部出土土器
第36図　第9トレンチ平面図
第37図　第9トレンチ出土土器
第38図　第12・22トレンチ出土土器
第39図　第10・12・22トレンチ平面・断面図
第40図　第11・13～19トレンチ断面図
第41図　第13・14トレンチ出土土器
第42図　第15トレンチ出土土器（1）
第43図　第15トレンチ出土土器（2）
第44図　第15トレンチ出土土器（3）
第45図　第15トレンチ出土土器（4）
第46図　第16・19～21トレンチ出土土器
第47図　第20・21トレンチ平面・断面図
第48図　各トレンチ出土石器

巻頭写真図版目次

駕田古墳全景
石組溝全景

写真図版目次

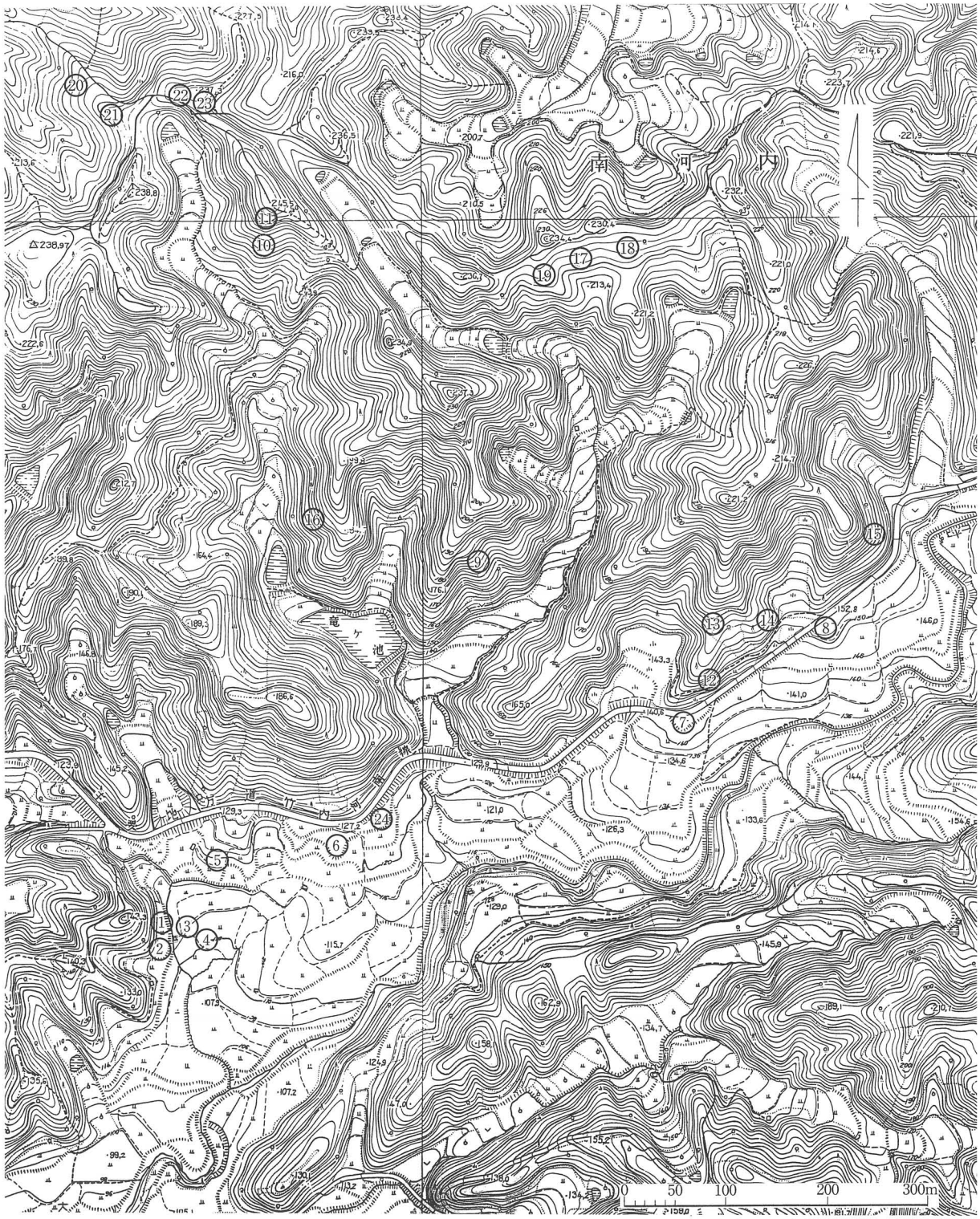
図版１　調査区全景
図版２　第1調査区
図版３　第3・5調査区
図版４　第9調査区
図版５　第9調査区拡張部石組溝（1）
図版６　第9調査区拡張部石組溝（2）
図版７　第9調査区拡張部石組溝（3）
図版８　第10調査区（1）
図版９　第10調査区（2）
図版10　第11調査区　駕田古墳（1）
図版11　第11調査区　駕田古墳（2）
図版12　第11調査区　駕田古墳（3）
図版13　第11調査区　駕田古墳（4）
図版14　第11調査区　駕田古墳（5）
図版15　第11調査区　駕田古墳（6）
図版16　第11調査区　駕田古墳（7）
図版17　第11調査区　駕田古墳（8）
図版18　第1・2調査区出土土器
図版19　第1～3・5・7調査区出土土器
図版20　第8調査区出土土器・鞴羽口
図版21　第9・10調査区出土土器
図版22　第10・11調査区出土榛原石・土器
図版23　各調査区出土石器ほか
図版24　第3調査区断面
図版25　第4トレンチ拡張部
図版26　第9・12・22トレンチ
図版27　第14・15トレンチ
図版28　第20トレンチ（1）
図版29　第20トレンチ（2）
図版30　第2調査区・第4トレンチおよび拡張部出土土器
図版31　第2調査区・第4トレンチ拡張部ほか出土土器
図版32　第9・12トレンチ出土土器
図版33　第12・14トレンチ出土土器
図版34　第15トレンチ出土土器（1）
図版35　第15トレンチ出土土器（2）
図版36　各トレンチ出土石器

第１章　調査の契機と経過

平成11年度から大阪府教育委員会文化財保護課が環境農林水産部からの依頼を受けて実施している加納古墳群および平石古墳群の発掘調査は、平成10年から平成16年にかけて圃場整備を実施する予定の「南河内こごせ地区の農空間整備事業」に伴って、事前に当該地の埋蔵文化財の分布・内容を把握してきている。本事業が、農作業の省力化・効力化を図り、大雨災害を受けにくい農地・農業施設を作り、豊かな自然遺産と歴史資源を有効に活用しつつ、都市住民との交流型農業の展開に寄与することを目的とする以上、いうまでもなく発掘調査で得られたデータに照らして事業との整合を図りながら、最大限埋蔵文化財の保護策を講じなければならない（第1・2図）。

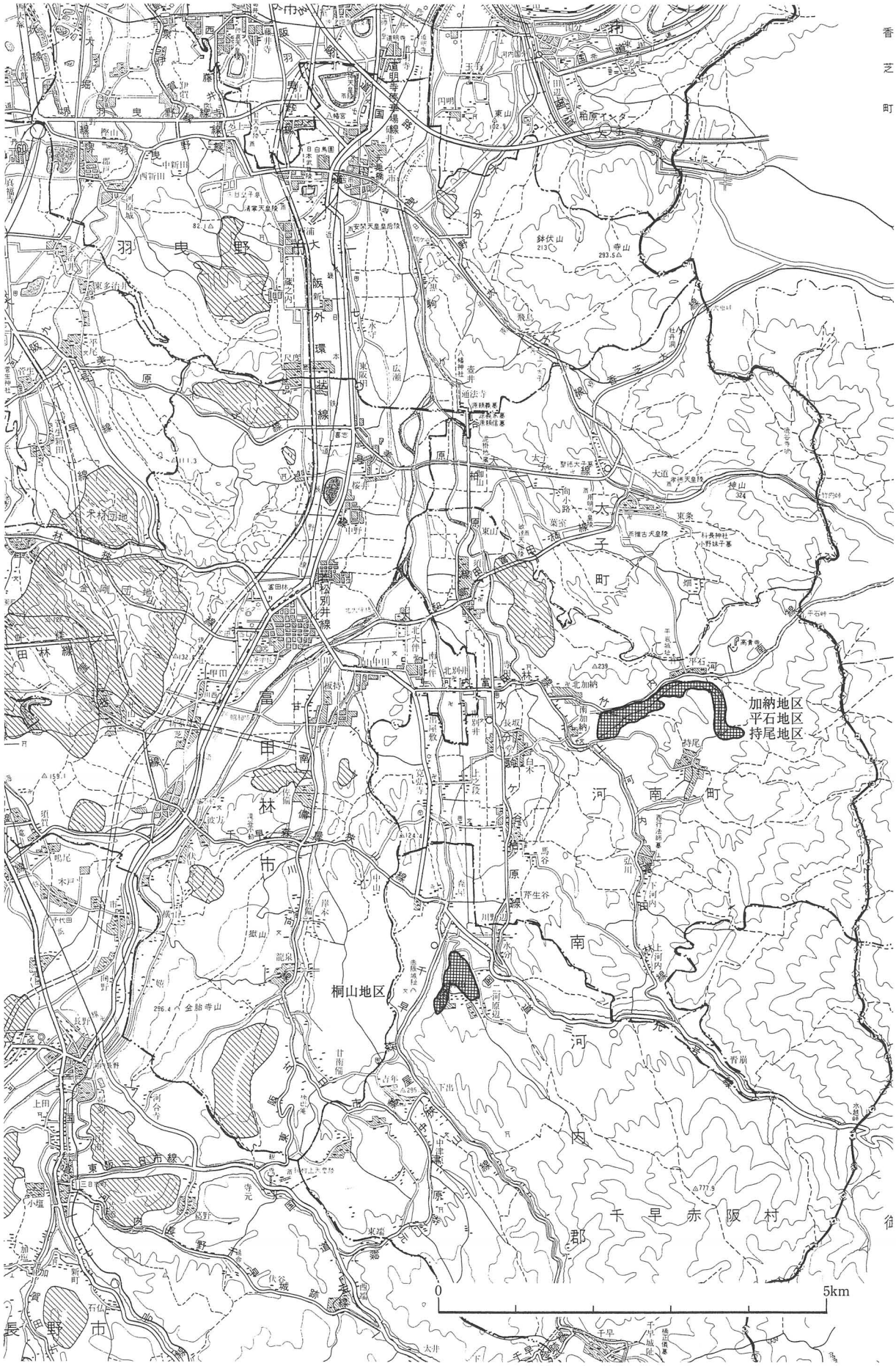
河南町加納・平石・持尾地区と千早赤阪村桐山地区の55.7haにおよぶ圃場整備対象地には、多くの歴史・文化遺産が知られている。このことから本課は事業主体の大阪府環境農林水産部と埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、まず平成11年度に加納・平石地区、桐山地区において試掘調査を実施し、埋蔵文化財の分布を把握した。その調査結果に基づき平成12年度には加納地区と桐山地区で発掘調査を実施し、特に加納地区では加納1・2・5・6号墳を中心とする古墳時代後期の横穴式石室をもつ古墳の内容を明らかにした。残存状態の良好な加納1号墳については環境農林水産部と協議の上、若干の工法を変更して、保存が図られることになった。次いで平成13年度には前年の結果を踏まえ、加納・平石両地区にわたり、総面積10,150㎡について発掘調査を実施し、試掘調査の段階で初めてその存在が確かめられていたシシヨツカ古墳の内外の状況や規模等を掴んだ。その結果、この古墳が古墳時代後期から終末期の様相を示すことが判明した。そこで加納古墳群では石室全体を良好にとどめる2号墳、そしてシシヨツカ古墳については、農林水産部との協議を重ねて圃場の嵩上げを行ない、旧地形の破壊を極力抑えて地下に保存する方策を採った。

平成14年度は、シシヨツカ古墳の東で総面積1,399㎡を対象として発掘調査を実施し、新たに古墳1基を確認したほか、整然とした石組溝を検出した。これらの遺構の上面には盛土が施され、いずれも埋没保存されることとなった（第3・4図）。

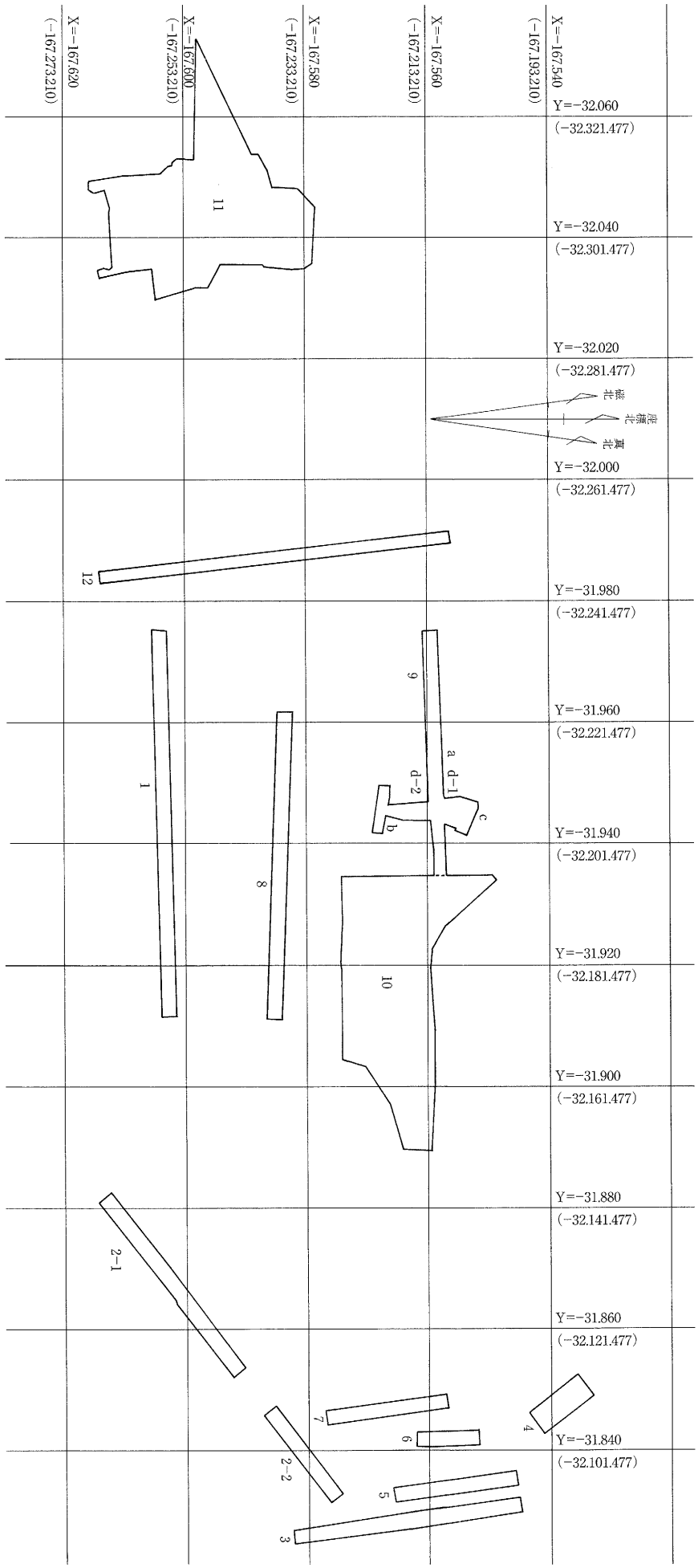


第１図　平石谷古墳分布図

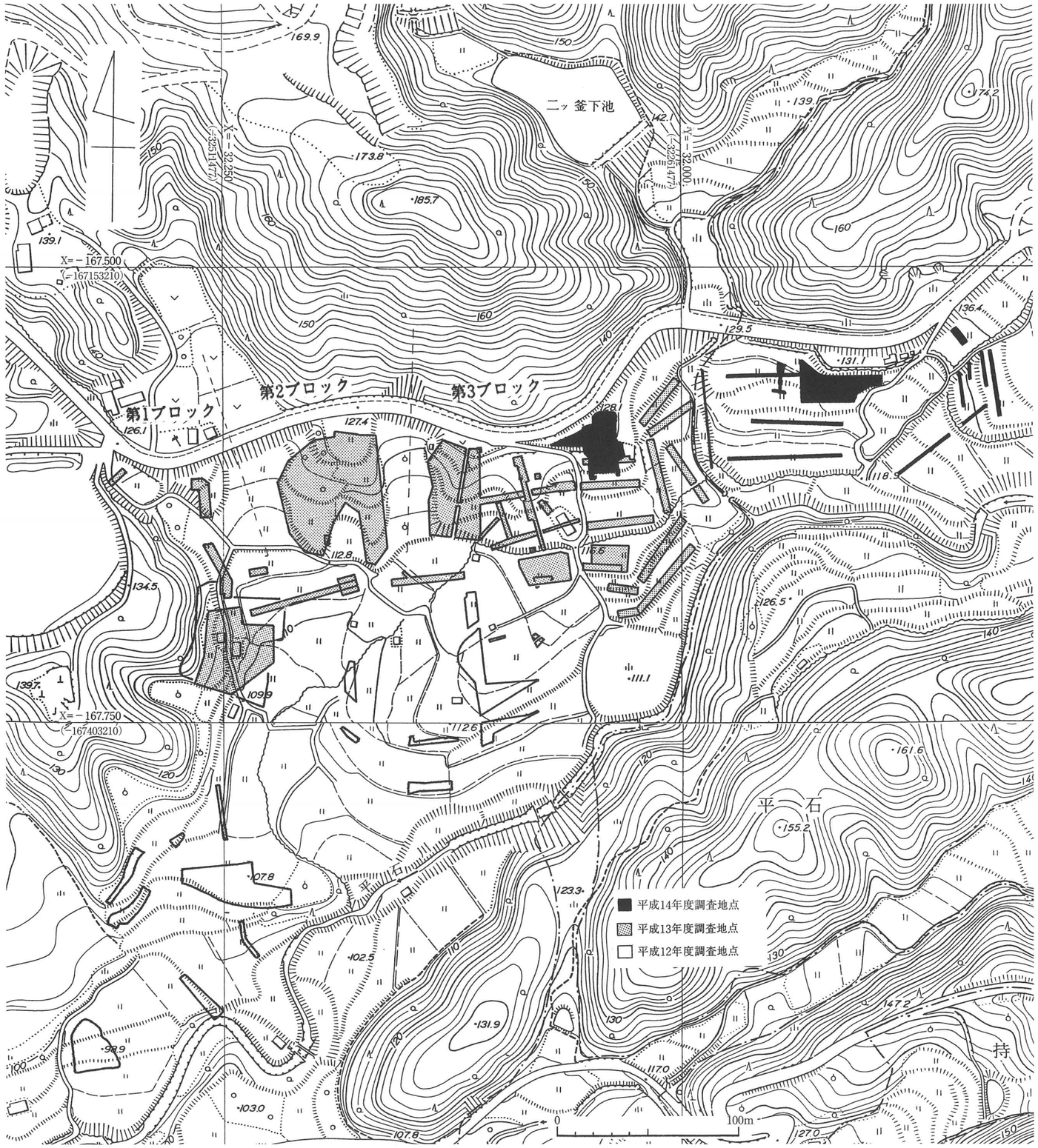
1　加納古墳群１号墳
2　同２号墳
3　同５号墳
4　同６号墳
5　同７号墳
6　平石古墳群シシヨツカ古墳
7　同アカハゲ古墳
8　同ツカマリ古墳
9　同大原古墳
10　同バチ川古墳
11　同バチ川２号墳
12～15　同ツカマリ北古墳他
16　平石古墳群（無名古墳）
17～19　一須賀古墳群Ｐ支群２～４号墳
20～23　同Ｍ支群２～5号墳
24　駕田古墳



第２図　南河内こごせ地区事業位置図



第３図　平成14年度調査区位置図



第４図　平成12～14年度調査区位置関係図

第２章　調査の概要

平成14年度は、釜下池（竜ヶ池）の谷筋の東で南に張り出す山麓部を中心として東西約250mの間において、計12箇所の調査区を設けて調査を実施した。この山麓部（第1調査区）は現在その外周に沿ってコンクリート壁をめぐらせた資材置き場となっていて、本来の山麓斜面はその地下に埋没した状態であり、今回の圃場整備事業の対象外である。したがって調査はコンクリート壁の南側一帯を発掘する形となった。この調査区の西側に取り付く形で設定した第9調査区では南北方向の石組溝が検出された。また谷筋を隔てた、13年度発掘のシシヨツカ古墳の北東に接する第11調査区では尾根の先端を利用した双室をもつ方墳が新たに発見された。以下各調査区の概要を述べる。

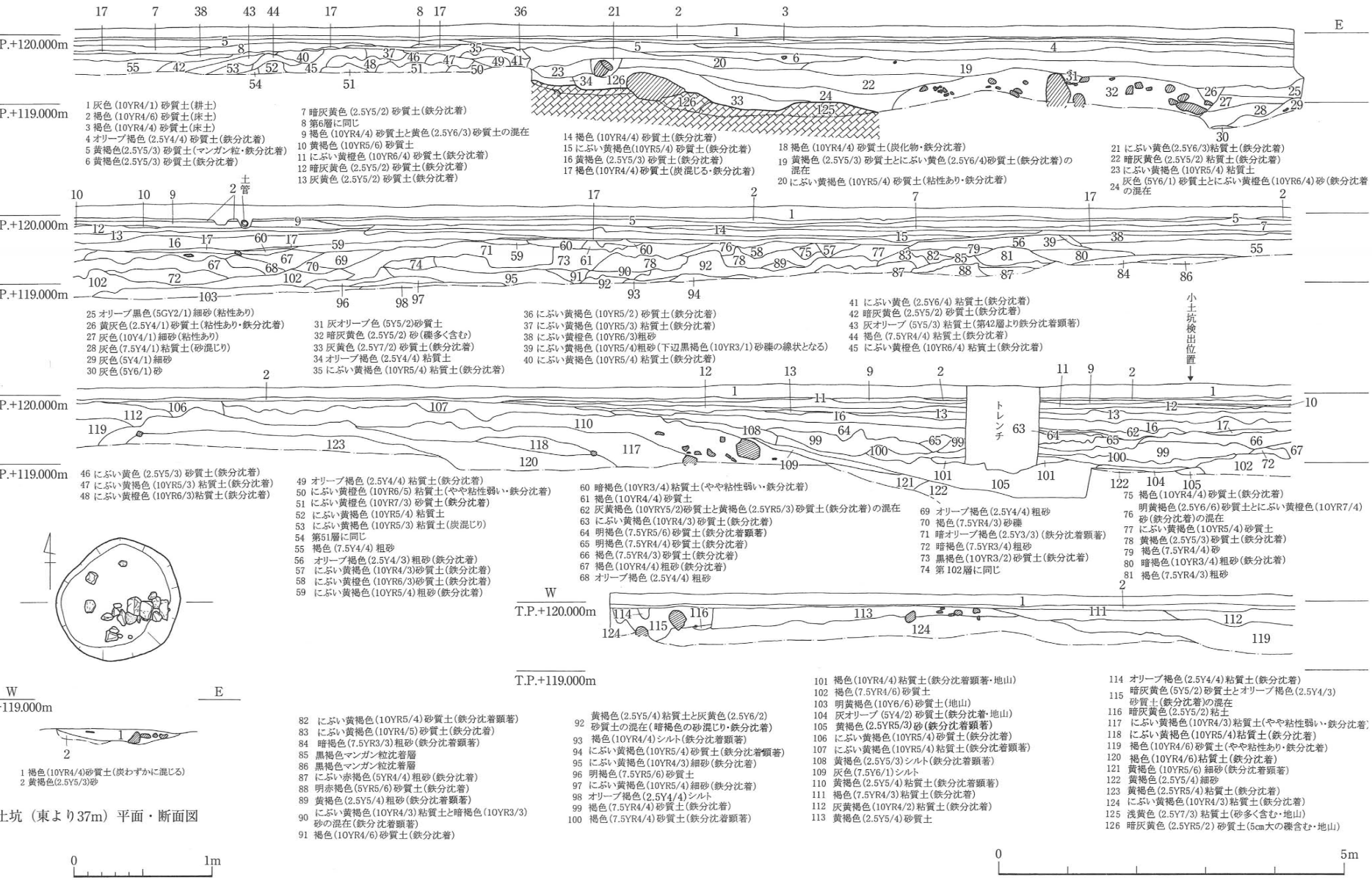
第1調査区（第5・11図）

第10調査区の南に東西に設定した幅2.0m、長さ64.0mのトレンチである。北壁断面に現れているように、東端から11.0mと46.0mのあたりに、かつての南北方向の流路の肩の西上がりの堆積層のラインが認められる。それより西の107層以下には粘質土を含む比較的締まった土が堆積している。しかしこれらの土層もかつての南北の流跡であり、結局西端より5m付近の床土直下の黄褐色砂質土（113層）を肩として、それより東側は砂～砂質土を主体とする流水堆積土である。この土層からは土師器・須恵器・瓦器・磁器など奈良時代～中世の遺物（1～10）が包含されている。おそらく中世には北西の二ッ釜池から下降し、平石谷に流れ込むいくつかの谷筋の流れがあったのであろう。幕藩時代の史料に基づいて、「北加納弐ッ釜池の如く、堤切流れ場合度々で、その都度見分・普請を願ひ出なければならなかった。」と述べられている（野村豊『水利史料の研究』）ように、何度か出水に見舞われたその名残と考えられる。

東端から37.0mの105層下で径1.0m、深さ0.15mの浅い円形土坑が検出され、礫に混じって土師器片が混入していた。遺物の時期は不明であるが、流水堆積以前の土地利用の痕跡と考えられる。トレンチ西端の床土下の112層でサヌカイト製槍先形石器未製品が出土している。

第2調査区（第6・11図）

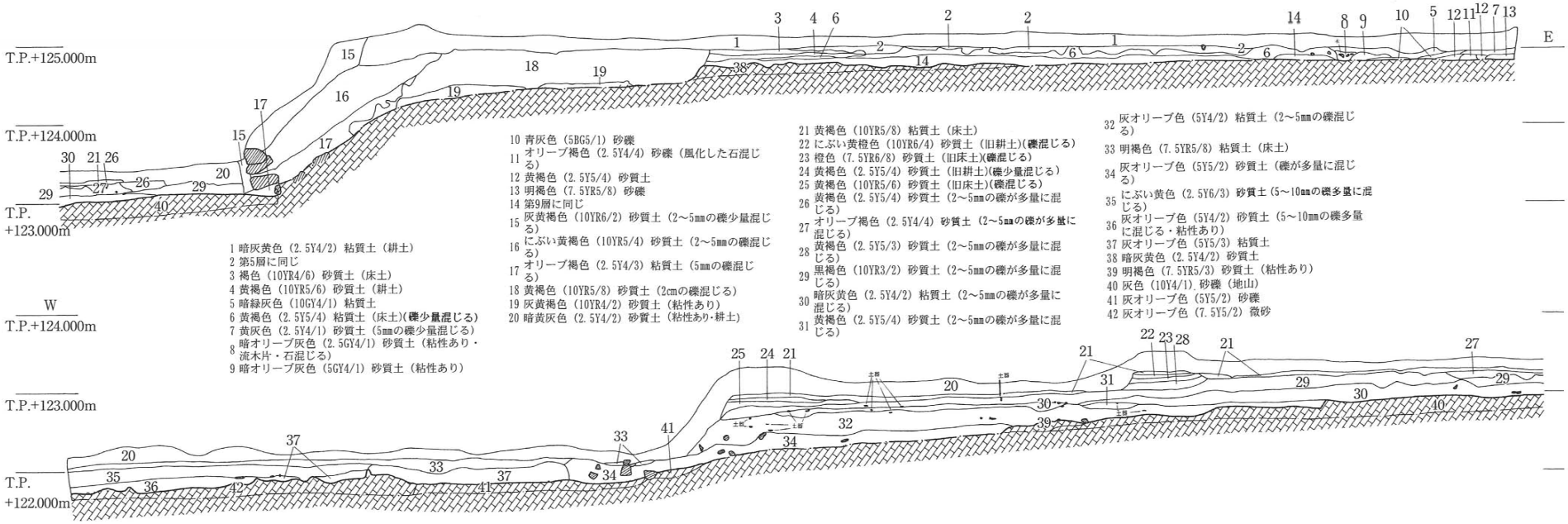
第1区の南東に里道・水路を挟んで北東～南西方向に3～4段の棚田が築かれた舌状に下降する丘陵がある。この丘陵は擁壁によってT.P.130.0～132.0mの上段とT.P.125.0～122.0mの下段に分かれ、各段に幅2.0m、長さ上段19m、下段38mのトレンチを設定した。上下両段において地山を削平して段差をつけ、棚田を造成し、結果として遺物包含層が二次堆積するに至った状況が観察された。重層する旧耕作土には土師器・須恵器・磁器・瓦器などの遺物が包含されているが、下段に設定した2-1調査区では須恵器・土師器が目立つ。さらに弥生後期の土器片やサヌカイト剥片が出土している。



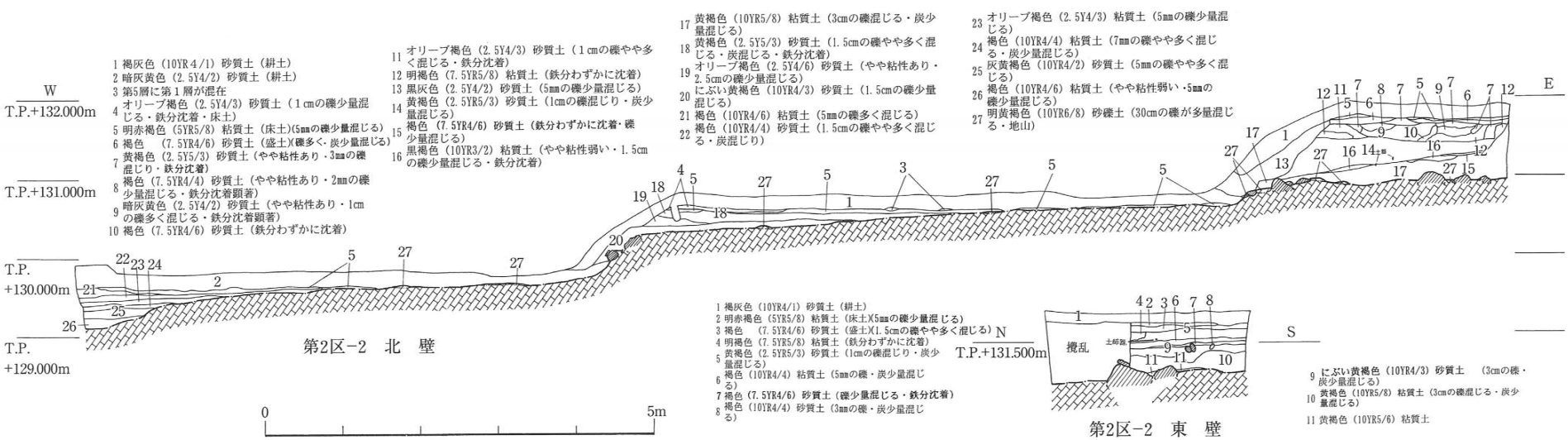
土坑（東より37m）平面・断面図

第5図　第1調査区北壁断面図ほか

第6図　第2調査区断面図



第2区－1　北　壁



第2区－2　北　壁

第2区－2　東　壁

0　　5m

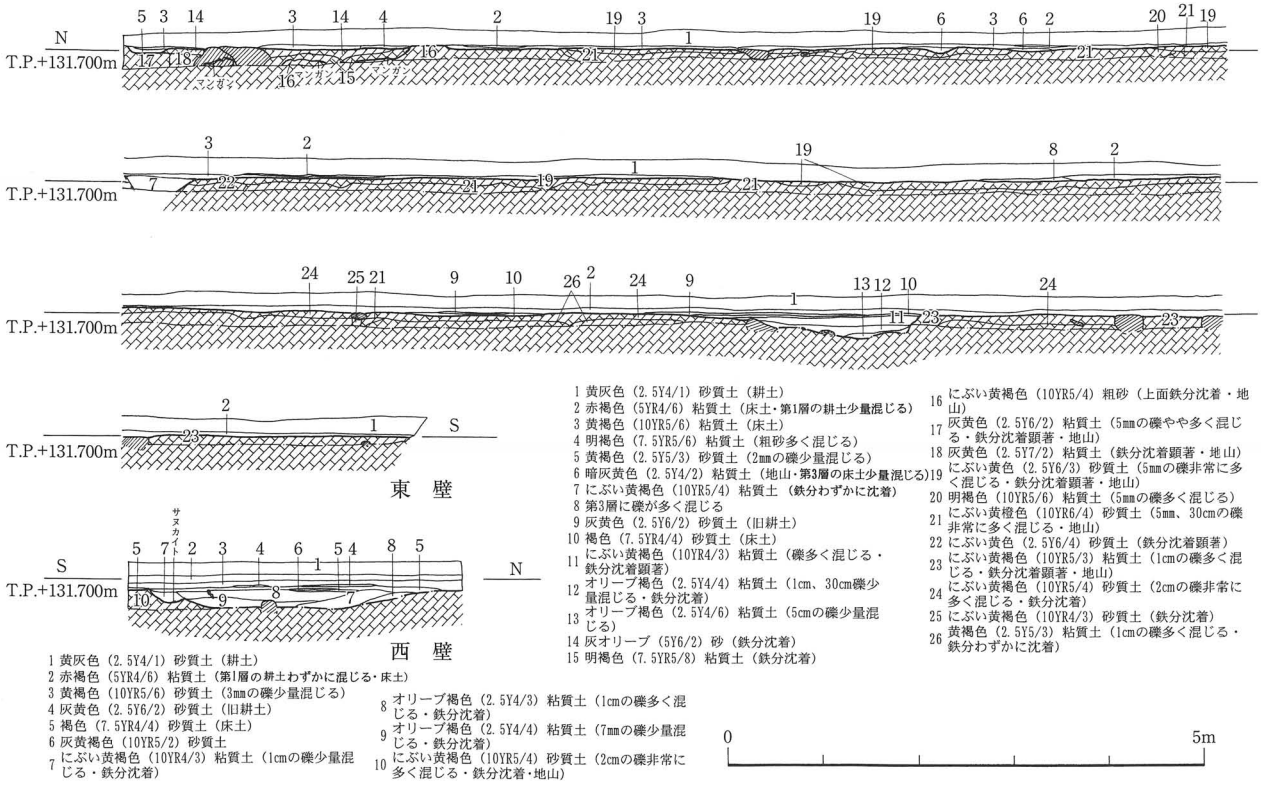
第3調査区（第7・11図）

第2調査区の上段トレンチ（2-2調査区）の一枚上の棚田に設定した南北方向のトレンチである。幅2.0m、長さ37.5m。粘性のある床土下は砂質土の地山となる。南端部ではこの地山面で幅1.5～2.0m、深さ0.2mの東西溝を、北端では西壁際で幅3.0mの浅い落ち込みを検出した。この棚田一帯は圃場整備によって切土となる箇所にあたっているので、遺構の拡がりを追跡するため、第3区の西側に平行して設定した第5区との間も拡張して調査することとした。

その結果、第3区で検出された溝はさらに西に延び、第2-2調査区の最高点あたりまで続き、それより西は第2調査区で確認された棚田造成の際の段差によって断ち切られていることが判明した。溝には粘質土が堆積し、北側から投棄された礫がこの堆積土に混入していた。またこれらの堆積土を除去すると溝の南肩付近に径0.2～0.3mのピットが検出された。そしてそのピット群に繋がるピットがさらに南の地山面でも検出された。それらのピットの拡がりは5.0×3.5mの範囲で認められるが、柱穴の並びや規模などからみて小屋程度の建物が想定される。それらとは別に、一辺0.5mで、四壁が若干被火して赤変し、中に炭が混じった方形土坑が検出されている。土質や位置関係、しっかりとした掘り方からみてこの土坑はピット群とは関係なく、農作業用に関連して掘り込まれたものではないかと考えられる。

第4調査区

第3調査区の北に、北東～南西に通る里道を挟んで設定した。この地点は北東から南西にのびる谷筋にあたっている。耕土下は廃棄物の混じる埋め土であり、地元では昭和50年代の土石流災害の後、谷筋を埋めて田にしたという。遺構・遺物は確認されなかった。



1 黄灰色（2.5Y4/1）砂質土（耕土）
2 赤褐色（5YR4/6）粘質土（床土・第1層の耕土少量混じる）
3 黄褐色（10YR5/6）粘質土（床土）
4 明褐色（7.5YR5/6）粘質土（粗砂多く混じる）
5 黄褐色（2.5Y5/3）砂質土（2mmの礫少量混じる）
6 暗灰黄色（2.5Y4/2）粘質土（地山・第3層の床土少量混じる）
7 にぶい黄褐色（10YR5/4）粘質土（鉄分わずかに沈着）
8 第3層に礫が多く混じる
9 灰黄色（2.5Y6/2）砂質土（旧耕土）
10 褐色（7.5YR4/4）砂質土（床土）
11 にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土（礫多く混じる・鉄分沈着顕著）
12 オリーブ褐色（2.5Y4/4）粘質土（1cm、30cm礫少量混じる・鉄分沈着）
13 オリーブ褐色（2.5Y4/6）粘質土（5cmの礫少量混じる）
14 灰オリーブ（5Y6/2）砂（鉄分沈着）
15 明褐色（7.5YR5/8）粘質土（鉄分沈着）
16 にぶい黄褐色（10YR5/4）粗砂（上面鉄分沈着・地山）
17 灰黄色（2.5Y6/2）粘質土（5mmの礫やや多く混じる・鉄分沈着顕著・地山）
18 灰黄色（2.5Y7/2）粘質土（鉄分沈着顕著・地山）
19 にぶい黄色（2.5Y6/3）砂質土（5mmの礫非常に多く混じる・鉄分沈着顕著・地山）
20 明褐色（10YR5/6）粘質土（5mmの礫多く混じる）
21 にぶい黄橙色（10YR6/4）砂質土（5mm、30cmの礫非常に多く混じる・地山）
22 にぶい黄色（2.5Y6/4）砂質土（鉄分沈着顕著）
23 にぶい黄褐色（10YR5/3）粘質土（1cmの礫多く混じる・鉄分沈着顕著・地山）
24 にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土（2cmの礫非常に多く混じる・鉄分沈着）
25 にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土（鉄分沈着）
26 黄褐色（2.5Y5/3）粘質土（1cmの礫多く混じる・鉄分わずかに沈着）

1 黄灰色（2.5Y4/1）砂質土（耕土）
2 赤褐色（5YR4/6）粘質土（第1層の耕土わずかに混じる・床土）
3 黄褐色（10YR5/6）砂質土（3mmの礫少量混じる）
4 灰黄色（2.5Y6/2）砂質土（旧耕土）
5 褐色（7.5YR4/4）砂質土（床土）
6 灰黄褐色（10YR5/2）砂質土
7 にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土（1cmの礫少量混じる・鉄分沈着）
8 オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘質土（1cmの礫多く混じる・鉄分沈着）
9 オリーブ褐色（2.5Y4/4）粘質土（7mmの礫少量混じる・鉄分沈着）
10 にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土（2cmの礫非常に多く混じる・鉄分沈着・地山）

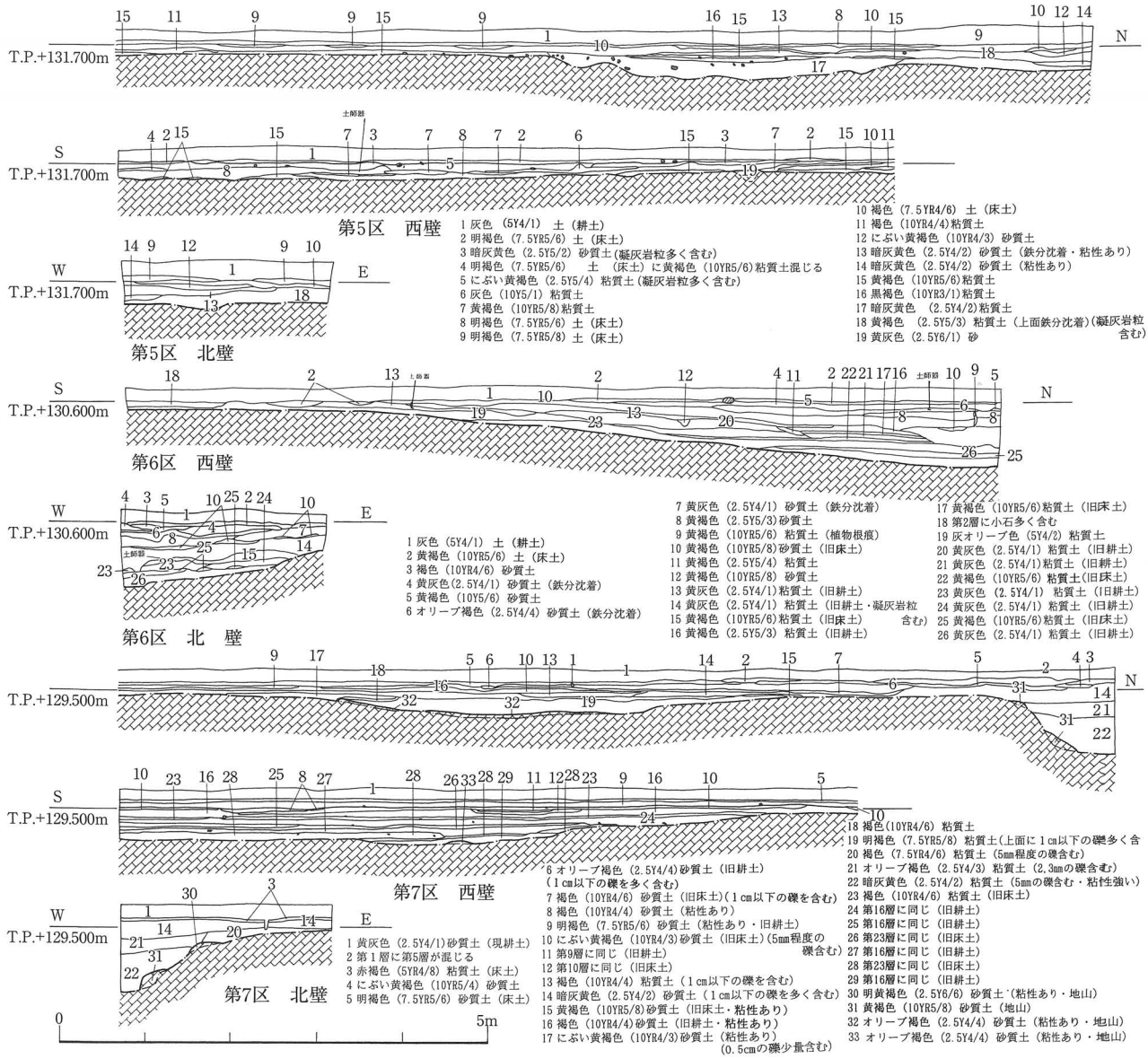
第７図　第３調査区断面図

第5調査区（第8・11図）

第3調査区の西に平行して設定した幅2.0m、長さ20.5mのトレンチである。堆積土は第3区と同様であるが、第3区の北端で検出した落ち込みの続きが確認できた。落ち込みでは土師器・須恵器の破片（45・46）が混入する。

第3・5調査区拡張部（第9～11図）

切土工事の対象となる上記の第3調査区と第5調査区で、若干の遺構を検出した関係で、両トレンチの間にも遺構が存在するかどうかを確認するため拡張したものである。結果、南部では第3調査区の溝やピットの範囲、北部では落ち込みの全体を検出したが、それ以外には遺構は認められなかった。落ち込みは幅3.0m、長さ6.0m、北東～南西方向に延びて、西はその下の棚田への傾斜部で断ち切れている。方向はこの調査区の丘陵が延びる方向と同じで、平坦な棚田に造成される以前の自然地形に沿う窪地の名残と思われる。しかしその堆積土である暗黄色の土質はこの落ち



第8図　第5～7調査区断面図

込みにのみ特徴的で、出土遺物も土師器・須恵器に限られ、棚田造成以前の状況を伝える痕跡であろう。遺物は細片が多いが、須恵器坏蓋（43）はつまみを除いて全形を知りえるもので、その時期は7世紀中頃と思われる。北東のアカハゲ古墳までは約90.0mを隔て、同じ丘陵の南西端にあたる位置を考えると、注意される遺物である。

第6調査区（第8・27図）

第5調査区の一段下の棚田に設置した幅2.0m、長さ10.0mの南北トレンチである。現耕土以下数層の中世耕作土の下は北に低く、南に高い地山面となる。丘陵の傾斜面を削平して狭隘な棚田を造成していった様子がうかがわれる。地山面に堆積した17層からサヌカイト剥片が出土している。

第7調査区（第8・11図）

第6調査区の一段下の棚田に設けた幅2.0m、長さ20.0mの南北トレンチである。耕土以下の堆積状況は第6調査区と同様、中世耕土層となっており、土師器小皿（47～49）が出土している。また床土からは近世磁器片と腐蝕の著しく形状の不明な青銅製品片が出土している。

第8調査区（第12・13・27図）

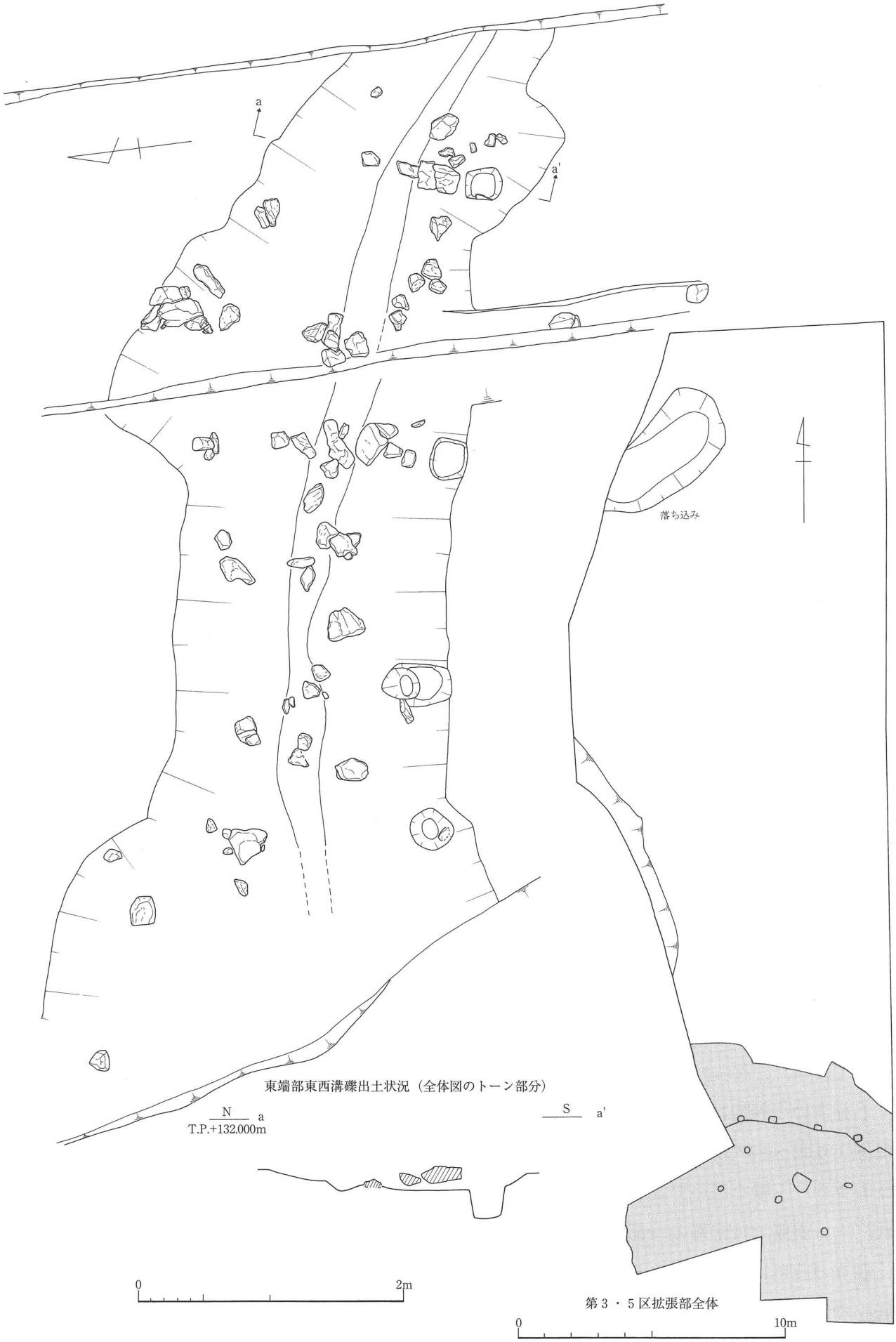
第1調査区の北側の1段上の棚田に設定した幅2.0m、長さ51.0mの東西トレンチである。現耕土下の数層の旧耕作土の堆積を経て、東西に大きく二つの流水堆積の痕跡を認める。トレンチ東端から西へ8.5m付近までは、第4調査区で確認された北東～南西にかけての旧谷筋の西側斜面、またトレンチ西端から東へ27.0m付近までは第1調査区で述べた二ッ釜池のある谷筋に連なる北西方向からの旧流跡となっている。そしてこの2つの流水堆積層の間で礫を多く含む砂質土地山が隆起する。したがって第8調査区では東西両方向から平石谷に流れ込んだかつての地形が観察される。またその地山面上では耕土・床土下の地山を1.5m四方を掘り込んで、耕作の妨げとなる1.2～1.3mの四角い転石を落としこんでいる。平石谷の棚田によくみられる田畑の開墾の知恵である。

東西の流水堆積土中には、土師器・須恵器・瓦器・磁器など古代・中世の遺物が含まれている。また鞴の羽口（70）やサヌカイト製槍先形未製品などが出土した。瓦器椀・白磁皿・土師質羽釜などの中世遺物などから12～13世紀頃の堆積が考えられる。なお床土より銅銭が出土しているが腐蝕が激しく銭種は不明である。

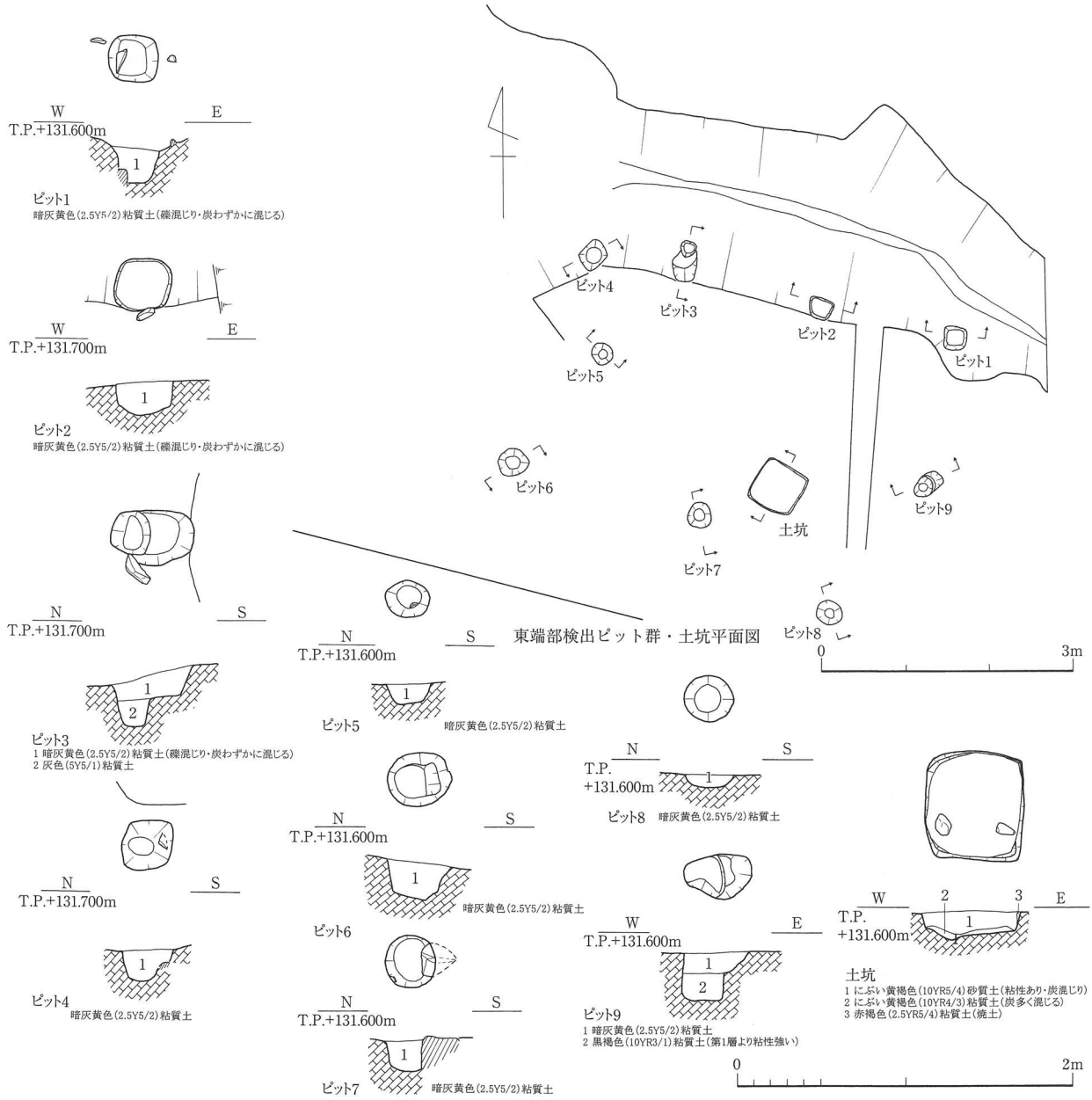
第9調査区（第14・24図）

第8調査区北側の2段上の棚田に東西に設定した幅2.0m、長さ40.0mの東西トレンチで、東端は第10調査区に接する。東端より西へ10.0mで、このトレンチに直行する形をとる南北方向の石組溝が検出されたため、それを追跡せんと北へ5.5m、南へ9.0m拡張した。

石組溝より上は、ほぼ水平な堆積を示す中世耕土層が堆積し、奈良時代の土師器・須恵器に加えて瓦器・土師器小皿など中世遺物が出土する。しかし石組溝より以下の土層は水平ではなく、自然堆積とは思えない乱れた層界ラインが観察される。おそらく北西の二ッ釜池の谷筋に派生する旧谷地形を埋めた一連の埋積土であり、その作業の最終段階で石組溝が設置されたと考えられる。



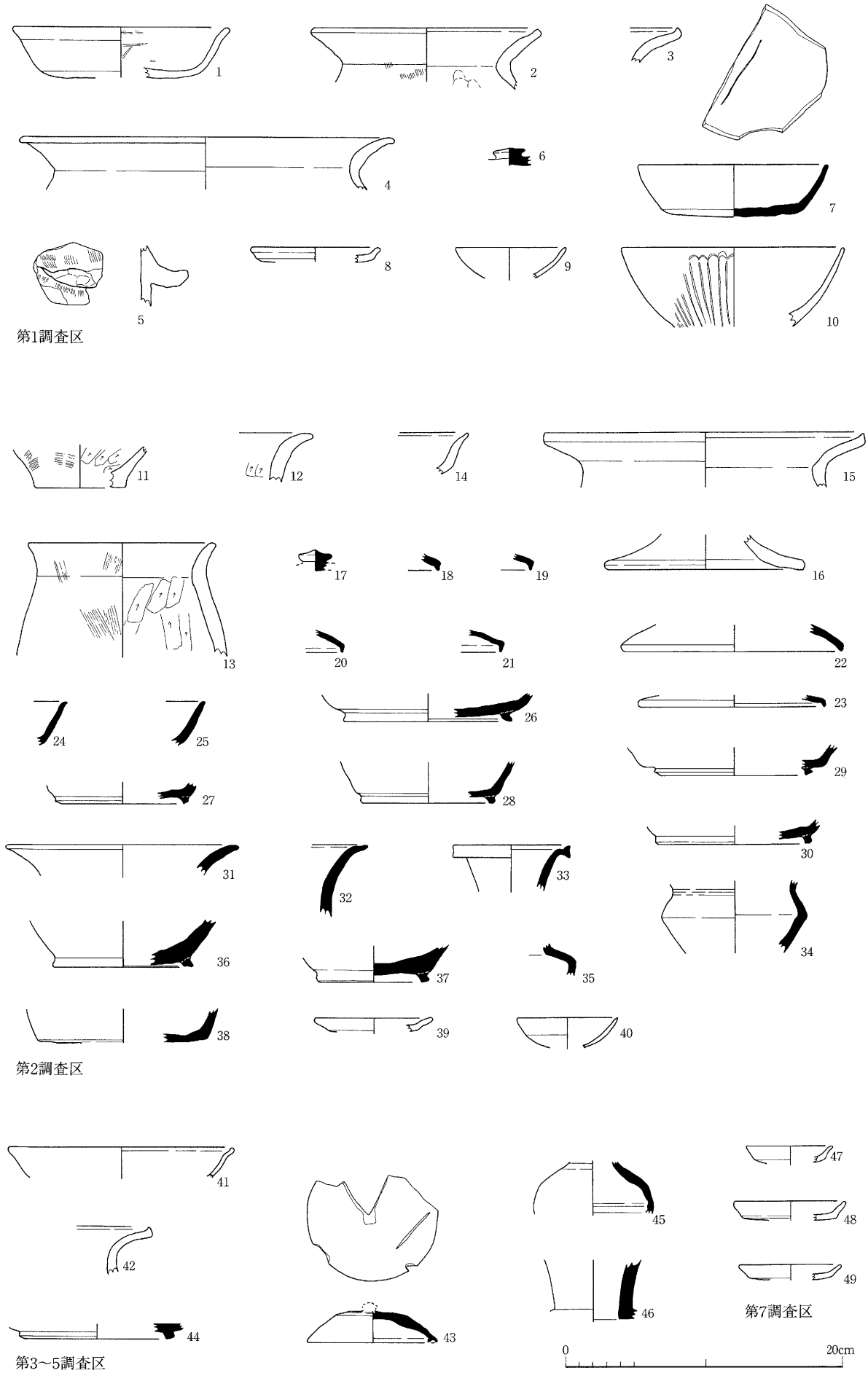
第９図　第3・5調査区拡張部溝・落ち込み平面・断面図



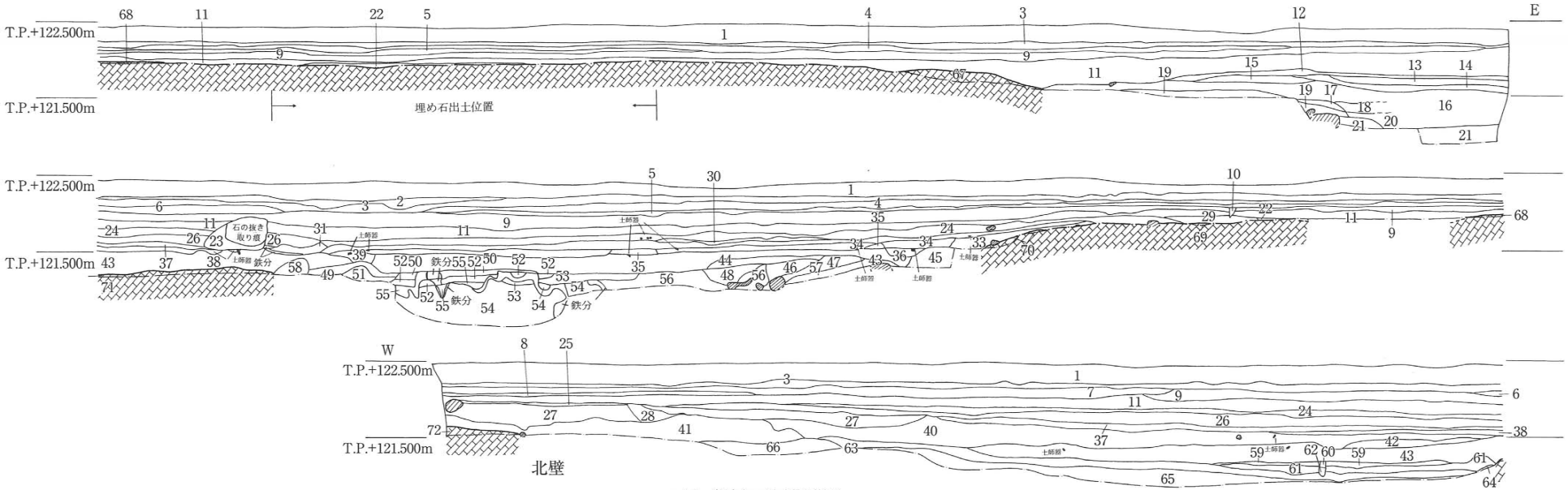
第10図　第3・5調査区拡張部ピット群平面・断面図

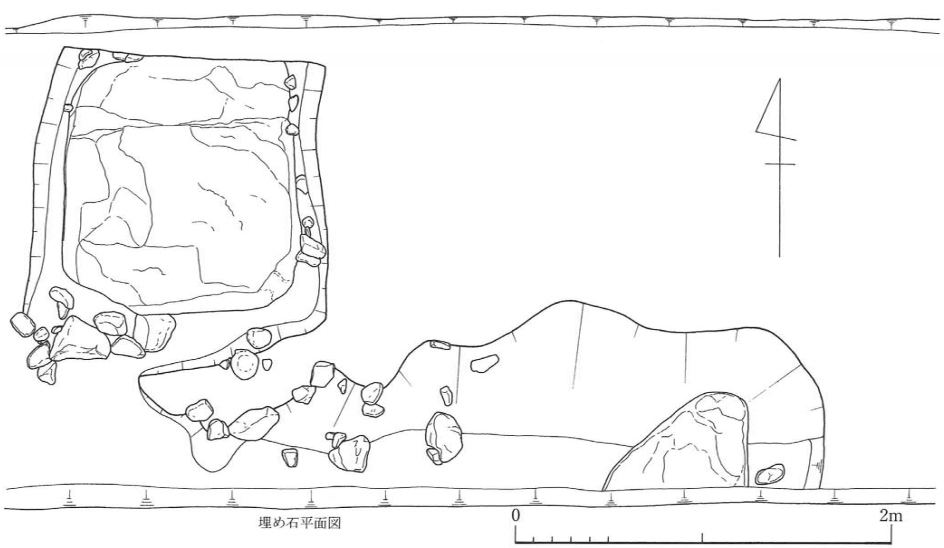
この埋積土の一部から土師器の皿（74・75）が、また石組溝内堆積土より須恵器坏身（79）が出土しており、これらの遺物によって石組溝の施工時期としては8世紀前半を考慮できる。

石組溝の中軸線は北側で磁北との振れN−11°40′～12°−Eを測る。南北延長16.5mを検出した。南端より北へ5.5～6.0mのところは上下の棚田の段差にあたり、ここでは上段の棚田の石垣が一部コンクリート壁を用いて補強されていた。ここを境にして北側には石組溝の原状がよくとどめられ、一方南側では南端の一部を除いて全体的に撹乱され、石もかなり取り去られていた。おそらく現在の石垣にもそれらの石が転用されたのであろう。しかし南側の撹乱部にかろうじて残った底石や側石などからすると、当初石組溝は現在のような段差をもって設置されたのではなく、勾配10°～15°の傾斜をつけて構築されたと考えられる。なぜなら境付近の南側の石はほとんど外されているが、



第11図　第1～3・5・7調査区出土土器

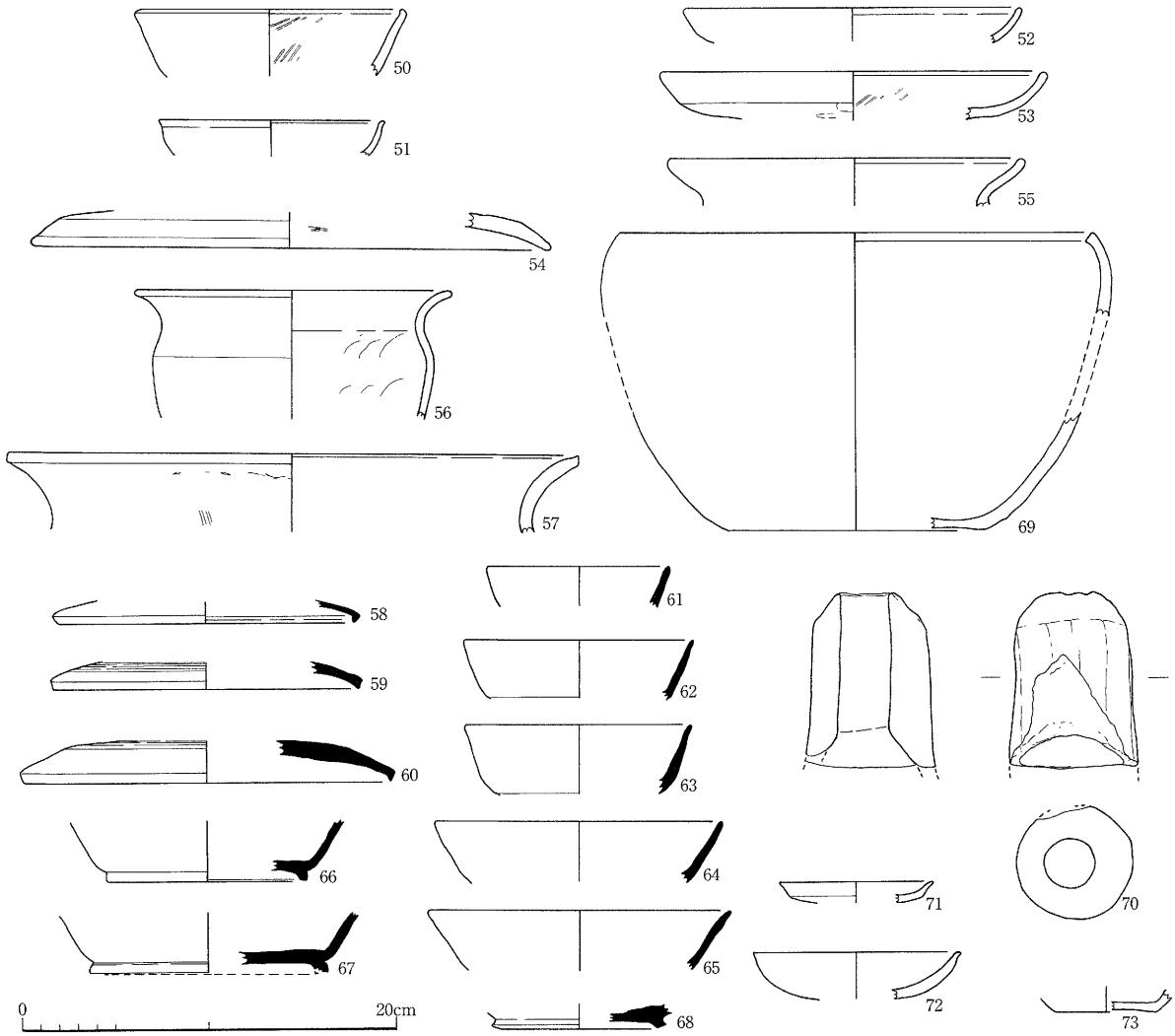




埋め石平面図

1 オリーブ黒色(5Y3/1)砂質土(耕土)
2 褐色(10YR4/4)砂質土(礫多量 混じる)
3 褐色(10YR4/6)砂質土(粘性あり・床土)
4 褐色(10YR4/4)砂質土(やや粘性あり・床土)
5 褐色(10YR4/4)粘質土(やや粘性あり)
6 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土(鉄分沈着)
7 灰黄色(2.5Y6/2)砂質土
8 オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質土(鉄分沈着)
9 褐色(10YR4/6)砂質土(やや粘性あり)
10 褐色(10YR4/4)粘質土
11 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土(鉄分沈着)
12 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土(鉄分沈着)
13 灰黄褐色(10YR4/2)粘質土(鉄分沈着)
14 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘質土(鉄分沈着)
15 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土(鉄分沈着顕著)
16 オリーブ褐色(2.5Y4/3)粘質土(鉄分沈着)
17 灰黄褐色(10YR4/2)粘質土(炭わずかに混じる)
18 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘質土(鉄分沈着)(炭わずかに混じる)
19 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土(やや粘性あり・5cm大の礫多く混じる)
20 灰オリーブ色(5Y4/2)砂質土(粘性あり)
21 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂(鉄分沈着)
22 褐色(7.5YR4/6)粘質土(鉄分沈着)
23 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土(鉄分沈着顕著)
24 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂礫(10cm大の礫混じり)
25 褐色(10YR4/4)砂質土(鉄分沈着)
26 黒褐色(2.5Y3/2)粘質土(鉄分沈着顕著)
27 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土(やや粘性あり・鉄分沈着)
28 にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土
29 にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土
30 灰オリーブ色(5Y5/2)砂質土(鉄分沈着)
31 灰色(7.5Y6/1)粘質土(鉄分沈着顕著)
32 褐色(7.5YR4/4)砂礫(炭混じり)
33 褐色(7.5YR4/6)粘質土
34 オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土(やや粘性あり・鉄分沈着)
35 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土(炭混じり・鉄分沈着顕著)
36 暗褐色(10YR3/3)粘質土
37 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土(鉄分沈着顕著)
38 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘質土(炭わずかに混じる)(鉄分沈着顕著)
39 黄褐色(2.5Y5/3)粘質土(炭わずかに混じる)
40 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土(やや粘性あり)
41 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土(鉄分沈着)
42 にぶい黄褐色(10YR5/3)粘質土
43 褐色(10YR4/4)粘質土(炭わずかに混じる・鉄分沈着)
44 オリーブ褐色(2.5Y4/3)粘質土
45 にぶい黄褐色(10YR5/3)粘質土(礫多く混じる)
46 黄褐色(2.5Y5/4)粘質土
47 黄褐色(10YR5/3)粘質土
48 黄褐色(10YR5/6)粘質土(鉄分沈着)
49 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土(粘性あり・鉄分沈着)
50 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土(鉄分沈着顕著)
51 褐色(7.5YR4/4)砂質土(やや粘性あり)
52 にぶい黄褐色(10YR5/3)粘質土(炭わずかに混じる・鉄分沈着)
53 灰黄褐色(10YR4/2)粘質土(鉄分沈着)
54 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土(粘性強い)
55 にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土(鉄分沈着顕著)
56 にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土(鉄分沈着)
57 褐色(10YR4/4)粘質土
58 明褐色(7.5YR5/6)粘質土
59 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土(やや粘性あり)
60 にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土
61 にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土(砂混じり)
62 褐色(10YR4/6)粘質土
63 黒褐色(10YR3/2)粘質土(鉄分沈着顕著・炭多く混じる)
64 褐色(10YR4/4)砂質土(炭わずかに混じる)
65 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土(鉄分沈着顕著)
66 褐色(2.5Y5/3)粘質土(鉄分沈着顕著)
67 灰色(5Y4/1)粘質土(7cm大の礫多く含む・地山)
68 褐色(10YR4/4)粘質土
69 にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土(地山)
70 黄褐色(2.5Y5/3)粘質土
71 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土(やや粘性あり)
72 灰黄褐色(2.5Y5/2)粘質土(鉄分沈着顕著)

第12図　第8調査区断面図



第13図　第8調査区出土土器

これは後世(中世に)この箇所で段差をつけるために本来の傾斜部を切り取って明確な上下2段にしたと思われるからである。北側は調査区外であり、また南側にはそれに続く石敷きは確認されなかった。

原状をとどめる北半部でみると、最初に50.0～80.0cmの長手の川原石を内法50.0～60.0cmをとって据え、次いでその長手の石の間に30.0～40.0cmの石を平坦面を内側にして面を揃えて並べる。その後底面に5.0～40.0cmの礫を充填している。自然の川原石のみならず割り石も用い、敷くというより立てるような状態で凹凸の目立った溝底となっている。底石の間隙に当地の終末期古墳に特徴的な石材である榛原石の破片が確認された。これは紛れ込んだものではなく川原石の間に差し込んだ状態である。周辺の古墳から遊離した石材を二次的に利用したのかもしれない。

第10調査区（第16・17・24・25図）

平石谷では終末期の主要古墳がすべて南に張り出す丘陵先端部に築かれている。その目でみれば第10調査区は今回の調査で最も有望な立地条件をそなえている。しかし冒頭に述べたように、残念ながらコンクリート擁壁に取り巻かれた北側は調査区外であり、今回の調査区はその崖下という位置になる。この調査区はその擁壁沿いに東西45.0m、南北15.0～25.0mにわたって丘陵裾部を

巡る形で設定した。現耕作土以下には累々と水平に積み重ねられたかつての旧耕作土があり、その下には斜面堆積した流土が観察される。そして地山は黄褐色の粘質土であるが、それすら流土となっていて、特に西壁断面ではそれが顕著に認められる。平成13年度の第3調査区において数段の棚田に対し設定した南北縦断面に観察されたのと等しい堆積状況である（本書付章第3調査区参照）。したがってここでも幾度か斜面堆積して形成された丘陵を棚田造成していった様子をうかがうことができる。これらの層からは弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・サヌカイト・陶磁器の破片が出土するが、地山直上に堆積した粘質土（中央ベルト断面55・60層）では弥生土器・土師器片を含み、それより上位の土層に混入するような中世遺物は認められない。このことから棚田造成は中世に始まるとみられるが、それ以前の遺構も北側丘陵上に存在した可能性がある。

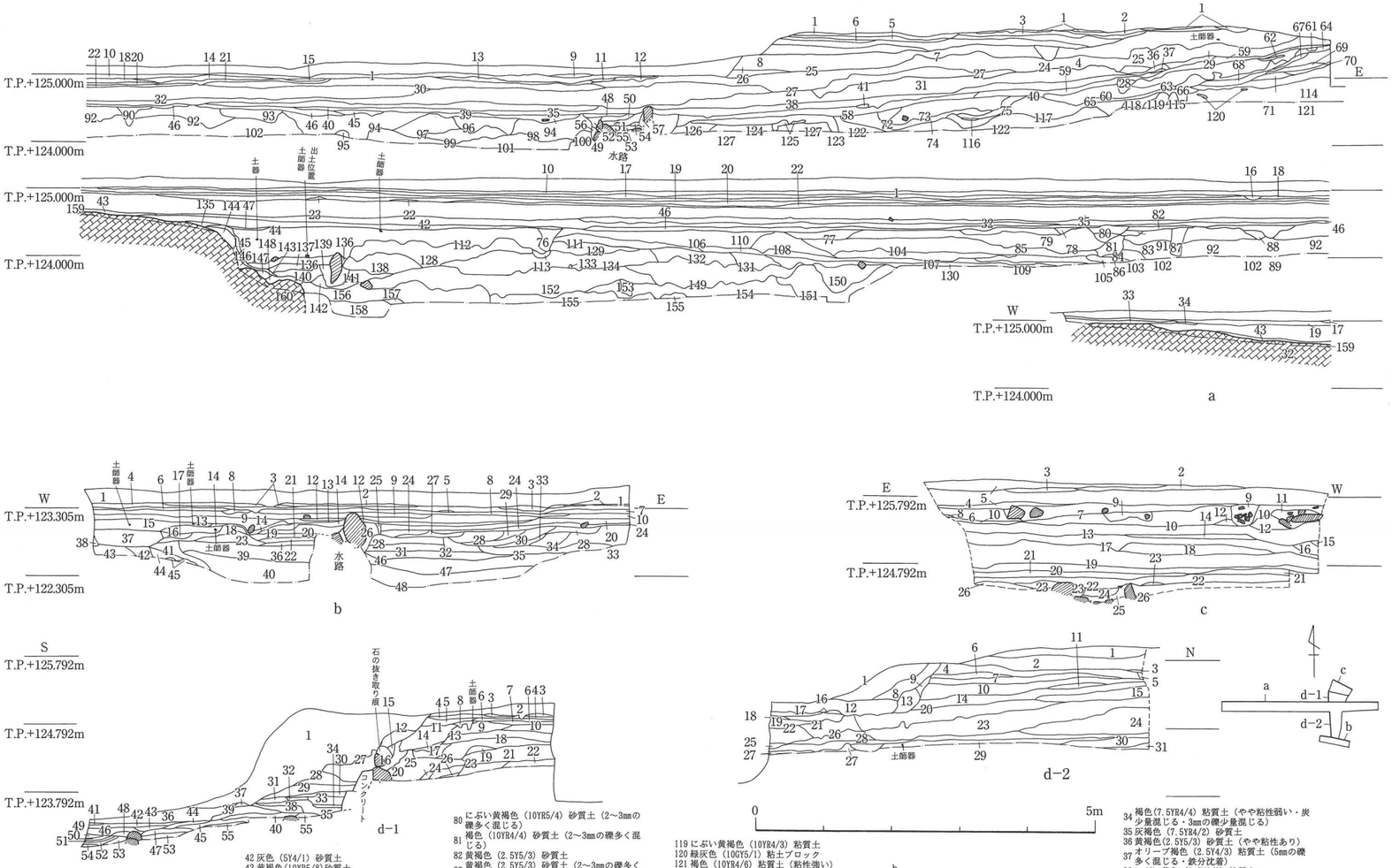
中央断面観察ベルトを挟んで西半部では、地山斜面に北から南へ筋を引くように流れ下った粗い砂の溜まった流水跡が検出された。礫を多く含み、摩滅した中～近世の土器片が少量混入していた。その礫の中に榛原石の破片が10数点紛れていた。側面を加工した破片もあり、当地の終末期古墳に用いられるような詰め石と思われる破片もある（107～109）。またベルトを挟んで東側では径20.0cm、深さ45.0cmのピットが検出された。検出時は須恵器の坏身底部片（93）がそのピットの上に被せられた状態であり、それを外すと検出面より深さ20.0cmまでは空洞となっていた（第16図平面・断面図参照）。ピット内の堆積土は2層に分層され、上層は泥土のような軟質なシルト、下層は逆に鉄分が沈着して硬化した状態であった。

検出された遺構は以上のように限られているが、斜面堆積土出土遺物中にみられる須恵器高坏坏部片（91）や榛原石片（107～113）などの出土状況からみてこの丘陵裾より高い北側の尾根の張り出し部に古墳の存在していた可能性は高いといえよう。ただし大規模な外部施設を伴うような古墳は以上の結果からは考えがたく、平石古墳群の中でも却って山中に築かれたような規模の古墳の存在が想定できるかもしれない。

第11調査区（第18～24図）

この調査区は本書付章で報告する平成13年度第20トレンチの東端にあたる。前回の調査ではここには南北溝が検出されていた。しかしトレンチ南側のコンクリート擁壁（高さ3.5m）が、今回圃場整備事業によって取り去られることとなったため、事前に取り外しを行なったところ、その壁面に東西16.0m余にわたって古墳の石室正面、墳丘盛土、堀割、石室構築土などが露呈し、その結果新たに古墳1基が発見されるに至り、約450.0㎡の範囲で調査を実施した。ただし今回の調査では埋葬施設の内部調査は行なわず、古墳の規模・形状・残存状況を確認するにとどめ、古墳は圃場整備事業では盛土を行なって保存されることになった。

位置　　前年度調査したシシヨツカ古墳の北東約50.0mに張り出す尾根の南端にあたり、シシヨツカ古墳に非常に接近している。地籍図には「駕田」とあるので、「古墳」と命名した。背後にはシシヨツカ古墳の場合と同じく、標高238.9mの「一の禿」から派生する主尾根に連なる標高186.6m



d-1
1 掘削盛土
2 灰色(10Y4/1) 粘質土（現耕土）
3 黄褐色(10YR5/6) 砂質土（現床土）
4 明褐色 (7.5YR5/6) 砂質土
5 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土
6 褐色(7.5YR4/6) 砂質土
7 暗灰黄色(2.5Y5/2) 砂質土（わずかに鉄分沈着）
8 黄褐色(2.5Y5/3) 砂質土
9 暗灰黄色(2.5Y4/2) 砂質土
10 暗灰黄色(2.5Y5/2) 砂質土（鉄分沈着）
11 にぶい黄褐色(10YR5/3) 砂質土（やや粘性あり）
12 暗灰黄色(2.5Y4/2) 砂質土
13 にぶい黄褐色(10YR5/3) 砂質土（3mmの礫やや多く混じる）
14 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土（オリーブ褐色(2.5Y4/3) 粗砂混じる）
15 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土
16 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土（やや粘性あり）
17 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土とにぶい黄褐色(2.5Y6/3) 砂質土との混在
18 黄褐色(2.5Y5/4) 粘質土（5mmの礫やや多く混じる）
19 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質土
20 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土
21 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土（砂混じり）
22 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土（砂混じり）
23 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質土（5mmの礫多く混じる・鉄分沈着顕著）
24 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土（暗灰黄色(2.5Y4/2) 粘質土混じる）
25 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土
26 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土（砂混じり・鉄分沈着顕著）
27 黄灰色(2.5Y4/1) 砂質土
28 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土（やや粘性あり）
29 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土（鉄分沈着・耕土）
30 黄褐色 (10YR5/8) 砂質土（やや粘性あり・床土）
31 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土
32 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土
33 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土
34 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細砂
35 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂質土（やや粘性あり）
36 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土（耕土）
37 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土（鉄分沈着）
38 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土
39 明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土
40 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土
41 灰色 (5Y6/1) 砂質土（耕土）
42 褐色 (7.5YR4/4) 粘質土（床土）
43 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土
44 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘質土
45 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土
46 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土（5mmの礫多く混じる・鉄分沈着・旧床土）
47 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土（鉄分沈着）
48 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土
49 黄褐色(2.5Y5/4) 砂質土（鉄分沈着）
50 褐色 (10YR4/4) 砂質土（旧床土）
51 暗灰黄色(2.5Y4/2) 粘質土（5mmの礫やや多く混じる・鉄分沈着）
52 暗褐色(10YR3/4) 粘質土
53 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘質土（鉄分沈着）
54 黒褐色(10YR3/2) 砂質土
55 褐色(10YR4/4) 粘質土

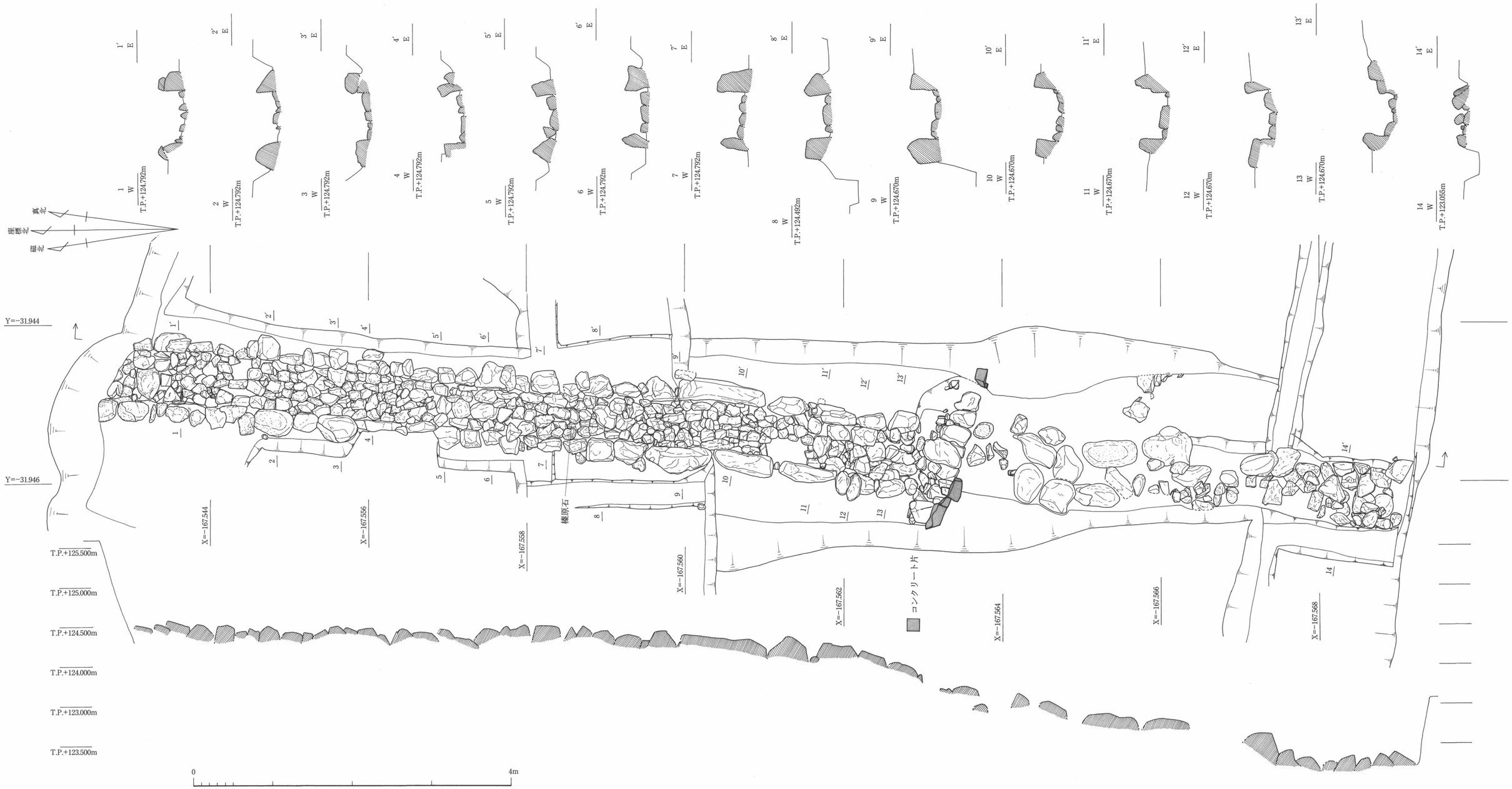
d-2
1 掘削盛土
2 黄灰色(2.5Y4/1) 砂質土（耕土）
3 黄褐色(10YR5/8) 砂質土（床土）
4 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土
5 暗灰黄色(2.5Y5/2) 砂質土（明褐色(7.5YR5/8) 砂質土混じる）
6 にぶい黄橙色 (10YR6/4) 砂質土
7 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土（やや粘性弱い）
8 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土
9 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土
10 にぶい黄褐色(10YR5/4) 砂質土（やや粘性あり）
11 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土
12 灰色(10Y4/1) 粘質土（現耕土）
13 暗灰黄色(2.5Y4/2) 砂質土
14 黄褐色(2.5Y5/3) 砂質土（やや粘性あり）
15 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土（5mmの礫多く混じる・鉄分沈着・旧床土）
16 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土
17 暗灰黄色(2.5Y5/2) 砂質土（5mmの礫やや多く混じる）
18 暗灰黄色(2.5Y5/2砂質土（やや粘性あり・5mmの礫やや多く混じる）
19 黒褐色(2.5Y3/2) 粘質土（砂混じり）
20 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土（砂混じり）
21 灰色(5Y4/1) 粘質土（砂混じり）
22 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 砂質土（粘性あり）
23 暗緑灰色(7.5GY4/1) 砂質土（粘性あり）
24 灰色(10Y5/1) 砂
25 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 砂
26 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 砂質土（粘性あり）

a
1 灰色 (10Y4/1) 粘質土（現耕土）
2 黄褐色 (10YR5/6) 粘質土（現床土）
3 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂質土（粘性あり）
4 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土（粘性あり）
5 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土（現床土）
6 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土（旧耕土）
7 褐色 (10YR4/6) 粘質土（旧床土）
8 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土（旧耕土）
9 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土（現床土）
10 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土（現床土）
11 灰色 (5Y5/1) 砂質土（第27層混じり・旧耕土）
12 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土（第27層混じり・旧耕土）
13 黄褐色 (10YR5/8) 砂質土（旧床土）
14 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土（旧耕土）
15 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土（旧耕土）
16 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土
17 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土（旧耕土）
18 黄褐色 (10YR5/8) 粘質土（旧床土）
19 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 砂質土
20 灰色 (10Y5/1) 砂質土（旧耕土）
21 黄褐色 (10YR5/8) 砂質土（旧床土）
22 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土（旧床土）
23 黄褐色 (10YR6/8)砂質土(床土)
24 灰色 (5Y4/1) 粘質土
25 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
26 灰色 (7.5Y5/1) 粘質土（砂混じり）
27 黄褐色(2.5Y5/3) 砂質土
28 灰色 (5Y4/1) 粘質土
29 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
30 褐色 (10YR4/4) 粘質土（1～2mmの礫混じり）
31 暗オリーブ色 (5Y4/3) 砂質土
32 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土（粘性あり）
33 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
34 黄褐色(10YR5/6) 砂質土（床土）
35 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土（砂混じり・硬くしまっている）
36 褐色 (10YR4/6) 砂質土
37 灰色 (5Y4/1) 砂質土
38 灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土（1～2mmの礫混じり）
39 灰色 (2.5Y4/1) 粘質土（砂混じり・硬くしまっている）
40 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土（砂混じり）
41 灰色 (5Y6/1) 砂質土
42 灰色 (5Y4/1) 砂質土
43 黄褐色(10YR5/8)砂質土
44 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土
45 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土
46 褐色 (10YR4/6) 砂質土
47 明黄褐色 (10YR6/8) 砂質土
48 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土（粘性あり）
49 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土（砂混じり）
50 オリーブ黒色(7.5Y3/2) 粘質土（砂混じり・2～3mmの礫多く混じる）
51 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土（砂混じり・1～2mmの礫多く混じる）
52 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土（砂混じり）
53 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土（1～2mmの礫多く混じる）
54 灰色 (5Y4/1) 粘質土（砂混じり）
55 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土（砂混じり・1～2mmの礫多く混じる）
56 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土（砂混じり・2～3mmの礫多く混じる）
57 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土
58 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土（砂混じり・硬くしまっている）
59 黄褐色 (10YR5/8) 砂質土
60 オリーブ黒色 (10Y3/1) 粘質土（砂混じり）
61 灰色 (7.5Y6/1) 砂質土
62 黄褐色 (10YR5/8) 砂質土
63 褐色 (10YR4/4) 砂質土
64 明黄褐色 (10YR6/8) 砂質土
65 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘質土（砂混じり）
66 黄褐色 (10YR5/8) 砂質土
67 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土（にぶい褐色 (7.5Y5/1) 砂質土（暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質土が多く混じるため黒色に見える）
68 褐色 (10YR4/4) 粘質土（暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質土が多く混じるため黒色に見える）
69 褐色 (7.5Y6/6) 砂質土
70 褐色 (10YR4/4) 砂質土（粘性あり）
71 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘質土
73 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土（砂混じり）
74 明褐色(7.5Y5/6) 粘質土（砂混じり）
75 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土
76 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土（硬くしまっている）
77 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質土
78 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土（砂混じり）
79 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘質土（砂混じり）
80 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土（2～3mmの礫多く混じる）
81 褐色 (10YR4/4) 砂質土（2～3mmの礫多く混じる）
82 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土
83 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土（2～3mmの礫多く混じる）
84 褐色 (7.5YR4/4) 粘質土（砂混じり・5～10mmの礫混じる）
85 褐色 (10YR4/4) 粘質土（5mm程度の礫多く混じる）
86 褐色 (10YR4/4) 粘質土（砂混じり）
87 にぶい黄橙色 (10YR6/4) 砂質土
88 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘質土（砂混じり）
89 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土（砂混じり）
90 褐色 (10YR4/4) 粘質土（粘性強い）
91 褐色 (10YR4/4) 砂質土（2～3mmの礫混じり）
92 にぶい黄橙色 (10YR6/4) 粘質土
93 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 砂質土
94 灰色 (2.5Y4/1) 粘質土（2～3mmの礫多く混じる）
95 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土
96 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土
97 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土
98 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土（2～3mmの礫多く混じる）
99 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質土（砂混じり）
100 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘質土（2～3mmの礫多く混じる）
101 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土
102 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土（砂混じり）
103 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土
104 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土（5mm程度の礫混じる）
105 灰色 (5Y4/1) 粘質土
106 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土（2～3mmの礫混じる）
107 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘質土（砂混じり）
108 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土（砂混じり）
109 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土
110 灰色 (2.5Y4/1) 粘質土
111 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土
112 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土（1～3mmの礫多く混じる）
113 にぶい黄褐色(10YR5/4) 砂質土
114 黄褐色 (10YR5/8) 粘質土（暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質土が多く混じるため黒色に見える）
115 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粘質土
116 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 粘質土（1～2mmの礫混じり）
117 暗オリーブ灰色 (7.5GY4/1) 粘質土
118 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土（砂混じり）
119 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土
120 緑灰色 (10GY5/1) 粘土ブロック
121 褐色 (10YR4/6) 粘質土（粘性強い）
122 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 粘質土
123 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土（砂混じり）
124 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土（砂混じり・粘性強い）
125 灰色 (5Y5/1) 砂質土（1～2mmの礫多く混じる）
126 灰色 (5Y5/1) 粘質土（粘性強い）
127 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土
128 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土（2～3mmの礫多く混じる）
129 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土（硬くしまっている）
130 灰オリーブ色 (5Y6/2) 粘質土
131 黄褐色 (10YR5/6) 粘質土（2～3mm・1cmの礫混じる）
132 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土（粘性あり・1～5mmの礫混じる）
133 暗オリーブ灰色 (2SGY4/1) 粘土
134 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土（1～3mmの礫多く混じる）
135 褐色(10YR4/6) 砂質土（1～2mmの礫混じり）
136 灰黄褐色(10YR4/2) 砂質土
137 黄褐色 (2.5Y5/4)粘質土（硬くしまっている）
138 にぶい黄褐色 (10YR5/4)粘質土
139 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
140 褐色(10YR4/4) 粘質土
141 褐色(10YR4/4) 砂質土
142 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土(砂混じり)
143 明褐色(7.5Y5/8)砂質土
144 にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質土（2～3mmの礫混じる）
145 褐色 (10YR4/4)砂質土（2～3mmの礫混じり）
146 オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質土
147 オリーブ褐色(2.5Y4/3)粘質土
148 黄褐色(10YR5/8)粘質土
149 黄褐色 (10YR5/6) 粘質土
150 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土
151 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土（砂混じり）
152 褐色 (2.5Y4/4) 砂質土
153 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土
154 褐色 (10YR4/4) 粘質土
155 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
156 オリーブ褐色(2.5Y4/4) 砂質土
157 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 砂質土
158 オリーブ褐色 (2.5Y4/3)砂質土
159 褐色 (10YR4/6) 砂質土（粘性あり・地山）
160 黄褐色(2.5Y5/4) 砂質土

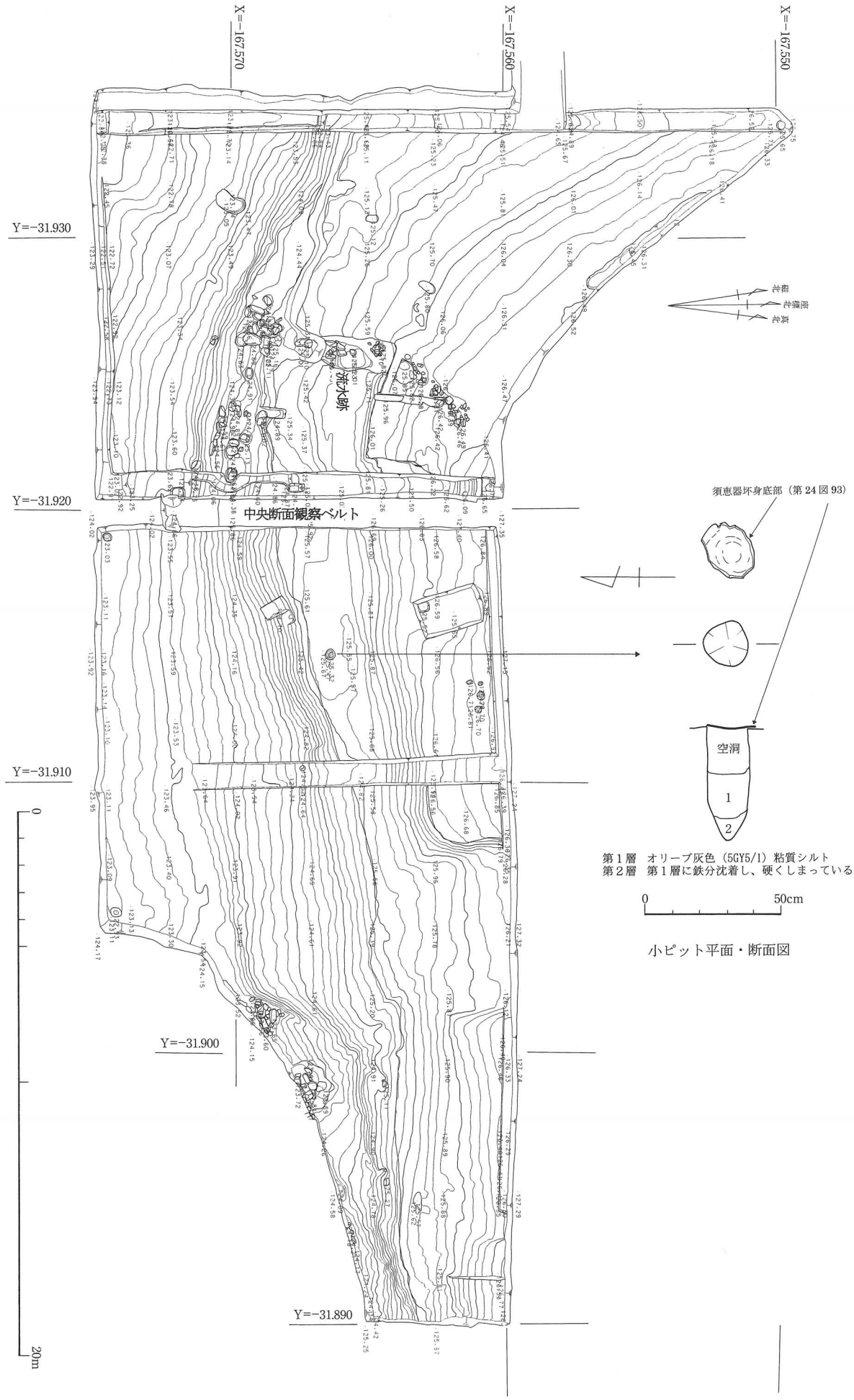
b
1 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土（耕土）
2 灰色 (5Y6/1) 砂質土（耕土）
3 第2層に褐色 (7.5YR4/4) 粘質土混じる
4 褐色 (7.5YR4/4) 粘質土（床土）
5 明褐色(7.5YR5/6) 粘質土（やや粘性弱い・灰色 (10Y5/1) 粘質土少量混じる・旧耕土）
6 明褐色(7.5YR5/6) 粘質土（やや粘性あり）
7 第5層に同じ
8 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土（5mmの礫多く混じる・鉄分沈着・旧床土）
9 黄褐色(2.5Y5/4) 砂質土（鉄分沈着）
10 褐色 (10YR4/6)砂質土（5mmの礫多く混じる・鉄分沈着）
11 灰黄褐色(10YR4/2) 砂質土（やや粘性あり・鉄分沈着）
12 褐色 (10YR4/4) 砂質土（旧床土）
13 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土（5mmの礫やや多く混じる・鉄分沈着）
14 暗褐色(10YR3/4) 粘質土
15 灰黄褐色(10YR4/2) 粘質土(5mmの礫多く混じる・鉄分沈着)
16 褐色 (10YR4/4) 粘質土（鉄分沈着）
17 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土（鉄分沈着）
18 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粘質土
19 灰黄褐色(10YR4/2) 粘質土(3mmの礫少量混じる)
20 黒褐色(10YR3/2) 砂質土
21 にぶい黄褐色(10YR5/4) 砂質土（鉄分沈着顕著）
22 にぶい黄褐色(10YR5/3) 砂質土（やや粘性あり）
23 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土（やや粘性あり・鉄分沈着）
24 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土（鉄分沈着・3mmの礫やや多く混じる）
25 褐色(10YR4/4) 砂質土（3mmの礫少量混じる）
26 暗褐色 (7.5YR3/3) 砂質土（鉄分沈着顕著）
27 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土（3mmの礫少量混じる）
28 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土（やや粘性あり・5mmの礫やや多く混じる）
29 褐色 (10YR4/4) 砂質土（炭少量混じる）
30 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粘質土（やや粘性弱い・2mmの礫少量混じる・鉄分沈着）
31 明褐色 (7.5YR5/6) 砂質土
32 にぶい黄褐色(10YR5/3) 砂質土
33 にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土（5mmの礫少量混じる・鉄分沈着）
34 褐色(7.5YR4/4) 粘質土（やや粘性弱い・炭少量混じる・3mmの礫少量混じる）
35 灰褐色 (7.5YR4/2) 砂質土
36 黄褐色(2.5Y5/3) 砂質土（やや粘性あり）
37 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質土（5mmの礫多く混じる・鉄分沈着）
38 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粘質土
39 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
40 灰黄褐色(10YR4/2) 砂質土
41 褐色(10YR4/4) 粘質土
42 にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土
43 褐色 (7.5YR4/4) 粘質土
44 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土
45 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土
46 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土（5mmの礫多く混じる・鉄分沈着・旧床土）
47 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土（鉄分沈着）
48 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土
49 黄褐色(2.5Y5/4) 砂質土（鉄分沈着）
50 褐色 (10YR4/4) 砂質土（旧床土）
51 暗灰黄色(2.5Y4/2) 粘質土（5mmの礫やや多く混じる・鉄分沈着）
52 暗褐色(10YR3/4) 粘質土
53 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘質土（鉄分沈着）
54 黒褐色(10YR3/2) 砂質土
55 褐色(10YR4/4) 粘質土

C
1 掘削盛土
2 掘削盛土
3 掘削盛土
4 黄灰色(2.5Y4/1) 砂質土（耕土）
5 黄褐色(10YR5/8) 砂質土（床土）
6 暗灰黄色(2.5Y5/2) 砂質土（明褐色(7.5YR5/8) 砂質土混じる）
7 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土
8 にぶい黄褐色(10YR5/4) 砂質土（やや粘性あり）
9 黄褐色(2.5Y5/3) 砂質土（やや粘性あり）
10 黄褐色(2.5Y5/3) 粘質土（やや粘性弱い）
11 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
12 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 砂質土
13 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘質土（5mmの礫少量混じる）
14 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土（やや粘性あり）
15 にぶい黄褐色(2.5Y4/2) 粘質土（2mmの礫少量混じる）
16 灰黄色(2.5Y4/1) 粘質土（2mmの礫少量混じる）
17 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土（5mmの礫やや多く混じる）
18 暗灰黄色(2.5Y5/2砂質土（やや粘性あり・5mmの礫やや多く混じる）
19 黒褐色(2.5Y3/2) 粘質土（砂混じり）
20 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土（砂混じり）
21 灰色(5Y4/1) 粘質土（砂混じり）
22 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 砂質土（粘性あり）
23 暗緑灰色(7.5GY4/1) 砂質土（粘性あり）
24 灰色(10Y5/1) 砂
25 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 砂
26 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 砂質土（粘性あり）

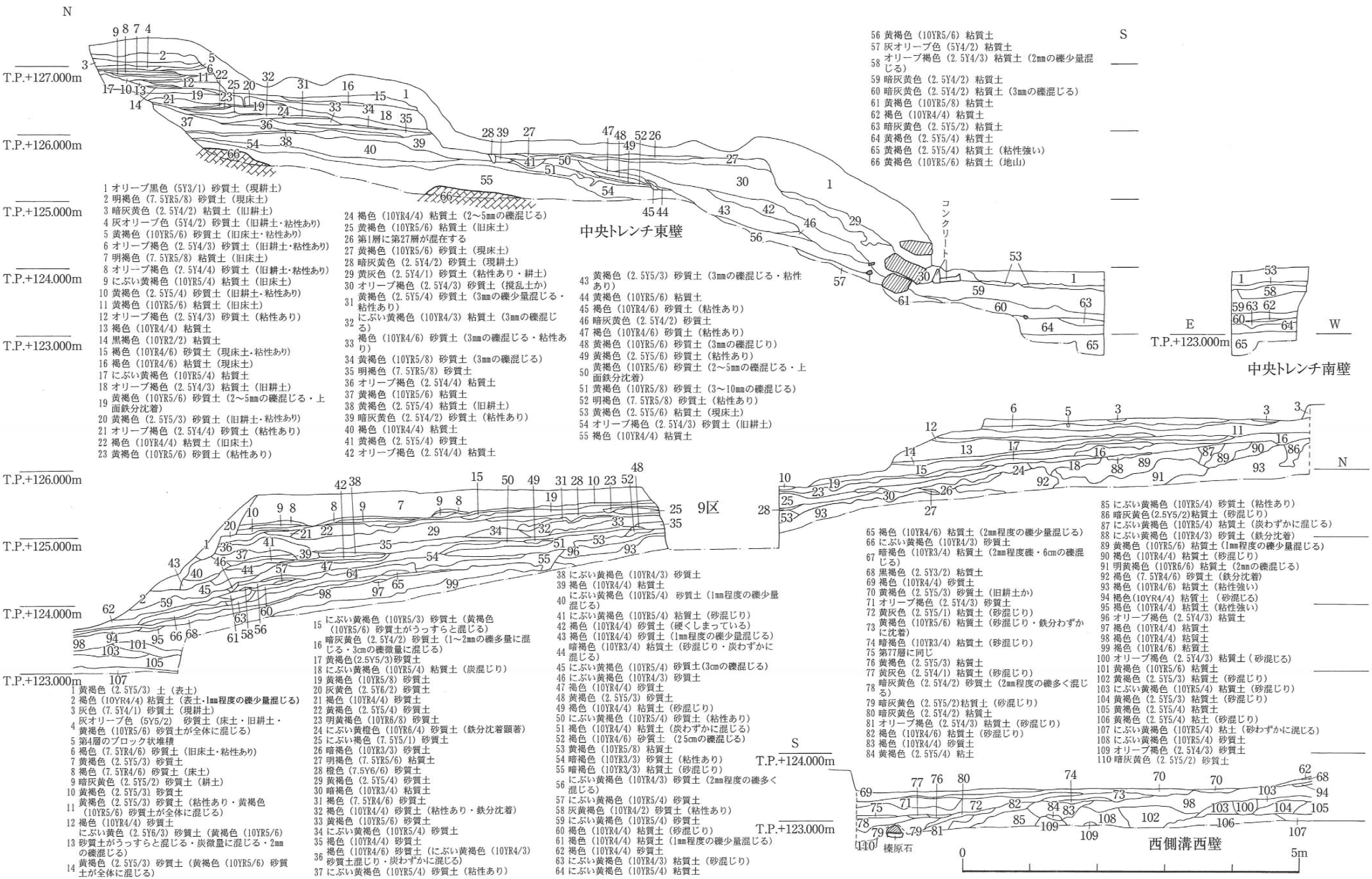
第14図　第9調査区断面図



第15図　第9調査区石組溝平面・断面図



第16図　第10調査区平面図ほか



1 オリーブ黒色（5Y3/1）砂質土（現耕土）
2 明褐色（7.5YR5/8）砂質土（現床土）
3 暗灰黄色（2.5Y4/2）粘質土（旧耕土）
4 灰オリーブ色（5Y4/2）砂質土（旧耕土・粘性あり）
5 黄褐色（10YR5/6）砂質土（旧床土・粘性あり）
6 オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土（旧耕土・粘性あり）
7 明褐色（7.5YR5/8）粘質土（旧床土）
8 オリーブ褐色（2.5Y4/4）砂質土（旧耕土・粘性あり）
9 にぶい黄褐色（10YR5/4）粘質土（旧床土）
10 黄褐色（2.5Y5/4）砂質土（旧耕土・粘性あり）
11 黄褐色（10YR5/6）粘質土（旧床土）
12 オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土（粘性あり）
13 褐色（10YR4/4）粘質土
14 黒褐色（10YR2/2）粘質土
15 褐色（10YR4/6）砂質土（現床土・粘性あり）
16 褐色（10YR4/6）粘質土（現床土）
17 にぶい黄褐色（10YR5/4）粘質土
18 オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘質土（旧耕土）
19 黄褐色（10YR5/6）砂質土（2～5mmの礫混じる・上面鉄分沈着）
20 黄褐色（2.5Y5/3）砂質土（旧耕土・粘性あり）
21 オリーブ褐色（2.5Y4/4）砂質土（粘性あり）
22 褐色（10YR4/4）粘質土（旧床土）
23 黄褐色（10YR5/6）砂質土（粘性あり）
24 褐色（10YR4/4）粘質土（2～5mmの礫混じる）
25 黄褐色（10YR5/6）粘質土（旧床土）
26 第1層に第27層が混在する
27 黄褐色（10YR5/6）砂質土（現床土）
28 暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土（現耕土）
29 黄灰色（2.5Y4/1）砂質土（粘性あり・耕土）
30 オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土（撹乱土か）
31 黄褐色（2.5Y5/4）砂質土（3mmの礫少量混じる・粘性あり）
32 にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土（3mmの礫混じる）
33 褐色（10YR4/6）砂質土（3mmの礫混じる・粘性あり）
34 黄褐色（10YR5/8）砂質土（3mmの礫混じる）
35 明褐色（7.5YR5/8）砂質土
36 オリーブ褐色（2.5Y4/4）粘質土
37 黄褐色（10YR5/6）粘質土
38 黄褐色（2.5Y5/4）粘質土（旧耕土）
39 暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土（粘性あり）
40 褐色（10YR4/4）粘質土
41 黄褐色（2.5Y5/4）砂質土
42 オリーブ褐色（2.5Y4/4）粘質土
43 黄褐色（2.5Y5/3）砂質土（3mmの礫混じる・粘性あり）
44 黄褐色（10YR5/6）粘質土
45 褐色（10YR4/6）砂質土（粘性あり）
46 暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土
47 褐色（10YR4/6）砂質土（粘性あり）
48 黄褐色（10YR5/6）砂質土（3mmの礫混じり）
49 黄褐色（2.5Y5/6）砂質土（粘性あり）
50 黄褐色（10YR5/6）砂質土（2～5mmの礫混じる・上面鉄分沈着）
51 黄褐色（10YR5/8）砂質土（3～10mmの礫混じる）
52 明褐色（7.5YR5/8）砂質土（粘性あり）
53 黄褐色（2.5Y5/6）粘質土（現床土）
54 オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土（旧耕土）
55 褐色（10YR4/4）粘質土
56 黄褐色（10YR5/6）粘質土
57 灰オリーブ色（5Y4/2）粘質土
58 オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘質土（2mmの礫少量混じる）
59 暗灰黄色（2.5Y4/2）粘質土
60 暗灰黄色（2.5Y4/2）粘質土（3mmの礫混じる）
61 黄褐色（10YR5/8）粘質土
62 褐色（10YR4/4）粘質土
63 暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土
64 黄褐色（2.5Y5/4）粘質土
65 黄褐色（2.5Y5/4）粘質土（粘性強い）
66 黄褐色（10YR5/6）粘質土（地山）

1 黄褐色（2.5Y5/3）土（表土）
2 褐色（10YR4/4）粘質土（表土・1mm程度の礫少量混じる）
3 灰色（7.5Y4/1）砂質土（現耕土）
4 灰オリーブ色（5Y5/2）砂質土（床土・旧耕土・黄褐色（10YR5/6）砂質土が全体に混じる）
5 第4層のブロック状堆積
6 褐色（7.5YR4/6）砂質土（旧床土・粘性あり）
7 黄褐色（2.5Y5/3）砂質土
8 褐色（7.5YR4/6）砂質土（床土）
9 暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土（耕土）
10 黄褐色（2.5Y5/3）砂質土
11 黄褐色（2.5Y5/3）砂質土（粘性あり・黄褐色（10YR5/6）砂質土が全体に混じる）
12 褐色（10YR4/4）砂質土
にぶい黄色（2.5Y6/3）砂質土（黄褐色（10YR5/6）
13 砂質土がうっすらと混じる・炭微量に混じる・2mmの礫混じる）
14 黄褐色（2.5Y5/3）砂質土（黄褐色（10YR5/6）砂質土が全体に混じる）
15 にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質土（黄褐色（10YR5/6）砂質土がうっすらと混じる）
16 暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土（1～2mmの礫多量に混じる・3cmの礫微量に混じる）
17 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土
18 にぶい黄褐色（10YR5/4）粘質土（炭混じり）
19 黄褐色（10YR5/8）砂質土
20 灰黄色（2.5Y6/2）砂質土
21 褐色（10YR4/4）砂質土
22 黄褐色（2.5Y5/4）砂質土
23 明黄褐色（10YR6/8）砂質土
24 にぶい黄橙色（10YR6/4）砂質土（鉄分沈着顕著）
25 にぶい褐色（7.5Y5/1）砂質土
26 暗褐色（10YR3/3）砂質土
27 明褐色（7.5YR5/6）粘質土
28 橙色（7.5Y6/6）砂質土
29 黄褐色（2.5Y5/4）砂質土
30 暗褐色（10YR3/4）粘質土
31 褐色（7.5YR4/6）砂質土
32 褐色（10YR4/4）砂質土（粘性あり・鉄分沈着）
33 黄褐色（10YR5/6）砂質土
34 にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土
35 褐色（10YR4/4）砂質土
36 褐色（10YR4/6）砂質土（にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土混じり・炭わずかに混じる）
37 にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土（粘性あり）
38 にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土
39 褐色（10YR4/4）粘質土
40 にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土（1mm程度の礫少量混じる）
41 にぶい黄褐色（10YR5/4）粘質土（砂混じり）
42 褐色（10YR4/4）砂質土（硬くしまっている）
43 褐色（10YR4/4）砂質土（1mm程度の礫少量混じる）
44 暗褐色（10YR3/4）粘質土（砂混じり・炭わずかに混じる）
45 にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土(3cmの礫混じる)
46 にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土
47 褐色（10YR4/4）砂質土
48 黄褐色（2.5Y5/3）砂質土
49 褐色（10YR4/4）粘質土（砂混じり）
50 にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土（粘性あり）
51 褐色（10YR4/4）粘質土（炭わずかに混じる）
52 褐色（10YR4/6）砂質土（2.5cmの礫混じる）
53 黄褐色（10YR5/8）粘質土
54 暗褐色（10YR3/3）砂質土（粘性あり）
55 暗褐色（10YR3/3）粘質土（砂混じり）
56 にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土（2mm程度の礫多く混じる）
57 にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土
58 灰黄褐色（10YR4/2）砂質土（粘性あり）
59 にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土
60 褐色（10YR4/4）粘質土（砂混じり）
61 褐色（10YR4/4）粘質土（1mm程度の礫少量混じる）
62 褐色（10YR4/4）砂質土
63 にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土（砂混じり）
64 にぶい黄褐色（10YR5/4）粘質土
65 褐色（10YR4/6）粘質土（2mm程度の礫少量混じる）
66 にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土
67 暗褐色（10YR3/4）粘質土（2mm程度礫・6cmの礫混じる）
68 黒褐色（2.5Y3/2）粘質土
69 褐色（10YR4/4）砂質土
70 黄褐色（2.5Y5/3）砂質土（旧耕土か）
71 オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土
72 黄灰色（2.5Y5/1）粘質土（砂混じり）
73 黄褐色（10YR5/6）粘質土（砂混じり・鉄分わずかに沈着）
74 暗褐色（10YR3/4）粘質土（砂混じり）
75 第77層に同じ
76 黄褐色（2.5Y5/3）粘質土
77 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土（砂混じり）
78 暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土（2mm程度の礫多く混じる）
79 暗灰黄色（2.5Y5/2)粘質土（砂混じり）
80 暗灰黄色（2.5Y4/2）粘質土
81 オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘質土（砂混じり）
82 褐色（10YR4/6）粘質土（砂混じり）
83 褐色（10YR4/4）砂質土
84 黄褐色（2.5Y5/4）粘土
85 にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土（粘性あり）
86 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘質土（砂混じり）
87 にぶい黄褐色（10YR5/4）粘質土（炭わずかに混じる）
88 にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土（鉄分沈着）
89 黄褐色（10YR5/6）粘質土（1mm程度の礫少量混じる）
90 褐色（10YR4/4）粘質土（砂混じり）
91 明黄褐色（10YR6/6）粘質土（2mmの礫混じる）
92 褐色（7.5YR4/6）砂質土（鉄分沈着）
93 褐色（10YR4/6）粘質土（粘性強い）
94 褐色(10YR4/4）粘質土（砂混じる）
95 褐色（10YR4/4）粘質土（粘性強い）
96 オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘質土
97 褐色（10YR4/4）粘質土
98 褐色（10YR4/4）粘質土
99 褐色（10YR4/6）粘質土
100 オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘質土（砂混じる）
101 黄褐色（10YR5/6）粘質土
102 黄褐色（2.5Y5/3）粘質土（砂混じり）
103 にぶい黄褐色（10YR5/4）粘質土（砂混じり）
104 黄褐色（2.5Y5/3）粘質土（砂混じり）
105 黄褐色（2.5Y5/4）粘質土
106 黄褐色（2.5Y5/4）粘土（砂混じり）
107 にぶい黄褐色（10YR5/4）粘土（砂わずかに混じる）
108 にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土
109 オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土
110 暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土

第17図　第10調査区断面図

の山頂が迫り、背後にこの山を意識して築かれたことは明白である。

墳丘　後世の棚田造成により削られて全形をとどめていないが、西側は墳丘～堀割肩までが確認できる。墳丘盛土は削られているが高さ2.0m程度が残り、石室の天井石が一部露呈した状態である。捉えられた墳丘の北西コーナーと石室前面との位置関係から、平面形態は東西15.0～16.0m、南北9.0～10.0mの長方形となる方墳で、周囲には北西から下る尾根の先端を南西～北東方向に断ち切って掘り込まれた、幅6.0m程度の掘割が墳丘の西側そして北側をめぐる。東側は損なわれて原状をとどめていないが、地形からみて尾根の西側と北側の二方を大きく逆L字形に切って、堀割としその南側に墳丘を築いている。

墳丘の盛土はコンクリート擁壁を取り除いて露呈した古墳前面の南側の東西断面（第19図8-8'）と撹乱された墳丘東北部の断面（同図5-5'）によって観察した。東西断面では北西から南東にのびる尾根の先端を北東～南西に断ち切ってある程度の平坦面を確保した後、この平坦面に石室構築の基盤を築く盛土を行なっている（第19図8-8' 断面図198～272層）。また石室周囲では側石を据えた後、その下半を固定させ（173～178層）、上半は何層も薄く土を盛り上げている（139～172層）。墳丘北半部の撹乱部分の断面では層厚2～3cmの粘質土と砂質土を概ね交互に積み上げる版築状盛土を観察できた。

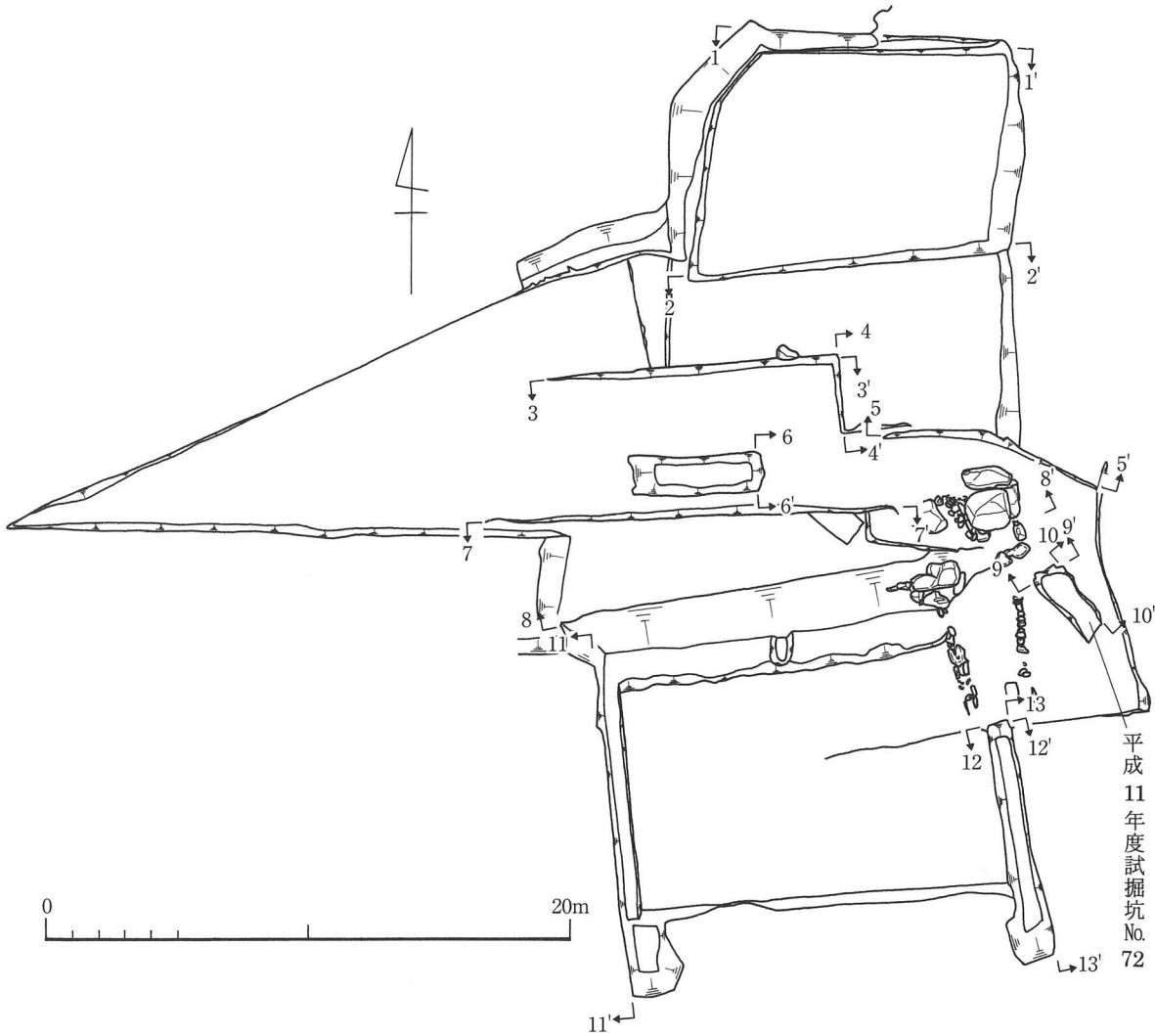
石室　本墳の石室は1つの墳丘に石室を2つ同時に並列して築く双室の形態をとっている。規模、主軸、構造ともに同じ企画のもとに築かれ、墳丘の南北中心軸を挟んで東西に対称的な位置関係をとっている。石室の前面にはそれぞれ排水暗渠が設けられている。

東石室は損壊が激しく、入口天井石とその側石が既に取り外されて、側石抜き取り穴だけがその痕跡をとどめ、また2枚目の天井石は東端がそれを支持する側石の内側に落ち込んだ状態であった。さらにその天井石の西側には盗掘の痕跡と思われる礫溜りがあり、北西側斜め上から盗掘坑を入れて東石室に侵入したことがあったようである。礫に紛れて近世磁器椀（105・106）が出土しているので、18世紀前半にはこの盗掘が行なわれたとみられる。

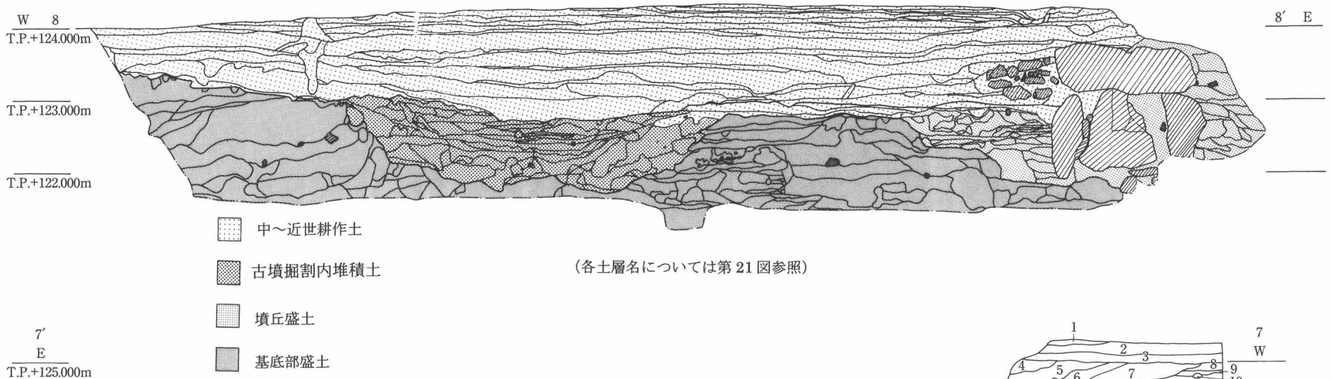
東石室内は天井まで泥土が溜っていたが、筆者が現場に不在の間に、手違いで現場作業員がこの天井石の下の泥土を床面より15.0cmの高さまで掻き出してしまっていた。入口の両側石の抜き取り穴の間には板状の凝灰岩の一部が露呈していたが、これが床石の一部であるかどうかはわからない。全体が露出した南から2枚目の天井石の大きさは1.7m四方、厚さ0.8mの自然石であった。厚みが減じる西端の下では、長さ30.0cm、厚み14.0cmの板状の川原石を側石の上に置いて内法の高さを整えている。床面の状態を確認するため10.0cm四方を掘り込むと、床面直上1.0～2.0cmの間には赤色顔料が付着し、その上に2.0cmほどの微砂混じりの粘土が堆積し、それより上は上記の粘泥であった。床石を洗うと暗褐色に沈着した鉄分の付着が確認された。おそらく榛原石を使用しているものと思われる。さらに入口から5cm間隔に奥行き2.9mまで鉄ピンにて床面高を探ると、T.P. 122.260～122.277mを計測したので、床面はほぼ平坦であり、床石は完存していることが分かった。

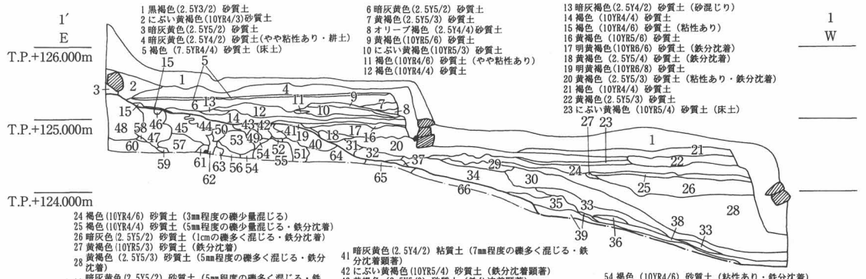
なお石室床面上に堆積した微砂混じりの粘土から長さ2.11㎜、径1.69㎜、重量0.1g以下の管玉が1点が出土した（図版23）。黒みを帯びた赤色のガラス製で、縦縞がある。石室の奥行きはほぼ2.3mが残る。入口での石室幅は0.9m、高さ0.8mの石槨状であり、自然石の平坦面を内側にしている。

西石室は入口天井石とおそらく2枚目の天井石と思われる一部が露出していた。しかし東石室とは異なり、上部に撹乱の痕跡はなく、入口正面に高さ1.3m、幅1.2mの自然石を立てて塞いだ閉塞石が残っていた。右上隅を0.5m四方に割り取っているので、この部分から盗掘が行われたようである。このように西石室は原形をよくとどめている。天井石幅は約2.0m、厚さ0.7mで、入口の高さは2.0m、左側石は幅0.6m、高さ0.95m、右側石は幅0.4m、高さ1.2mで、閉塞石と両側石の隙間には長さ25.0～30.0㎝、厚み10.0～20.0㎝の川原礫を詰めている。また閉塞石の右下にも安定を図るために同様の礫がいくつか詰められていた。石室は奥行き3.0m程度とみられ、幅、高さともに1.0m程度で、東石室と同様の石槨状である。磁北と石室の主軸の北での振れは、東石室がN−6°−W、西石室はN−4～5°−Wと推定され、両石室の中軸線は2.6～2.7mを隔ててほぼ平行している。



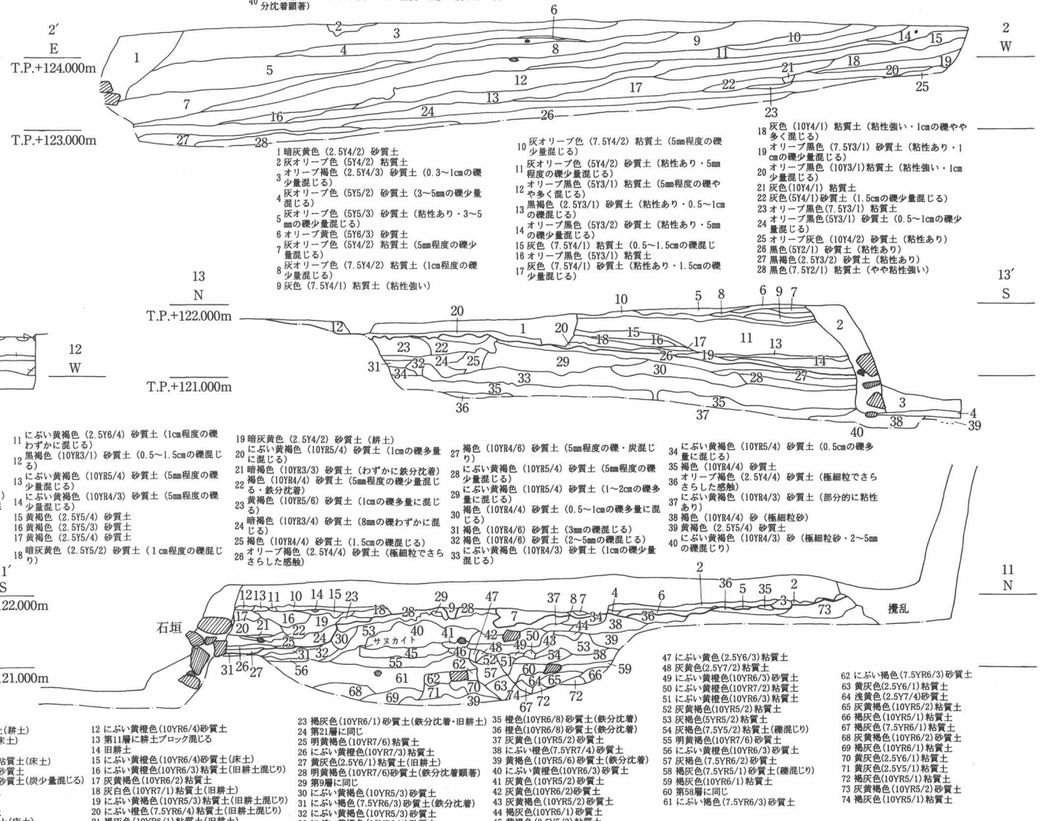
第18図　第11調査区平面図



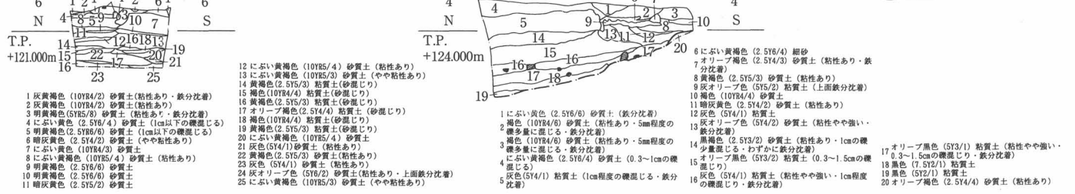


1 黒褐色(2.5Y3/2) 砂質土
2 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
3 暗灰黄色(2.5Y5/2) 砂質土
4 暗灰黄色(2.5Y4/2) 砂質土(やや粘性あり・耕土)
5 褐色 (7.5YR4/4) 砂質土 (床土)
6 暗灰黄色(2.5Y5/2) 砂質土
7 黄褐色(2.5Y5/3) 砂質土
8 オリーブ褐色 (2.5Y4/4)砂質土
9 黄褐色(10YR5/6) 砂質土
10 にぶい黄褐色(10YR5/3) 砂質土
11 褐色(10YR4/6) 砂質土 (やや粘性あり)
12 褐色(10YR4/4) 砂質土
13 暗灰褐色(2.5Y4/2) 砂質土 (砂混じり)
14 褐色 (10YR4/4) 砂質土
15 褐色 (10YR5/6) 砂質土
16 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土
17 明黄褐色(10YR6/6) 砂質土 (鉄分沈着)
18 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土 (鉄分沈着)
19 明黄褐色(10YR6/8) 砂質土
20 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土 (粘性あり・鉄分沈着)
21 褐色 (10YR4/4) 砂質土
22 黄褐色(2.5Y5/3) 砂質土
23 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土 (床土)
24 褐色(10YR4/6) 砂質土 (3mm程度の礫少量混じる)
25 褐色(10YR4/4) 砂質土 (5mm程度の礫少量混じる・鉄分沈着)
26 暗灰色(2.5Y5/2) 砂質土 (1cmの礫多く混じる・鉄分沈着)
27 黄褐色(10YR5/3) 砂質土 (鉄分沈着)
28 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土 (5mm程度の礫多く混じる・鉄分沈着)
29 暗灰黄色(2.5Y5/2) 砂質土 (5mm程度の礫多く混じる・鉄分沈着)
30 暗灰黄色(2.5Y4/2) 砂質土
31 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土 (5mm程度の礫多く混じる・鉄分沈着)
32 暗灰黄色(2.5Y5/2) 砂質土 (鉄分沈着)
33 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土 (5mm程度の礫少量混じる・鉄分沈着)
34 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土 (5mm程度の礫多く混じる・鉄分沈着)
35 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土 (1cmの礫多く含む・鉄分沈
36 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土(1cm程度の礫少量混じる・鉄分沈着)
37 灰黄褐色(2.5Y6/2) 砂質土
38 灰色 (5Y4/1) 粘質土 (5mm程度の礫混じる・鉄分沈着)
39 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘質土(5mm程度の礫少量混じる・鉄分沈着)
40 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土 (1cm程度の礫多く混じる・鉄分沈着顕著)
41 暗灰黄色(2.5Y4/2) 粘質土 (7mm程度の礫多く混じる・鉄分沈着顕著)
42 にぶい黄褐色(10YR5/4) 砂質土 (鉄分沈着顕著)
43 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土 (鉄分沈着顕著)
44 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土 (0.5～1cmの礫少量混じる・鉄分沈着)
45 褐色 (10YR4/4) 砂質土 (0.5～1.5cmの礫少量混じる・鉄分沈着顕著)
46 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土 (鉄分沈着)
47 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土(粘性あり・0.5～1cmの礫少量混じる・鉄分沈着)
48 褐色(10YR4/4) 砂質土 (3mm程度の礫少量混じる・鉄分沈着)
49 暗褐色(10YR3/4)粘質土 (1cm程度の礫少量混じる・鉄分沈着顕著)
50 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質土 (1cm程度の礫少量混じる・鉄分沈着)
51 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土 (やや粘性あり・鉄分沈着顕著)
52 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土 (鉄分沈着顕著)
53 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土(5cm程度の礫多く混じる・鉄分沈着顕著)
54 褐色 (10YR4/6) 砂質土 (粘性あり・鉄分沈着)
55 にぶい黄褐色 (10YR4/3)砂質土 (鉄分沈着顕著)
56 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土(3mm程度の礫少量混じる・鉄分沈着)
57 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂質土 (0.3～1cmの礫混じる・鉄分沈着顕著)
58 褐色 (10YR4/6) 砂質土 (粘性あり)
59 にぶい黄色 (10YR4/3) 砂質土 (粘性あり・鉄分沈着顕
60 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土 (粘性あり・0.3～1cmの礫少量混じる・鉄分沈着)
61 褐色(10YR4/6) 粘質土 (1cm程度の少量混じる・鉄分沈着)
62 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土(粘性あり・鉄分沈着)
63 褐色 (10YR4/6) 砂質土 (鉄分沈着顕著)
64 明黄褐色(2.5Y4/2) 粘質土 (鉄分沈着顕著)
65 黄褐色 (10YR4/2) 砂質土 (鉄分沈着)
66 暗灰黄色(2.5Y4/2) 砂質土 (0.3cm程度の礫混じる・鉄分沈着顕著)

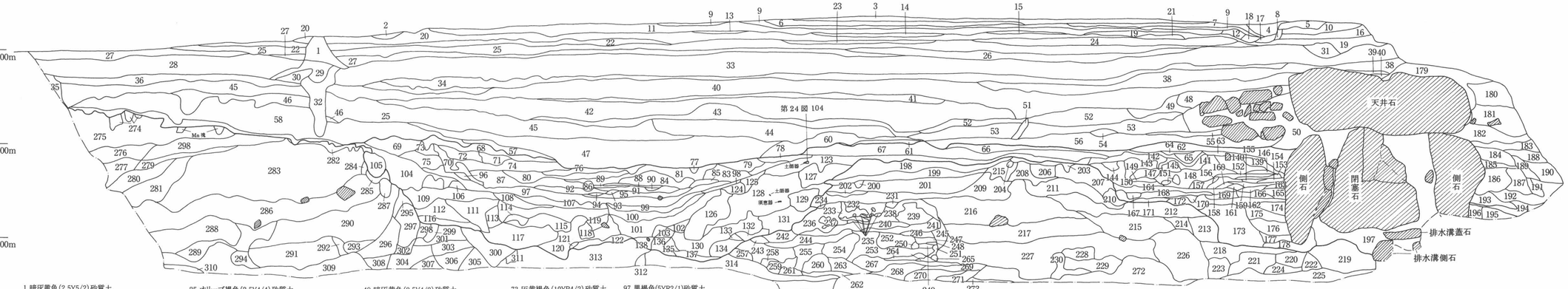
1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土
2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土 (耕土)
3 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土 (耕土)
4 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土 (床土)
5 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土 (耕土)に第4層が少量混じる。
6 褐色 (10YR4/4) 砂質土 (耕土少量混じる)
7 第5層ににぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (耕土) 混じる。
8 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土
9 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土 (第5層ブロックわずかに混じる)
10 明黄色 (10YR6/6) 粘質土
11 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土 (床土) (耕土混じり)
12 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土 (床土)
13 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土 (旧耕土)
14 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘質土 (床土)
15 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土
16 にぶい黄褐色 (10YR6/4) 砂質土 (床土)
17 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土
18 褐色 (10YR4/4) 砂質土
19 黄褐色 (2.5Y5/3)砂質土 (耕土)
20 黄褐色 (10YR5/8) 砂質土 (炭少量混じる)
21 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土
22 明褐色 (7.5YR5/6) 砂質土
23 灰黄褐色 (2.5Y5/2) 砂質土
24 暗黄褐色 (2.5Y4/2) 砂質土
25 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土
26 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土
27 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土
28 灰黄色 (10YR5/6) 砂質土
29 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂質土 (鉄分沈着)
30 黄褐色 (2.5Y5/6) 砂質土 (鉄分わずかに沈着)
31 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土 (鉄分わずかに沈着)
32 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土
33 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土 (鉄分沈着)
34 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土 (粘性あり)
35 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土 (鉄分沈着)
36 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土
37 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土
38 にぶい黄色 (10YR5/3) 砂質土
39 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土 (やや粘性あり)
40 褐色 (10YR4/6) 砂
41 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
42 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
43 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土
44 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土
45 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
46 褐色 (10YR4/6) 砂
47 灰黄色 (2.5Y4/1) 砂質土 (鉄分沈着)
48 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
49 にぶい黄色 (10YR5/3) 砂質土
50 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
51 灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
52 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土
53 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
54 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
55 灰色 (5Y4/1) 粘質土 (砂混じり)
56 第59層に同じ
57 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土 (鉄分沈着)
58 第65層に同じ
59 灰色 (5Y5/1) 粘土
60 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
61 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
62 灰黄色 (2.5Y6/2) 粘質土 (砂混じり)
63 褐色 (10YR4/6) 砂
64 灰色 (2.5Y4/1) 砂質土
65 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
66 第65層に同じ
67 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土 (砂混じり)
68 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質土 (褐灰色 (2.5Y5/1) 粘土ブロック混じり)
69 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土
70 第65層に同じ
71 褐色 (10YR4/4) 砂質土
72 第59層に同じ
73 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂
74 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土
75 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土 (粘土混じり・やや粘性あり)
76 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
77 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土 (やや粘性あり)
78 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土
79 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質土 (砂混じり)
80 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土 (砂混じり)
81 灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土
82 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
83 褐灰色 (10YR4/1) 粘土
84 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質土 (砂混じり)
85 灰オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土
86 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土 (砂多く混じる)
87 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土
88 灰色 (5Y4/1) 粘質土 (砂混じり)
89 黒色 (N1.5/0) 砂質土 (鉄分沈着)
90 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂
91 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質土
92 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質土
93 黒色 (N1.5/0) 砂質土
94 黒色 (7.5Y2/1) 粘質土 (砂混じり)
95 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質土 (砂混じり)
96 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土 (砂混じり)
97 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土
98 明褐色 (7.5YR5/8) 砂質土 (鉄分沈着)
99 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土 (やや粘性あり)
100 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土 (砂混じり)
101 黄褐色 (2.5Y4/1) 粘質土 (砂混じり)
102 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土 (砂混じり)
103 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土 (砂混じり)
104 灰色 (5Y4/1) 粘質土 (砂混じり)
105 暗褐色 (7.5YR3/3) 砂質土 (鉄分沈着)
106 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質土 (砂混じり)
107 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土 (砂混じり)
108 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土 (砂混じり)
109 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土
110 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土
111 第98層に同じ
112 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘質土 (砂混じり)
113 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土 (砂混じり)
114 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘質土 (砂混じり)
115 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土 (砂混じり)
116 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
117 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土
118 第117層に同じ
119 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
120 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土 (やや粘性あり)
121 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土
122 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土
123 第120層に同じ



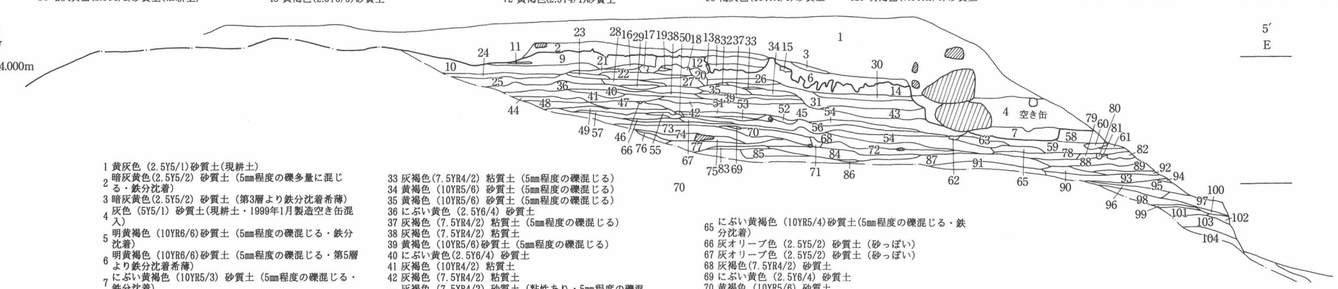
1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
2 オリーブ色 (5Y4/2) 粘質土
3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土 (0.3～1cmの礫少量混じる)
4 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土 (3～5mmの礫少量混じる)
5 オリーブ色 (5Y5/3) 砂質土 (粘性あり・3～5mmの礫少量混じる)
6 オリーブ黄色 (5Y6/3) 砂質土
7 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粘質土 (5mm程度の礫少量混じる)
8 灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 粘質土 (1cm程度の礫少量混じる)
9 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土 (粘性強い)
10 灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 粘質土 (5mm程度の礫少量混じる)
11 灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土 (粘性あり・5mm程度の礫少量混じる)
12 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土 (5mm程度の礫やや多く混じる)
13 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質土 (粘性あり・0.5～1cmの礫混じる)
14 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質土 (粘性あり・5mmの礫少量混じる)
15 灰色 (7.5Y4/1) 粘質土 (0.5～1.5cmの礫混じる)
16 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土
17 灰色 (7.5Y4/1) 砂質土 (粘性あり・1.5cmの礫少量混じる)
18 灰色 (10Y4/1) 粘質土 (粘性強い・1cmの礫やや多く混じる)
19 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 砂質土 (粘性あり・1cmの礫少量混じる)
20 オリーブ黒色 (10Y3/1) 粘質土 (粘性強い・1cm少量混じる)
21 灰色(10Y4/1) 粘質土
22 灰色(5Y4/1)砂質土 (1.5cmの礫少量混じる)
23 オリーブ黒色(7.5Y3/1) 粘質土
24 オリーブ黒色(5Y3/1) 砂質土 (0.5～1cmの礫少量混じる)
25 オリーブ灰色 (10Y4/2) 砂質土 (粘性あり)
26 黒色(5Y2/1) 砂質土 (粘性あり)
27 黒褐色(2.5Y3/2) 砂質土 (粘性あり)
28 黒色(7.5Y2/1) 粘質土 (やや粘性強い)
29 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土 (耕土)
20 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土 (1cmの礫多量に混じる)
21 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土 (わずかに鉄分沈着)
22 褐色 (10YR4/4) 砂質土 (5mm程度の礫少量混じる・鉄分沈着)
23 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土 (1cmの礫多量に混じる)
24 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土 (8mmの礫わずかに混じる)
25 褐色 (10YR4/4) 砂質土 (1.5cmの礫混じる)
26 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂質土 (極細粒でさらさらした感触)
27 褐色 (10YR4/6) 砂質土 (5mm程度の礫・炭混じり)
28 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土 (5mm程度の礫少量混じる)
29 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土 (1～2cmの礫多量に混じる)
30 褐色 (10YR4/4) 砂質土 (0.5～1cmの礫多量に混じる)
31 褐色 (10YR4/6) 砂質土 (3mm の礫混じる)
32 褐色 (10YR3/4) 砂質土 (2～5mmの礫混じる)
33 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (1cmの礫少量混じる)
34 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土 (0.5cmの礫多量に混じる)
35 褐色 (10YR4/4) 砂質土
36 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂質土 (極細粒でさらさらした感触)
37 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (部分的に粘性あり)
38 褐色 (10YR4/4) 砂 (極細粒砂)
39 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土
40 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂 (極細粒砂・2～5mm の礫混じる)
1 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土(耕土)
2 褐色(7.5YR4/6)粘質土(床土)
3 黄褐色(10YR5/6)砂質
4 にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土(床土)
5 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
6 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土(炭少量混じる)
7 暗褐色(7.5YR3/4)砂質土
8 灰黄色(2.5Y6/2)砂質
9 明褐色(7.5YR6/8)砂質土
10 明黄褐色(10YR6/8)砂質土(床土)
11 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土(鉄分沈着)
12 にぶい黄褐色(10YR6/4)砂質土
13 第11層に耕土ブロック混じる
14 旧耕土
15 にぶい黄褐色(10YR6/4)砂質土(床土)
16 にぶい黄褐色(10YR6/3)粘質土(旧耕土混じり)
17 灰黄褐色(10YR6/2)粘質土
18 灰白色(10YR7/1)粘質土(旧耕土)
19 にぶい黄褐色(10YR5/3)粘質土(旧耕土混じり)
20 にぶい橙色(7.5YR6/4)粘質土(旧耕土混じり)
21 褐灰色(10YR6/1)粘質土(旧耕土)
22 第20層に同じ
23 褐灰色(10YR6/1)砂質土(鉄分沈着・旧耕土)
24 第21層に同じ
25 明黄褐色(10YR7/6)粘質土
26 にぶい黄橙色(10YR7/3)粘質土
27 黄灰色(2.5Y6/1)粘質土(旧耕土)
28 明黄褐色(10YR7/6)砂質土(鉄分沈着顕著)
29 第9層に同じ
30 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
31 にぶい褐色(7.5YR6/3)砂質土(鉄分沈着)
32 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
33 にぶい黄褐色(10YR6/4)砂質土
34 黄橙色(7.5YR7/8)砂質土
35 橙色(10YR6/8)砂質土(鉄分沈着)
36 橙色(10YR6/8)砂質土(鉄分沈着)
37 灰黄色(10YR5/2)砂質土
38 にぶい橙色(10YR5/4)砂質土(鉄分沈着)
39 黄褐色(10YR5/6)砂質土(鉄分沈着)
40 にぶい黄褐色(10YR5/2)砂質土
41 灰黄色(10YR5/2)砂質土
42 にぶい黄褐色(10YR5/2)砂質土
43 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
44 褐灰色(10YR5/1)砂質土
45 黄褐色(2.5Y5/3)粘質土
46 黄褐色(2.5Y5/4)粘質土
47 にぶい黄色(2.5Y6/3)粘質土
48 灰黄色(2.5Y7/2)粘質土
49 にぶい黄橙色(10YR6/3)砂質土
50 にぶい黄橙色(10YR7/2)粘質土
51 にぶい黄橙色(10YR6/3)粘質土
52 灰黄褐色(10YR5/2)粘質土
53 灰褐色(10YR5/2)粘質土
54 灰褐色(7.5Y5/2)粘質土(礫混じり)
55 明黄褐色(10YR7/6)砂質土
56 にぶい黄橙色(10YR6/3)砂質土
57 灰褐色(7.5Y5/2)砂質土
58 褐灰色(7.5Y5/1)粘質土(礫混じり)
59 褐灰色(10YR6/1)粘質土
60 第58層に同じ
61 にぶい褐色(7.5YR6/3)砂質土
62 にぶい褐色(7.5YR6/3)砂質土
63 黄灰色(2.5Y6/1)粘質土
64 浅黄色(2.5Y7/4)砂質土
65 灰黄褐色(10YR5/2)粘質土
66 褐灰色(10YR5/1)粘質土
67 褐灰色(7.5YR6/1)粘質土
68 灰黄褐色(10YR6/2)砂質土
69 褐灰色(10YR6/1)粘質土
70 黄灰色(2.5Y6/1)粘質土
71 黄灰色(2.5Y5/1)粘質土
72 褐灰色(10YR5/1)粘質土
73 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
74 褐灰色(10YR5/1)粘質土
1 黒褐色(2.5Y3/1) 砂質土
2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土
3 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土 (鉄分沈着)
4 明黄褐色(5YR6/8) 砂質土 (鉄分沈着)
5 明黄褐色(2.5YR6/8) 砂質土 (1cm以下の礫混じる)
6 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土 (やや粘性あり)
7 にぶい黄色 (10YR4/3) 砂質土
8 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土 (粘性あり)
9 明黄褐色 (2.5Y6/6) 砂質土
10 明黄褐色 (2.5Y6/8) 砂質土
11 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土
12 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土 (粘性あり)
13 にぶい黄色 (10YR5/3) 砂質土 (やや粘性あり)
14 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土
15 褐色(10YR4/4) 砂質土(砂混じり)
16 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土
17 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂質土
18 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質土
19 明褐色 (2.5Y5/3) 粘質土(砂混じり)
20 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土
21 灰色(5Y4/1) 粘質土 (砂混じり)
22 黄褐色(2.5Y5/3) 砂質土(粘性あり)
23 灰色 (5Y4/1) 粘質土 (粘性あり・上面鉄分沈着)
24 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土 (やや粘性あり)
1 にぶい黄色 (2.5Y6/6) 砂質土 (鉄分沈着)
2 褐色 (10YR4/6) 砂質土 (粘性あり・5mm程度の礫多量に混じる・鉄分沈着)
3 褐色 (10YR4/6) 砂質土 (粘性あり・5mm程度の礫多量に混じる・鉄分沈着)
4 にぶい黄褐色 (2.5Y6/4) 砂質土 (0.3～1cmの礫混じる)
5 灰色(5Y4/1) 粘質土 (1cm程度の礫混じる・鉄分沈着)
6 にぶい黄褐色 (2.5Y6/4) 細砂
7 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土 (粘性あり・鉄分沈着)
8 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土 (粘性あり)
9 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘質土 (上面鉄分沈着)
10 褐色 (10YR4/4) 砂質土
11 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土 (粘性あり)
12 灰色 (5Y4/1) 粘質土
13 灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土 (粘性やや強い・鉄分沈着)
14 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質土 (粘性あり・1cmの礫少量混じる・わずかに鉄分沈着)
15 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質土 (0.3～1.5cmの礫混じり)
16 灰色 (5Y4/1) 粘質土 (粘性やや強い・1cm程度の礫混じり・鉄分沈着)
17 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘質土 (粘性やや強い・0.3～1.5cmの礫混じり・鉄分沈着)
18 黒色 (7.5Y2/1) 粘質土
19 黒色 (5Y2/1) 粘質土
20 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂質土 (粘性あり)
暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土 (側壁据石抜き取り穴埋土)
褐色 (10YR4/4) 砂質土 (側壁据石抜き取り穴埋土)
褐色 (10YR4/6) 砂質土 (1.5cm程度の礫多量に混じる)
褐色 (10YR4/4) 砂質土 (2mm程度の礫混じり)
黄褐色 (10YR5/6) 砂質土 (1cm程度の礫少量混じる)
にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (暗褐色 (10YR3/4) 砂質土混じり)
にぶい黄褐色 (10YR4/4) 砂質土
褐色 (10YR5/6) 砂質土
にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (第5層の土質に類似)
にぶい黄褐色 (2.5Y6/4) 砂質土 (1cm程度の礫わずかに混じる)
黒褐色 (10YR3/1) 砂質土 (0.5～1.5cmの礫混じり)
にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土 (5mm程度の礫少量混じる)
にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (5mm程度の礫少量混じる)
黒褐色 (2.5Y5/4) 砂質土
黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土
黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土
暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土 (1cm程度の礫混じり)
にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土 (1～2mmの礫少量混じる)
黒褐色 (5Y2/1) 砂質土
暗褐色 (10YR3/3) 砂質土
明褐色 (7.5YR5/6) 砂質土 (床土)
褐色 (7.5YR4/6) 砂質土 (わずかに鉄分沈着)



第19図　第11調査区断面図（1）



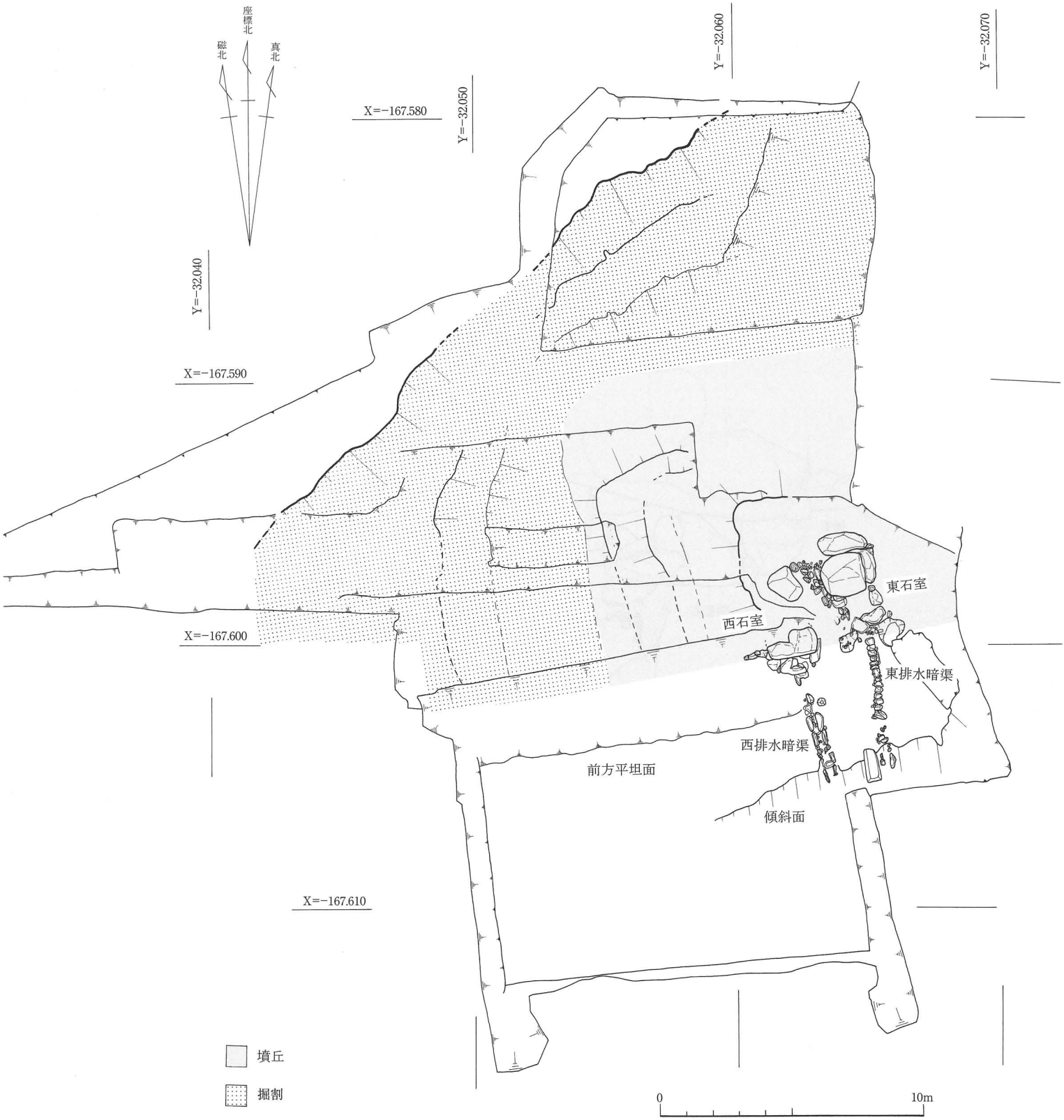
1 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土
2 褐色(10YR4/4)砂質土(旧耕土)
3 明褐色(7.5YR5/8)砂質土(旧床土)
4 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土
5 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土
6 褐色(10YR4/4)砂質土(旧耕土)
7 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土(旧耕土)
8 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
9 黄褐色(10YR5/6)砂質土(旧床土)
10 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土(旧耕土)
11 黄褐色(10YR5/8)砂質土(旧床土)
12 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
13 黄褐色(10YR5/6)砂質土(旧床土)
14 黄褐色(10YR5/6)砂質土(旧床土)
15 明黄褐色(10YR6/6)砂質土(旧床土)
16 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土(旧耕土)
17 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
18 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
19 明黄褐色(10YR6/6)砂質土(旧床土)
20 黄褐色(2.5Y5/4)砂質土(粘性あり・旧耕土)
21 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土
22 オリーブ褐色(2.5Y5/4)砂質土(粘性あり・旧床土)
23 明黄褐色(10YR6/6)砂質土(旧床土)
24 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土(旧耕土)
25 オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質土
26 明黄褐色(10YR6/6)砂質土(旧床土)
27 黄褐色(2.5Y5/4)砂質土(旧床土)
28 オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土(旧耕土)
29 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土
30 オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土(旧耕土)
31 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
32 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
33 オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土(旧耕土)
34 黄褐色(10YR5/6)砂質土(旧床土)
35 褐色(10YR4/4)砂質土(粘性あり)
36 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土(粘性あり・旧床土)
37 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土(粘性あり・旧耕土)
38 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土(旧耕土)
39 黄褐色(10YR5/6)砂質土(旧床土)
40 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
41 黄褐色(10YR5/6)砂質土(旧床土)
42 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土(粘性あり)
43 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土(旧耕土)
44 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土
45 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土(粘性あり)
46 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土
47 黄褐色(2.5Y5/4)砂質土
48 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土
49 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土
50 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
51 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
52 オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質土(粘性あり)
53 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土(旧耕土)
54 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土
55 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
56 明褐色(7.5YR5/8)砂質土
57 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土
58 オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質土
59 黄褐色(10YR5/8)砂質土(粘性あり)
60 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土
61 明褐色(7.5YR5/8)砂質土(旧床土)
62 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
63 橙色(7.5YR6/8)砂質土(鉄分沈着)
64 黄褐色(10YR5/6)砂質土
65 明赤褐色(2.5YR5/8)砂
66 黄褐色(10YR5/8)砂質土
67 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土
68 にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土
69 褐灰色(7.5YR4/1)砂質土
70 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
71 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
72 黄褐色(2.5Y4/1)砂質土
73 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
74 灰褐色(7.5YR4/2)砂質土
75 黒褐色(7.5YR3/1)砂質土
76 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
77 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
78 明褐色(7.5YR5/6)砂質土
79 黒褐色(10YR3/2)砂質土
80 黒褐色(7.5YR3/1)砂質土
81 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
82 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
83 黒褐色(7.5YR3/1)砂質土
84 黒褐色(7.5YR3/1)砂質土
85 黒褐色(10YR3/2)砂質土
86 灰色(N4/)粘質土
87 褐灰色(10YR4/1)砂質土
88 褐灰色(7.5YR4/1)砂質土
89 黒褐色(7.5YR3/1)砂質土
90 黒褐色(5YR3/1)砂質土
91 褐色(7.5YR4/4)砂質土
92 黒褐色(7.5YR3/1)砂質土
93 黒褐色(5YR3/1)砂質土
94 暗赤灰色(2.5YR3/1)粘質土
95 黒色(7.5YR2/1)砂質土
96 褐灰色(10YR4/1)砂質土
97 黒褐色(5YR2/1)砂質土
98 灰色(7.5Y4/1)砂質土
99 黒褐色(7.5YR3/1)砂質土(炭少量混じる)
100 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
101 にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土(砂混じり)
102 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
103 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
104 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
105 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
106 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土(鉄分沈着)
107 黒褐色(10YR3/1)砂質土
108 黒色(7.5YR2/1)砂質土
109 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
110 にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土
111 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
112 明褐色(7.5YR5/6)砂質土
113 褐色(7.5YR4/4)砂質土
114 褐色(7.5YR4/6)砂質土
115 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
116 褐色(7.5YR4/4)砂質土
117 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土(鉄分沈着)
118 褐色(7.5YR4/4)砂質土
119 黄褐色(10YR5/6)砂質土
120 明褐色(7.5YR5/6)砂質土
121 褐色(10YR4/4)粘質土
122 明褐色(7.5YR5/6)砂質土
123 明褐色(10YR5/8)砂質土
124 橙色(7.5YR6/6)砂質土
125 橙色(7.5YR6/8)砂質土
126 にぶい赤褐色(5YR5/4)砂質土
127 橙色(7.5YR6/8)砂質土
128 にぶい橙色(7.5YR7/4)砂質土
129 橙色(7.5YR6/6)砂質土
130 にぶい赤褐色(5YR5/4)砂質土
131 にぶい褐色(7.5YR6/3)砂質土
132 褐色(7.5YR4/4)砂質土
133 褐色(7.5YR4/4)砂質土
134 褐色(7.5YR4/4)砂質土
135 褐色(10YR4/4)砂質土
136 褐色(7.5YR4/4)砂質土
137 褐色(7.5YR4/3)砂質土
138 黄褐色(10YR5/6)砂質土
139 橙色(7.5YR6/8)砂質土(鉄分沈着)
140 橙色(7.5YR6/8)砂質土
141 橙色(7.5YR6/8)砂質土(鉄分沈着)
142 橙色(7.5YR6/6)砂質土(鉄分沈着)
143 橙色(7.5YR6/8)砂質土(鉄分沈着)
144 橙色(7.5YR6/8)砂質土(鉄分沈着)
145 橙色(7.5YR6/8)砂質土(鉄分沈着)
146 橙色(7.5YR6/8)砂質土
147 橙色(7.5YR6/8)砂質土(鉄分沈着)
148 橙色(7.5YR6/8)砂質土(鉄分沈着)
149 橙色(7.5YR6/8)砂質土(鉄分沈着)
150 橙色(7.5YR6/8)砂質土
151 橙色(7.5YR6/8)砂質土
152 橙色(7.5YR6/8)砂質土(鉄分沈着・2～3mmの礫混じる)
153 橙色(7.5YR6/8)砂質土(鉄分沈着・堅緻)
154 橙色(7.5YR6/8)砂質土
155 橙色(7.5YR6/8)砂質土
156 明褐色(10YR5/6)砂質土
157 橙色(7.5YR6/8)砂質土
158 橙色(7.5YR6/8)砂質土
159 橙色(7.5YR6/8)砂質土
160 橙色(7.5YR6/8)砂質土
161 橙色(7.5YR6/8)砂質土
162 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
163 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
164 橙色(7.5YR6/8)砂質土(鉄分沈着)
165 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
166 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
167 黄褐色(5YR5/6)砂質土
168 にぶい褐色(7.5YR5/4)砂質土
169 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
170 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
171 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
172 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
173 褐色(7.5YR4/6)砂質土
174 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
175 にぶい褐色(10YR6/3)砂質土
176 にぶい黄橙色(10YR7/3)砂質土
177 黄褐色(2.5Y5/3)粘質土
178 にぶい黄褐色(10YR5/3)粘質土
179 褐色(10YR4/4)砂質土
180 褐色(10YR4/4)砂質土(1～2cmの礫混じる)
181 褐色(10YR4/6)粘質土(0.5～1cmの礫混じる)
182 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
183 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土(粘性あり)
184 褐色(10YR4/6)砂質土
185 褐色(10YR4/4)砂質土
186 褐色(10YR4/4)砂質土
187 黄褐色(10YR5/6)粘質土
188 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土
189 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
190 褐色(10YR4/6)砂質土
191 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
192 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
193 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土(0.5cmの礫混じる)
194 黄褐色(10YR5/6)砂質土
195 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土(0.5cmの礫混じる)
196 褐色(10YR4/4)砂質土(0.5cmの礫混じる)
197 にぶい褐色(7.5YR5/4)砂質土
198 橙色(7.5YR6/8)砂質土(鉄分沈着顕著)
199 橙色(7.5YR6/8)砂質土
200 にぶい橙色(7.5YR5/4)砂質土
201 明褐色(7.5YR5/6)砂質土
202 明褐色(7.5YR5/6)砂質土
203 明褐色(10YR5/6)砂質土(鉄分沈着)
204 明褐色(10YR5/6)砂質土(鉄分沈着)
205 橙色(7.5YR6/6)砂質土
206 橙色(7.5YR6/6)砂質土
207 橙色(7.5YR6/6)砂質土
208 にぶい橙色(7.5YR6/4)砂質土
209 にぶい橙色(7.5YR6/4)砂質土
210 明赤褐色(5YR5/8) 砂質土
211 にぶい橙色(7.5YR6/4)砂質土
212 にぶい橙色(7.5YR5/4)砂質土
213 褐色(7.5YR4/6)砂質土
214 褐色(7.5YR4/6)砂質土
215 褐色(7.5YR4/6)砂質土
216 にぶい橙色(7.5YR6/4)砂質土
217 黄褐色(2.5Y5/4)砂質土(5mm大の礫多く混じる)
218 褐色(7.5YR4/4)砂質土
219 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
220 褐色(7.5YR4/3)砂質土
221 褐色(7.5YR4/4)砂質土
222 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
223 にぶい褐色(7.5YR5/3)砂質土
224 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
225 暗褐色(10YR3/4)砂礫
226 にぶい褐色(7.5YR5/4)砂質土
227 赤褐色(5YR4/6)砂質土
228 暗褐色(10YR3/4)砂質土
229 暗褐色(10YR3/4)砂質土
230 灰黄褐色(10YR6/2)細砂
231 橙色(5YR6/6)砂質土
232 黒褐色(2.5Y3/1)砂質土
233 橙色(5YR6/6)砂質土
234 にぶい橙色(7.5YR5/4)砂質土
235 浅黄色(2.5Y7/3)砂質土
236 にぶい橙色(7.5YR5/4)砂質土
237 明赤褐色(5YR5/6)砂質土
238 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
239 にぶい赤褐色(5YR4/4)砂質土
240 明黄褐色(10YR7/6)砂質土
241 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
242 暗赤褐色(5YR3/4)砂質土
243 褐色(7.5YR4/4)砂質土
244 極暗赤褐色(5YR2/4)砂質土
245 褐色(7.5YR4/4)砂質土
246 褐色(7.5YR4/4)砂質土
247 褐色(7.5YR4/4)砂質土
248 暗赤褐色(5YR3/2)砂質土
249 暗赤褐色(5YR3/2)砂質土
250 黒褐色(5YR2/1)砂質土
251 黒褐色(5YR2/1)砂質土
252 暗赤褐色(5YR3/2)砂質土
253 極暗赤褐色(5YR2/4)砂質土
254 極暗赤褐色(5YR2/4)砂質土
255 極暗赤褐色(5YR2/4)砂質土
256 にぶい赤褐色(5YR5/4)砂質土
257 極暗赤褐色(5YR2/4)砂質土
258 にぶい赤褐色(5YR4/3)砂質土
259 にぶい赤褐色(5YR4/3)砂質土
260 極暗赤褐色(5YR2/4)砂質土
261 黒褐色(5YR3/1)砂質土
262 極暗赤褐色(5YR2/4)砂質土
263 極暗赤褐色(5YR2/4)砂質土
264 黒褐色(5YR3/1)砂質土
265 黒褐色(5YR2/1)砂質土
266 黒褐色(5YR2/1)砂質土
267 黒褐色(5YR2/1)砂質土
268 極暗赤褐色(5YR2/4)砂質土
269 褐灰色(7.5YR4/1)砂質土
270 極暗赤褐色(5YR2/4)砂質土
271 極赤褐色(5YR2/3)砂質土
272 暗褐色(10YR3/4)砂礫
273 褐灰色(10YR4/1)微砂
274 暗褐色(7.5YR3/4)砂質土
275 褐色(7.5YR4/4)砂質土
276 褐色(10YR4/4)砂質土
277 黄褐色(10YR5/6)砂質土
278 褐色(7.5YR4/3)砂質土
279 黄褐色(10YR5/6)砂質土
280 褐色(10YR4/4)砂質土
281 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
282 褐色(7.5YR4/4)砂質土
283 褐色(7.5YR4/4)砂質土
284 にぶい褐色(7.5YR5/4)砂質土
285 褐色(7.5YR4/3)砂質土(鉄分沈着)
286 褐色(7.5YR4/3)砂質土
287 褐色(7.5YR4/6)砂質土
288 灰褐色(7.5YR4/2)砂質土
289 褐色(7.5YR4/3)砂質土
290 褐色(7.5YR4/4)砂質土
291 褐色(10YR4/4)砂質土
292 褐色(7.5YR4/3)砂質土
293 褐色(7.5YR4/3)砂質土
294 褐色(7.5YR4/3)砂質土
295 赤褐色(5YR4/6)砂質土
296 灰褐色(7.5YR4/2)砂質土
297 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
298 褐色(10YR4/4)砂質土
299 褐色(7.5YR4/6)砂質土
300 第11層よりやや薄い色の砂質土
301 褐色(7.5YR4/3)砂質土
302 褐色(7.5YR4/4)砂質土
303 褐色(7.5YR4/3)砂質土
304 灰褐色(7.5YR4/2)砂質土
305 褐色(7.5YR4/4)砂質土(鉄分沈着)
306 灰褐色(7.5YR4/2)砂質土
307 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
308 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
309 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
310 黒褐色(7.5YR3/1)砂質土
311 褐色(7.5YR4/4)砂質土
312 明褐色(7.5YR5/6)砂質土
313 黄褐色(10YR5/6)砂質土
314 褐色(7.5YR4/3)砂質土
315 黒褐色(5YR3/1)微砂



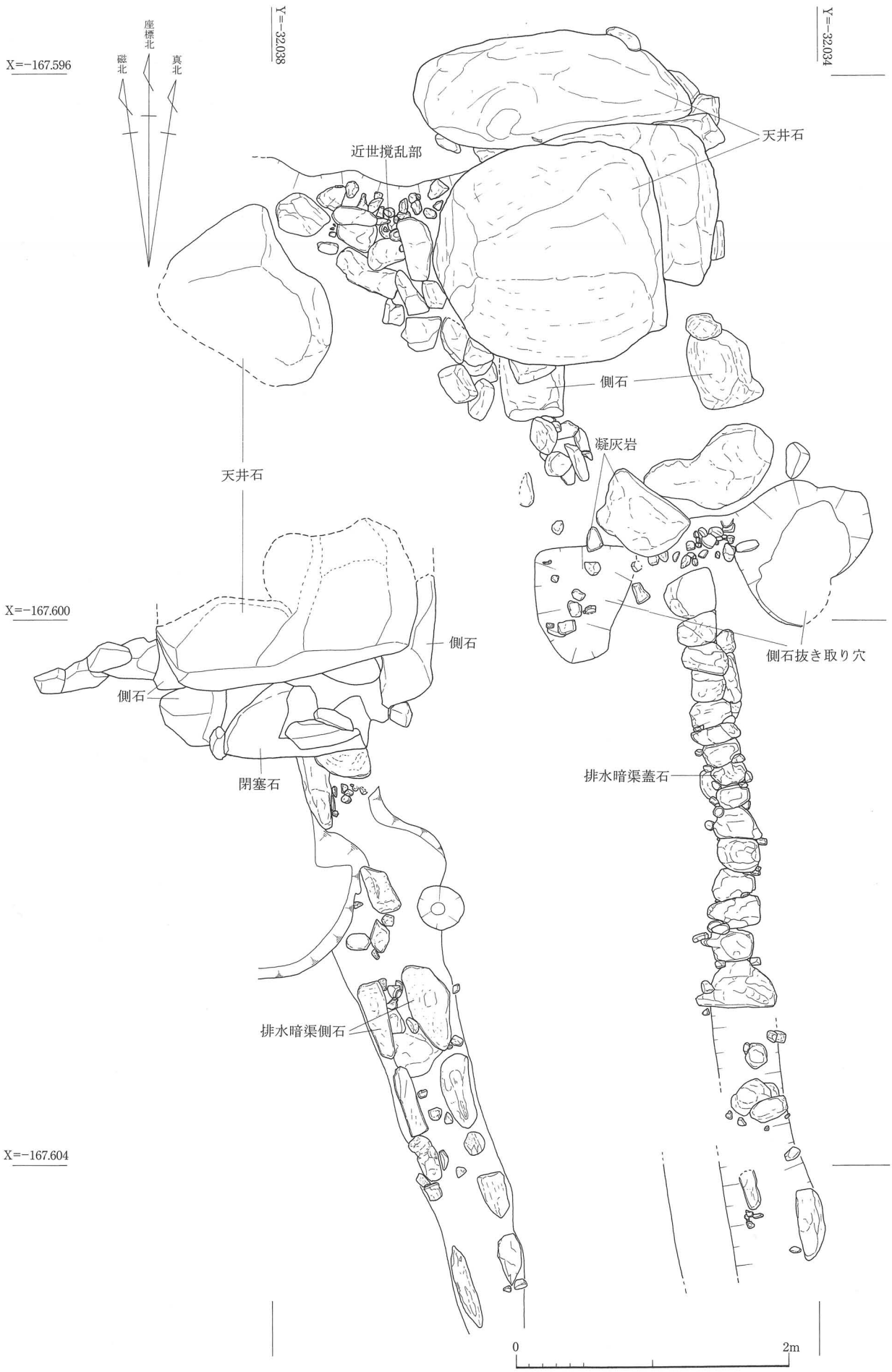
1 黄灰色 (2.5Y5/1)砂質土(現耕土)
2 暗灰黄色(2.5Y5/2) 砂質土 (5mm程度の礫多量に混じる・鉄分沈着)
3 暗灰黄色(2.5Y5/2) 砂質土 (第3層より鉄分沈着希薄)
4 灰色 (5Y5/1) 砂質土(現耕土・1999年1月製造空き缶混入)
5 明黄褐色 (10YR6/6)砂質土 (5mm程度の礫混じる・鉄分沈着)
6 明黄褐色 (10YR6/6)砂質土 (5mm程度の礫混じる・第5層より鉄分沈着希薄)
7 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土 (5mm程度の礫混じる・鉄分沈着)
8 にぶい黄橙色 (10YR6/4) 砂質土 (5mm程度の礫混じる)
9 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土 (上面厚さ5mmにわたって鉄分沈着)
10 黄褐色 (10YR5/6)砂質土
11 灰褐色(7.5YR4/2) 粘質土
12 褐色 (10YR4/6) 砂質土 (鉄分沈着)
13 褐色 (10YR4/6) 砂質土 (鉄分沈着顕著)
14 にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質土(上面厚さ5mmにわたって鉄分沈着)
15 にぶい黄橙色 (10YR6/4) 砂質土 (5mm程度の礫混じる)
16 灰褐色(7.5YR4/2) 粘質土
17 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土 (5mm程度の礫混じる)
18 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土 (5mm程度の礫混じる)
19 灰褐色(7.5YR4/2) 粘質土
20 褐色 (10YR4/4) 砂質土 (粘性あり・5mm程度の礫混じる)
21 黄褐色 (10YR5/6)砂質土 (5mm程度の礫混じる)
22 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土 (5mm程度の礫混じる)
23 灰褐色(7.5YR4/2) 粘質土
24 灰褐色(7.5YR4/2) 粘質土
25 黄褐色 (10YR5/6)粘質土
26 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘質土 (5mm程度の礫混じる)
27 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粘質土 (5mm程度の礫混じる)
28 褐色 (10YR4/6) 粘質土 (5mm程度の礫混じる)
29 黄褐色 (10YR5/6) 粘質土
30 明黄褐色(10YR6/6) 砂質土 (5mm程度の礫混じる)
31 明黄褐色 (10YR6/6) 粘質土 (5mm程度の礫混じる)
32 明黄褐色(10YR6/6) 砂質土 (5mm程度の礫混じる)
33 灰褐色(7.5YR4/2) 粘質土 (5mm程度の礫混じる)
34 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土 (5mm程度の礫混じる)
35 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土 (5mm程度の礫混じる)
36 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土
37 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘質土 (5mm程度の礫混じる)
38 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘質土
39 黄褐色 (10YR5/6)砂質土 (5mm程度の礫混じる)
40 にぶい黄色(2.5Y6/4) 砂質土
41 灰褐色 (10YR4/2) 粘質土
42 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘質土
43 灰褐色 (7.5YR4/2) 砂質土 (粘性あり・5mm程度の礫混じる)
44 黄褐色 (10YR5/6) 粘質土 (粘性強い)
45 灰褐色 (7.5YR4/2)粘質土 (5mm程度の礫混じる・灰色(5Y6/1)砂質土ブロック数個混じる)
46 黒褐色(10YR3/2) 粘質土
47 灰褐色(10YR4/2) 粘質土
48 黄褐色(10YR5/6)粘質土 (粘性強い)
49 灰オリーブ色(5Y5/2) 砂質土 (5mm程度の礫混じる)
50 黄褐色(2.5Y5/4)粘質土
51 にぶい黄色(2.5Y6/4) 砂質土
52 にぶい黄色(2.5Y6/4) 砂質土
53 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘質土
54 灰褐色(7.5YR4/2) 砂質土
55 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘質土
56 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土
57 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘質土 (5mm程度の礫混じる・灰色(5Y6/1)砂質土ブロック数個混じる)
58 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土 (5mm程度の礫混じる・鉄分沈着)
59 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土 (5mm程度の礫混じる・鉄分沈着)
60 灰褐色(7.5YR4/2) 粘質土
61 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土
62 灰色(10Y5/1) 粘土ブロック
63 にぶい黄色(2.5Y6/4) 砂質土
64 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘質土(5mm程度の礫混じる・灰色(5Y6/1)砂質土ブロック数個混じる)
65 にぶい黄褐色 (10YR5/4)砂質土(5mm程度の礫混じる・鉄分沈着)
66 灰オリーブ色 (2.5Y5/2) 砂質土 (砂っぽい)
67 灰オリーブ色 (2.5Y5/2) 砂質土 (砂っぽい)
68 灰褐色(7.5YR4/2) 砂質土
69 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土
70 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土
71 黄褐色 (10YR5/6) 粘質土
72 灰黄色(2.5Y6/2) 砂
73 灰黄褐色(10YR4/2) 砂質土
74 灰黄褐色(10YR4/2) 砂質土
75 灰黄褐色(10YR4/2) 砂質土
76 褐色 (10YR 4/6) 砂質土
80 褐灰色 (5YR4/1) 粘質土
81 褐色 (10YR4/6) 砂質土
82 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土
83 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土
84 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘質土 (0.5～1cmの礫混じる)
85 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土
86 黄褐色 (10YR5/6) 粘質土
87 褐色 (10YR4/6) 砂質土 (粘性あり)
88 褐色 (10YR4/6) 砂質土 (粘性あり)
89 褐色 (10YR4/6) 粘質土
90 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土
91 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土
92 黄褐色 (10YR5/6) 粘質土
93 灰褐色 (7.5YR4/2) 砂質土 (0.5～1cmの礫多量に混じる)
94 黄褐色 (10YR5/6) 粘質土
95 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土
96 褐色 (10YR4/6) 粘質土
97 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土 (1cmの礫混じる)
98 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土
99 黄褐色 (10YR5/6) 粘質土
100 黄褐色 (10YR5/6) 粘質土
101 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土
102 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土
103 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土
104 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土
105 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土
106 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質土

0 5m

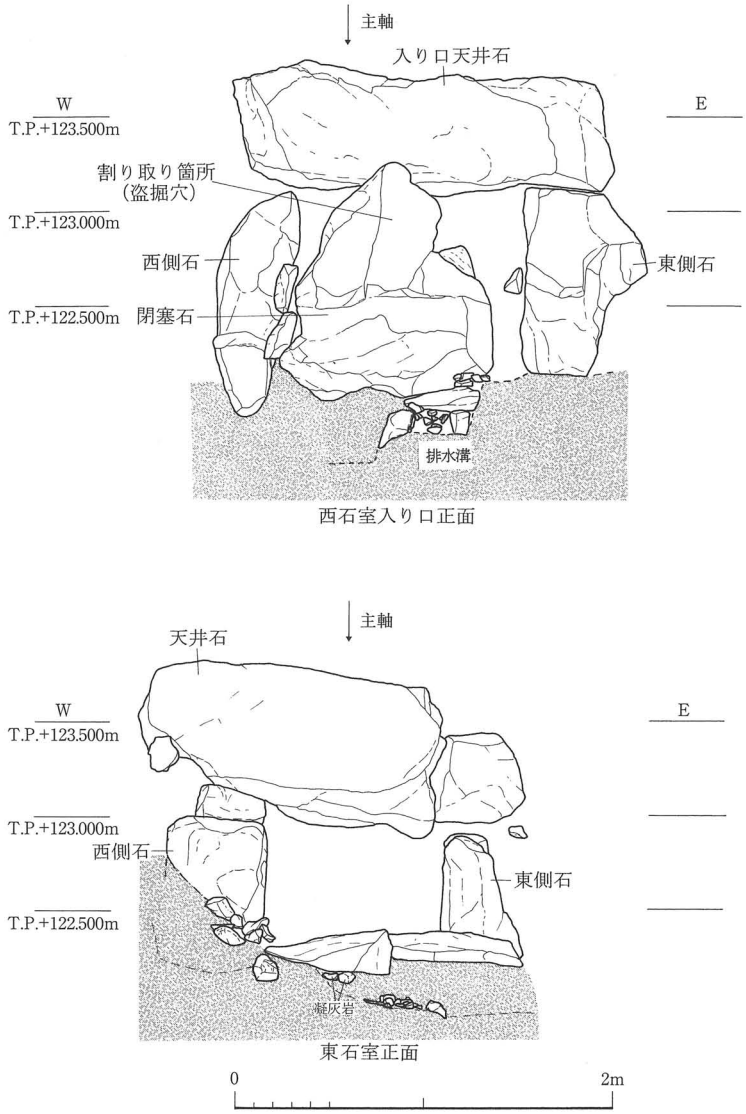
第20図　第11調査区断面図 (2)



第21図　第11調査区駕田古墳平面図



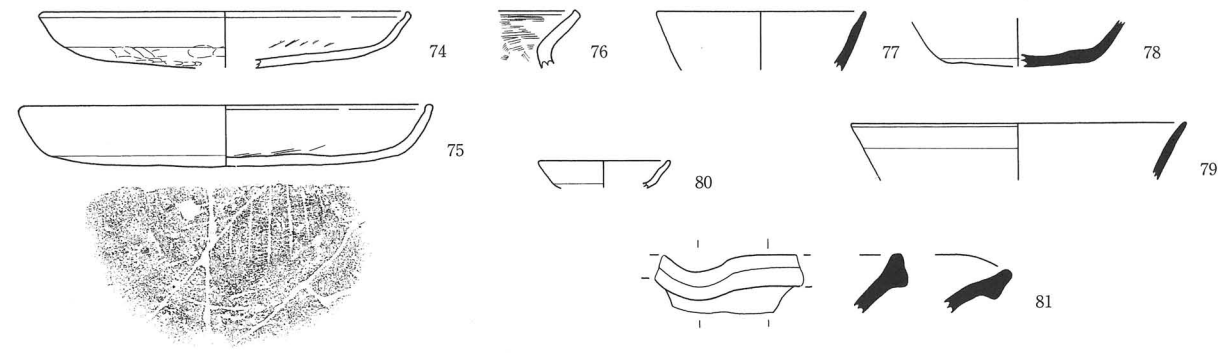
第22図　第11調査区駕田古墳埋葬施設平面図



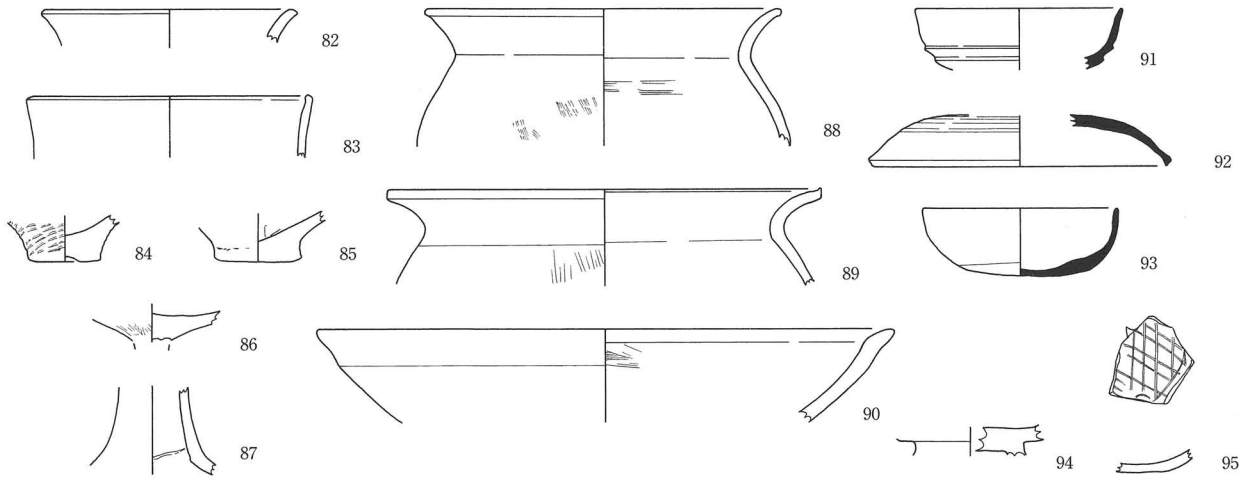
第23図　第11調査区駕田古墳東西石室前方立面図

排水施設　　石室前面では耕作土を除去すると直ちに暗渠の蓋石が露出し、排水溝の掘り方上面が現れ、東西両石室の前面に南へ排水暗渠が延びていることが判明した。そしてこの暗渠の途切れるところから南側は傾斜面となっている。東側石室から延びる暗渠は、延長約5.0mで、南端より北へ2.0mの間には既に蓋石はなく、一部に堀方に据えた側石が残るのみであった。蓋石は長辺25.0～50.0cmの川原石を横長に置いているが、15個の石が原状をとどめていた。蓋石のない部分では溝の内法は30.0cm程度で、掘り方は50.0～70.0cmである。深さは20cm程度である。

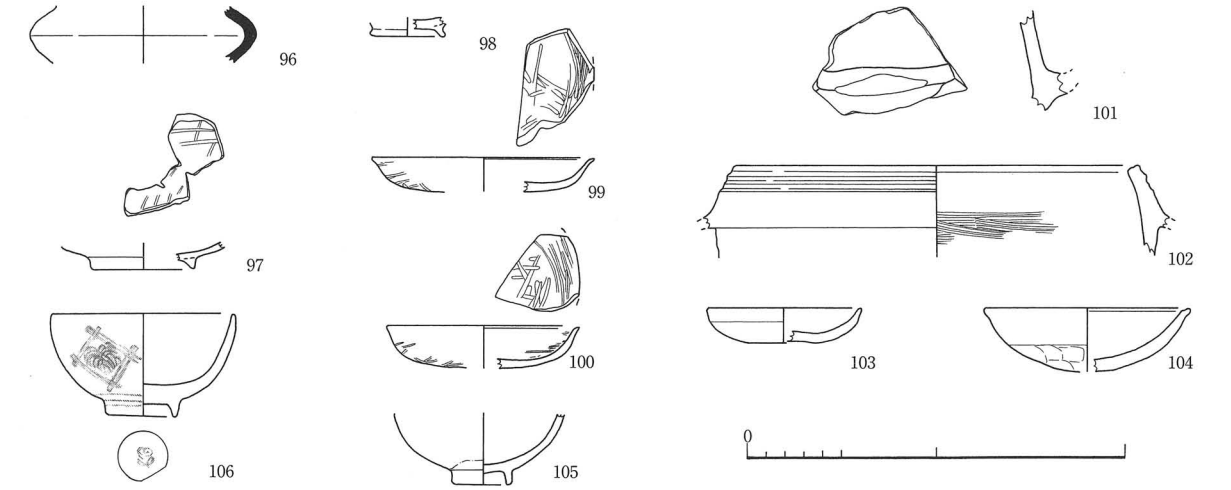
西側石室から延びる暗渠は閉塞石下より南端まで約4.5m、蓋石の残るところはなく、幅55.0～80.0cmの溝の掘り方内側に、35.0～60.0cmの長手の川原石を縦長に置き連ねて側石としている。溝の内法は20.0cm程度、溝の深さは20cm程度である。いずれの暗渠も石室の主軸の延長線上に位置するが、東のそれは中ほどでやや西に振り、西のそれはやや東に振る傾向が認められる。



第9調査区



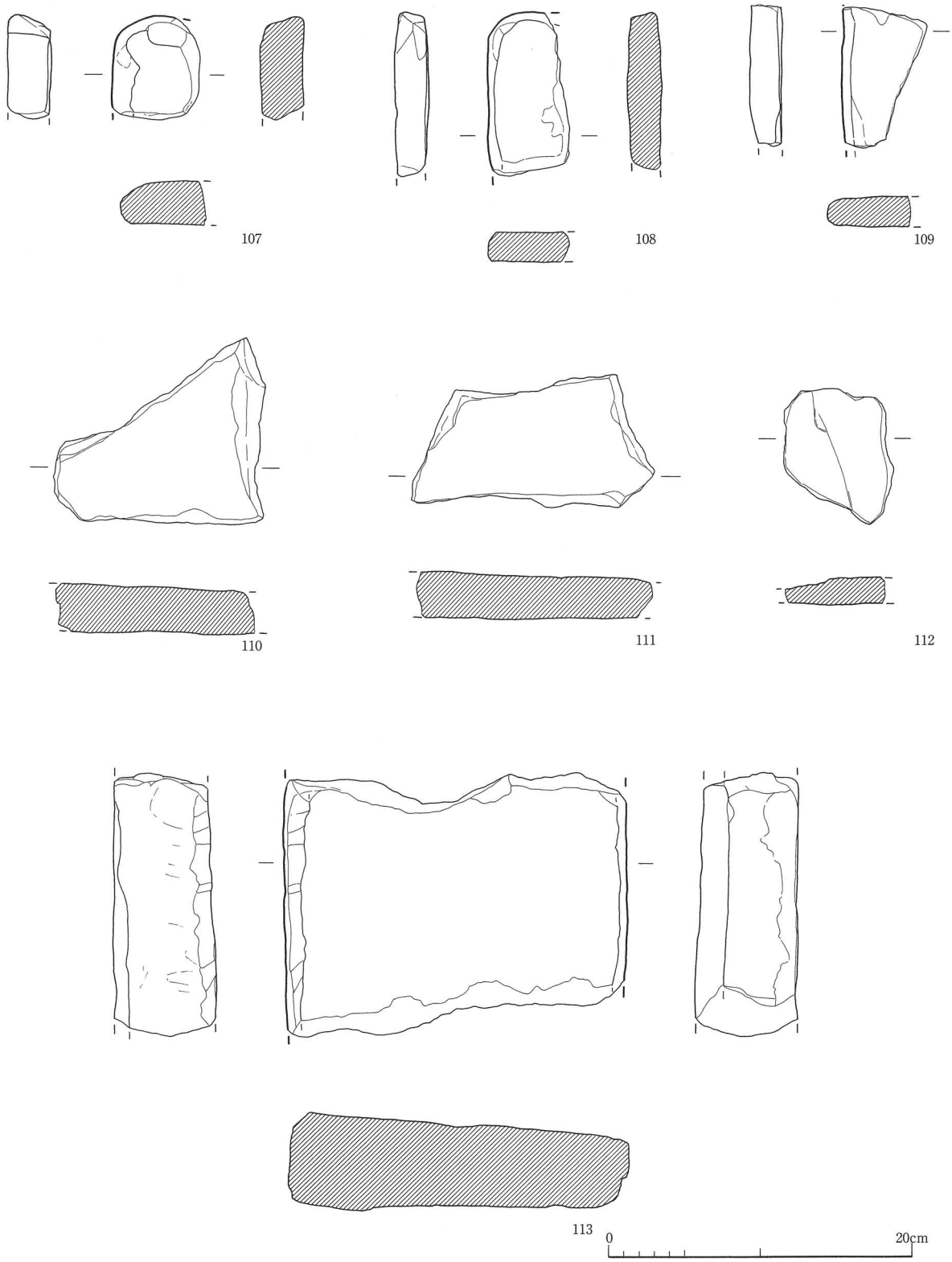
第10調査区



第11調査区

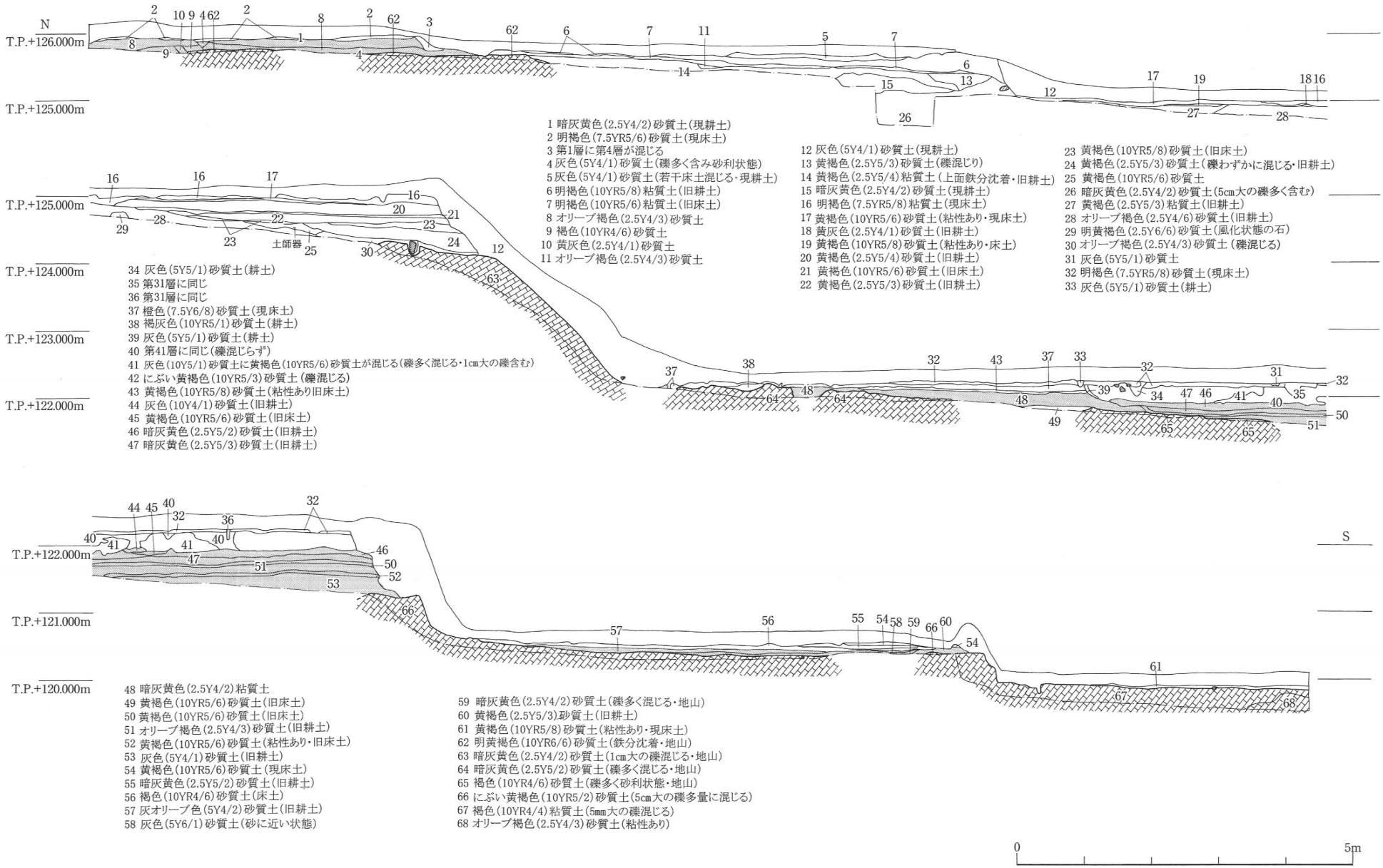
第24図　第9～11調査区出土土器

掘割　　幅6.0m、深さは約1.0m程度で、最初に述べたように墳丘の西と北の二方で画されている。南側断面では掘割の底面に最初に崩落したブロック状の土塊（第100～138層）が深さ0.5～0.6m堆積した後、基本的にはレンズ状に堆積を繰り返して徐々に埋没する過程が観察された（第69～99層）。このうち崩落土と思われる第123・128層から土師器・須恵器片が出土した。



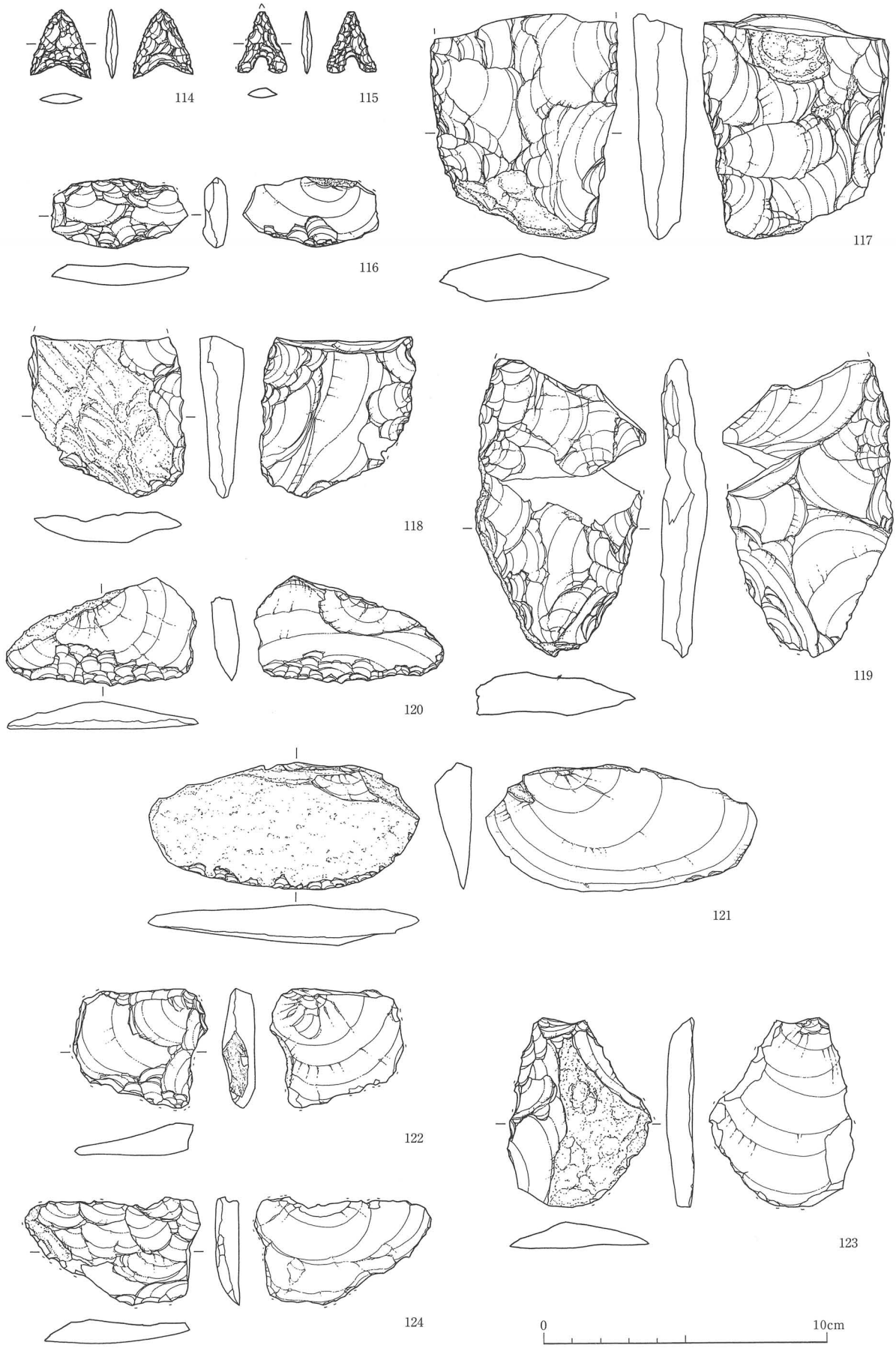
第25図　第10調査区出土榛原石

出土遺物　　本調査区の出土遺物のうち古墳に伴うものは東石室床面堆積土より出土した管玉のみである。それ以外に掘割の埋没過程で混入した第123・128層出土の土師器・須恵器の破片がある。このうち形態の判明したのは第123層出土の土師器坏身（104）、堀割の北側底面より出土した須恵器小型壷（96）、排水施設の検出された古墳前面の平坦面に堆積する床土出土の瓦器（97・99・100）、土師器壷または鍋の把手（101）、東側斜面の撹乱堆積土出土の瓦質羽釜（102）、そして墳頂部撹乱石溜りの磁器碗（105・106）などがある。



1 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土(現耕土)
2 明褐色(7.5YR5/6)砂質土(現床土)
3 第1層に第4層が混じる
4 灰色(5Y4/1)砂質土(礫多く含み砂利状態)
5 灰色(5Y4/1)砂質土(若干床土混じる・現耕土)
6 明褐色(10YR5/8)粘質土(旧耕土)
7 明褐色(10YR5/6)粘質土(旧床土)
8 オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土
9 褐色(10YR4/6)砂質土
10 黄灰色(2.5Y4/1)砂質土
11 オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土
12 灰色(5Y4/1)砂質土(現耕土)
13 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土(礫混じり)
14 黄褐色(2.5Y5/4)粘質土(上面鉄分沈着・旧耕土)
15 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土(現耕土)
16 明褐色(7.5YR5/8)粘質土(現床土)
17 黄褐色(10YR5/6)砂質土(粘性あり・現床土)
18 黄灰色(2.5Y4/1)砂質土(旧耕土)
19 黄褐色(10YR5/8)砂質土(粘性あり・床土)
20 黄褐色(2.5Y5/4)砂質土(旧耕土)
21 黄褐色(10YR5/6)砂質土(旧床土)
22 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土(旧耕土)
23 黄褐色(10YR5/8)砂質土(旧床土)
24 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土(礫わずかに混じる・旧耕土)
25 黄褐色(10YR5/6)砂質土
26 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土(5cm大の礫多く含む)
27 黄褐色(2.5Y5/3)粘質土(旧耕土)
28 オリーブ褐色(2.5Y4/6)砂質土(旧耕土)
29 明黄褐色(2.5Y6/6)砂質土(風化状態の石)
30 オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土(礫混じる)
31 灰色(5Y5/1)砂質土
32 明褐色(7.5YR5/8)砂質土(現床土)
33 灰色(5Y5/1)砂質土(耕土)
34 灰色(5Y5/1)砂質土(耕土)
35 第31層に同じ
36 第31層に同じ
37 橙色(7.5Y6/8)砂質土(現床土)
38 褐灰色(10YR5/1)砂質土(耕土)
39 灰色(5Y5/1)砂質土(耕土)
40 第41層に同じ(礫混じらず)
41 灰色(10Y5/1)砂質土に黄褐色(10YR5/6)砂質土が混じる(礫多く混じる・1cm大の礫含む)
42 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土(礫混じる)
43 黄褐色(10YR5/8)砂質土(粘性あり旧床土)
44 灰色(10Y4/1)砂質土(旧耕土)
45 黄褐色(10YR5/6)砂質土(旧床土)
46 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土(旧耕土)
47 暗灰黄色(2.5Y5/3)砂質土(旧耕土)
48 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土
49 黄褐色(10YR5/6)砂質土(旧床土)
50 黄褐色(10YR5/6)砂質土(旧床土)
51 オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土(旧耕土)
52 黄褐色(10YR5/6)砂質土(粘性あり・旧床土)
53 灰色(5Y4/1)砂質土(旧耕土)
54 黄褐色(10YR5/6)砂質土(現床土)
55 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土(旧耕土)
56 褐色(10YR4/6)砂質土(床土)
57 灰オリーブ色(5Y4/2)砂質土(旧耕土)
58 灰色(5Y6/1)砂質土(砂に近い状態)
59 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土(礫多く混じる・地山)
60 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土(旧耕土)
61 黄褐色(10YR5/8)砂質土(粘性あり・現床土)
62 明黄褐色(10YR6/6)砂質土(鉄分沈着・地山)
63 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土(1cm大の礫混じる・地山)
64 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土(礫多く混じる・地山)
65 褐色(10YR4/6)砂質土(礫多く砂利状態・地山)
66 にぶい黄褐色(10YR5/2)砂質土(5cm大の礫多量に混じる)
67 褐色(10YR4/4)粘質土(5mm大の礫混じる)
68 オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土(粘性あり)

第26図　第12調査区断面図



第27図　各調査区出土石器

第12調査区（第26図）

第1・8・9調査区の東は二ツ釜池より下る谷筋となる。本調査区はその左岸にあたる。この部分は圃場整備により削られ、コンクリートの擁壁が新設される計画であるため、南北方向に調査区を設定した。耕土・床土下は砂もしくは砂質の土壌が堆積し、その下は地山の砂礫土となる。重層する耕作土の堆積が観察されたのみで、遺構・遺物は検出されなかった。

第3章　駕田古墳の石材の石種とその採石地

奈良県立橿原考古学研究所共同研究員　奥田　尚

石室や排水溝に使用されている石材の石種を裸眼で観察した。石種の特徴・石材の採石推定地及び石材の使用傾向について述べる。

A　石材の石種の特徴とその採石推定地

当古墳に使用されている石材の石種は石英斑岩・アプライト・ペグマタイト・細粒黒雲母花崗岩・粗粒花崗閃緑岩・中粒花崗閃緑岩・角閃石黒雲母石英閃緑岩・片麻状中粒アプライト・片麻状粗粒アプライト質黒雲母花崗岩・片麻状中粒アプライト質黒雲母花崗岩である。

石英斑岩：色は淡茶色～灰白色で、粒形が角である。斑晶鉱物は石英・長石・黒雲母である。石英は無色透明、粒径が2～6㎜、量が中である。長石は白色、粒径が2～6㎜、量が中である。黒雲母は黒色、板状で、粒径が1～2㎜、量が僅かである。

このような岩相を示す石は岩脈として産する。当古墳の付近に分布する領家式花崗岩中にも岩脈としてみられる。また、当古墳の南方を流れている平石川の川原石にもみられる。

アプライト：割石で、色は灰白色である。石英・長石が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が1～2㎜、量が中である。長石は灰白色、粒径が1～2㎜、量が非常に多い。

このような岩相を示す石はアプライト岩脈の岩相の一部に似ている。当古墳の付近に分布する片麻状花崗岩類中に部分的にみられる。また、当古墳の南方を流れている平石川の川原石にもみられる。

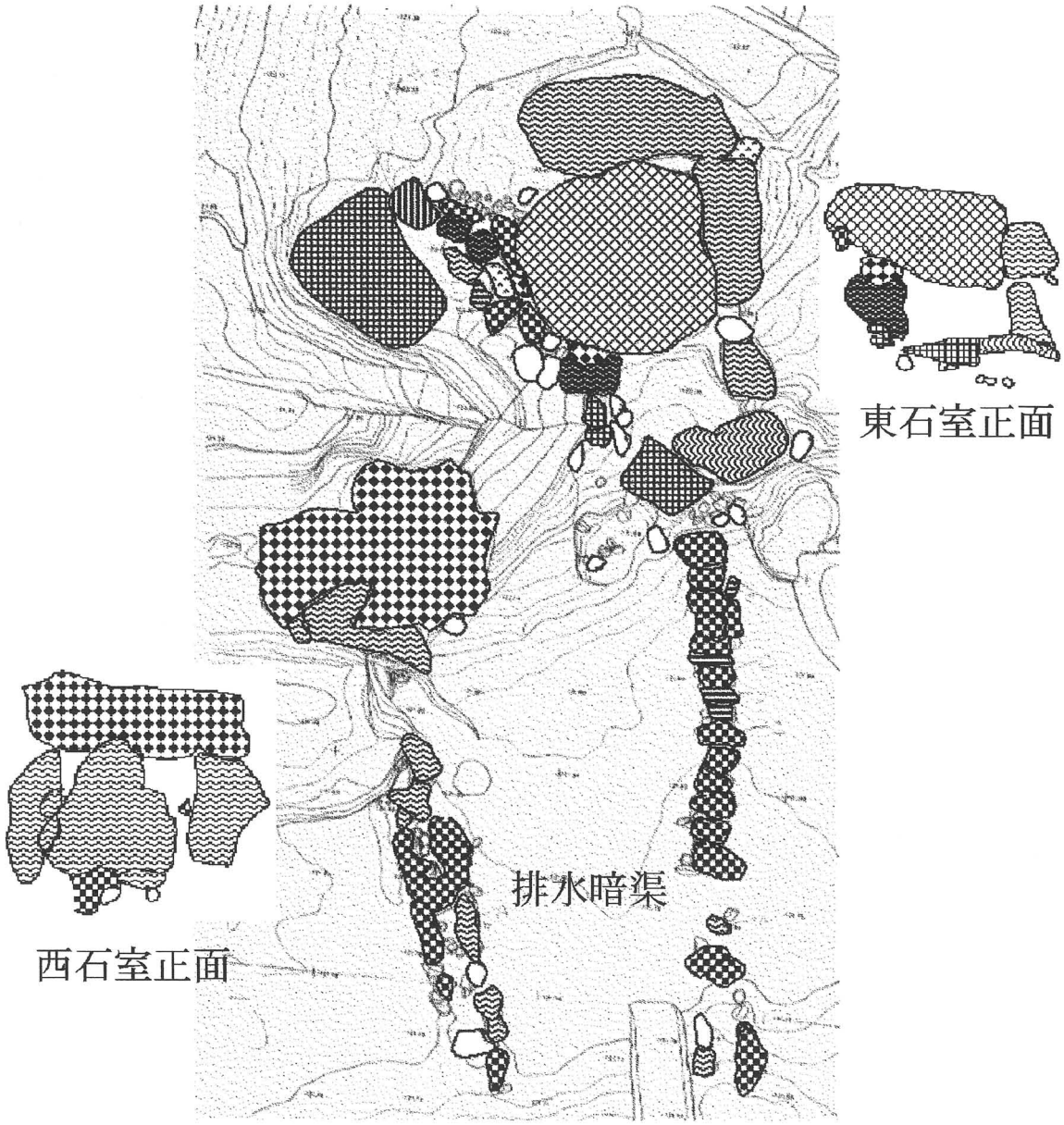
ペグマタイト：色は灰白色で、粒形が角である。アプライトの鉱物粒が粗くなったものである。脈状に粗粒をなして石英と長石が噛み合っている。

このような岩相を示す石はアプライト岩脈の粗粒部の岩相の一部に似ている。当古墳の付近に分布する片麻状花崗岩類中に岩脈としてみられる。また、当古墳の南方を流れている平石川の川原石にもみられる。

細粒黒雲母花崗岩：色は暗灰色で、粒形が亜円である。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が0.5～1㎜、量が中である。長石は灰白色、粒径が1～2㎜、量が多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が0.5～1㎜、量が中である。

このような岩相を示す石は平石付近に分布する黒雲母花崗岩の岩相の一部に似ている。当古墳の南方を流れている平石川の川原石にもみられる。

粗粒花崗閃緑岩：色は灰白色、粒形が亜角である。石英・長石・黒雲母・角閃石が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が2～4㎜、量が中である。長石は灰白色、粒径が3～10㎜、量が非常に多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が2～8㎜、量が中である。角閃石は黒色、粒状で、粒径が



石 種 の 凡 例

- 石英斑岩
- アプライト
- ペグマタイト
- 細粒黒雲母花崗岩
- 中粒花崗閃緑岩
- 粗粒花崗閃緑岩
- 角閃石黒雲母石英閃緑岩
- 片麻状中粒アプライト
- 片麻状粗粒アプライト質黒雲母花崗岩
- 片麻状中粒アプライト質黒雲母花崗岩

第28図　駕田古墳の石材の石種

2～3㎜、量がごく僅かである。

このような岩相を示す石は岩橋山から白木谷にかけて分布する花崗閃緑岩の岩相の一部に似ている。当古墳の南方を流れている平石川でもみられる石である。

中粒花崗閃緑岩：色は灰白色、粒形が亜角である。石英・長石・黒雲母・閃緑岩が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が1～3㎜で、量が中である。長石は灰白色、粒径が2～6㎜、量が非常に多い。黒雲母は黒色、板状・粒状で、粒径が1～3㎜、量が僅かである。角閃石は黒色、粒状で、粒径が1～3㎜、量が僅かである。

このような岩相を示す石は岩橋山から白木谷にかけての付近に分布する花崗閃緑岩の岩相の一部に似ている。当古墳の南方を流れている平石川でもみられる石である。

角閃石黒雲母石英閃緑岩：色は灰白色で、粒形が亜角である。石英・長石・黒雲母・角閃石が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が2～6㎜、量がごく僅かである。長石は灰白色、粒径が2～8㎜、量が非常に多い。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が2～8㎜、量が中である。角閃石は黒色、柱状で、粒径が4～8㎜、量が僅かである。

このような岩相を示す石は葛城山に分布する石英閃緑岩の岩相の一部に似ている。採石地としては平石から南方に入る谷で採石された石と推定される。

片麻状中粒アプライト：色は灰白色で、粒形が角である。顕著な片麻状を示す。石英・長石が噛み合っている。石英は淡赤茶色透明、粒径が2～8㎜、量が多い。長石は灰白色、粒径が2～6㎜、量が多い。

このような岩相を示す石は当古墳の北側に分布する片麻状黒雲母花崗岩の一部にみられるアプライト質部の岩相に似ている。当古墳の北側の谷の石や平石川の川原石にみられる。

片麻状粗粒アプライト質黒雲母花崗岩：色は灰白色で、片麻状が顕著である。片麻状の方向に黒雲母が集中してレンズ状をなして延びている。レンズの厚さは2～5㎜である。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が2～6㎜、量が中である。長石は灰白色、粒径が2～8㎜、量が非常に多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が0.5㎜、量が僅かである。

このような岩相を示す石は当古墳の北側に分布する片麻状黒雲母花崗岩の岩相の一部に似ている。当古墳の北側の谷の石や平石川の川原石にみられる。

片麻状中粒アプライト質黒雲母花崗岩：色は灰白色で、片麻状が顕著である。片麻状の方向に黒雲母が集合してレンズ状をなして延びている。レンズの厚さは2～3㎜である。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が1～5㎜、量が中である。長石は灰白色、粒径が1～4㎜、量が非常に多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が0.5～1㎜、量が僅かである。

このような岩相を示す石は当古墳の北側に分布する片麻状黒雲母花崗岩の一部の岩相に似ている。当古墳の北側の谷の石や平石川の川原石にみられる。

B　石材の使用傾向

2基の石室に使用されている石材の使用傾向について述べる。

西石室：使用されている石材の石種は細粒黒雲母花崗岩・粗粒花崗閃緑岩・角閃石黒雲母石英閃緑岩・片麻状粗粒アプライト質黒雲母花崗岩である。石材の長径は50cm未満が10個、50cm以上100cm未満が4個、100cm以上200cm未満が3個、200cmより少し長いのが1個である。長径が1m以上ある石材は粗粒花崗閃緑岩・角閃石黒雲母石英閃緑岩・片麻状粗粒アプライト質黒雲母花崗岩である。粗粒花崗閃緑岩は平石付近や南方の山地で、角閃石黒雲母石英閃緑岩は平石の南方の谷で、片麻状粗粒アプライト質黒雲母花崗岩は当古墳の北側で採石されたと推定される。これに対して石室や排水溝に使用されている1m未満の石は当古墳の北側の谷や南方の平石川で採取されたと推定される。

東石室：使用されている石材の石種は石英斑岩・アプライト・ペグマタイト・細粒黒雲母花崗岩・中粒花崗閃緑岩・粗粒花崗閃緑岩・角閃石黒雲母石英閃緑岩・片麻状中粒アプライト・片麻状粗粒アプライト質黒雲母花崗岩・片麻状中粒アプライト質黒雲母花崗岩である。石材の長径は50cm未満が31個、50cm以上100cm未満が5個、100以上200cm未満が2個、200cmより少し長いのが2個である。長径が1m以上ある石材は中粒花崗閃緑岩・片麻状中粒アプライト・片麻状粗粒アプライト質黒雲母花崗岩である。中粒花崗閃緑岩は平石付近や南方の山地で、片麻状中粒アプライトや片麻状粗粒アプライト質黒雲母花崗岩は当古墳の北側で採石されたと推定される。これに対して石室や排水溝に使用されている1m未満の石は当古墳の北側の谷や南方の平石川で採取されたと推定される石が多く、平石付近まで行かなければ採石できない角閃石黒雲母石英閃緑岩のような石が僅かである。

観察される限りの石材から2基の石室の石材を比較してみれば、西石室は石材の採石が平石方面にまで及んでいるが東石室では古墳周辺の石材を主として使用されているといえよう。

表１　使用石材の石種と長径

石室名 / 石種 / 長径(cm)	西石室				東石室			
	<50	50≦<100	100≦<200	200≦	<50	50≦<100	100≦<200	200≦
石英斑岩					2			
アプライト					6			
ペグマタイト					1			
細粒黒雲母花崗岩	4	2			15	2		
中粒花崗閃緑岩								1
粗粒花崗閃緑岩				1	2			
角閃石黒雲母石英閃緑岩			1		2	1		
片麻状中粒アプライト							1	
片麻状粗粒アプライト質黒雲母花崗岩	6	2	2		2	1	1	1
片麻状中粒アプライト質黒雲母花崗岩					1	1		
合　計	10	4	3	1	31	5	2	2

第4章　まとめ

本年度もいくつか注目すべき調査結果があった。特筆すべきものは、第11調査区で発見された駕田古墳と第9調査区で検出された石組溝である。駕田古墳は1墳丘に2つの石室を構築するいわゆる双室墳であり、内部調査はできなかったが、シシヨツカ古墳の北東に接する尾根端を選んで築かれ、両古墳の南北の主軸はほぼ平行する位置関係にある。古墳は東半部の損壊が著しく、墳丘の東側はかなり削られていて、耕土・床土直下が墳丘盛土となる。東側石室の残存状態は悪いが、南側の擁壁を外して得られた断面から墳丘の構築状況がよく観察されたことは大きい成果といえよう。西側石室は一部に盗掘らしき痕跡が認められたけれども、閉塞石が残り、残存状態は東側に比べて良好であった。切石造りではないが、規模や形状などからみて主体部は横口式石槨の形状をとる。古墳前面は平坦面となり、ここに石組み暗渠を築いて排水施設を整えている。平坦面の南は傾斜面となる。一方、東側石室で一部確認したところでは平らに敷いた床石が残り、榛原石を使用している点で、平石谷終末期古墳に通有の床石石材を採用しているようである。古墳の時期をとやかく言える資料は得られなかったが、シシヨツカ古墳との位置関係、シシヨツカ古墳と共有するかのような背後の山塊、南向き開口の石室、特徴的な石材の使用、これらの点からシシヨツカ古墳との関連がどうしても否定できない。

第9調査区の石組溝は、これまでの調査ではみられなかった非常に丁寧な造りの遺構であり、一見、宮都の遺跡にみられるような印象を受ける。しかし溝底面に敷き詰められた石は割り石が多く用いられ、必ずしも溝底を平坦にしようとしていたわけではなく、むしろ石の縦位を意識して敷き詰め、その結果全体として殊更凹凸をつけている。現在でも水路改修などでは新設のコンクリート溝の底面にわざわざ石を据えて凹凸をつけたものをみかけることがある。おそらく流速を減じるための処理のひとつと考えられるが、この溝も同じような機能をもたせ、排水溝というより積極的に水を引く施設として設けられたものではなかろうか。溝は北20mに控える山塊裾の緩傾斜面に南北方向に設置されている。北端は調査区外の現在の府道敷きの下に及んでいる（註）。平成13年度第15トレンチでは投棄された8世紀代の土器類に紛れて須恵質円筒管の破片が出土した。これは導水管と考えられるものであり、上記の石組溝の存在と併せて注目される。

第10調査区で中～近世の遺物とともに出土した10数点もの榛原石の出土は注意される。この調査区も北東から南西にのびる尾根の端部の南面に位置しているが、肝心の北側は調査区外で民有地、そしてその北に府道が東西に通っているから、本来の地形は推し量りがたい。しかし榛原石が転落してきたのはその方面をおいてほかには求められない。榛原石は少なくともこの平石谷では終末期古墳以外に伴うはずのない石材であり、かりに第9調査区の石組溝に混入していたような事例を考慮するにしても、既に述べたようにそれは二次的に紛れ込んだものか、再利用されたものにすぎない。また流土から出土した須恵器無蓋高坏坏部の破片（91）も気になる遺物である。

このような状況からすれば本調査区の北側の尾根端を利用した同時期の古墳が存在した可能性は非常に高い。シシヨツカ古墳や駕田古墳の立地する尾根と、それより東北東約370mのアカハゲ古墳の立地する尾根とのほぼ中間に位置するこの地点もまた、古墳を築造する場に選ばれたといえるだろう。

その他出土遺物の点では、第3・5調査区で検出した不定形土坑に陶邑Ⅲ型式2段階とみられる須恵器坏蓋が出土していることも、アカハゲ古墳南西90mの同じ尾根に位置する関係上注目されよう。第9調査区の石組溝は8世紀前半とみられるこの時期の唯一の遺構であったが、その他はほとんど中世以来の開墾によって削られた包含層の二次堆積層である。しかし8世紀を中心とする土師器・須恵器は今回も量的にその他の時期の遺物をはるかに超える量である。それは付章の平成13年度のシシヨツカ古墳周辺のトレンチでの調査結果とも共通する。中世以前の開墾のはじまりがこの時期にあるといえないだろうか。

その他量的には多いとはいえないが、縄文時代や弥生時代の石器類、弥生式土器、古式土師器なども中世包含層から出土することは両年度を通じて変わらない平石谷の調査結果の特徴といえよう。古墳の立地する尾根の部分で古墳時代以前のこのような遺物が出土する傾向は、その当時においても尾根が人間の生存活動に適した地形であった一面を表しているようである。古墳を除去すればおそらく当時の遺構や遺物包含層の痕跡が認められるだろう。いずれにしても古墳時代後期以前の平石谷の土地利用の歴史を語る資料と位置づけられよう。

以上のように、地表に立体的な表徴をはっきりととどめる古墳は、中世以降の棚田造成に代表される当地の開発の営みの中でも、それほど激しく改変されることはなかったが、廃絶後の結果として平面的にならざるを得なかったそれ以外の遺構は削平と盛土を繰り返す棚田の段状整形の過程で、二次堆積層の中にかろうじてその存在の証を残したにすぎない。これも既往の調査結果と共通する現象である。

註）この位置関係の参考となるのは地元の方からうかがった以下の話である。

「小学校の頃（昭和30年代）、現在の幸重機のコンクリートで囲まれたところはもっと下で、今自動販売機が置かれているところには野ツボが見えていた。その付近の現在のカーブのところは急な坂で、地道であり、小学生のとき大八車に弟を乗せて下ってきたが、支えきれず、弟を乗せたまま山沿いの側溝（現在より3mも低かった）に落ちたことがある。その側溝は東から山の縁に沿って流れ下っていたが、この辺りで暗渠か何かになってそこから南に流れていた。その側溝の東のほうにはワンドがあり、そこでよく水を飲んだ。昭和初期に道路が拡張されたが、幅員は今と同じくらいである。道路のアスファルト舗装は昭和38年くらいだった。」

『河南町誌』に「大正二年、府費の補助を得て平石街道三百六十間を道巾九尺（もと六尺）に広げて大改修を実施した。屈曲も大いに少なくなり、ほぼ現在の路線に道がついた。…大正十一年（1922）道路法施行にあたり平石街道は、富田林高田線の名をもって府道に加えられ府費によって改修せられる途が開けた。かくて昭和八年

から大阪府の手で現在の大道路が施工せられたのである。」（同書829頁）とある状況に続く情報である。この調査区の北側に拡張した部分の北壁断面（c断面）には石組溝の東寄りに中世耕土層上面から切り込む形の礫溝がかかっている。ほぼ同じ位置に後世やはり溝をつけたことを示している。

参考文献

大阪府教育委員会『平石地区・桐山地区発掘調査概要』2000年

大阪府教育委員会『加納古墳群・平石古墳群発掘調査概要』2002年

大阪府教育委員会『加納古墳群・平石古墳群発掘調査概要・Ⅱ』2003年

大阪府教育委員会『陶邑Ⅲ』1978年

河南町誌編纂委員会『河南町誌』1968年

奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査報告Ⅵ』1975年

奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査報告Ⅶ』1976年

中世土器研究会『概説　中世の土器・陶磁器』1990年

田辺昭三『須恵器大成』1981年

野村豊『水利史料の研究—南河内に於ける水利問題の歴史地理学的研究—』
大阪府農地部耕地課 1953年

最後になりましたが、現地調査に参加した庵ノ前智博、佐藤三和子、進藤智美，周藤光代、田口直人、原田亮子、　整理作業に頑張っていただいた東英美子、荒木波子、井上能子、宇沢ヒデ子、江藤豊子、大上馨、大矢ノリ、奥野容子、川東貴子、小門邦代、高田真由美、中辻三沙穂、野崎明美、東野穂澄、二見雅子、細川眞弓、堀口友里、増川順子、松谷文江、村井律子、八柄あさ代、山下美佐子、山田洋子の皆さんには、心から感謝申し上げます。

付章　平成13年度の調査の概要

—シシヨツカ古墳以外の調査区—

平成13年度の調査の概要については、先に刊行した『加納古墳群・平石古墳群発掘調査概要・Ⅱ』（2003年3月）に、シシヨツカ古墳の調査結果を中心に報告したが、その際、掲載しきれなかったその他の調査区やトレンチ部について報告する。なお調査経過については、上述書の第2章第2節に述べたので、それに譲りたい。

第2・3調査区（第30・31・35図）

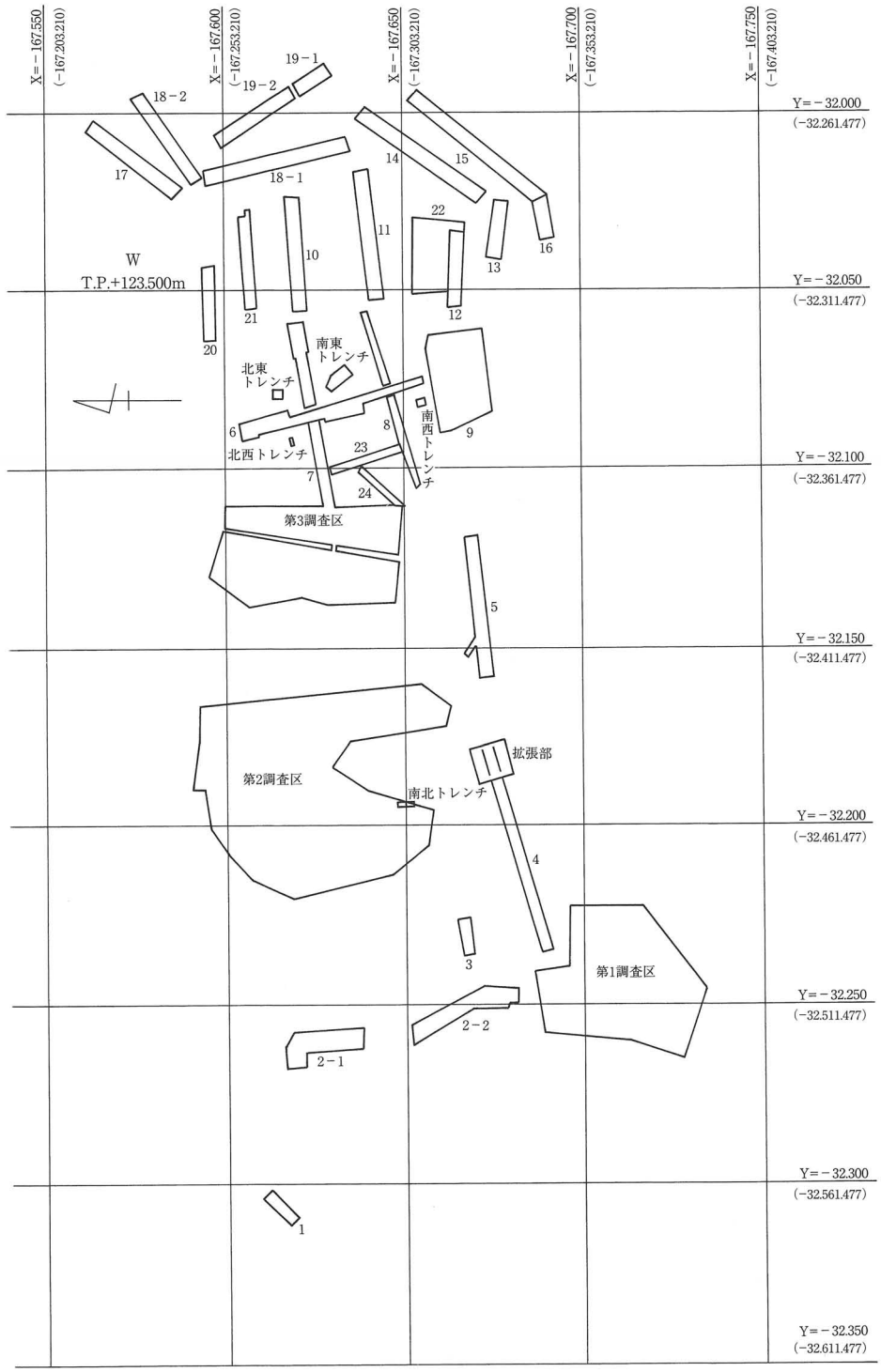
第2調査区　　現状は、府道竹内河南線に接するT.P.127.0mから118.0mに下る尾根に築かれた4から5面の棚田である。先端は東西に分岐し、その西側に突出する部分で、棚田造成によって破壊された横穴式石室の残骸を検出した。舌状の尾根の先端のT.P.116.5～117.0m付近で検出した玄室部分の掘り方である。東西4.0～5.0m、南北6.0m、深さは北側で0.5m、南側で0.1～0.2mの残存長を測る。側壁・奥壁の石はすべて抜き取られていた。そのうち左側壁の2石、右側壁の2石、奥壁の3石ほどの抜き取り穴が認められる。石室中軸線は磁北に対して北でN−21°40′−Eで、南の平石谷開口部を望む形で築かれている。平面形状からみて、左片袖の横穴式石室と思われる。石室周辺の等高線の屈曲からみて、墳丘の径約10.0mで、その周囲に幅約2.0mの周溝が巡る円墳であったと考えられる。その他の施設の痕跡はなく、出土遺物もない。軸方向からすると加納古墳群第5・6号墳に近い。出土遺物は棚田造成により盛り上げられた中世耕土層より土師器皿、瓦器椀、須恵器片（125～127）が出土している。

南北トレンチ　　尾根の東側の谷部の状況を把握するために設定した2.0×5.0mのトレンチである。このトレンチでは尾根の東縁に沿うかのようにT.P.116.2～115.2mにかけて堆積する遺物包含層を検出した。包含層からは古式土師器、須恵器の破片（128～130）が出土した。北側の尾根から流れ込んだ状況である。このトレンチの位置は上記の横穴式石室の痕跡が確認された東側に接しているので、あるいはこの古墳に伴う遺物の一部が含まれている可能性もある。

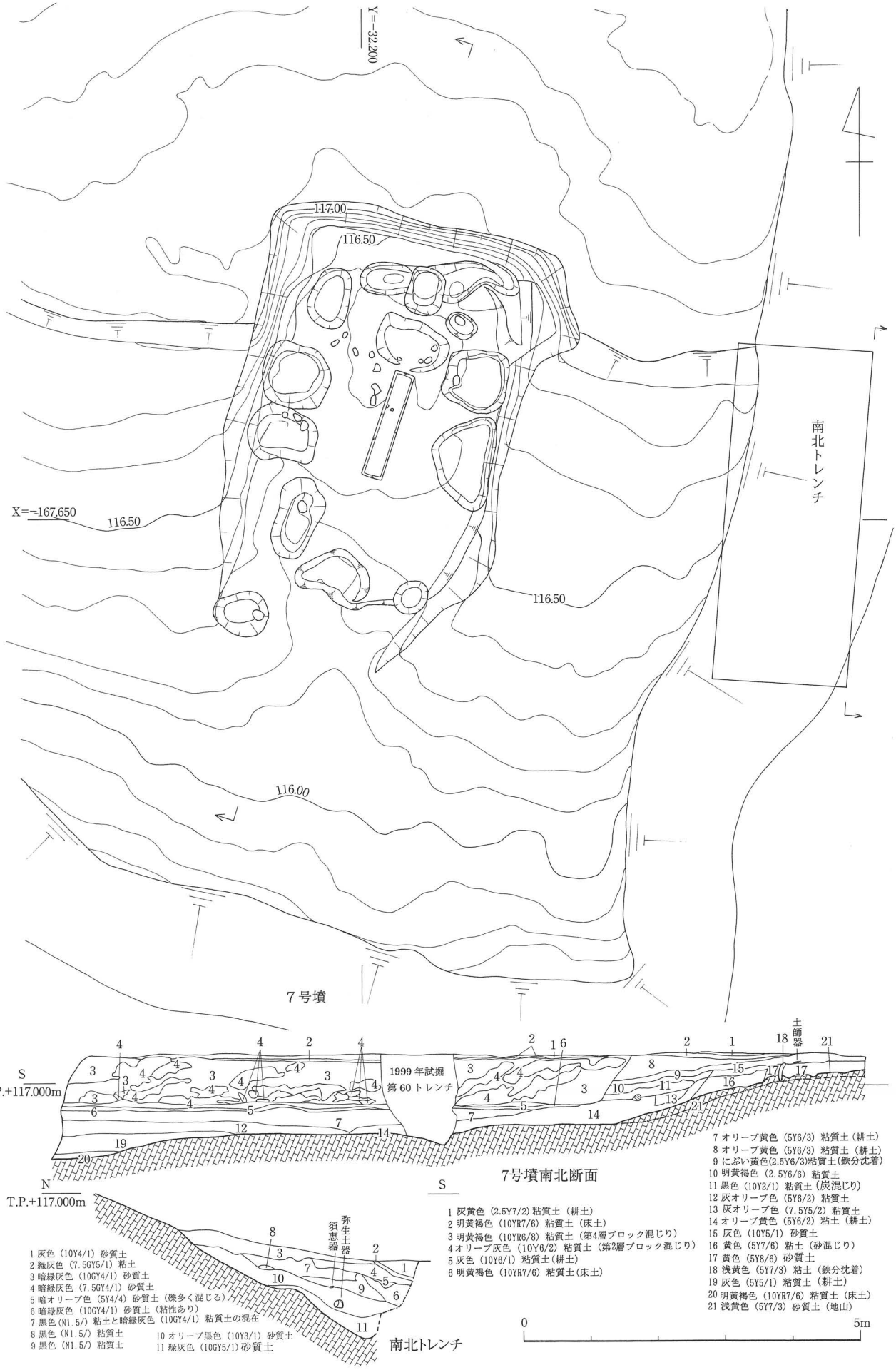
第3調査区　　現状は高さ1.5～2.0mの造成田が7段、T.P.127.4m付近からほぼ南に向かって、T.P.115.6m付近に下る棚田である。主として中世以後の開墾により、南に下降する尾根の地山を削って平坦面を造り、削った土を南側の低所に盛って平坦面を継ぎ足すという具合に、前方へ耕地の面積を拡大していく過程が堆積状況からうかがわれた。つまり、棚田の高さは身の丈ほどを確保して、また新たな棚段をその下方に造成するという過程である。ここではこのような造成の痕跡以外に遺構・遺物は検出されなかった。

第1トレンチ（第32図）

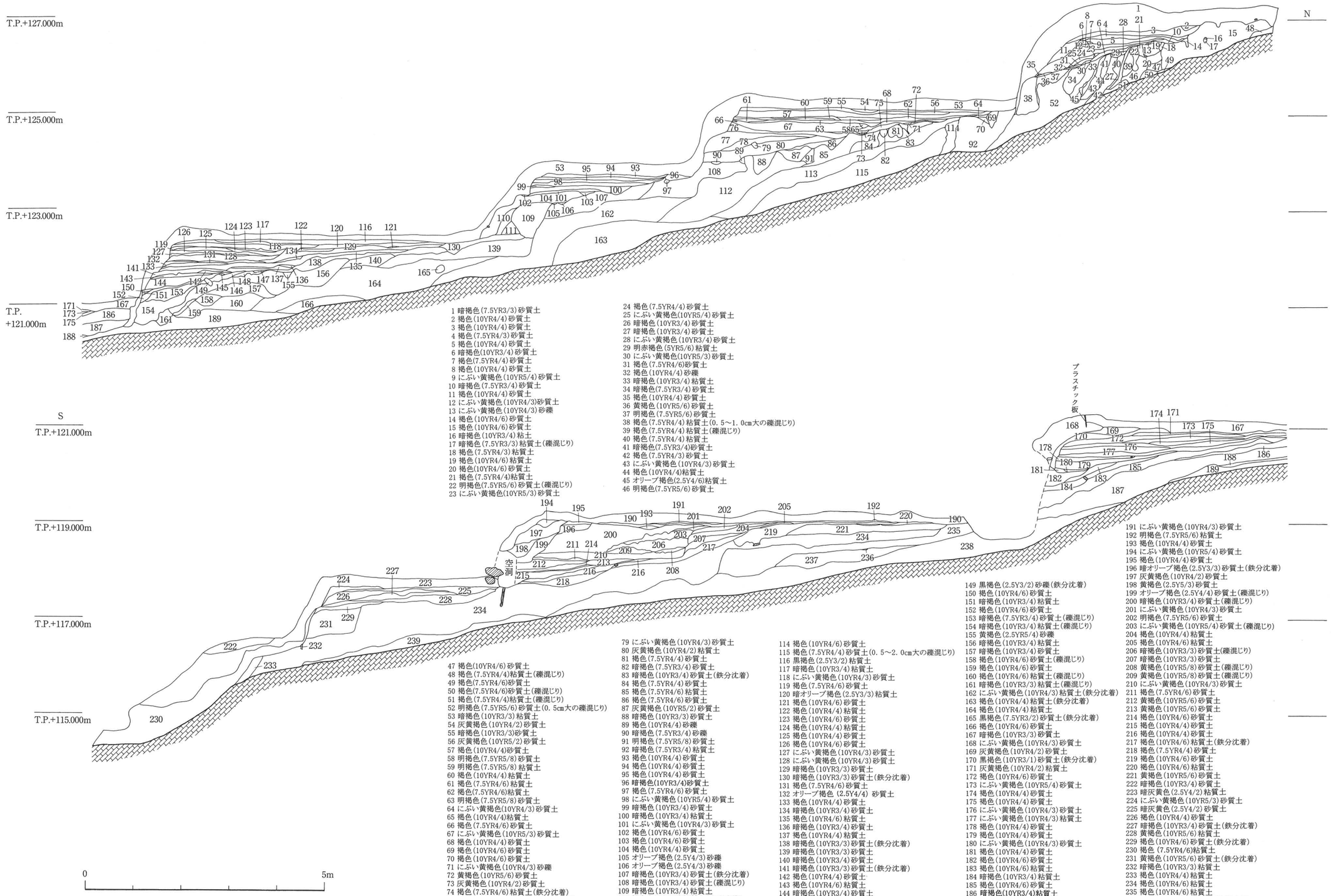
加納古墳群の北西部で、現在の里道の東斜面上に南に延びる痩せ尾根の鞍部（T.P.127.0m付近）



第29図　平成13年度調査区位置図

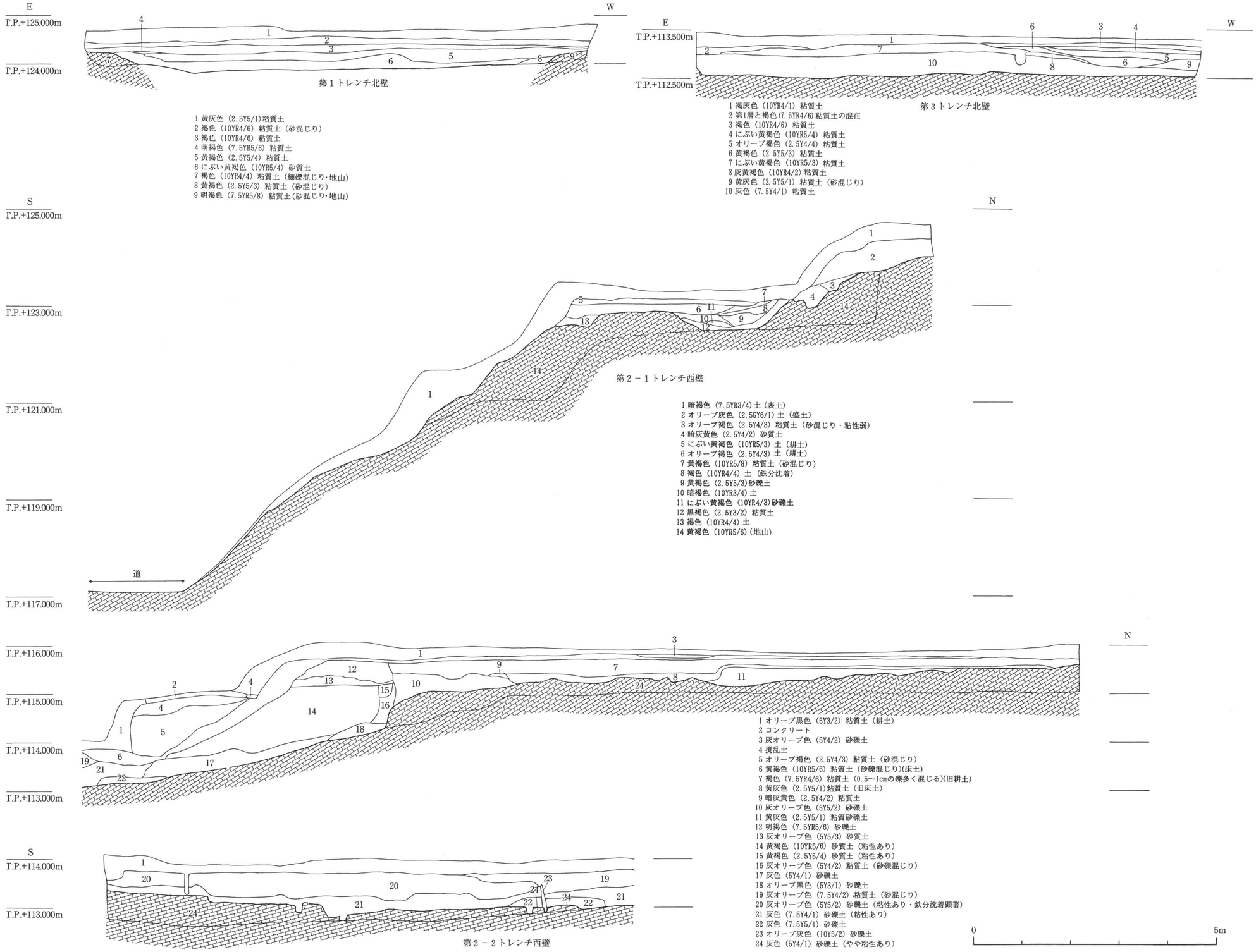


第30図　第2調査区横穴式石室跡平面・断面図

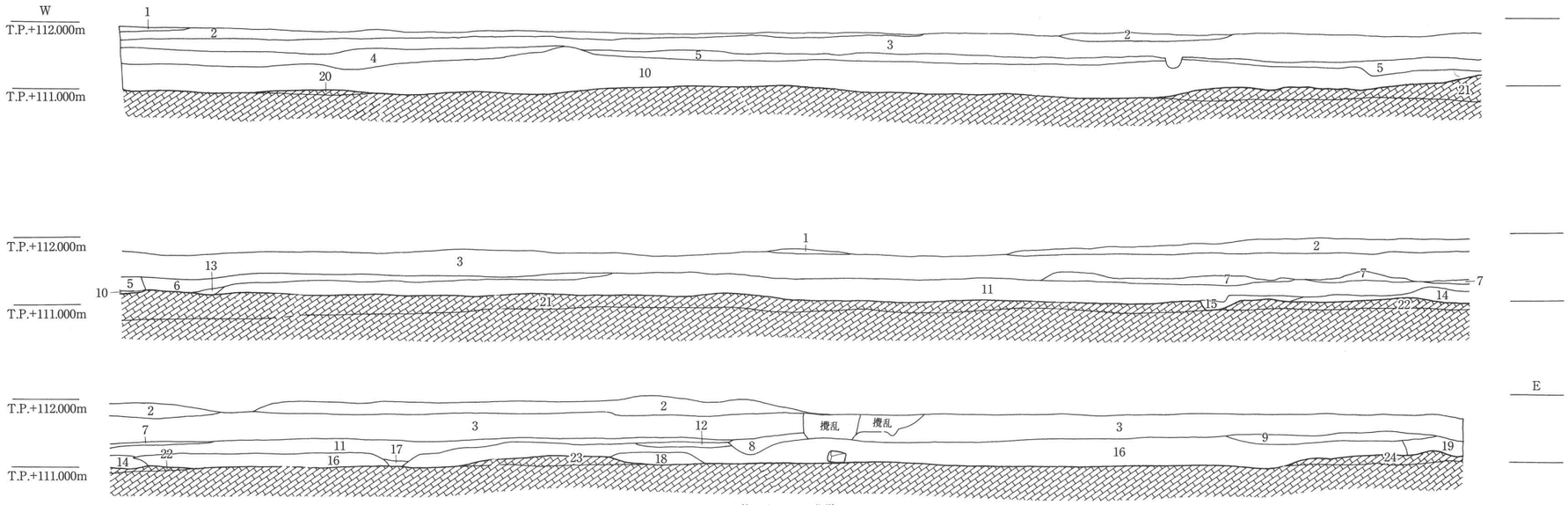


1 暗褐色(7.5YR3/3)砂質土
2 褐色(10YR4/4)砂質土
3 褐色(10YR4/4)砂質土
4 褐色(7.5YR4/3)砂質土
5 褐色(10YR4/4)砂質土
6 暗褐色(10YR3/4)砂質土
7 褐色(7.5YR4/4)砂質土
8 褐色(10YR4/4)砂質土
9 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
10 暗褐色(7.5YR3/4)砂質土
11 褐色(10YR4/4)砂質土
12 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
13 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂礫
14 褐色(10YR4/6)砂質土
15 褐色(10YR4/6)砂質土
16 暗褐色(10YR3/4)粘土
17 暗褐色(7.5YR3/3)粘質土(礫混じり)
18 褐色(7.5YR4/3)粘質土
19 褐色(10YR4/6)粘質土
20 褐色(10YR4/6)砂質土
21 褐色(7.5YR4/4)粘質土
22 明褐色(7.5YR5/6)砂質土(礫混じり)
23 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
24 褐色(7.5YR4/4)砂質土
25 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
26 暗褐色(10YR3/4)砂質土
27 暗褐色(10YR3/4)砂質土
28 にぶい黄褐色(10YR3/4)砂質土
29 明赤褐色(5YR5/6)粘質土
30 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
31 褐色(7.5YR4/6)砂質土
32 褐色(10YR4/4)砂礫
33 暗褐色(10YR3/4)粘質土
34 暗褐色(7.5YR3/4)砂質土
35 褐色(10YR4/4)砂質土
36 黄褐色(10YR5/6)砂質土
37 明褐色(7.5YR5/6)砂質土
38 褐色(7.5YR4/4)粘質土(0.5～1.0cm大の礫混じり)
39 褐色(7.5YR4/4)粘質土(礫混じり)
40 褐色(7.5YR4/4)粘質土
41 暗褐色(7.5YR3/4)砂質土
42 褐色(7.5YR4/3)砂質土
43 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
44 褐色(10YR4/4)粘質土
45 オリーブ褐色(2.5Y4/6)粘質土
46 明褐色(7.5YR5/6)砂質土
47 褐色(10YR4/6)砂質土
48 褐色(7.5YR4/4)粘質土(礫混じり)
49 褐色(7.5YR4/6)砂質土
50 褐色(7.5YR4/6)砂質土(礫混じり)
51 褐色(7.5YR4/4)粘質土(礫混じり)
52 明褐色(7.5YR5/6)砂質土(0.5cm大の礫混じり)
53 暗褐色(10YR3/3)粘質土
54 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
55 暗褐色(10YR3/3)砂質土
56 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
57 褐色(10YR4/4)砂質土
58 明褐色(7.5YR5/8)砂質土
59 明褐色(7.5YR5/8)粘質土
60 褐色(10YR4/4)粘質土
61 褐色(7.5YR4/6)粘質土
62 褐色(7.5YR4/6)粘質土
63 明褐色(7.5YR5/8)砂質土
64 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
65 褐色(10YR4/4)粘質土
66 褐色(7.5YR4/6)砂質土
67 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
68 褐色(10YR4/4)砂質土
69 褐色(10YR4/6)砂質土
70 褐色(10YR4/6)砂質土
71 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂礫
72 黄褐色(10YR5/6)砂質土
73 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
74 褐色(7.5YR4/6)粘質土(鉄分沈着)
75 暗褐色(7.5YR3/4)砂質土(鉄分沈着)
76 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
77 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
78 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
79 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
80 灰黄褐色(10YR4/2)粘質土
81 褐色(7.5YR4/4)砂質土
82 暗褐色(7.5YR3/4)砂質土
83 暗褐色(10YR3/4)砂質土(鉄分沈着)
84 褐色(7.5YR4/4)砂質土
85 褐色(7.5YR4/6)粘質土
86 褐色(7.5YR4/6)砂質土
87 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
88 暗褐色(10YR3/3)砂質土
89 褐色(10YR4/4)砂礫
90 暗褐色(7.5YR3/4)砂礫
91 明褐色(7.5YR5/8)砂質土
92 暗褐色(7.5YR3/4)粘質土
93 褐色(10YR4/4)砂質土
94 褐色(10YR4/4)砂質土
95 褐色(10YR4/4)砂質土
96 暗褐色(10YR3/4)砂質土
97 褐色(7.5YR4/6)砂質土
98 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
99 暗褐色(10YR3/4)砂質土
100 暗褐色(10YR3/4)粘質土
101 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
102 褐色(10YR4/6)砂質土
103 褐色(10YR4/6)砂質土
104 褐色(10YR4/4)砂質土
105 オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂礫
106 オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂礫
107 暗褐色(10YR3/4)砂質土(鉄分沈着)
108 暗褐色(10YR3/4)砂質土(礫混じり)
109 暗褐色(10YR3/4)粘質土
110 褐色(10YR4/6)粘質土(鉄分沈着)
111 黒褐色(10YR2/3)砂質土(鉄分沈着)
112 褐色(7.5YR4/4)粘質土
113 褐色(7.5YR4/4)砂質土(礫混じり)
114 褐色(10YR4/6)砂質土
115 褐色(7.5YR4/4)砂質土(0.5～2.0cm大の礫混じり)
116 黒褐色(2.5Y3/2)粘質土
117 暗褐色(10YR3/4)粘質土
118 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
119 褐色(7.5YR4/6)砂質土
120 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粘質土
121 褐色(10YR4/6)砂質土
122 褐色(10YR4/4)粘質土
123 褐色(10YR4/6)砂質土
124 褐色(10YR4/4)粘質土
125 褐色(10YR4/4)砂質土
126 褐色(10YR4/6)砂質土
127 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
128 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
129 暗褐色(10YR3/3)砂質土
130 暗褐色(10YR3/3)砂質土(鉄分沈着)
131 褐色(7.5YR4/6)砂質土
132 オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質土
133 褐色(10YR4/4)砂質土
134 暗褐色(10YR3/4)砂質土
135 褐色(10YR4/6)粘質土
136 暗褐色(10YR3/4)砂質土
137 褐色(10YR4/4)粘質土
138 暗褐色(10YR3/3)砂質土(鉄分沈着)
139 暗褐色(10YR3/3)砂質土
140 暗褐色(10YR3/4)砂質土
141 暗褐色(10YR3/3)砂質土(鉄分沈着)
142 褐色(10YR4/4)砂質土
143 褐色(10YR4/6)粘質土
144 暗褐色(10YR3/4)砂質土
145 褐色(10YR4/6)粘質土
146 褐色(10YR4/6)砂質土(鉄分沈着)
147 褐色(7.5YR4/4)粘質土(鉄分沈着)
148 暗褐色(10YR3/4)砂質土(鉄分沈着)
149 黒褐色(2.5Y3/2)砂礫(鉄分沈着)
150 褐色(10YR4/6)砂質土
151 暗褐色(10YR3/4)粘質土
152 褐色(10YR4/6)砂質土
153 暗褐色(7.5YR3/4)砂質土(礫混じり)
154 暗褐色(10YR3/4)粘質土(礫混じり)
155 黄褐色(2.5YR5/4)砂礫
156 暗褐色(10YR3/4)粘質土
157 暗褐色(10YR3/4)砂質土
158 褐色(10YR4/6)砂質土(礫混じり)
159 褐色(10YR4/6)砂質土
160 褐色(10YR4/6)粘質土(礫混じり)
161 暗褐色(10YR3/3)粘質土(礫混じり)
162 にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土(鉄分沈着)
163 褐色(10YR4/4)粘質土(鉄分沈着)
164 褐色(10YR4/4)粘質土
165 黒褐色(7.5YR3/2)砂質土(鉄分沈着)
166 褐色(10YR4/6)砂質土
167 暗褐色(10YR3/3)砂質土
168 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
169 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
170 黒褐色(10YR3/1)砂質土(鉄分沈着)
171 灰黄褐色(10YR4/2)粘質土
172 褐色(10YR4/6)砂質土
173 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
174 褐色(10YR4/4)砂質土
175 褐色(10YR4/4)砂質土
176 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
177 にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土
178 褐色(10YR4/4)砂質土
179 褐色(10YR4/4)砂質土
180 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
181 褐色(10YR4/4)砂質土
182 褐色(10YR4/6)砂質土
183 褐色(10YR4/6)粘質土
184 暗褐色(10YR3/4)粘質土
185 褐色(10YR4/6)砂質土
186 暗褐色(10YR3/4)粘質土
187 黄褐色(10YR5/6)粘質土(礫混じり)
188 褐色(7.5YR4/6)砂質土
189 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
190 暗褐色(10YR3/3)砂質土
191 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
192 明褐色(7.5YR5/6)粘質土
193 褐色(10YR4/4)砂質土
194 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土
195 褐色(10YR4/4)砂質土
196 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂質土(鉄分沈着)
197 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
198 黄褐色(2.5Y5/3)砂質土
199 オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質土(礫混じり)
200 暗褐色(10YR3/4)砂質土(礫混じり)
201 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
202 明褐色(7.5YR5/6)砂質土
203 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土(礫混じり)
204 褐色(10YR4/4)粘質土
205 褐色(10YR4/6)粘質土
206 暗褐色(10YR3/3)砂質土(礫混じり)
207 暗褐色(10YR3/3)砂質土
208 黄褐色(10YR5/8)砂質土(礫混じり)
209 黄褐色(10YR5/8)砂質土(礫混じり)
210 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土
211 褐色(7.5YR4/6)砂質土
212 黄褐色(10YR5/6)砂質土
213 黄褐色(10YR5/6)砂質土
214 褐色(10YR4/6)砂質土
215 褐色(10YR4/4)砂質土
216 褐色(10YR4/4)砂質土
217 褐色(10YR4/6)粘質土(鉄分沈着)
218 褐色(7.5YR4/4)砂質土
219 褐色(10YR4/6)砂質土
220 褐色(10YR4/6)粘質土
221 黄褐色(10YR5/6)砂質土
222 暗褐色(10YR3/4)砂質土
223 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土
224 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土
225 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土
226 褐色(10YR4/4)砂質土
227 暗褐色(10YR3/4)砂質土(鉄分沈着)
228 黄褐色(10YR5/6)粘質土
229 褐色(10YR4/6)砂質土(鉄分沈着)
230 褐色(7.5YR4/6)粘質土
231 黄褐色(10YR5/6)砂質土(鉄分沈着)
232 暗褐色(10YR3/3)粘質土
233 褐色(10YR4/4)粘質土
234 褐色(10YR4/6)粘質土
235 褐色(10YR4/6)粘質土
236 褐色(10YR4/4)粘質土(鉄分沈着)
237 褐色(10YR4/4)砂質土
238 褐色(10YR4/6)粘質土(礫混じり)
239 黄褐色(10YR5/8)粘質土

第31図　第3調査区断面図

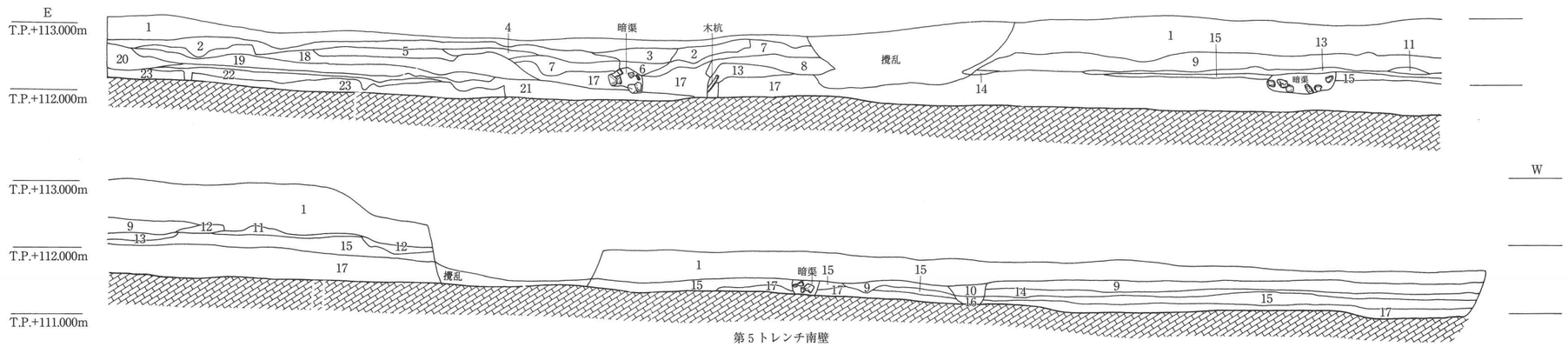


第32図　第1～3トレンチ断面図



第４トレンチ北壁

1 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土(粘性あり)
2 黄灰色(2.5Y4/1)砂質土
3 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土(やや粘性あり・鉄分沈着)
4 灰オリーブ色(5Y6/2)粘質土(鉄分沈着)
5 灰色(10Y4/1)粘質土(鉄分沈着)
6 オリーブ灰色(5GY5/1)粘質土(鉄分沈着顕著)
7 灰色(10Y5/1)砂質土(鉄分沈着)
8 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘質土(砂混じり・鉄分沈着)
9 暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土(やや粘性あり・鉄分沈着)
10 灰色(7.5Y4/1)粘質土
11 灰オリーブ色(5Y5/2)粘質土(砂混じり・鉄分沈着)
12 灰オリーブ色(5Y5/2)粘質土(砂混じり・鉄分沈着)
13 明褐色(7.5YR5/6)砂(鉄分沈着)
14 オリーブ黒色(10Y3/1)砂質土(粘性あり)
15 灰色(5Y4/1)砂質土
16 オリーブ黒色(5Y3/1)粘質土
17 緑灰色(5G5/1)粘土
18 灰色(7.5Y4/1)粘質土(砂礫多く混じる)
19 灰オリーブ色(5Y6/2)粘質土
20 灰色(10Y6/1)砂(地山)
21 オリーブ灰色(2.5GY5/1)砂質土(地山)
22 緑灰色(7.5GY5/1)粘質土(第20層ブロック混じり・地山)
23 灰色(5Y4/1)砂質土(砂礫多く混じる・地山)
24 オリーブ灰色(5GY5/1)粘土(地山)

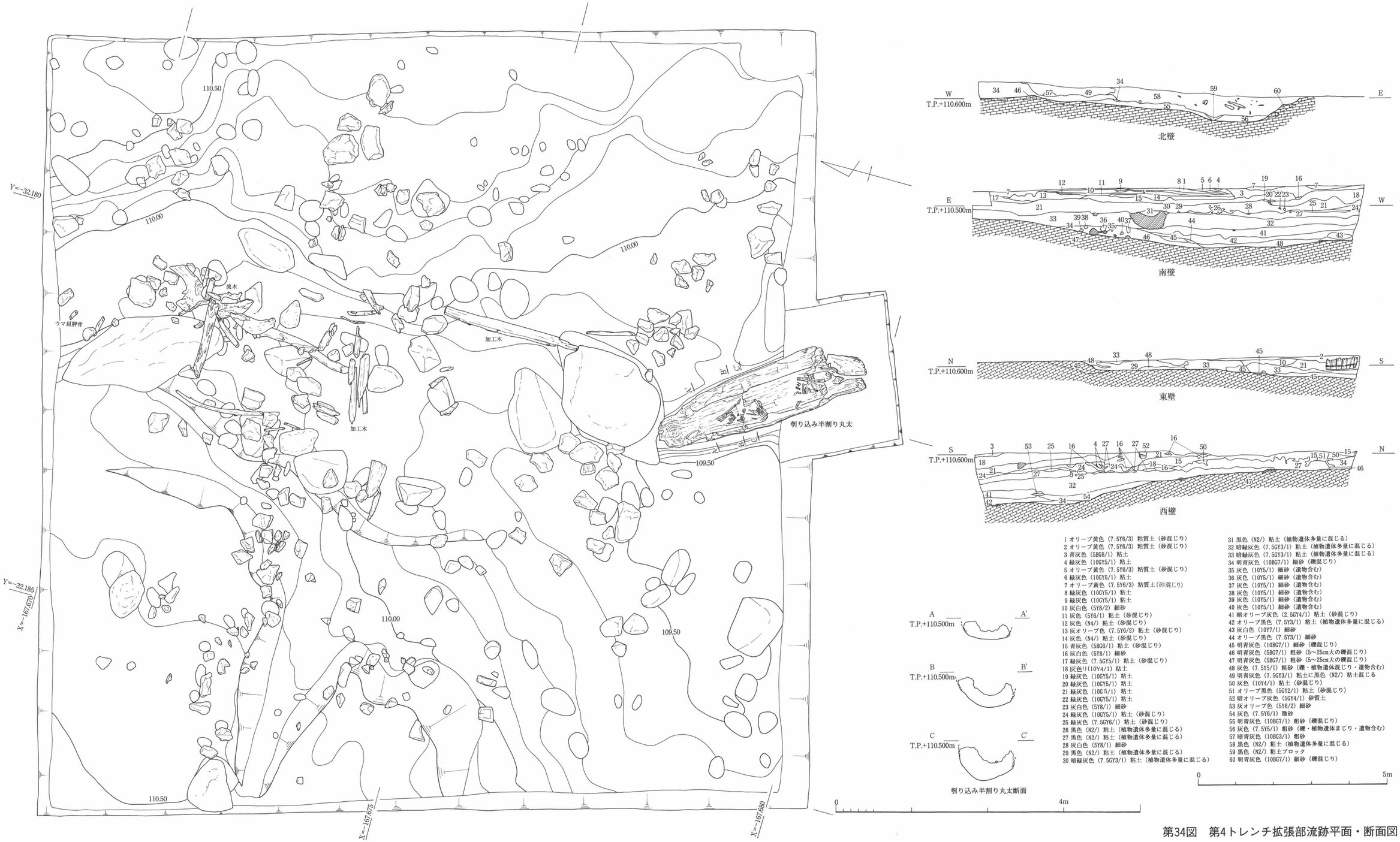


第５トレンチ南壁

1 にぶい黄色(2.5Y6/4)粘質土(砂混じり・盛土)
2 暗緑灰色(10GY4/1)粘質土
3 暗緑灰色(10GY4/1)粘質土(埋土)
4 暗緑灰色(10GY4/1)砂質土(上面褐色(2.5Y4/6)砂質土混じり・粘性あり)
5 暗灰色(N3/)砂質土
6 オリーブ黒色(10Y3/2)砂質土(埋土)
7 オリーブ黒色(10Y3/2)砂質土
8 灰色(5Y4/1)砂質土
9 黄褐色(2.5Y5/3)粘質土(砂混じり・盛土)
10 緑灰色(5G2/1)砂質土と暗褐色(10YR3/3)砂質土の混在(粘性あり)
11 灰色(10Y4/1)砂質土と褐色(10YR4/6)砂質土の混在(やや粘性あり)
12 灰色(7.5Y5/1)粘質土と褐色(10YR4/6)粘質土の混在
13 灰色(7.5Y4/1)砂質土
14 灰色(10Y4/1)砂質土と褐色(10YR4/6)砂質土の混在(やや粘性あり)
15 緑黒色(5G2/1)粘質土
16 暗緑灰色(5G3/1)砂質土
17 暗オリーブ灰色(5GY4/1)粘質土
18 黒色(N2/)粘質土
19 緑灰色(10GY5/1)粘質土
20 暗緑灰色(5G4/1)粘質土
21 オリーブ色(10Y3/1)粘土
22 灰色(10Y4/1)砂質土
23 オリーブ黒色(5GY2/1)粘土(砂混じり)

0　5m

第33図　第4・5トレンチ断面図



第34図　第4トレンチ拡張部流跡平面・断面図

に設定した3.5×11.0mのトレンチである。耕土を除去すると流土となった旧地山層が堆積する。深さ0.7～0.8mで砂礫を含む締まった黄色の地山面に達した。遺物包含層・遺構は検出されなかった。

第2トレンチ（第32図）

第1トレンチと同様、その東35.0mのT.P.124.7mから途中里道を南北に横断する形で設定して、T.P.114.0mまで下る延長55.0m、幅5.0mの一連のトレンチである。里道より北のT.P.120.0mまで棚田造成を反映する盛土が観察され、それらが耕土化した様子がうかがわれる。その耕土の一部から瓦器椀の細片が出土しているので、中世以来の開墾と考えられる。里道より南はT.P.114.5～115.5mにかけてやはり削られた地山土を含む盛土状況が観察される。さらに南下して再度里道を横断する付近では、尾根の基盤層となる地山面がT.P.113.3～113.4mとほぼ一定し、その地山面が南西の加納古墳群1号墳へと続く丘陵へと延びる。このトレンチでは遺構は検出されなかった。

第3トレンチ（第32図）

第2トレンチ東10.0mのT.P.113.4mの田に設定した3.0×10.0mの東西トレンチである。ここは第1ブロックと第2ブロックを分ける旧谷地形の中に位置する。耕土以下の土質は水分を含む粘質土が主体である。遺物・遺構は検出されなかった。

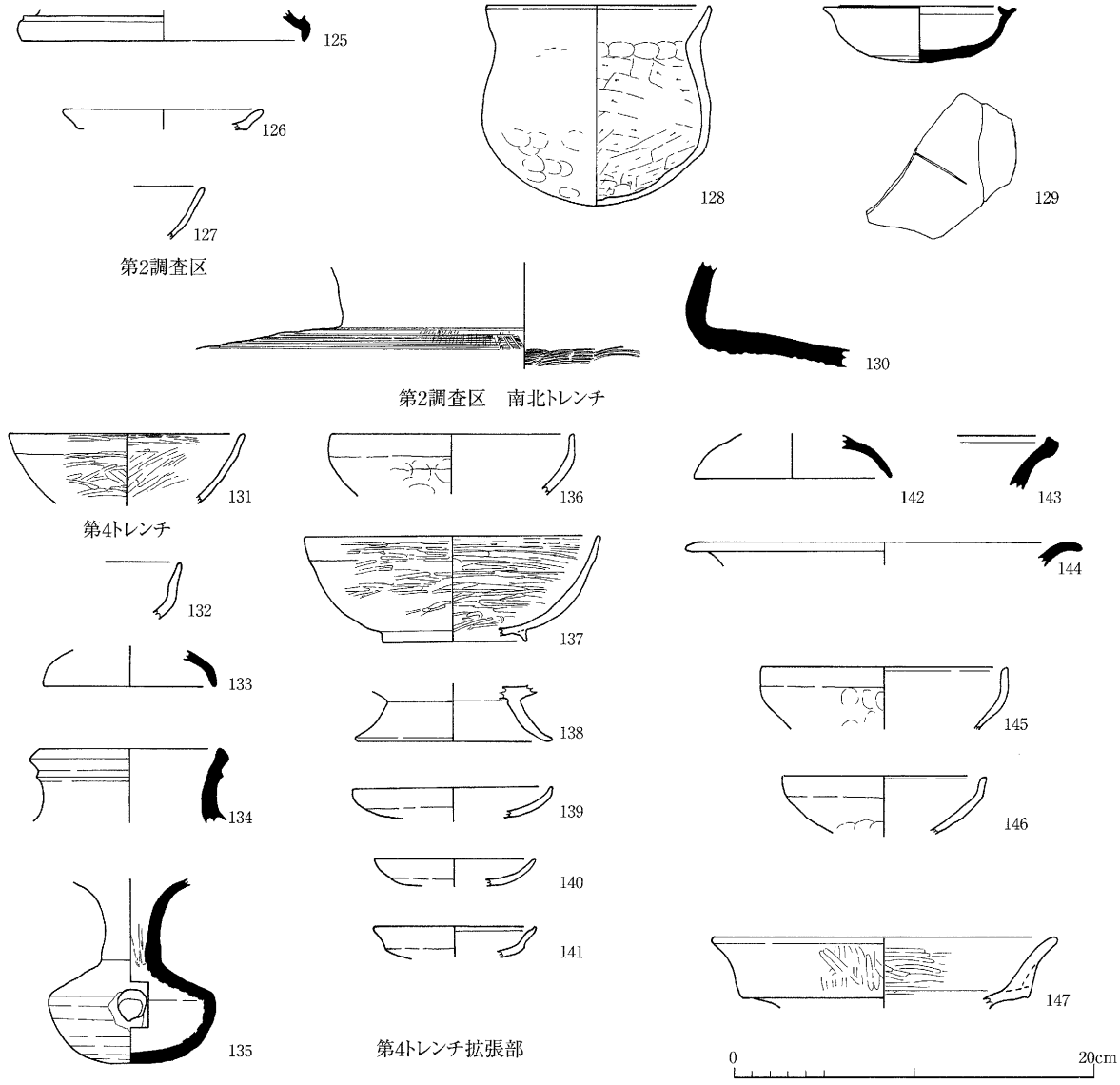
第4トレンチ（第33・35・48図）

第1調査区東のT.P.111.7～111.9mの旧谷地形を横断する形で設定した東西トレンチである。厚さ0.4mの耕土・床土下に谷地に堆積した粘質土がある。耕土以下に灰色系の旧耕土の粘質土層が堆積し、T.P.111.0mで地山の砂質土に達する。これら一連の旧耕土の粘質土（16層）より須恵器・瓦器碗（131）、サヌカイト剥片（435）が出土している。

第4トレンチ拡張部（第34・35図）

第4トレンチ東端の第23層で加工した板材の破片が出土した。その破片は遺構に伴うものか、単に遊離して土層に紛れたものか、そのことを確認するため、トレンチの東端に新たに設定した10.0×10.0mの調査区である。

耕土・床土以下で埋没した南北方向の旧谷地形を検出した。上面は北でT.P.110.8～111.0m、南ではT.P.110.9～111.0mを測る傾斜面となる。埋没後はこの地区で一般的にみられる棚田造成と同じく、北を削平して南との落差を除き、平坦な耕作面を築くものである。谷底は北でT.P.110.0m、南ではT.P.109.5mを測る。長さ1.5～2.0mの大石や0.1～0.5mの転石が谷底に散在し、現在の平石谷の川底を思わせるような状況である。北東に砂、南西に粘土を中心に堆積し、かつて流水があったと考えられ、粘土上面からは中世土器、底面近くに堆積した砂からは古式土師器、須恵器などの破片が出土する。トレンチ南壁ではT.P.109.7mから110.3mにかけて堆積する粘土層（32・33層）で、一部に加工痕あるアカマツの半割丸太が南北方向にかかった。よってさらに南に1.1～1.4m拡張したところ、長さ2.8m、厚さ0.5mの材と判明した。この粘土層は谷の底面に激しい流水の痕跡を示す砂の上に位置していた。丸太は山手からの土砂により流され、この地点にとどまって以後、



第35図　第2調査区・第4トレンチおよび拡張部出土土器

滞水状態の中で埋没していったようである。

北向きのアカマツの樹幹の節の部分の厚みは薄く、南端が厚く、自然木が何らのかの状況で裂けたように折れたものであり、一定の大きさに切って材を得たものではない。その縦の裂けた面を削って半截状にし、さらにその中央に槽状に刳り込みを入れている。刳り込みは幅3.0～5.0cmの刃の痕跡をとどめる部分がある。刳り込みの凹部には削り屑が多量に残っていた。刳り込み部分は幅34.0～47.0cm、長さ18.0cmにわたり、深さは18.0～20.0cmに及んでいる。南端は折れたような断面を呈し、刳り込みはその端部では浅くなる。いずれにしても何らかの槽状のものを得るに至る途中放置された状態である。それ以外に大石周辺では長さ1.8m、幅5.0～9.0cm、厚み1.0～1.5cmの板材の破片が散在していた。山裾の谷間で切り出した材木の荒加工を行っていたのかも知れない。その時期は堆積層からの出土遺物によって中世までと考えられる。

出土遺物としては、半割丸太の出土した第32層、その下の第35層と41層から旧谷地形が埋没していく時間的経過を反映する土器が出土している。植物遺体を含む粘土の第32層からは、土師器・須恵器・瓦器など7世紀から13世紀に至る遺物が、砂利を含む粘土の第35層からは7世紀から中世の土師器・須恵器が、細砂の第41層からは8世紀の土師器が出土している（136～147）。このことから8世紀にはまだ流水状態であったが、中世になると谷底に徐々に粘泥が堆積し始め、第32層の粘土堆積後は湿地状態となったらしい。なお、北壁近くの大石に接してウマの肩胛骨片が出土している。

第5トレンチ（第33図）

第4トレンチ東18.0mに設定した3.0×40.0mの東西トレンチである。厚さ0.4～0.6mの盛土の下に耕土があり、その耕土の下には床土を介して西より11.0～14.0mのところで、北西から南東方向にかけてトレンチを横断する暗渠が検出された。方向はN−42°20′−Eで、幅0.5m、深さ0.3～0.4mで、10.0～20.0cmの礫を敷き詰めている。この地点は第2ブロックと第3ブロックを隔てる小規模な旧谷地形に当たっている。したがって耕土以下は水分を多量に含んだ強い粘性のある土質である。第41層から土師器小皿が出土している。上記の暗渠のほかに遺構は検出されなかった。

第9トレンチ（第36・37図）

第5トレンチの東、シシヨツカ古墳の前面テラス南側の標高115.3～115.5mの2枚の田に設定したトレンチである。シシヨツカ古墳の南北方向の第6トレンチの最南端と接する。現状の厚さ20.0～30.0cmの耕土を除去すると、古墳前面テラス裾近くで直ちに暗灰色の粘質土が不定形に拡がる様相を見せたので、その拡がりを掴むため、約400㎡を拡張した。その結果、2.0×3.0mの不整円形に拡がる落ち込みと2.0～4.0m幅の溝状に南東方向へ延びる落ち込みが確認された。これらの落ち込みの埋土には須恵器・土師器が多量に含まれている。

出土土器の内容は、シシヨツカ古墳前面テラス先端（第6トレンチ南端）から続く一連の撹乱盛土出土の土器と似た状況であり、おそらく一連のものと思われる。しかしテラス裾部直下よりやや離れた南側平坦面で検出された遺物のほうは、本来第9トレンチの位置に掘り込まれた土坑や溝から出土した遺物である。いずれにしてもこれらの遺物はシシヨツカ古墳の前面に存在したと考えられる何らかの遺構との関連が強い。なお、本地点は圃場整備事業の盛土部分に当たっているため、損壊を免れるところであるので、遺構の発掘は検出にとどめ、埋め戻した。

第10トレンチ（第39・48図）

シシヨツカ古墳の東の里道を挟んだT.P.126.5mの田に設定した3.0×30.0mの東西トレンチである。里道から東4.0mは現在のコンクリート舗装にする際の工事によって撹乱され、深さ0.6mで地山層に及んでいる。0.3～0.4mの現耕土・床土の下は地山面であり、南では若干低くなり、そのレベル差を解消して平坦面とするために嵩上げされた旧耕土のブロックを含む整地土（南壁断面図第5・6・8・9層）がこの地山面上にある。地山面では2.0～3.0m、深さ0.3～0.4mの落ち込みがいくつか

第36図　第9トレンチ平面図

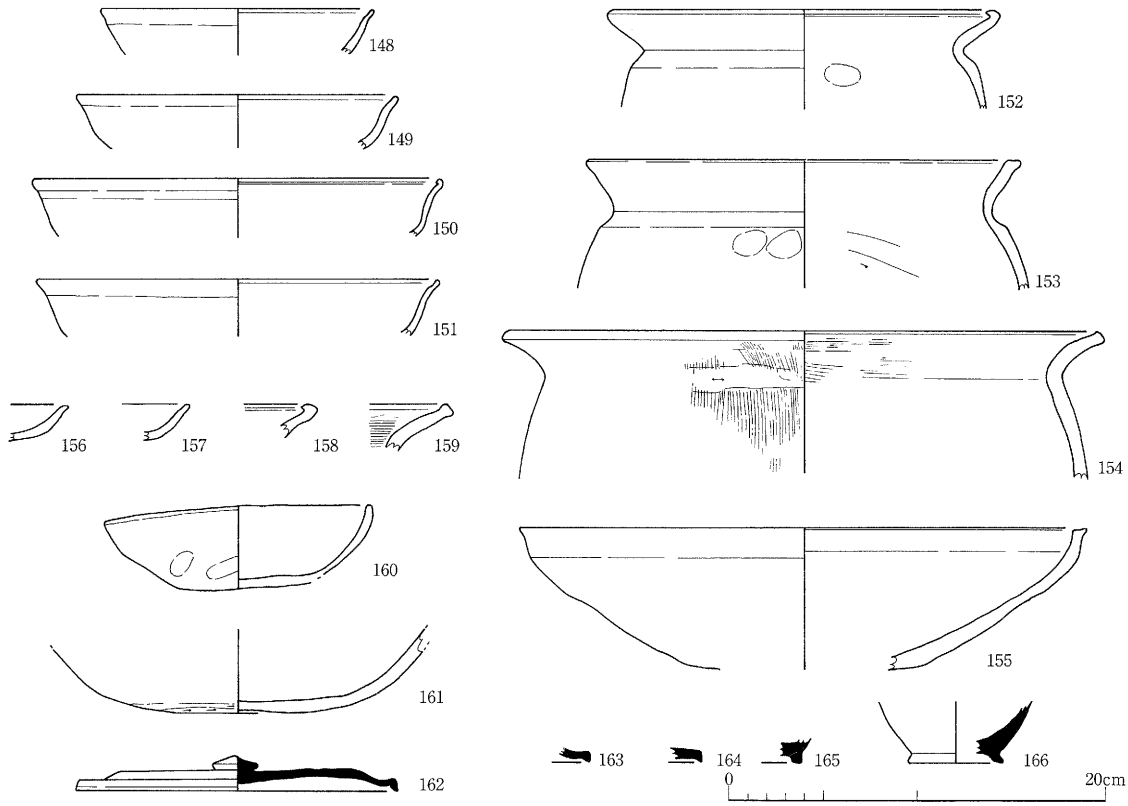
見られ、土師器細片を含む部分もあった。北壁断面に示した第12層からサヌカイト製削器（436）が出土している。

第11トレンチ（第40図）

第10トレンチ南の標高119.2mの田に設定した3.0×36.0mの東西トレンチである。西端から東0.3mまではやはり里道の工事によって現地表面から深さ0.9mまで撹乱されている。厚さ0.4mの耕土・床土を除くと、暗い褐色の粘質土（第3・4・16層）が現れ、これを除くと西側で0.6〜0.8m、深さ0.2mのピットが2箇所に認められ（第7・8層）、炭粒・土師器細片が含まれていた。これらのピットは第5層上面より掘り込まれているが、この層自体も地山とは認めがたく、その下位にある砂質土（第6層）が地山と思われる。

第12・22トレンチ（第38・39図）

第11トレンチ南、第9トレンチの東の標高116.0mの一枚田に設定したトレンチである。厚さ0.2〜0.4mの耕土の下には0.4mの盛土があり、その下に部分的に包含層を残す箇所があり、土師器・須恵器など遺物の出土を見た。またピットと思われる斑状の落ち込みを認めたので、トレンチを北側へ拡張し、この一枚田をほぼカバーする315.0㎡の範囲で遺構の分布を精査することとした。この拡張部を新たに第22トレンチと呼称したが、ここでは両トレンチを一括して説明する。

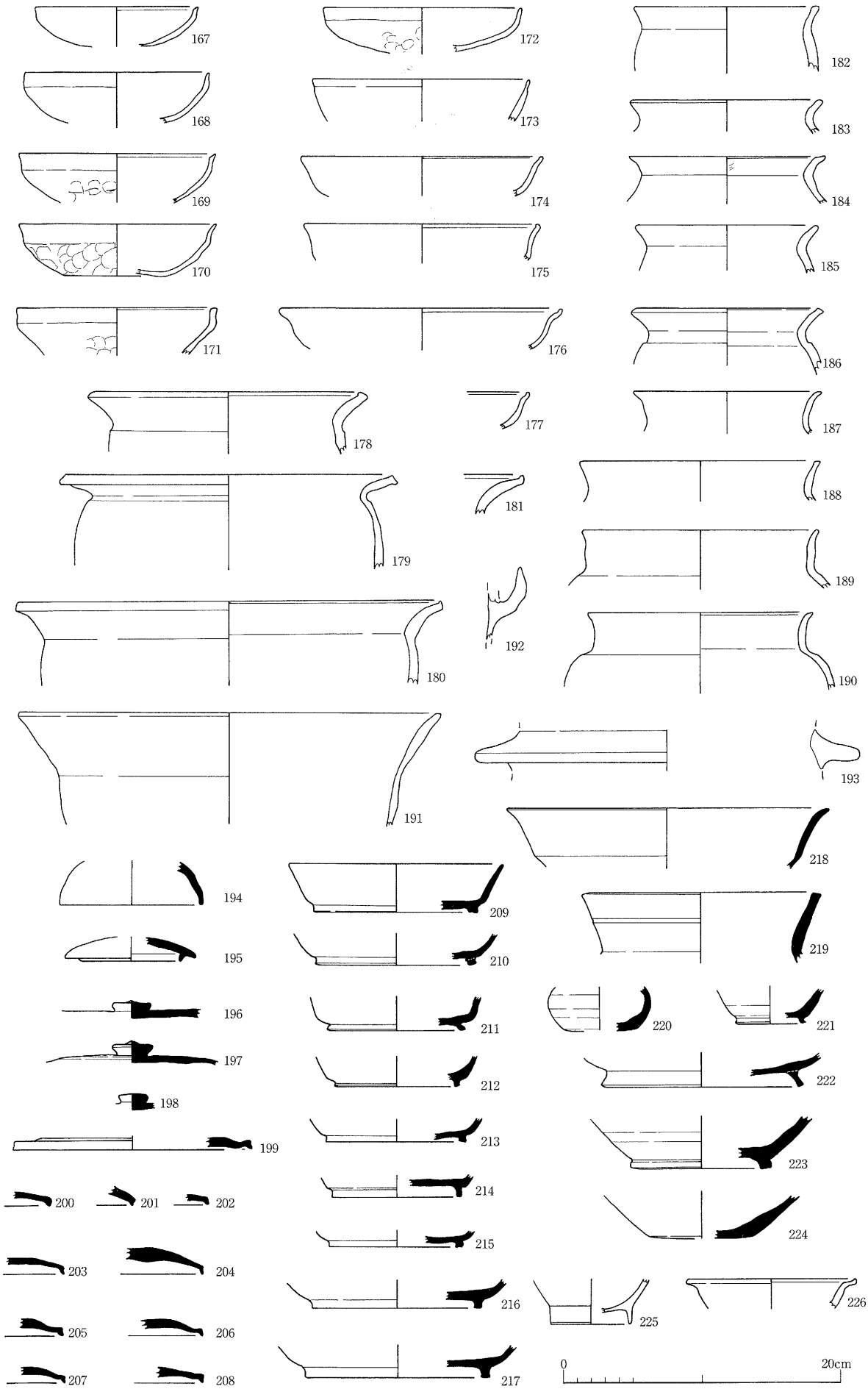


第37図　第9トレンチ出土土器

拡張し、耕土・床土を取り除いた結果、北側では耕土下は黄色砂礫の地山で、南の盛土は北側を削平した土を南の低所の嵩上げに使用し水平な耕作面を造成したことが分かった。地山面は南側でT.P.115.4m、北側でT.P.115.7mと南に緩やかに傾斜するが、南半分を中心にピット、土坑、溝などが集中して検出された。遺構検出の過程で土師器・須恵器・瓦器などが耕土や撹乱土からコンテナ2箱程度採取された。破片の残存状態から見てこれらの遺物の大半は、検出された遺構から遊離したものとみられる。

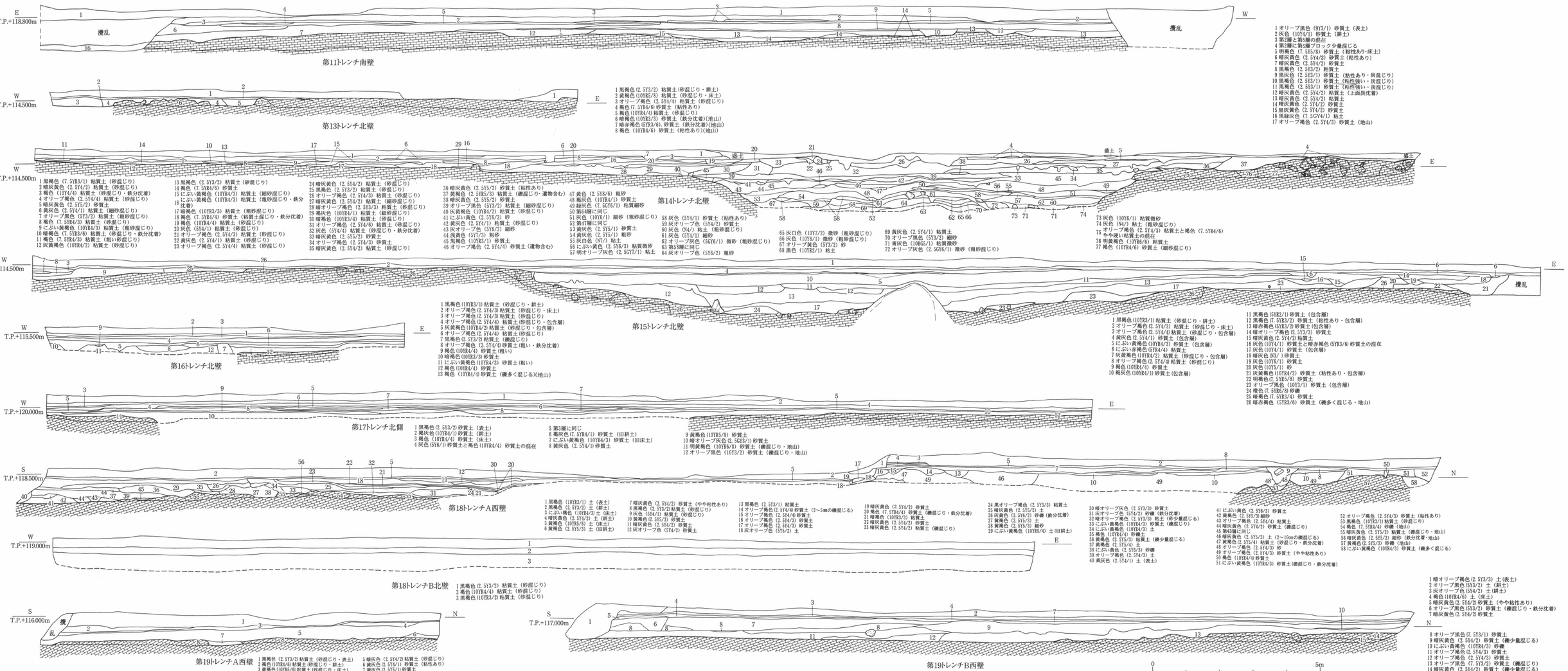
遺構は時期の異なるものが重複している状況である。まず、トレンチ南辺に沿って方形の柱穴の堀方をもつ建物（2間×3間以上、1辺0.5～0.7m、東西柱間1.9～2.3m、柱間2.15～2.16m）およびこれに関連すると思われる同規模の柱穴が注意される。これ以外に径0.4～0.5m円形ピットもあり、別の建物があったかも知れない。これらの建物位置からやや北に離れて2.0～3.0×1.5～2.0m不定形な土坑がある。そしてこの土坑とさきほどの建物との間に掘り込まれた幅0.4～0.6mの溝で囲まれた一辺4.0～5.0m方形区画がある。

方形建物の東西辺は磁北に対してN−94°−E振れている。区画溝もほぼ同じ方向である。円形ピットの建物の規模は分からない。これらの遺構の後に掘り込まれるのが、土坑群であり、またトレンチ南辺沿いの東西鋤溝群である。北側にも南側の鋤溝と方向を異にする鋤溝がある。これらの遺構のうち最も注意される方形の柱穴堀方をもつ建物は、出土遺物からみて8世紀代と考えられる。とすれば第9トレンチで検出された溝状落ち込みや不定形土坑と同時期ということになる。なお、これらの遺構は圃場整備の際には盛土部分にあたり、損なわれることはないため検出面で調査を終え、埋め戻した。



第38図　第12・22トレンチ出土土器

第39図　第10・12・22トレンチ平面・断面図



第40図　第11・13～19トレンチ断面図

第13トレンチ（第40・41図）

第12トレンチ南のT.P.114.9m田に設定した3.0×15.0m東西トレンチである。厚さ0.2～0.3m耕土・床土を外すと砂質土の地山層となる。トレンチ西端から2.5mの間はこの地山面上に粘質土・砂質土の堆積がみられる（第3・4層）。これらの土層から須恵器片が出土している。遺構の疑いあるものはこれらの土層の上面から掘り込まれた第6層を埋土とする不定形な落ち込みであるが、出土遺物はなかった。出土した須恵器（227～229）は8世紀代を中心とするものであり、北側の第12・22トレンチの調査結果と似ている。

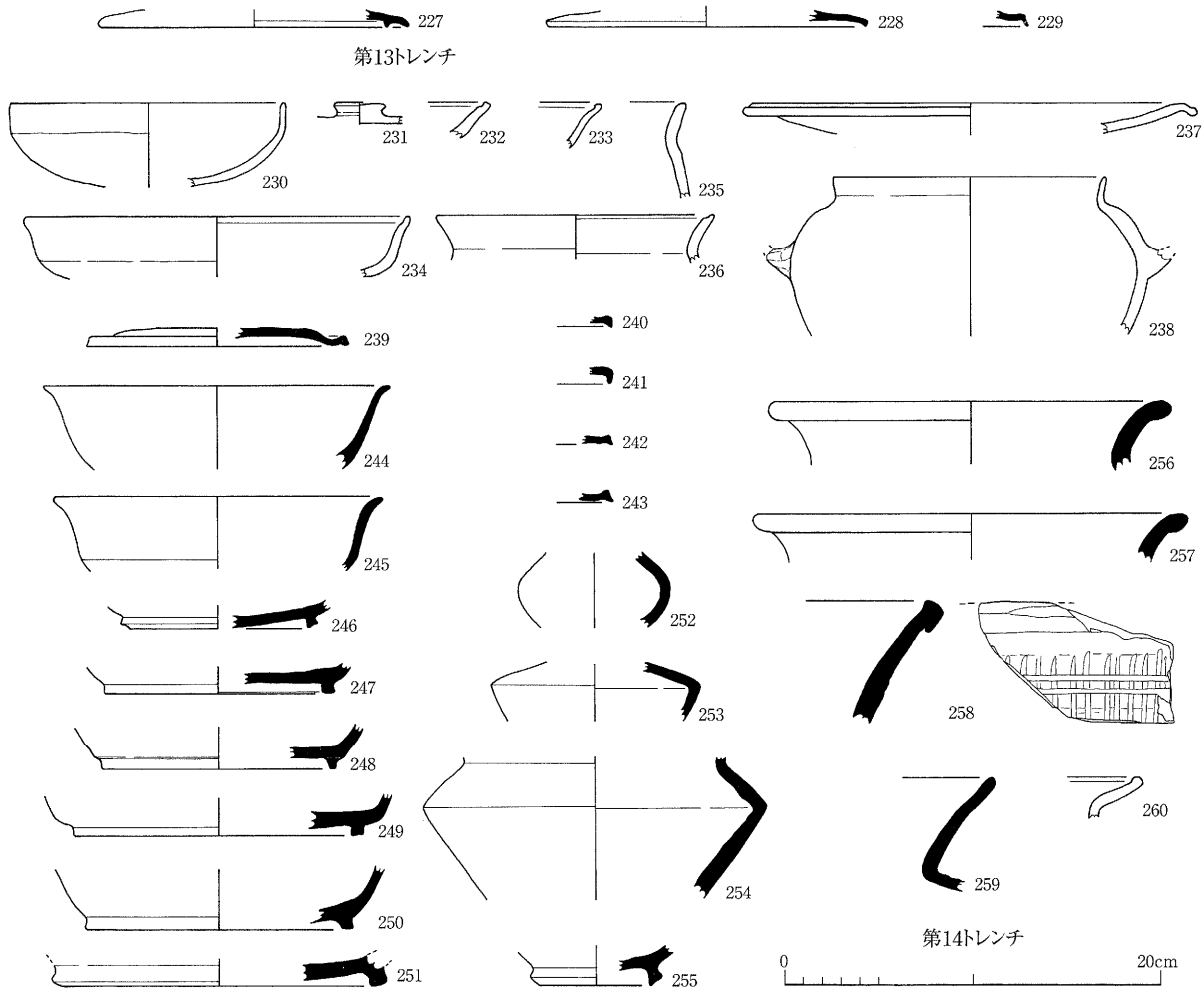
第14トレンチ（第40・41図）

第13トレンチの東北に接し、第3ブロックの東を限る谷地形の左岸斜面に当たるT.P.114.9m棚田に設定した3.0×41.0m西トレンチである。0.3～0.5mの土・耕土・床土などを除くと、西でT.P.114.4m、東T.P.114.8mから落ち込む旧谷地形の埋没跡が検出された。砂層に礫や植物遺体を含む流水堆積を示し（第13・14・20～22・24・26・33～40・45・46・49～77層）、下層では10.0～40.0cm大の川原石の流れ込みもみられる。谷の幅は25.0mで、深さは1.3～1.5mまで掘り下げたが、遺物は深さ0.8m以下ではまったく出土しない。すなわち、遺物は第22層以下第50層にわたって集中的に出土し、同時にこれらの土層の堆積後、この谷地形がほぼ埋没し、その後はそれまでの砂層とは異なり、粘質土が溜まって西側の平坦な耕作面が形成されていく。

出土遺物の大半は8世紀代の土師器・須恵器であるが、これにわずかながら近世遺物が混在する。以上のような状況から判断すると、近世の開墾に際して遺構や遺物包含層は大規模に削り去られたと考えられるが、いずれにしてもこれらの遺物は第12・22トレンチで検出された遺構に伴うものであろう。

第15トレンチ（第40・42～45図）

第14トレンチの南の一段低いT.P.113.6mの田に設定した3.0×45.0mの東西トレンチである。厚さ0.2～0.4mの耕土・床土の下ではトレンチ西端から14.0m東で第14トレンチで検出された谷の西肩が認められる。東端は西に向かって4.0m間が後世の撹乱があるので、東肩は検出されない。おそらく東は現在の谷地形の中に収束されてしまうのであろう。この流水堆積層の深さは1.3～1.5mを測り、底面には径2.3m、高さ0.8mも立ち上がる大石が露呈するところや、0.2～0.5mの転石が散在する。谷が埋没し終える頃、砂質土が水平に堆積して現在の棚田の基盤を整えるが、それ以前は砂・砂礫の堆積の繰り返しである。遺物は、床土下の第4・5層の粘質土と、それ以下の砂・砂質土である第9～15・17層、地山の礫を多く含む砂質土の底面まで全体にわたって出土する。その数量はコンテナにして約5箱である。第13・14トレンチと同様、第12・22トレンチの遺構に関係する遺物と思われる。ここではこれらの遺物とともに中世の土師器皿なども出土している。周辺一帯が中世に棚田造成された際に、建物の存在する第12・22トレンチの高所から投棄された可能性が高い。



第41図　第13・14トレンチ出土土器

第16トレンチ（第40・46図）

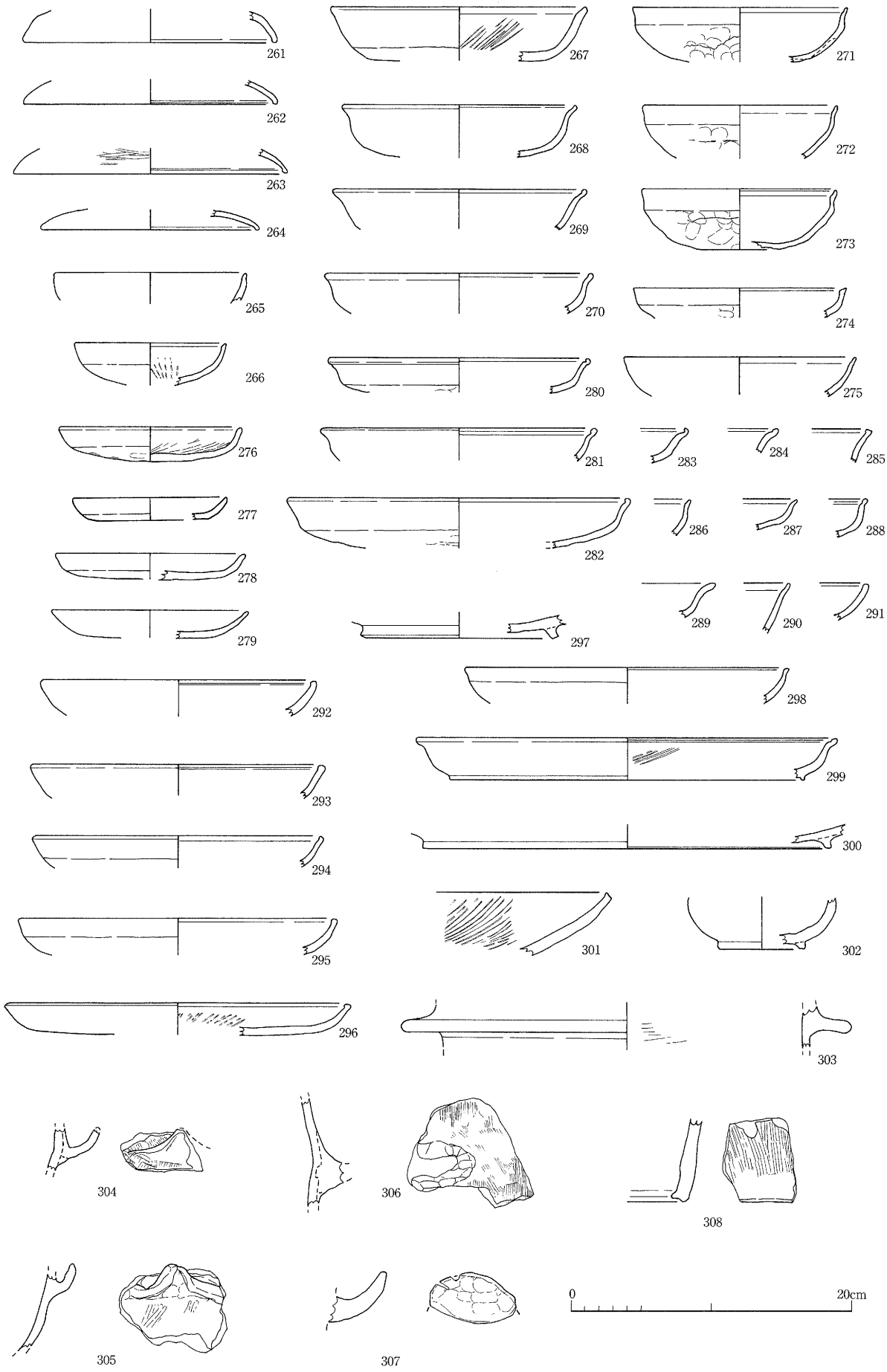
第15トレンチの西端に続けてT.P.113.5mの田に設定した3.0×10.0mのトレンチである。厚さ0.3mの耕土・床土を除いて厚さ0.2～0.4mの遺物包含層が確認された。わずかながら土師器・須恵器の破片を含んでいる。この包含層の下に長さ1.4mにわたって砂質土を埋土とする落ち込みが検出されたが、これには出土遺物はない。出土遺物や包含層の堆積状況から見て第13トレンチと同様、第12・22トレンチで検出された遺構に関連する遺物の散布範囲に入ると思われ、その西の端にあたるので量的には希薄になるのだろう。

第17トレンチ（第40図）

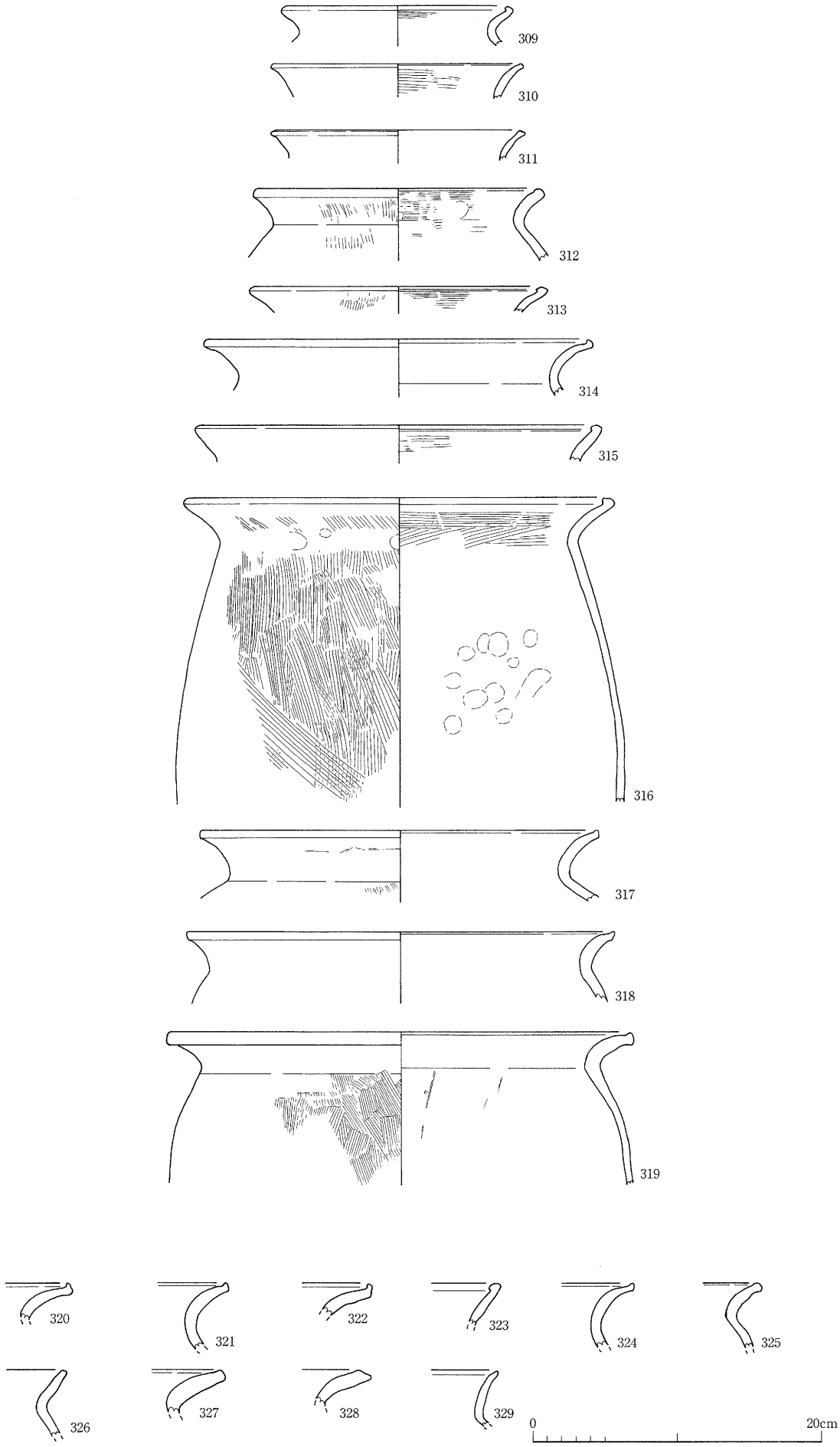
第3ブロックの東の谷地の斜面のT.P.120.2～120.4mの棚田に、北東～南西方向に設定した3.0×30.0mのトレンチである。厚さ0.2～0.5mの表土・耕土・床土の下は西側約4m間では深さ0.1～0.4mで砂礫の地山が確認されるが、これより東は急激に傾斜する。代わってその地山と耕土までの間には暗い黄色の砂質土が堆積する。出土遺物や遺構は認められない。

第18トレンチ（第40図）

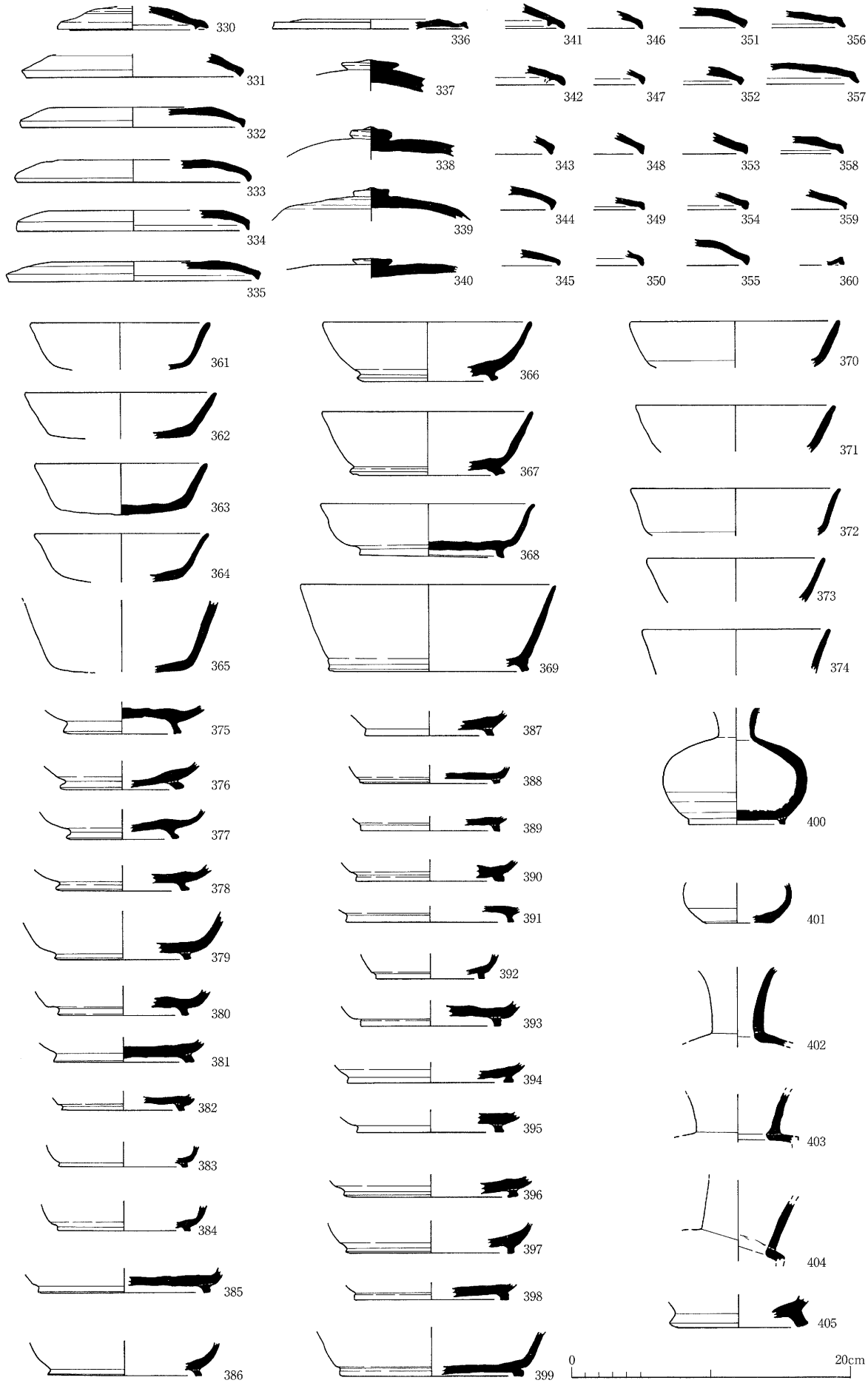
第17トレンチの南の棚田に設定したトレンチで、第18-Aトレンチと第18-Bトレンチの方向を若干異にする2箇所のトレンチである。



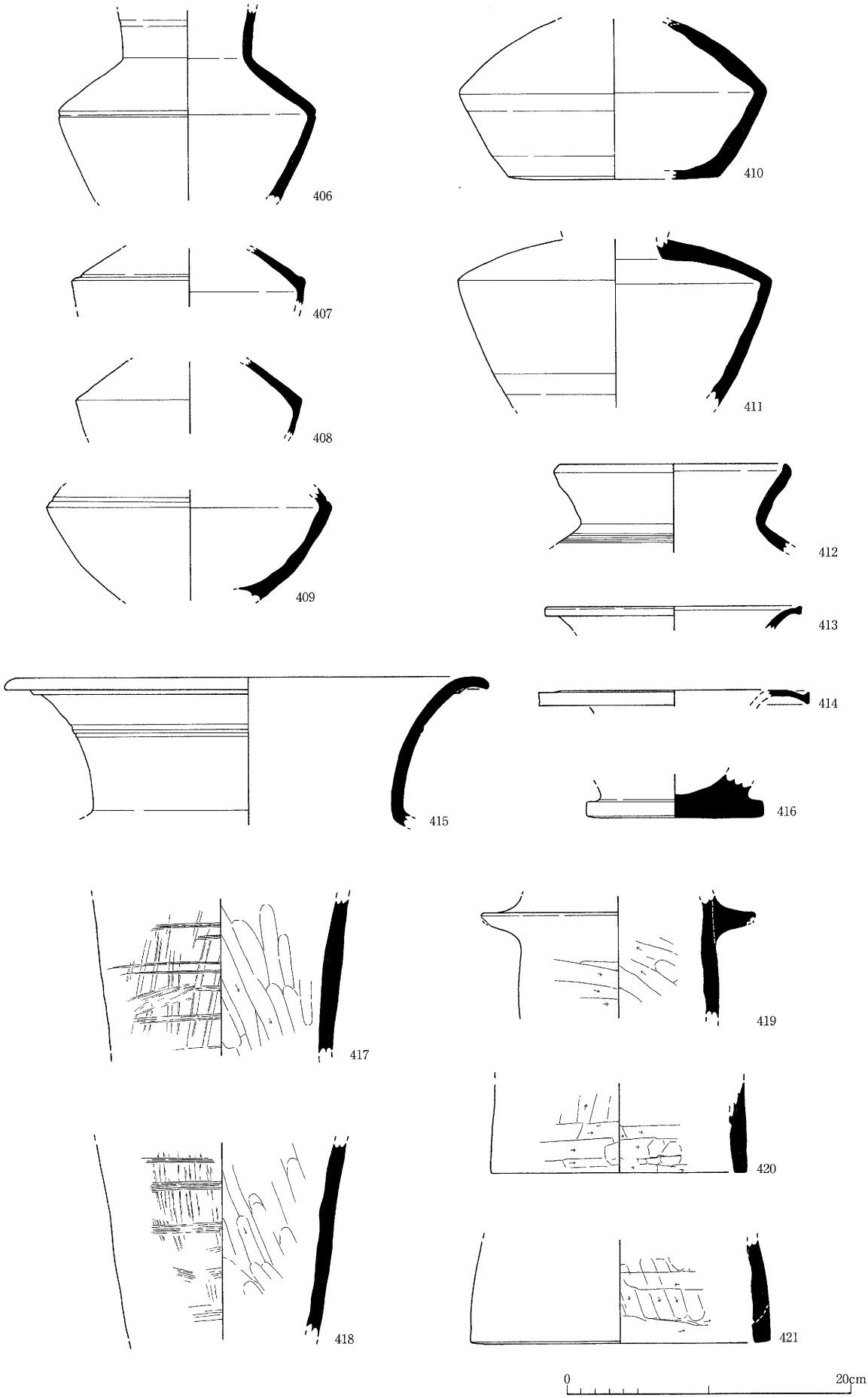
第42図　第15トレンチ出土土器（1）



第43図　第15トレンチ出土土器（2）



第44図　第15トレンチ出土土器（3）



第45図　第15トレンチ出土土器（4）

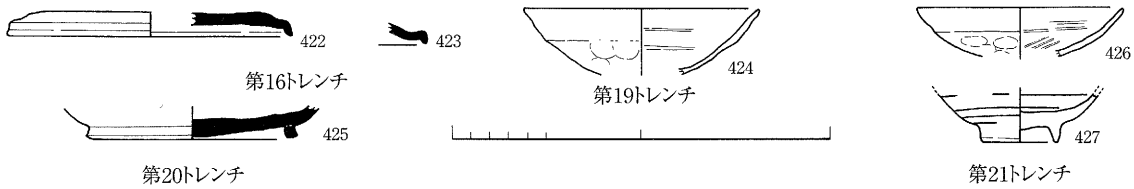
第18-Aトレンチは T.P.118.4～118.7mにほぼ南北に2.0×40.0mを設定した。南より23m付近では T.P.19.1mの一段高い棚田となる。厚さ0.3～0.6mの耕土・床土の重層が認められ、浅いところではその下に、深いところではさらに0.5mで砂礫の地山に達する。その上に堆積するのはすべて砂もしくは砂質土である。耕土には土師器細片がわずか混入する。第18-Bトレンチは第18-Aトレンチの北端から北東へ、第17トレンチの南側に設定した2.0×28mのトレンチである。標高は119.0～119.1mである。耕土直下に流水堆積に見られる粗い砂混じりの粘質土が見られた。遺物・遺構は検出されない。

第19トレンチ（第40・46図）

第18-Aトレンチ東の一段低い棚田に2箇所に分割して設定した。第19-Aトレンチは延長10.0m、現地盤T.P.116.0mで、厚さ0.2～0.6mの表土・耕土・床土を剥ぐと、層厚0.2～0.4mの暗い黄色の粘質土（表面が床土化した旧耕土）を経て、南でT.P.115.4m、北でT.P.115.4mで地山の砂質土に達する。遺物・遺構は検出されない。第19-Bトレンチは延長23.0m、現地盤T.P.は117.5mで、厚さ0.2～0.3mの表土・耕土・床土の下は、南で約0.6m、北で約0.3mで地山の礫を含む砂質土になる。繰り返された流水による砂質土の堆積状況が認められる。この砂質土（第5～13層）より瓦器碗（424）が出土している。

第20トレンチ（第46・47図）

シシヨツカ古墳北東の、里道を挟んで北から南に張り出す小さい尾根の頂上に設定した3.0×20.0mの東西トレンチである。現地盤高はT.P.125.5mで、それより下0.4mは現耕土、その下にはかつて現耕土面を得るために嵩上げしたことを示す厚さ0.4～0.6mの盛土が存在する。旧耕土と床土の混在するブロックが西から東へ順次積み上げられ、最後はトレンチ西端より約12.0m付近から東にかけて一気に盛りあげられている。この盛土の下ではT.P.124.4～124.6mにかけて旧耕土が水平に堆積する。これがこの地点で最初に耕地として利用されたときの土壌だろう。その下にはさらに厚さ0.1～0.3mの上の耕土に対する床土が形成されている。西側ではこの床土の下に石・砂を含む褐色の地山層が露呈する。しかし東へ8.0m付近からこの地山面が東に徐々に傾斜面をなし、14.5m付近では急激に落ち込み、15.0～16.0mでは標高はT.P.122.1mを測る。実に2.0mの落差である。しかしこの落ち込みの肩はそれより東で再び立ち上がり、単純に東の谷地に落ち込む状況ではない。



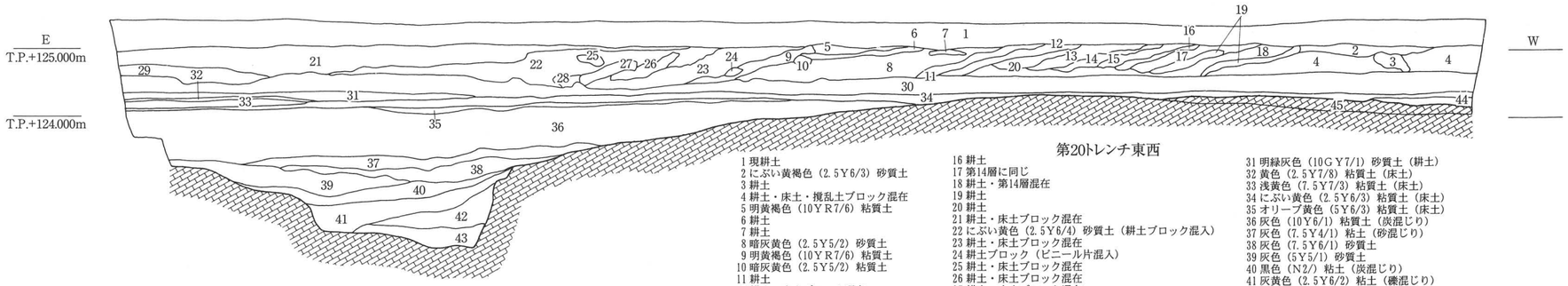
第46図　第16・19～21トレンチ出土土器

要するに上幅6.0m程の落ち込みが、その底面でさらに幅3.6mに深くなる溝状となっている。この落ち込みは最終的に炭を若干混入する灰色粘質土（第37層）によって埋まるが、それ以前にも7層ほどに分層できる堆積土が認められ、その内T.P.122.9～123.3mの2層の砂質土（第38・39層）はかつて流水があった形跡を反映している。その流水以前には逆に滞水の形跡を示すような粘土層が底面より4層にわたって堆積している。この粘土層の上層（第41・42層）では8世紀代の須恵器片（425）が出土した。

このトレンチの位置する尾根の東は北の「竜ヶ池」から下る谷地形の開口部の西斜面に接し、仮にその方面から大規模な出水があったにしてもその谷を下って平石川へ落ちるはずである。ところがこの落ち込みはその西斜面から少し離れて、別に西に振る形で流路をつけたかのようである。

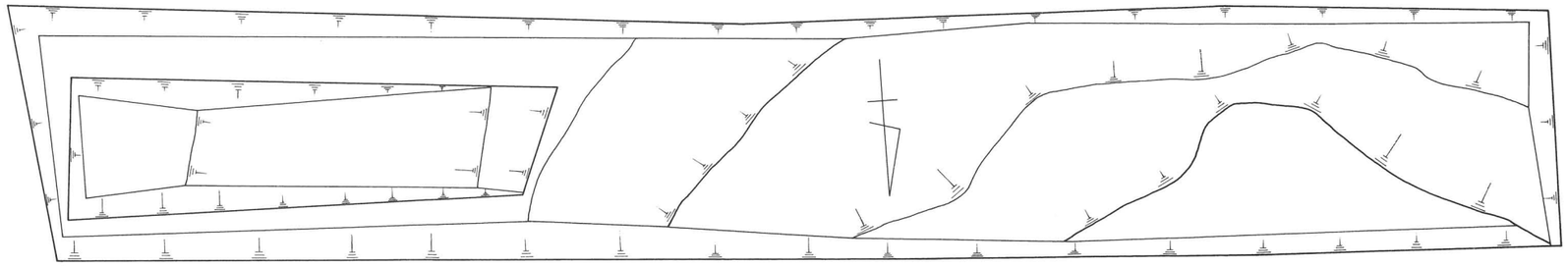
第21トレンチ（第46・47図）

第20トレンチ南のT.P.122.2～122.3mの棚田に設定した3.0×25.0mの東西トレンチである。厚さ0.4～0.6mの現耕土・旧耕土と床土を剥がすと数層の砂質土の堆積が認められる。トレンチ西端では標高121.8mで砂質土の地山となるが、東では121.3mと傾斜面をなす。この地山面上に堆積する数層の砂質土からわずかではあるが、中世～近世土器片が出土している（426・427）。地山面では北東～南西方向の幅0.3～0.4m、深さ0.05mのやや粘性のある砂質土を埋土とする鋤溝が検出された。第20トレンチ東端で検出された南北溝に繋がる遺構は検出されなかった。

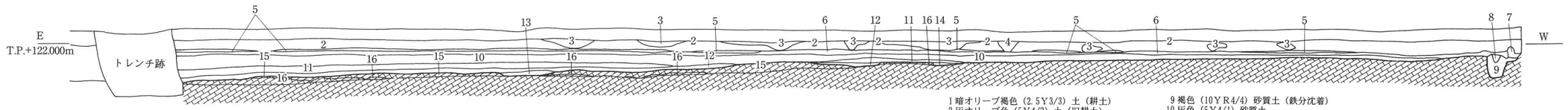


第20トレンチ東西

1 現耕土
2 にぶい黄褐色（2.5Y6/3）砂質土
3 耕土
4 耕土・床土・攪乱土ブロック混在
5 明黄褐色（10YR7/6）粘質土
6 耕土
7 耕土
8 暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土
9 明黄褐色（10YR7/6）粘質土
10 暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土
11 耕土
12 耕土・床土ブロック混在
13 耕土・床土ブロック混在
14 灰色（5Y6/1）砂質土（鉄分沈着顕著）
15 第14層に同じ
16 耕土
17 第14層に同じ
18 耕土・第14層混在
19 耕土
20 耕土
21 耕土・床土ブロック混在
22 にぶい黄色（2.5Y6/4）砂質土（耕土ブロック混入）
23 耕土・床土ブロック混在
24 耕土ブロック（ビニール片混入）
25 耕土・床土ブロック混在
26 耕土・床土ブロック混在
27 耕土・床土ブロック混在
28 耕土・床土ブロック混在
29 耕土・床土混在
30 耕土（ビニール袋混入）
31 明緑灰色（10GY7/1）砂質土（耕土）
32 黄色（2.5Y7/8）粘質土（床土）
33 浅黄色（7.5Y7/3）粘質土（床土）
34 にぶい黄色（2.5Y6/3）粘質土（床土）
35 オリーブ黄色（5Y6/3）粘質土（床土）
36 灰色（10Y6/1）粘質土（炭混じり）
37 灰色（7.5Y4/1）粘土（砂混じり）
38 灰色（7.5Y6/1）砂質土
39 灰色（5Y5/1）砂質土
40 黒色（N2/）粘土（炭混じり）
41 灰黄色（2.5Y6/2）粘土（礫混じり）
42 浅黄色（2.5Y7/3）粘土
43 浅黄色（2.5Y7/3）粘土（礫混じり）
44 黄色（5Y7/6）粘質土（床土）
45 褐色（10YR4/6）粘質土（礫多く混じる・地山）

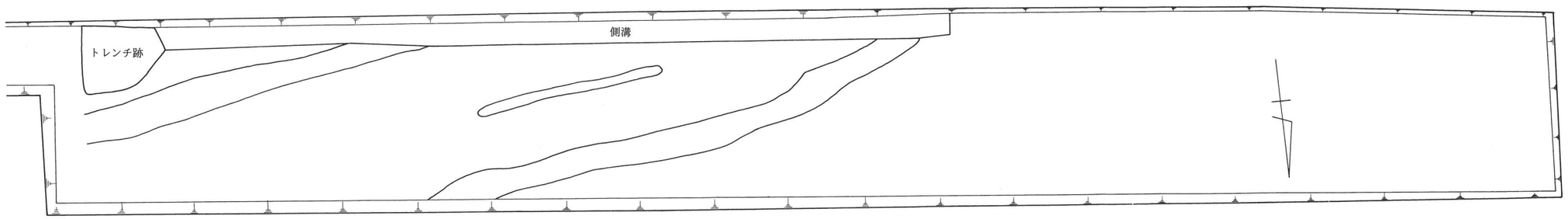


第20トレンチ平面



第21トレンチ北壁

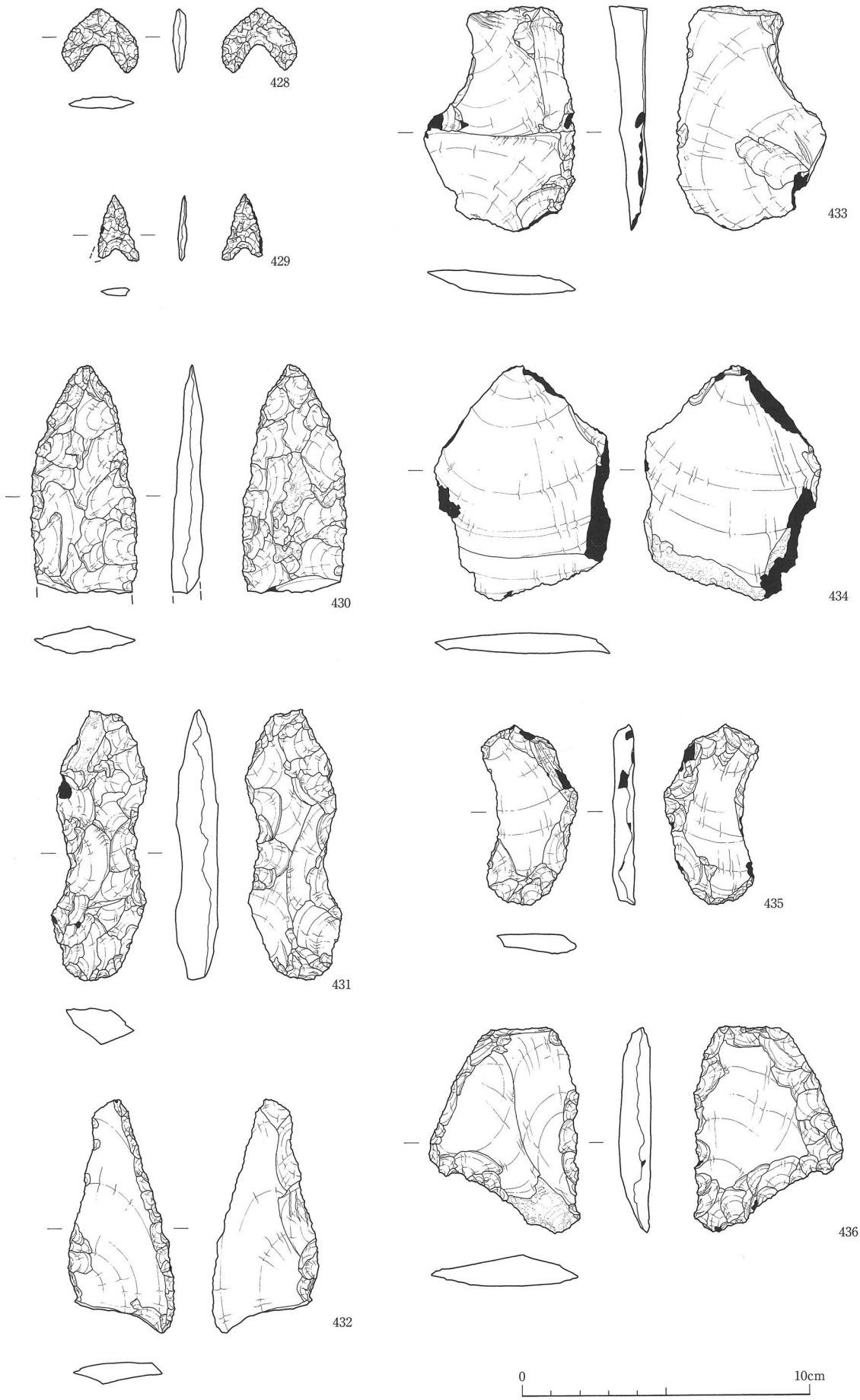
1 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）土（耕土）
2 灰オリーブ色（5Y4/2）土（旧耕土）
3 にぶい黄褐色（10YR5/4）土（ブロック状）
4 褐色（10YR4/4）土（2～7mmの礫混じる）
5 灰オリーブ色（5Y5/2）砂質土
6 褐色（10YR4/6）粘質土（砂混じり）
7 にぶい黄褐色（10YR4/3）砂礫
8 黄褐色（2.5Y5/3）砂質土
9 褐色（10YR4/4）砂質土（鉄分沈着）
10 灰色（5Y4/1）砂質土
11 黄褐色（2.5Y5/3）砂質土
12 オリーブ褐色（2.5Y4/4）砂質土（2～5mmの礫混じり）
13 黒褐色（2.5Y3/1）砂質土（粘性あり）
14 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）砂質土
15 黄褐色（10YR5/6）粘質土（砂混じり・地山）
16 褐色（10YR4/4）砂質土（粘性あり・上面鉄分沈着・地山）



第21トレンチ平面

0　5m

第47図　第20・21トレンチ平面・断面図



第48図　各トレンチ出土石器

平成14年度調査区出土遺物観察表

挿図番号	器種	出土個所	層位ほか	法量（cm）				特徴	時期
				口径	底(高台)径	器高	その他		
1	土師器坏	第1調査区	24.32.33層	15.40		3.70		口縁部が底部から丸みをもって斜上方に立ち上がる坏A。端部は比較的厚みがある。口縁部ない外面ヨコナデ、内面に放射状暗文。	平城Ⅱ・Ⅲ
2	土師器甕口縁部	第1調査区	25ー30層	17.50				外彎気味にのびる口縁部をもつ甕AⅢ。口縁部内外面ヨコナデ、頸部下に縦方向ハケメ、内面では指オサエ痕。	7世紀後半～8世紀代
3	土師器甕口縁部	第1調査区	25ー30層					くの字形に外反する口縁端部を内側へ折り曲げる。内外面ヨコナデ。	7世紀後半～8世紀代
4	土師器甕口縁部	第1調査区	25ー30層	26.40				くの字形に外反する口縁部をもつ甕。端部は上端面をもつ。ない外面ヨコナデ。	7世紀後半～8世紀代
5	土師器把手	第1調査区	24.32.33層					壷または甕（鍋）の三角状把手。	8世紀代
6	須恵器坏蓋つまみ	第1調査区	25ー30層				径2.3	小さい疑宝珠状のつまみで中央がやや突出する。	陶邑Ⅳ-3・4
7	須恵器坏身	第1調査区	29・30層	13.40		3.80		やや内彎気味に立ち上がる公園部。底部外面ヘラキリ。	陶邑Ⅳ
8	土師器小皿	第1調査区	22層	10.70		1.10		器壁は厚く、短く立ち上がる。	13～14世紀
9	瓦器小椀	第1調査区	22層	7.90				口縁端部のみ炭素吸着	14世紀代
10	青磁碗	第1調査区	25ー30層	14.80				底部から大きく内彎して直線的に立ち上がる。連続する弧線と縦線で先端の粗い連弁文連弁を表す青磁碗B―2。	16世紀前～中葉
11	弥生式土器甕底部	第2-1調査区	37層		6.40			外面タタキ目、内面板ナデ。	Ⅴ様式
12	土師器甕口縁部	第2-1調査区	37層					外反する厚みのある口縁部。	6世紀
13	土師器甕	第2-1調査区	37層	13.70				長胴の体部からゆるやかに外反する口縁部。内面頸部以下板ナデ、外面ハケ目。	6世紀
14	土師器坏身	第2-1調査区	27・30・34層					端部軽く巻き込む坏A。口縁部ない外面ヨコナデ、底部ヘラケズリ。	平城Ⅱ～Ⅲ
15	土師器甕口縁部	第2-1調査区	27・30・34層	22.80				外彎気味にのびる口縁部をもつ甕AⅡ。端部は外端面をなしわずかに立ち上がる。外面頸部以下縦方向ハケメ。	8世紀代
16	土師器高坏脚部	第2-1調査区	27層		13.70			内面指オサエ。	
17	須恵器坏蓋つまみ	第2-1調査区	27・30・34層				径2.4	扁平な擬宝珠形つまみで中央がやや突出する。	陶邑Ⅲ-3～4
18	須恵器坏蓋	第2-1調査区	27・30・34層					下方へ屈曲させる端部。	陶邑Ⅳ-1～2
19	須恵器坏蓋	第2-1調査区	27・30・34層					下方へ屈曲させる端部。	陶邑Ⅳ-1～2
20	須恵器坏蓋	第2-1調査区	27・30・34層	20.60				下方へ屈曲させる端部。	陶邑Ⅳ-1～2
21	須恵器坏蓋	第2-1調査区	27・30・34層	13.60				下方へ屈曲させる端部。	陶邑Ⅳ-1～2
22	須恵器坏蓋	第2-1調査区	37層	11.20				下方へ屈曲させる端部。	陶邑Ⅳ-1～2
23	須恵器坏蓋	第2-1調査区	27・30・34層	19.00				下方へ屈曲させる端部。	陶邑Ⅳ-1～2
24	須恵器坏蓋	第2-1調査区	27・30・34層	14.40				S字形カーブを描いてやや外反する。	陶邑Ⅳ-2・3～Ⅳ
25	須恵器坏蓋	第2-1調査区	27・30・34層	16.80				外斜方にのびる口縁部。	陶邑Ⅳ
26	須恵器坏身底部	第2-1調査区	37層		10.00			底端部にハの字形に低い高台がつく。	陶邑Ⅳ-3
27	須恵器坏身底部	第2-1調査区	27・34層		8.90			底端部にハの字形に低い高台がつく。	陶邑Ⅳ-3
28	須恵器坏身底部	第2-1調査区	27・34層		9.60			底端部にハの字形に低い高台がつく。	陶邑Ⅳ-3
29	須恵器坏身底部	第2-1調査区	27・30・34層		13.00			底端部の中心寄りにハの字形の高台がつく。	陶邑Ⅲ-3～Ⅳ-1
30	須恵器坏身底部	第2-1調査区	27層		10.80			底端部にハの字形に低い高台がつく。	陶邑Ⅳ-3
31	須恵器壷口縁部	第2-1調査区	27・30・34層	16.00				ラッパ状に開く長頸壷口縁部か。	陶邑Ⅳ
32	須恵器壷口縁部	第2-1調査区	27・30・34層					長頸壷の外反する口縁部。	陶邑Ⅳ
33	須恵器坏蓋	第2-1調査区	27・30・34層					端部上下に拡張する。	陶邑Ⅳ-3～Ⅴ
34	須恵器小型壷	第2-1調査区	27・34層				体部最大径10.4	肩の張る体部。	陶邑Ⅳ
35	須恵器小型壷	第2-1調査区	27・30・34層					肩の張る体部。	陶邑Ⅳ
36	須恵器壷底部	第2-1調査区	27・30・34層		10.00			底端部にハの字形に低い高台がつく。	陶邑Ⅳ
37	須恵器壷底部	第2-1調査区	27・30・34層		7.50			底端部に安定した高台がつく。	陶邑Ⅳ
38	須恵器壷または鉢	第2-1調査区	30層		12.40			平たい底部から直線的に体部が立ち上がる。底部外面回転ヘラケズリ。	陶邑Ⅳ
39	土師器小皿	第2-1調査区	5層	8.40				厚みのある「手の字状口縁」皿。	11世紀
40	瓦器小椀	第2-1調査区	27層	7.30				口縁端部のみ炭素吸着	14世紀代
41	土師器坏身	第3・5調査区拡張部	17層（第5調査区南壁断面）	16.00				外反する口縁部で、端部がわずかに内傾する。	平城Ⅱ～Ⅲ
42	土師器甕口縁部	第3・5調査区拡張部	ピット6					外反する口縁部で、端部がわずかに巻き込み、外端面をなす。	7世紀後半～8世紀代
43	須恵器坏蓋	第3・5調査区拡張部	17層（第5調査区南壁断面）	9.30				端部内面かえりは口縁端部の線より下方へは出ていない。天井部肩より上に回転ヘラケズリ調整。	陶邑Ⅲ-2
44	須恵器坏身底部	第3・5調査区拡張部	床土		10.00			底端部につく低い高台。	陶邑Ⅳ
45	須恵器長頸壷	第5調査区	17層（第5調査区南壁断面）					頸部の細い瓶子。	陶邑Ⅳ-3・4～Ⅴ
46	須恵器平瓶	第5調査区	17層（第5調査区南壁断面）					平瓶の頸部	陶邑Ⅲ～Ⅳ
47	土師器小皿	第7調査区	床土	7.40		1.10		平たい底部から外反する口縁部がのびる。	13世紀代
48	土師器小皿	第7調査区	床土	8.10		1.40		平たい底部から外反する口縁部がのびる。	13世紀代
49	土師器小皿	第7調査区	床土	6.30		1.20		平たい底部から外反する口縁部がのびる。	13世紀代
50	土師器坏身	第8調査区	32層	14.00				口縁部大きく開く坏A。内面二段斜放射状暗文。	飛鳥Ⅴ
51	土師器椀	第8調査区	32層	11.80				内彎する弧を描いて立ちがある椀Cか。	平城Ⅱ～Ⅳ
52	土師器皿	第8調査区	24層	17.60				内彎して立ち上がる口縁部の端部をわずかに内側に巻き込むⅢAⅡ。	平城Ⅱ～Ⅲ

53	土師器皿	第8調査区	32層	22.00				内彎して立ちがある口縁の端部を内側に巻き込む皿AⅠ。内面に放射状暗文。	平城Ⅱ～Ⅲ
54	土師器蓋	第8調査区	32層	37.30					
55	土師器甕口縁部	第8調査区	32層	18.70				外反する口縁の端部を内側に折り曲げる甕AⅢ。	7世紀後半～8世紀代
56	土師器甕	第8調査区	32層	16.60				縦長と思われる体部に断面くの字形の口縁部がつき、端部は丸くおさめて外反する。体部内面左下から右上に強くナデている。	7世紀末～8世紀
57	土師器甕口縁部	第8調査区	32層	30.40				外彎気味にのびる口縁部をもつ甕AⅠ。端部外端面となり、上にわずかに立ち上がる。	7世紀後半～8世紀
58	須恵器坏蓋	第8調査区	32層	13.50				端部を内側へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1～2
59	須恵器坏蓋	第8調査区	20・21層	16.40				端部を内側へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1～2
60	須恵器坏蓋	第8調査区	120層	19.60				口縁部が底部から丸みのもって斜上方に立ち上がる坏A。調整不明。	平城Ⅱ－Ⅴ。8世紀
61	須恵器坏身	第8調査区	20・21層	9.60					陶邑Ⅲ-2・3～Ⅳ
62	須恵器坏身	第8調査区	24層	16.00					陶邑Ⅲ-2・3～Ⅳ
63	須恵器坏身	第8調査区	32層	15.40					陶邑Ⅲ-2・3～Ⅳ
64	須恵器坏身	第8調査区	24層						陶邑Ⅲ-2・3～Ⅳ
65	須恵器坏身	第8調査区	20・21層	12.80					陶邑Ⅲ-2・3～Ⅳ
66	須恵器坏身底部	第8調査区	24層					底端部に高台がつく。	陶邑Ⅳ-2・3
67	須恵器坏身底部	第8調査区	20・21層	25.40				底端部にハの字形の高台がつく。	陶邑Ⅳ-2・3
68	須恵器坏身底部	第8調査区	9層		8.30			底端部にハの字形の高台がつく。	陶邑Ⅳ-2・3
69	土師器鉢	第8調査区	32層	25.40		16.50		平たい底部から内彎して立ち上がる口縁部をもつ鉢。	平城Ⅱ
71	土師器小皿	第8調査区	9層	8.00		1.10		平たい底部から屈曲して外反する短い口縁部をなす。	中世
72	土師器皿	第8調査区	32層	10.90		2.50		丸い底部からのびる口縁部をもつ厚みのある皿で、口縁端部のみヨコナデ。	中世
73	磁器皿	第8調査区	22層		5.50			中国製白磁	13世紀
74	土師器皿	第9調査区（東西部）	98層（a断面）	19.40		3.00		内彎して立ち上がる口縁部の端部をわずかに内側に巻き込む皿AⅡ。底部外面は指オサエのまま。内面には斜放射状暗文。	平城Ⅱ～Ⅲ
75	土師器皿	第9調査区（東西部）	112層（a断面）	21.60		3.30		内彎して立ち上がる口縁部の端部をわずかに内側に巻き込む皿AⅠ。底部外面ヘラケズリ、木葉圧痕とどめる。	平城Ⅱ～Ⅲ
76	土師器甕口縁部	第9調査区（南拡張部）	9層（b断面）		8.00			くの字形に外反する口縁部をもつ甕。口縁端部をわずかに巻き込み外端面をなす。内面に横方向のハケメ	8世紀
77	須恵器坏身口縁部	第9調査区（東西部）	35層（a断面）	17.60				直線的に外斜方にのびる。	陶邑Ⅲ-2～Ⅴ
78	須恵器坏身	第9-3調査区（北拡張部）	39層（a断面）	6.80				底部外面ヘラキリ後、一部ナデ。	陶邑Ⅳ～Ⅴ
79	須恵器坏身	第9-4調査区（南連結部）石組溝埋土	24・25層（c断面）					やや外反する口縁部。	陶邑Ⅳ
80	土師器小皿	第9調査区（東西部）	30層（a断面）					内彎しながらのびる口縁端部が外方にのび、端部は丸くおさめる。	13～14世紀
81	須恵器捏鉢	第9調査区（東西部）	30層（a断面）					片口部分。立ち上がる口縁帯が分厚く、外面に自然釉かかる。墨をぼかしたような点状の黒色物質が胎土に多量に含まれる。	14世紀
82	土師器甕口縁部	第10調査区西半部	28～54層（東壁断面）	13.20					
83	土師器坏身口縁部	第10調査区西半部	33層（東壁断面）	14.60				端部わずかに巻き込む形態。	
84	弥生式土器底部	第10調査区西半部	60層（東壁断面）		3.80			甕の平底。外面にタタキ目。	
85	弥生式土器底部	第10調査区西半部	55層（東壁断面）		4.60			壷の底部か。内面板ナデ。	
86	古式土師器高坏坏部	第10調査区西半部	28～54層（東壁断面）					外面ハケ目。	
87	古式土師器高坏脚部	第10調査区西半部	59層（東壁断面）					内面に粘土紐継ぎ目。	
88	土師器甕	第10調査区西半部	28～54層（東壁断面）	18.50				丸みのある体部から外反する口縁部が続く。端部は丸くおさめる。外面縦方向ハケ目、内面頸部以下横方向ハケ目。	7世紀中頃
89	土師器甕	第10調査区西半部	28～54層（東壁断面）	22.80				くの字形に外反する口縁端部がわずかに巻き込み外端面をなす。頸部以下に縦方向のハケ目。	7世紀後半～8世紀代
90	瓦質鉢口縁部？	第10調査区西半部	51層（西壁断面）	30.60				やや内彎しながらのびる口縁の端部が外反する。内面に横方向のハケ目、外面指でナデ。	中世？
91	須恵器無蓋高坏坏部	第10調査区西半部	33層（東壁断面）	10.80				坏部は直立気味に外反する。外面は無文で2条の凸線が巡る。	陶邑Ⅱ-5～6
92	須恵器坏蓋	第10調査区棚田段差石垣	裏込め攪乱盛土	15.50				天井部に丸みがあり、端部は内方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1～2
93	須恵器坏身	第10調査区東半部	ピット	10.20		3.60		内彎気味に立ちがある口縁部。底部は回転ヘラ切りの後、一部ナデ。内面中央に一定方向ナデ。	陶邑Ⅲ-1～2
94	青磁椀底部	第10調査区西半部	耕土・床土					龍泉窯系	13世紀中頃
95	瓦器椀底部	第10調査区西半部	63層（東壁断面）					見込みに斜格子状暗文。	尾上編年Ⅱ期
96	須恵器小型壷体部	第11-2調査区堀割埋積土	97・107・108層（8-8'断面）				体部最大径 12.0	肩の張る体部。	陶邑Ⅳ
97	瓦器椀底部	第11-2調査区排水施設周辺	床土	5.20				三角高台、見込み斜格子状暗文。	尾上編年Ⅱ期
98	瓦器椀底部	第11-2調査区堀割上中世堆積層	97・107.・108層（8-8'断面）	3.80				三角高台。	尾上編年Ⅱ期
99	瓦器小皿	第11-2調査区排水施周辺	床土	11.80		2.00		平底から口縁部が外上方にのび、端部はさらに外方に向き、尖り気味。内外面密にミガキ。	尾上編年Ⅱ期
100	瓦器小皿	第11-2調査区南側傾斜面	25層（7-7'断面）	10.20		2.20		平底から口縁部が外上方にのび、端部はさらに外方に向き、尖り気味。内外面密にミガキ。見込み斜格子状暗文。	尾上編年Ⅱ期
101	土師器把手	第11-2調査区南側平坦面	1層（13-13'断面）					鍋または壷の把手。	8世紀代
102	瓦器羽釜口縁部	第11-2調査区墳丘東斜面	20層（13-13'断面）	21.00				内頃する口縁部外面に段状の凹線が巡る河内型。内面横方向ハケ目。	13～15世紀
103	土師器小皿	第11-2調査区墳丘南側平坦面	床土	8.00		1.80		丸みのある底部から内彎しながらのびる口縁部。	13～14世紀
104	土師器坏	第11-2調査区堀割埋積土南側	第123層	10.80		3.40		低い器高で、丸みのある底部から口縁部が短く立ち上がる無文の坏。底部外面ヘラケズリ。	飛鳥Ⅱ
105	陶器碗	第11-2調査区東石室天井石攪乱部	28層（11-11'断面）		3.80			肥前系	18世紀
106	磁器碗	第11-2調査区東石室天井石攪乱部	123層（8-8'断面）	9.60	3.50	5.40		波佐見。コンニャク印判。	18世紀中頃

平成13年度調査区出土遺物観察表

挿図番号	器種	出土個所	層位ほか	法量(cm) 口径	底(高台)径	器高	その他	特徴	時期
125	須恵器高坏脚部	第2調査区	12～13・21層		15.70			端部に狭い内線が巡り、下方へ屈強する。	陶邑Ⅰ-3～5
126	土師器小皿	第2調査区	21層	11.20		1.10		平たい底部から屈曲して外反する厚い口縁部をなす。	中世
127	瓦器鍋口縁部	第2調査区	12～13・21層					内外面共に調整不明。器壁の薄い器。	尾上編年Ⅲ期以降
128	土師器甕	第2調査区南北トレンチ	10層	12.3～12.8		11.20		体部最大径が器高の3分の1程度にある丸底をなし、口縁部は短く内彎して立ち上がり、端部は内傾する。外面に縦方向のハケメ、内面は頸部以下へラケズリ、口縁部内外面はヨコナデ。	7世紀代
129	須恵器坏身	第2調査区南北トレンチ	8～10層	8.70				体部の丸みなく低い。受け部立ち上がりはわずかで内傾する。底部外面ヘラ記号あり。	陶邑Ⅱ-6
130	須恵器甕	第2調査区南北トレンチ	8～10層					肩の張る体部からゆるやかに外反する頸部。体部外面平行叩きの後、部分的磨耗調整。内面同心円文叩き。	陶邑Ⅲ～Ⅳ
131	瓦器鍋口縁部	4トレンチ西端より50m地点	16層	12.80				内外面ともに口縁端部まで密にヘラミガキ。ただし外面のミガキの分割は明瞭でない。器壁は比較的厚く、銀灰色の堅緻な器体。	Ⅱ-1～2
132	土師器坏身口縁部	4トレンチ拡張部	32層					内彎しながら立ち上がり上半がわずかに外反し、端部が内傾する坏A。	平城Ⅱ～Ⅴ
133	須恵器坏蓋	4トレンチ拡張部	41層	10.80				天井部から端部にかけてなだらかにカーブを描く。	陶邑Ⅱ-6
134	須恵器短頸壺口縁部	4トレンチ拡張部	32層	10.00				頸部短く直立し、外反気味にのび、口縁端部はやや内傾する。	陶邑Ⅱ-4～6
135	須恵器泉＋瓦	4トレンチ拡張部	32層				体部最大径 8.95	ラッパ状に開く鋒長い頸部から口縁部。体部は楕円形に近く、肩が張る。体部に文様はない。円孔が外から内に1つ穿孔されている。肩以下は回転ヘラケズリ。	陶邑Ⅲ-1～2 。
136	土師器鍋	4トレンチ拡張部	32層	13.40				内彎する弧を描いて立ち上がる椀C。端部がやや外反する。口縁部ヨコナデ、以下は不調整。	平城Ⅱ-Ⅴ
137	瓦器鍋	4トレンチ拡張部	32層	16.20		5.90		器壁の厚い深みのある器。三角形の高台がつく。内外面は口縁端部に至るまで密にミガキを重ねる。内底面は太い平行暗文。	陶邑Ⅰ-3～2-1
138	土師器台付き皿	4トレンチ拡張部	41層		10.80			ハの字形にふんばる高い高台がつく整緻な器。	12世紀後半
139	土師器小皿	4トレンチ拡張部	41層	11.00		1.70		底部から内彎気味に立ち上がる器。	中世
140	土師器小皿	4トレンチ拡張部	41層	9.00		1.50		底部から内彎気味に立ち上がる器。端部は細く丸める。	中世
141	土師器小皿	4トレンチ拡張部	32層	9.00		1.70		強いヨコナデにより外反する口縁部をなす。端部内傾し、内側が沈線状となる。	13世紀
142	須恵器坏身	4トレンチ拡張部	32層	9.40				丸みをもつ天井部からなだらかに下方する端部をもつ小型化した器。	陶邑Ⅱ-6
143	須恵器甕口縁部	4トレンチ拡張部	41層					ゆるやかに外反する口縁端部が内側に稜をなす。	陶邑Ⅲ
144	須恵器甕口縁部	4トレンチ拡張部	41層	20.60				ラッパ上に開く口縁部。端部は丸く下方する。	
145	土師器鍋	4トレンチ拡張部	35層	13.60				内彎する弧を描いて立ち上がる椀C。端部がやや肥厚し外反気味。口縁部ヨコナデ、以下は不調整。	平城Ⅱ-Ⅴ
146	土師器鍋	4トレンチ拡張部	35層	11.20				内彎する弧を描いて立ち上がる椀C。端部がやや肥厚し外反気味。口縁部ヨコナデ、以下は不調整。	平城Ⅱ-Ⅴ
147	弥生式土器高坏または古式土師器壺口縁部	4トレンチ拡張部	69層	19.00				器壁の厚い屈曲部に段をなし、拡がる口縁部。外面は縦方向に、内面は横方向に密にミガキ。	弥生後期後葉～庄内
148	土師器坏身	9トレンチ	不定形落ち込み	14.40				口縁部が底部から丸みをもって斜上方に立ち上がる坏A。口縁端部の肥厚小さく目立たず。調整不明。	平城Ⅲ～Ⅴ
149	土師器坏身	9トレンチ	不定形落ち込み	16.80				口縁部が底部から丸みをもって斜上方に立ち上がる坏A。口縁端部の肥厚小さく目立たず。調整不明。	平城Ⅲ～Ⅴ
150	土師器坏身	9トレンチ	不定形落ち込み	21.40				口縁部が底部から丸みのもって斜上方に立ち上がる坏A。口縁端部の肥厚小さく内傾する。調整不明。	平城Ⅲ～Ⅴ
151	土師器坏身	9トレンチ	不定形落ち込み	21.20				口縁部が底部から丸みをもって斜上方に立ち上がる坏A。口縁端部わずかに内傾する。調整不明。	平城Ⅱ～Ⅴ
152	土師器甕	9トレンチ	不定形落ち込み					くの字形に外反する口縁部をもつ甕。口縁端部を内へ折り曲げる。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面指オサエ、外面ナデ。	7世紀後半～9世紀代
153	土師器甕	9トレンチ	不定形落ち込み					くの字形に外反する口縁部をもつ甕。端部は上端面をもつ。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面指オサエ、内面指オサエの後、工具でナデ。	7世紀中頃～8世紀代
154	土師器甕	9トレンチ	不定形落ち込み	31.00				体部からやや外彎気味にのびる口縁部をもつ甕A。端部は外端面をなし、上部がわずかに立ち上がる。口縁部内面には横方向のハケメ、体部はナデ、外面では口縁部から体部にかけて縦方向のハケメの後、口縁部と体部の境をヨコナデ。	7世紀後半～8世紀代
155	土師器鉢（壺）	9トレンチ	不定形落ち込み	30.00				底部より外斜方にのび、口縁部で内彎して立ち上がる。端部は拡張し上端面をなす。口縁部内外面ヨコナデ、体部ナデ。	8世紀代
156	土師器小皿	9トレンチ	不定形落ち込み					底部から丸みをもって立ち上がる口縁部。端部は外反する。	中世
157	土師器小皿	9トレンチ	不定形落ち込み					底部から丸みをもって立ち上がる口縁部。端部は外反する。	中世
158	土師器甕口縁部	9トレンチ	不定形落ち込み					くの字形に外反する口縁部をもつ甕。口縁端部を内へ折り曲げる。口縁部内外面ヨコナデ。	7世紀後半～9世紀代
159	土師器甕口縁部	9トレンチ	不定形落ち込み					やや外彎気味にのびる口縁部をもつ甕。端部は外端面をなし、上部がわずかに立ち上がる。口縁部内面には横方向のハケメ。	7世紀後半～8世紀代
160	土師器鍋	9トレンチ	不定形落ち込み	14.10		4.50		内彎する弧を描いて立ち上がる椀C。端部が肥厚する。口縁部ヨコナデ、以下は不調整。	平城Ⅱ-Ⅴ
161	土師器鉢底部	9トレンチ	不定形落ち込み		8.40			平坦な底部から内彎して立ち上がる体部をもつ。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。	8世紀代
162	須恵器坏蓋	9トレンチ	不定形落ち込み	17.00		1.85		天井部から端部にかけてZ字状のカーブを描く、端部は下方へ屈曲させ尖をなす。擬宝珠形つまみは扁平で、中央がやや突出する。	陶邑Ⅳ-3
163	須恵器坏蓋	9トレンチ	不定形落ち込み					Z字状カーブを描く端部。	陶邑Ⅳ-3
164	須恵器坏蓋	9トレンチ	不定形落ち込み					端部が短く下方する。	陶邑Ⅳ-2
165	須恵器坏蓋	9トレンチ	不定形落ち込み					底端部に幅広の高台がつく。外端部が接地面となる。	陶邑Ⅳ-3
166	須恵器瓶子底部	9トレンチ	不定形落ち込み		5.00			細く短い高台がハの字形につく。	陶邑Ⅳ
167	土師器鍋	12・22トレンチ	3・4層	11.60				内彎する弧を描いて立つ口縁部をもつ椀C。端部内端面をなす。調整不明。	平城Ⅲ～Ⅴ
168	土師器鍋	12・22トレンチ	3・4層	13.00				内彎する弧を描いて立つ口縁部をもつ椀C。端部内端面をなす。口縁部ヨコナデ、以下は指オサエ。	平城Ⅲ～Ⅴ
169	土師器鍋	12・22トレンチ	3・4層	14.00				内彎する弧を描いて立つ口縁部をもつ椀C。端部内端面をなす。口縁部ヨコナデ、以下は指オサエ。	平城Ⅲ～Ⅴ
170	土師器鍋	12・22トレンチ	3・4層	14.00				内彎する弧を描いて立つ口縁部をもつ椀C。端部内端面をなす。口縁部ヨコナデ、以下は指オサエ。	平城Ⅲ～Ⅴ
171	土師器鍋	12・22トレンチ	3・4層	14.00				内彎する弧を描いて立つ口縁部をもつ椀C。端部内端面をなす。口縁部ヨコナデ、以下は指オサエ。	平城Ⅲ～Ⅴ
172	土師器鍋	12・22トレンチ	3・4層	14.00				内彎する弧を描いて立ち上がる椀C。端部がやや肥厚し外反気味。口縁部ヨコナデ、以下は不調整。	平城Ⅱ～Ⅴ
173	土師器鍋	12・22トレンチ	3・4層	16.40				口縁部が底部から丸みのもって斜上方に立ち上がる坏A。口縁端部の肥厚小さく目立たず。口縁部内外面ヨコナデ。	平城Ⅲ～Ⅴ
174	土師器坏身	12・22トレンチ	3・4層	17.10				口縁部が底部から丸みをもって斜上方に立ち上がる坏A。口縁端部内側へわずかに内傾する。口縁部ヨコナデ。	平城Ⅲ～Ⅴ
175	土師器坏身	12・22トレンチ	3・4層	17.00				口縁部が底部から丸みのもって斜上方に立ち上がる坏A。口縁端部内側へわずかに内傾する。調整不明。	平城Ⅲ～Ⅴ
176	土師器坏身	12・22トレンチ	3・4層	20.00				口縁部が底部から丸みのもって斜上方に立ち上がる坏A。口縁端部内側へわずかに内傾する。外面ヨコナデ。内面調整不明。	平城Ⅲ～Ⅴ
177	土師器坏身	12・22トレンチ	3・4層					口縁部が底部から丸みのもって斜上方に立ち上がる坏A。口縁端部内側へわずかに内傾する。調整不明。	平城Ⅲ～Ⅴ
178	土師器甕	12・22トレンチ	3・4層	19.00				くの字形に外反する口縁部をもつ甕。口縁端部をわずかに巻き込み外端面をなす。口縁部内外面ヨコナデ。体部ナデ。	7世紀後半～8世紀代
179	土師器甕	12・22トレンチ	3・4層	23.00				強く外反する口縁部で、端部は外端面をなし、下方に稜をなす、口縁部内外面ヨコナデ、体部は内外面ナデ。	7世紀後半～8世紀代
180	土師器甕	12・22トレンチ	3・4層	30.00				体部からやや外彎気味にのびる口縁部をもつ甕A。端部は外端面をなし、上部がわずかに立ち上がる。口縁部内面には横方向のハケメ、体部はナデ、外面では口縁部から体部にかけて縦方向のハケメの後、口縁部と体部の境をヨコナデ。	7世紀後半～8世紀代
181	土師器甕	12・22トレンチ	3・4層					くの字形に外反する口縁部をもつ甕。口縁端部をわずかに巻き込み外端面をなす。口縁部内外面ヨコナデ。	7世紀後半～8世紀代
182	土師器甕	12・22トレンチ	3・4層	13.00				くの字形に短く斜方にのびる口縁部をなす。口縁部内面ヨコナデ、以下ナデ。外面調整不明。	7世紀後半～8世紀代
183	土師器甕	12・22トレンチ	3・4層	13.60				くの字形に短く斜方にのびる口縁部をなす。口縁部内面ヨコナデ。	7世紀後半～8世紀代
184	土師器甕	12・22トレンチ	3・4層	14.00				くの字形に外反する口縁部をもつ甕。端部は上端面をもつ。口縁部内外面ヨコナデ。	7世紀中頃～8世紀代
185	土師器甕	12・22トレンチ	3・4層	12.60				くの字形に外反し、口縁端部の内側への巻き込みが目立たず、小さな外端面をなす、口縁部内面ヨコナデ。その他調整不明。	8～9世紀
186	土師器甕	12・22トレンチ	3・4層	13.00				くの字形に外反し、口縁端部の内側への巻き込みが目立たず、小さな外端面をなす、口縁部内外をヨコナデ。以下ナデ。	8～9世紀
187	土師器甕	12・22トレンチ	3・4層	13.30				体部から直立気味に立ち上がり口縁端部は外反し、上に軽い端面をなす。口縁部内面ヨコナデ。	7世紀後半～8世紀
188	土師器甕	12・22トレンチ	3・4層	16.60				体部から直立気味に立ち上がり口縁端部は外反し、上に軽い端面をなす。口縁部内面ヨコナデ。	7世紀後半～8世紀
189	土師器甕	12・22トレンチ	3・4層	16.70				体部から直立気味に立ち上がり口縁端部は外反し、上に軽い端面をなす。口縁部内面ヨコナデ。体部内面ナデ。	7世紀後半～8世紀
190	土師器甕	12・22トレンチ	3・4層	15.80				体部から直立気味に立ち上がり口縁端部は外反し、上に軽い端面をなす。口縁部内面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面不調整。	7世紀後半～8世紀
191	土師器鉢	12・22トレンチ	3・4層	30.00				斜上方へゆるやかに開く口縁部を持つ。端部は丸くおさめる。内外面をナデ。	8世紀代
192	土師器鍋把手	12・22トレンチ	3・4層					釜または甕（鍋）三角状把手。	8世紀代
193	土師器羽釜	12・22トレンチ	3・4層				鍔径27.4	口縁部下に水平につく鍔部。	7世紀後半～8世紀
194	須恵器坏蓋	12・22トレンチ	3・4層	10.00				天井部丸みがあり、端部は丸い。	陶邑Ⅱ-6
195	須恵器坏蓋	12・22トレンチ	3・4層	7.00				丸みのある天井部端部より下方にかえりがくる。	陶邑Ⅲ-1
196	須恵器坏蓋	12・22トレンチ	3・4層				つまみ径2.70	扁平な擬宝珠形のつまみで中央がやや突出する。	陶邑Ⅳ-3～4
197	須恵器坏蓋	12・22トレンチ	3・4層				つまみ径2.85	扁平な擬宝珠形のつまみで中央がやや突出する。	陶邑Ⅳ-3～4
198	須恵器坏蓋	12・22トレンチ	3・4層				つまみ径2.10	小さい擬宝珠形のつまみで中央はほとんど突出しない。	陶邑Ⅳ-4
199	須恵器坏蓋	12・22トレンチ	3・4層	17.00				天井部は平たく、端部はZ字状に屈曲する。	陶邑Ⅳ-4

200	須恵器坏蓋	12・22トレンチ	3・4層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑IV-1～2
201	須恵器坏蓋	12・22トレンチ	3・4層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑IV-1～2
202	須恵器坏蓋	12・22トレンチ	3・4層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑IV-1～2
203	須恵器坏蓋	12・22トレンチ	3・4層					端部は下方へ屈曲させている。	陶邑IV-2
204	須恵器坏蓋	12・22トレンチ	3・4層					端部は下方へ屈曲させている。	陶邑IV-2
205	須恵器坏蓋	12・22トレンチ	3・4層					天井部から端部にかけて2字状のカーブを描く。端部は下方へ屈曲させ段をなす。	陶邑IV-3
206	須恵器坏蓋	12・22トレンチ	3・4層					天井部から端部にかけて2字状のカーブを描く。端部は下方へ屈曲させ段をなす。	陶邑IV-3
207	須恵器坏蓋	12・22トレンチ	3・4層					端部は下方へ屈曲させている。	陶邑IV-2
208	須恵器坏蓋	12・22トレンチ	3・4層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑IV-1～2
209	須恵器坏身	12・22トレンチ	3・4層		11.60	3.50		逆ハの字形に外反する口縁部。底端部よりやや中心寄りに低い幅広の高台がつく。	陶邑IV-1～2
210	須恵器坏身	12・22トレンチ	3・4層		11.60			底部端やや中心寄りに幅広の高台がつき、内端部で接地する。	陶邑IV-3
211	須恵器坏身	12・22トレンチ	3・4層		10.00			底端部の中心寄りにハの字形の高台がつく。	陶邑III-3～IV-1
212	須恵器坏身	12・22トレンチ	3・4層		8.80			底端部に低い幅広の高台がつく。	陶邑IV-3
213	須恵器坏身	12・22トレンチ	3・4層		10.00			底端部よりやや中心寄りに幅広の高台がつく。外端部接地面となる。	陶邑IV-2～3
214	須恵器坏身	12・22トレンチ	3・4層		9.20			細い高台が底端部につく。	陶邑IV-3～4 。
215	須恵器坏身	12・22トレンチ	3・4層		9.40			底端部に低い幅広の高台がつく。	陶邑IV-3
216	須恵器坏身	12・22トレンチ	3・4層		12.00			底端部に低い幅広の高台がつく。接地面は平坦。	陶邑IV-3
217	須恵器坏身	12・22トレンチ	3・4層		13.00			底端部に低い幅広の高台がつく。接地面は平坦。	陶邑IV-3
218	須恵器坏身	12・22トレンチ	3・4層	23.00				逆ハの字形にゆるやかに外反する大形の坏身の口縁部。	陶邑IV
219	須恵器短頸壺	12・22トレンチ	3・4層	17.00				口縁部上端に面をなす短頸壺の口縁部。頸部外面に沈線。	陶邑IV
220	須恵器小型壺	12・22トレンチ	3・4層		4.00		体部最大径 7.40	肩の張りがない楕円形体部。	陶邑IV-2～4
221	須恵器小型壺	12・22トレンチ	3・4層		5.00			細く短い高台がハの字形につく。	陶邑IV
222	須恵器坏身	12・22トレンチ	3・4層		14.00			ハの字形に開く細くて高い高台が底端部よりやや中心寄りにつく大形の器。	陶邑IV-1～2
223	須恵器壺	12・22トレンチ	3・4層		10.00			幅広の高い高台がハの字形につく。内端部が接地面となる。	陶邑III-2・3～IV
224	須恵器壺	12・22トレンチ	3・4層		7.40			底部平坦。	陶邑IV-3～4
225	磁器碗	12・22トレンチ	3・4層		5.80			青線文広東碗。波佐見窯系。	9世紀前半
226	磁器皿	12・22トレンチ	3・4層	12.00				無文。口縁端返り。唐津皿？	
227	須恵器坏蓋	13トレンチ	22～50層	16.60				内面のかえりは口縁端部ラインより下方へ張り出さない。	陶邑III-2
228	須恵器坏蓋	13トレンチ	22～50層	17.20				端部は内方へ屈曲させている。	陶邑IV-1～2
229	須恵器坏蓋	13トレンチ	22～50層					2字状カーブを描く端部。	陶邑IV-3～4
230	土師器碗	14トレンチ	22～50層	14.60		4.50		内彎する弧を描いて立ち上がる椀C。端部が肥厚する。口縁部ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ。	平城II-IV
231	須恵器坏蓋	14トレンチ	22～50層				つまみ径2.80	内外面ナデ。坏Bの蓋か。	世紀代
232	土師器坏身	14トレンチ	22～50層					口縁部が底部から丸みをもって斜上方に立ち上がる坏A。口縁端部の肥厚小さく内傾する。調整不明。	平城III～V
233	土師器坏身	14トレンチ	22～50層					口縁部が底部から丸みをもって斜上方に立ち上がる坏A。口縁端部の肥厚小さく内傾する。調整不明。	平城III～V
234	土師器坏身	14トレンチ	22～50層	20.30				口縁部が底部から丸みをもって斜上方に立ち上がる坏A。端部は軽く巻き込み、内側に沈線が巡る。口縁部内外面ヨコナデ。	平城II～III
235	土師器甕	14トレンチ	22～50層					くの字形に短く斜方にのびる口縁部をなす。口縁部内面ヨコナデ、以下ナデ。外面調整不明。	世紀後半～8世紀代
236	土師器甕	14トレンチ	22～50層	14.40				くの字形に外反する口縁部をもつ甕。端部は上端面をもつ。口縁部内外面ヨコナデ。	世紀中頃～8世紀代
237	土師器高坏	14トレンチ	22～50層	22.80				扁平な坏部をなし、端部はやや下方して丸く肥厚する。外面ヘラケズリ。その他は調整不明。	平城III～V
238	土師器把手付き蓋	14トレンチ	22～50層	14.40			体部最大径 19.00	肩の張った体部に直立する短い口縁部がつく蓋A。体部中位に把手がつく。調整不明。	平城II
239	須恵器坏蓋	14トレンチ	22～50層	13.80				天井部は平たく、端部は2字状に屈曲する。	陶邑IV-4
240	須恵器坏蓋	14トレンチ	22～50層					端部は2字状に屈曲する。	陶邑IV-4
241	須恵器坏蓋	14トレンチ	22～50層					端部は下方へ屈曲させている。	陶邑IV-2
242	須恵器坏蓋	14トレンチ	22～50層					端部は2字状に屈曲する。	陶邑IV-4
243	須恵器坏蓋	14トレンチ	22～50層					端部は2字状に屈曲する。	陶邑IV-4
244	須恵器坏身	14トレンチ	22～50層	18.20				S字形のカーブを描いて外反する口縁部。	陶邑III-2～IV
245	須恵器坏身	14トレンチ	22～50層	17.20				S字形のカーブを描いて外反する口縁部。	陶邑III-2～IV
246	須恵器坏身	14トレンチ	22～50層		9.60			ハの字形に開く高台が底端部より中心寄りにつく。	陶邑IV-1～2
247	須恵器坏身	14トレンチ	22～50層		12.20			底端部近くに幅広の低い高台がつく。接地面はほぼ平坦。	陶邑IV-3～4
248	須恵器坏身	14トレンチ	22～50層		12.40			底端部に低い高台がつく。	陶邑IV-3
249	須恵器坏身	14トレンチ	22～50層		15.20			底端部より中心寄りに低い幅広の高台がつく。	陶邑IV-1～2
250	須恵器坏身	14トレンチ	22～50層		14.00			底端部に低い高台がハの字形につく。接地面は平坦面をなす。	陶邑IV-3
251	須恵器坏身	14トレンチ	22～50層		16.50			底部端やや内側に幅広の高台がつき、内端部で接地する。	陶邑IV-3
252	須恵器小型壺	14トレンチ	22～50層				体部最大径 8.00	楕円形カーブを描く体部。長頸壺か。	陶邑IV
253	須恵器小型壺	14トレンチ	22～50層				体部最大径 11.20	肩の張る体部。長頸壺か。	陶邑III-3～IV-3
254	須恵器壺	14トレンチ	22～50層				体部最大径 18.20	肩の張る体部。短頸壺か。	陶邑III-3～IV-3
255	須恵器小型壺	14トレンチ	22～50層		7.00			ハの字形の比較的高い高台を付し、内端部が接地面となる。	陶邑IV-1～2
256	須恵器甕	14トレンチ	22～50層		20.80			口縁部外反し、端部やや下方気味に肥厚する。	陶邑I-5・6～III
257	須恵器甕	14トレンチ	22～50層					口縁部外反し、端部やや下方気味に肥厚する。	陶邑I-5・6～III
258	須恵器甕	14トレンチ	22～50層					やや外反する口縁端部は下方に肥厚してのび、上端は内彎気味に立ち上がる。頸部外面には縦方向に強いヘラ沈線を入れた後、横方向に沈線を加える。	陶邑II-5～6 。
259	土師器甕	14トレンチ	22～50層					くの字形に外反する口縁部をもつ甕。口縁端部を内へ折り曲げる。口縁部内外面ヨコナデ。	7世紀後半～9世紀代
260	須恵器甕	14トレンチ	22～50層					くの字形に外反する口縁部。口縁部内外面ヨコナデ。体部にタタキ目。	7世紀後半～9世紀代
261	土師器坏蓋	15トレンチ	4・5、9～15・17層	19.80				蓋A。平坦な天井部から下る緩のまるいもので、端部をわずかに内側へ巻き込む。やや厚い器体。内外面ヨコナデ、内面一部ナデ。	平城II～V
262	土師器坏蓋	15トレンチ	4・5、9～15・17層	18.00				蓋A。平坦な天井部からなめらかに下る緩のまるいもので、端部をわずかに内側へ巻き込む。器壁の薄い器。内外面ヨコナデ。外面にミガキ。	平城II～V
263	土師器坏蓋	15トレンチ	4・5、9～15・17層	19.40				蓋A。平坦な天井部からなめらかに下る緩のまるいもので、端部をわずかに内側へ巻き込む。器壁の薄い器。内外面ヨコナデ。外面横方向のミガキ、内面内から外へミガキ。	平城II～V
264	土師器坏蓋	15トレンチ	4・5、9～15・17層	15.40				蓋A。平坦な天井部からなめらかに下る緩のまるいもので、端部をわずかに内側へ巻き込む。器壁の薄い器。内外面ヨコナデ。外面内から外へミガキ、内面ミガキ。	平城II～V
265	土師器坏身	15トレンチ	4・5、9～15・17層	13.60				椀Cの口縁部。端部外反する。調整不明。	平城II～V
266	土師器坏身	15トレンチ	4・5、9～15・17層	10.80				丸底の体部から内彎して立ち上がる口縁部をもつ坏C。端部内側に面をなす。口縁部内外面ヨコナデ。底部外面指オサエのまま。内面に細い放射状暗文。	平城II～III
267	土師器坏身	15トレンチ	4・5、9～15・17層	17.90		3.85		口縁部が底部から丸みをもって斜上方に立ち上がる坏A。端部は軽く巻き込み、内側に沈線が巡る。口縁部内外面ヨコナデ。内面放射状暗文、外面ミガキ。	平城II～III
268	土師器坏身	15トレンチ	4・5、9～15・17層	16.40		3.70		口縁部が底部から丸みをもって斜上方に立ち上がる坏A。端部は軽く巻き込む。口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。	平城II～III
269	土師器坏身	15トレンチ	4・5、9～15・17層	19.60				端部は軽く巻き込む坏A。内面調整不明。外面ミガキ。	平城II～III
270	土師器坏身	15トレンチ	4・5、9～15・17層	18.00				端部は軽く巻き込む坏A。口縁部内外面ヨコナデ。底部ヘラケズリ。	平城II～III
271	土師器椀	15トレンチ	4・5、9～15・17層	15.20		3.90		丸底から内彎する弧を描いて立つ口縁部をもつ椀C。端部外反し内端面をなす。口縁部内外面ヨコナデ。底部指オサエのまま。	平城III～V
272	土師器椀	15トレンチ	4・5、9～15・17層	13.60				内彎する弧を描いて立つ口縁部をもつ椀C。端部外反し内端面をなす。口縁部内外面ヨコナデ。底部指オサエのまま。	平城III～V
273	土師器椀	15トレンチ	4・5、9～15・17層	13.80		4.30		丸底から内彎する弧を描いて立つ口縁部をもつ椀C。端部外反し内端面をなす。口縁部内外面ヨコナデ。底部指オサエのまま。	平城III～V
274	土師器椀	15トレンチ	4・5、9～15・17層	15.00				内彎する弧を描いて立つ口縁部をもつ椀C。端部外反し内端面をなす。口縁部内外面ヨコナデ。底部指オサエのまま。	平城III～V
275	土師器椀	15トレンチ	4・5、9～15・17層	16.40				内彎する弧を描いて立つ口縁部をもつ椀C。端部外反し内端面をなす。口縁部内外面ヨコナデ。底部指オサエのまま。	平城III～V
276	土師器皿	15トレンチ	4・5、9～15・17層	12.80		2.50		低平化した坏C。端部はやや外反気味に終える。口縁部内外面ヨコナデ。底部未調整。内面放射状暗文。	平城II、8世紀前半。
277	土師器皿	15トレンチ	4・5、9～15・17層	10.80		1.60		平たい底部から外斜方にのび端部丸く仕上げる皿A皿。口縁部内外面ヨコナデ。底部未調整。内面には斜放射状暗文。	平城II～III

278	土師器皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	13.60		1.80		平たい底部から外斜方にのび端部丸く仕上げる皿AⅢ。口縁部内外面ヨコナデ。底部ヘラケズリ。内面には斜放射状暗文。	平城Ⅱ〜Ⅲ
279	土師器皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	14.00		1.90		平たい底部から外斜方にのび端部やや細く丸く仕上げる皿AⅢ。口縁部内外面ヨコナデ。底部未調整。	平城Ⅱ〜Ⅲ
280	土師器皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	18.20		2.45		外反する口縁端部がわずかに内傾する皿AⅡ。口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。	平城Ⅱ〜Ⅲ
281	土師器皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	19.00				外反する口縁端部を内側に巻き込む皿AⅡ。口縁部内外面ヨコナデ。	平城Ⅱ〜Ⅲ
282	土師器皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	24.00		3.60		外反する口縁端部がわずかに内傾する皿AⅠ。口縁部ヨコナデ。底部外面未調整。内面調整不明。	平城Ⅱ〜Ⅲ
283	土師器坏または皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					外反する口縁端部を内側に巻き込む形態。口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。	平城Ⅱ〜Ⅲ
284	土師器坏または皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					外反する口縁端部がわずかに内傾する形態。口縁部ヨコナデ。	平城Ⅱ〜Ⅲ
285	土師器坏または皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					外反する口縁端部がわずかに内傾する形態。口縁部ヨコナデ。	平城Ⅱ〜Ⅲ
286	土師器坏または皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					外反する口縁端部がわずかに内傾する形態。口縁部ヨコナデ。底部不調整。	平城Ⅱ〜Ⅲ
287	土師器坏または皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					口縁端部が外反する形態。口縁部内外面ヨコナデ。底部外面不調整。	平城Ⅱ〜Ⅲ
288	土師器坏または皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					外反する口縁端部を内側に巻き込む形態。口縁部内外面ヨコナデ。底部外面不調整。内面斜放射状暗文。	平城Ⅱ〜Ⅲ
289	土師器坏または皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					口縁部外反し丸く仕上げる形態。口縁部内外面ヨコナデ。内面斜放射状暗文。	平城Ⅱ〜Ⅲ
290	土師器坏または皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					外反する口縁端部がわずかに内傾する形態。口縁部ヨコナデ。外面全体ミガキ。	平城Ⅱ〜Ⅲ
291	土師器皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					口縁端部を肥厚させて内側に巻き込む形態。外面ミガキ。内面放射状暗文。	平城Ⅱ〜Ⅲ
292	土師器皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	19.40				内彎して立ち上がる口縁部の端部を内側に巻き込む皿AⅡ。内面ヨコナデ。外面ミガキ。	平城Ⅱ〜Ⅲ
293	土師器皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	20.60				口縁部の端部を内側に巻き込む皿AⅡ。口縁部内外面ヨコナデ。底部不調整。	平城Ⅱ〜Ⅲ
294	土師器皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	20.30				口縁部の端部を内側に巻き込む皿AⅡ。口縁部内外面ヨコナデ。底部不調整。内面斜放射状暗文。	平城Ⅱ〜Ⅲ
295	土師器皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	22.20				内彎して立ち上がる口縁部の端部をわずかに内側に巻き込む皿AⅠ。内面ヨコナデ。底部外面不調整。	平城Ⅱ〜Ⅲ
296	土師器皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	23.90		5.00		内彎して立ち上がる口縁部の端部を内側に巻き込む皿AⅠ。外面ミガキ、底部外面不調整。内面斜放射状暗文。	平城Ⅱ〜Ⅲ
297	土師器坏底部	15トレンチ	4・5、9〜15・17層		13.20			底径より見て坏BⅢ底部か。高台内外ヨコナデ。ほか調整不明。	平城Ⅱ〜Ⅲ
298	土師器皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	22.80				口縁端部外反し、上端面をなす皿AⅠ。外面粗いミガキ。内面調整不明。	平城Ⅱ〜Ⅲ
299	土師器皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	29.70	25.10			内彎して立ち上がる口縁部の端部をわずかに内側に巻き込む皿BⅠ。外面ミガキ。内面斜放射状暗文と連弧状暗文。	平城Ⅱ〜Ⅲ
300	土師器皿	15トレンチ	4・5、9〜15・17層		29.00			底径より見て皿BⅠか。高台部ヨコナデ。ほか調整不明。	平城Ⅱ〜Ⅲ
301	土師器鉢	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					外斜方にのびる口縁部の端部が外端面をなす形態。外面は密にヘラミガキ、内面は斜放射状暗文。	平城Ⅱ〜Ⅲ
302	土師器壺	15トレンチ	4・5、9〜15・17層		6.00			高台のつく小型の器。器表面荒れ激しく調整不明。	8世紀代
303	土師器羽釜	15トレンチ	4・5、9〜15・17層				鍔径32.00	口縁部下に水平につく鍔部。内面に横方向のハケメ。	7世紀後半〜8世紀中頃
304	土師器把手	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					釜または甕（鍋）の三角状把手。	8世紀代
305	土師器把手	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					釜または甕（鍋）の三角状把手。	8世紀代
306	土師器把手	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					釜または甕（鍋）の三角状把手。	8世紀代
307	土師器把手	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					釜または甕（鍋）の三角状把手。	8世紀代
308	土師器電搬	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					外面縦方向の細かいハケメ。内面はハケメの後ナデ。底端面はナデ。	8世紀代
309	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	15.20				くの字形に外反する口縁部をもつ甕AⅢ。口縁端部を内へ折り曲げる。口縁部外面ヨコナデ、内面横方向のハケメ。	7世紀後半〜9世紀代
310	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	17.00				口縁端部は外反し、上に軽い端面をなす甕AⅢ。口縁部外面ヨコナデ、内面横方向ハケメ。	7世紀後半〜8世紀
311	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	16.80				口縁端部は外反し、上に軽い端面をなす甕AⅢ。口縁部内面ヨコナデ。	7世紀後半〜8世紀
312	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	18.40				くの字形に外反する口縁部をもつ甕AⅡ。口縁端部をわずかに巻き込み外端面をなす。口縁部内面横方向のハケメ、外面縦方向のハケメ、除頸ヨコナデ。	7世紀後半〜8世紀代
313	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	19.80				くの字形に外反する口縁部をもつ甕AⅢ。口縁端部を内へ折り曲げる。口縁部内面横方向のハケメ、外面縦方向のハケメ。	7世紀後半〜9世紀代
314	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	26.20				くの字形に外反する口縁部をもつ甕AⅠ。口縁端部を内へ折り曲げる。内面頸部下に軽い横方向のハケメ、口縁部内外面ヨコナデ。内面煤痕あり。	7世紀後半〜9世紀代
315	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	27.20				口縁端部をわずかに巻き込み外端面をなす甕AⅠ。口縁部内面横方向のハケメ、外面ヨコナデ。	7世紀後半〜8世紀代
316	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	28.30				口縁端部を内側に巻き込む甕AⅠ。口縁部から体部へはなだらかに下がる。口縁部内部横方向ハケメ、以下は指押さえの後ナデ。外面は口縁部から体部にかけて縦方向にハケメを重ねる。頸部では横方向にナデ。	7世紀後半〜8世紀代
317	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	27.20				体部からやや外彎気味にのびる口縁部をもつ甕AⅠ。端部は外端面をなし、上部がわずかに立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ、外面は頸部以下縦方向のハケメ。	7世紀後半〜8世紀代
318	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	29.20				体部からやや外彎気味にのびる口縁部をもつ甕AⅠ。端部は外端面をなし、上部がわずかに立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。	7世紀後半〜8世紀代
319	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	31.80				体部からやや外彎気味にのびる口縁部をもつ甕AⅠ。端部は外端面をなし、上部がわずかに立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ、外面は頸部以下縦方向ハケメ、内面は頸部以下横方向に板ナデ。	7世紀後半〜8世紀代
320	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					やや外彎気味にのびる口縁端部が外端面をなす形態。上部がわずかに立ち上がる。口縁部外面ヨコナデ、内面にハケメ。	7世紀後半〜8世紀代
321	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					やや外彎気味にのびる口縁端部が外端面をなす形態。上部がわずかに立ち上がる。口縁部外面ヨコナデ。	7世紀後半〜8世紀代
322	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					やや外彎気味にのびる口縁端部が外端面をなす形態。上部がわずかに立ち上がる。口縁部外面ヨコナデ、内面にハケメ。	7世紀後半〜8世紀代
323	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					口縁端部を内側に巻き込む形態。口縁部外面ヨコナデ、内面横方向ハケメ。	7世紀後半〜8世紀代
324	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					やや外彎気味にのびる細い口縁端部が外端面をなす形態。上部がわずかに立ち上がる。口縁部外面ヨコナデ。	7世紀後半〜8世紀代
325	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					やや外彎気味にのびる細い口縁端部が肥厚する形態。口縁部外面にハケメがわずかに残る。	7世紀後半〜8世紀代
326	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					くの字形に外斜方へのびる口縁部で外端面をなす形態。口縁部ヨコナデ、内面ハケメ。	7世紀後半〜8世紀代
327	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					やや外彎気味にのびる口縁部で端部が外端面をなす形態。口縁部内外面ヨコナデ。	7世紀後半〜8世紀代
328	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					やや外彎気味にのびる口縁部で端部が外端面をなす形態。口縁部内外面ヨコナデ。	7世紀後半〜8世紀代
329	土師器甕	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					体部から直立気味に立ち上がり口縁端部は外反し、上に軽い端面をなす。口縁部内外面ヨコナデ。	7世紀後半〜8世紀代
330	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	9.00				内面のかえりは口縁端部ラインより下方へ張り出さない。	陶邑Ⅲ-2
331	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	15.40				端部は内方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1〜2
332	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	15.80				端部は下方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-2
333	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	16.00				端部は下方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-2
334	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	16.40				端部は下方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-2
335	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	18.00				端部は下方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-2
336	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層	6.90				天井部は平たく、端部は2段状に屈曲する。	陶邑Ⅳ-4
337	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層				つまみ径4.20	扁平な擬宝珠形のつまみで中央がやや突出する。	陶邑Ⅳ-3〜4
338	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層				つまみ径3.00	扁平な擬宝珠形のつまみで中央がやや突出する。	陶邑Ⅳ-3〜4
339	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層				つまみ径2.60	扁平な擬宝珠形のつまみで中央がやや突出する。	陶邑Ⅳ-3〜4
340	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層				つまみ径3.00	扁平な擬宝珠形のつまみで中央の突出みられない。	陶邑Ⅳ-4
341	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					内面のかえりは口縁端部のラインより上にくる。	陶邑Ⅲ-3
342	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					内面のかえりは口縁端部のラインより上にくる。	陶邑Ⅲ-3
343	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1〜2
344	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1〜2
345	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1〜2
346	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1〜2
347	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1〜2
348	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1〜2
349	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1〜2
350	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1〜2
351	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1〜2
352	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1〜2
353	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1〜2
354	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1〜2
355	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9〜15・17層					端部は内方へ屈曲させている。	陶邑Ⅳ-1〜2

356	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9−15・17層					端部は下方へ屈曲させている。	陶邑IV-2
357	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9−15・17層					端部は下方へ屈曲させている。	陶邑IV-2
358	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9−15・17層					端部は下方へ屈曲させている。	陶邑IV-2
359	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9−15・17層					端部は下方へ屈曲させている。	陶邑IV-2
360	須恵器坏蓋	15トレンチ	4・5、9−15・17層					端部はZ字状に屈曲する。	陶邑IV-4
361	須恵器坏身	15トレンチ	4・5、9−15・17層	12.70	9.20	3.70		ややS字状をカーブを描いて外反する口縁部。	陶邑III-2〜IV-4
362	須恵器坏身	15トレンチ	4・5、9−15・17層	17.00		3.30		ややS字状をカーブを描いて外反する口縁部。	陶邑III-2〜IV-4
363	須恵器坏身	15トレンチ	4・5、9−15・17層	12.30	9.20	3.70		ややS字状をカーブを描いて外反する口縁部。	陶邑III-2〜IV-4
364	須恵器坏身	15トレンチ	4・5、9−15・17層	12.40	8.70	3.45		ややS字状をカーブを描いて外反する口縁部。	陶邑III-2〜IV-4
365	須恵器坏身	15トレンチ	4・5、9−15・17層		9.00			逆ハの字形に外反する口縁部。深みのある器。	陶邑IV-3〜4
366	須恵器坏身	15トレンチ	4・5、9−15・17層	14.60	9.00	4.25		底部からなめらかにやや内彎気味立ち上がる口縁部にいたる。ハの字形の高台が底端部やや中心寄りにつく。内端部が接地面となる。	陶邑III-2〜3
367	須恵器坏身	15トレンチ	4・5、9−15・17層	14.60	9.80	4.60		底部から外斜方にのびる口縁部。ハの字形の幅広い高台が底端部やや中心寄りにつく。内端部が接地面となる。	陶邑III-2〜3
368	須恵器坏身	15トレンチ	4・5、9−15・17層	15.30	10.40	3.7−3.85		底部からやや内彎気味立ち上がり、口縁端部は外反する。直立に近い高台が底端部やや中心寄りにつく。外端部が接地面となる。	陶邑III-3
369	須恵器坏身	15トレンチ	4・5、9−15・17層	18.10	13.30	6.15		直線的に外斜方にのびる口縁部。底端部にハの字形高台がつく。	陶邑IV-4〜V-1
370	須恵器坏身	15トレンチ	4・5、9−15・17層	14.80	12.60	3.30		外斜方にのびる口縁部。	陶邑III-2・3〜IV
371	須恵器坏身	15トレンチ	4・5、9−15・17層	14.30				外斜方にのびる口縁部。	陶邑III-2・3〜IV
372	須恵器坏身	15トレンチ	4・5、9−15・17層	14.80	12.50	3.30		外反する口縁部。	陶邑III-2・3〜IV
373	須恵器坏身	15トレンチ	4・5、9−15・17層	12.60				やや内彎気味にのびる口縁部。	陶邑III-2・3〜IV
374	須恵器坏身	15トレンチ	4・5、9−15・17層	13.10				外反する口縁部。	陶邑III-2・3〜IV
375	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		8.50			ハの字形に開く細くて高い高台が底端部よりやや中心寄りにつく。	陶邑IV-1〜2
376	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		8.00			底端部の中心寄りにハの字形の高台がつく。	陶邑III-3〜IV-1
377	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		7.60			底端部の中心寄りにハの字形の高台がつく。	陶邑III-3〜IV-1
378	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		8.80			底端部の中心寄りにハの字形の高台がつく。	陶邑III-3〜IV-1
379	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		9.80			底端部の中心寄りにハの字形の高台がつく。	陶邑III-3〜IV-1
380	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		9.00			底端部に低い高台がつく。	陶邑IV-3
381	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		9.60			底端部に低い高台がつく。	陶邑IV-3
382	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		8.20			底端部に低い高台がつく。	陶邑IV-3
383	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		9.00			底端部に低い高台がつく。	陶邑IV-3
384	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		9.40			底端部に低い高台がつく。	陶邑IV-3
385	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		12.00			底端部に低い高台がつく。	陶邑IV-3
386	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		11.00			底端部にハの字形に低い高台がつく。	陶邑IV-3
387	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		9.00			底端部にハの字形に低い高台がつく。	陶邑IV-3
388	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		9.40			底端部に低い高台がつく。	陶邑IV-3
389	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		9.80			底端部に低い高台がつく。	陶邑IV-3
390	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		10.40			底端部付近に幅広の高台がつく。	陶邑IV-2〜3
391	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		11.80			ハの字形に開く細く高い高台が底端部より中心寄りにつく。	陶邑IV-1〜2
392	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		7.70			底端部付近に幅広の高台がつく。接地面は平坦面をなす。	陶邑IV-2〜3
393	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		10.00			底端部の中心寄りに高台がつく。	陶邑III-3〜IV-1
394	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		11.90			底端部に低い高台がつく。	陶邑IV-3
395	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		10.40			底端部の中心寄りにハの字形の高台がつく。	陶邑III-3〜IV-1
396	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		11.40			底端部の中心寄りにハの字形の高台がつく。	陶邑III-3〜IV-1
397	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		11.20			底端部に低い高台がつく。	陶邑IV-3
398	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		11.00			底端部付近に幅広の高台がつく。	陶邑IV-2〜3
399	須恵器坏身底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		12.80			ハの字形に開く幅広の低い高台が底端部よりやや中心寄りにつく。	陶邑IV-1〜2
400	須恵器長頸壷	15トレンチ	4・5、9−15・17層		6.80		体部最大径10.00	なだらかに楕円形カーブを描いて下る体部に直立する低い高台がつく小型の器。	陶邑IV-3〜4
401	須恵器小型壷	15トレンチ	4・5、9−15・17層		2.60			肩の張りがない楕円形体部。	陶邑IV-2〜4
402	須恵器長頸壷	15トレンチ	4・5、9−15・17層				頸部径3.80	外反する頸部。体部との接合は2段構成による。	陶邑IV-4
403	須恵器平瓶	15トレンチ	4・5、9−15・17層				頸部径6.00		陶邑IV
404	須恵器平瓶	15トレンチ	4・5、9−15・17層				頸部径5.60		陶邑IV
405	須恵器壷底部	15トレンチ	4・5、9−15・17層		8.40			幅広の高い高台がハの字形につく。内端部が接地面となる。	陶邑III-2・3〜IV
406	須恵器壷	15トレンチ	4・5、9−15・17層				体部最大径18.00	肩の張る体部。	陶邑III-3〜IV-3
407	須恵器壷	15トレンチ	4・5、9−15・17層				体部最大径16.50	肩の張る体部。	陶邑III-3〜IV-3
408	須恵器壷	15トレンチ	4・5、9−15・17層				体部最大径16.00	肩の張る体部。	陶邑III-3〜IV-3
409	須恵器壷	15トレンチ	4・5、9−15・17層				体部最大径20.00	肩の張る体部。	陶邑III-3〜IV-3
410	須恵器壷	15トレンチ	4・5、9−15・17層		14.70		体部最大径21.40	肩の張る体部。	陶邑III-3〜IV-3
411	須恵器壷	15トレンチ	4・5、9−15・17層				体部最大径22.00	肩の張る体部。	陶邑III-3〜IV-3
412	須恵器壷	15トレンチ	4・5、9−15・17層	15.80				ゆるやかに外反する口縁部。端部は内側に屈曲させる。頸部にカキメ。	陶邑III
413	須恵器甕口縁部	15トレンチ	4・5、9−15・17層	17.80				外反する口縁部で端部が肥厚し、外傾する面をなす。	陶邑IV
414	須恵器甕口縁部	15トレンチ	4・5、9−15・17層	19.00				外反する口縁部で端部が肥厚し、外傾する面をなす。	陶邑IV
415	須恵器甕口縁部	15トレンチ	4・5、9−15・17層	32.40				大きく外反する頸部。口縁端部は下方へ丸みをもって仕上げる。外面には凸線を貼り付け、一部が剥がれている。その下に沈線が巡る。	陶邑I-3〜4
416	須恵器鉢	15トレンチ	4・5、9−15・17層		12.20			厚みにある扁平な台をもつ底部。底部外面ナデ。	陶邑III〜IV
417	須恵器円筒管体部	15トレンチ	4・5、9−15・17層				円筒径15.60−18.00	上方に開く円筒状の器。外面縦方向に板ナデした後横方向に部分的に板ナデ。内面は縦方向に強く指ナデ。	陶邑III〜IV
418	須恵器円筒管体部	15トレンチ	4・5、9−15・17層				円筒径13.20−17.20	上方に開く円筒状の器。外面縦方向に板ナデした後横方向に部分的に板ナデ。内面は縦方向に強く指ナデ。	陶邑III〜IV
419	須恵器円筒管体部	15トレンチ	4・5、9−15・17層				鍔径19.20/円筒径17.80	円筒に水平の鍔がつく。上端はやや内傾する。鍔部は全体を丁寧にナデ。それより下の外面は横方向の板ナデ。内面は強く指ナデ。	陶邑III〜IV
420	須恵器円筒管端部	15トレンチ	4・5、9−15・17層				底径17.80	端部にかけてやや開く形状。粘土紐の接合痕みられる。外面は縦方向に板ナデの後、端部周辺を横方向にヘラケズリ。内面は横方向にヘラケズリ。端面はナデ。	陶邑III〜IV
421	須恵器円筒管端部	15トレンチ	4・5、9−15・17層				底径21.00	端部にかけてやや開く形状。粘土紐の接合痕みられる。外面は縦方向に板ナデの後、端部周辺を横方向にヘラケズリし、その後ナデ。内面は横方向にヘラケズリ。端面はケズリのまま。	陶邑III〜IV
422	須恵器坏蓋	16トレンチ	9層	15.20				平坦な天井部からなだらかに口縁端部に至る。端部は下方へ屈曲させている。	陶邑IV-2
423	須恵器坏蓋	16トレンチ	9層					天井部から端部にかけてZ字状のカーブを描く。端部は下方へ屈曲させ段をなす。	陶邑IV-3
424	瓦器碗	19-Bトレンチ	5−13層	12.30				底端部に低い高台がつく。内端部が接地面となる。	尾上編年IV-3
425	須恵器坏身	20トレンチ	41・42層		11.10			器壁は薄い。口縁部外面のヨコナデ範囲広く、それ以下は指オサエのまま。	陶邑III-3〜IV-2
426	瓦器碗	21トレンチ	10−12層	10.80				低平な形態で、器壁は薄い。口縁部ヨコナデの下は指オサエのまま。	尾上編年IV-3〜4
427	磁器碗	21トレンチ	10−12層		4.00			刷毛目碗。見込み蛇の目剥ぎ。肥前窯系。	18世紀。

平成14年度調査区出土石器一覧

挿図番号	器種	出土個所		法量（cm・g）				材質	備考
		調査区	土層	長さ	幅	厚さ	重さ		
114	凹基式石鏃	第10調査区西半部	16層	2.43	2.21	0.45	1.7	サヌカイト	素材形態は剥片
115	凹基式石鏃	第10調査区東半部	21～36層	2.19	1.74	0.39	0.9	サヌカイト	素材形態は剥片
116	両極石器	第8調査区	5・25層	2.51	4.78	0.91	10.9	サヌカイト	素材形態は横長剥片
117	槍先形石器未	第1調査区	112層	7.96	6.59	1.93	104.1	サヌカイト	素材形態は横長剥片
118	槍先形石器未	第8調査区	4・5層	5.74	5.51	1.6	46.7	サヌカイト	素材形態は礫剥片
119	槍先形石器未	第8調査区	24・27・64層	10.49	6.03	1.67	85.1	サヌカイト	素材形態は剥片
120	削器	第10調査区西半部	29層	4.5	9.51	1.45	52.6	サヌカイト	素材形態は礫剥片
121	削器	第10調査区西半部	耕土・床土	3.8	6.67	1.01	22.4	サヌカイト	素材形態は横長剥片
122	二次加工剥片	第5調査区	11層	4.21	4.69	1.19	21.2	サヌカイト	矩形剥片
123	剥片	第2-1調査区	22・26・28層	6.7	5.08	0.99	32.0	サヌカイト	縦長剥片。点状に近い打面。
124	剥片？	第11調査区	排土	3.85	6.18	0.86	19.1	サヌカイト	横長剥片。表面の風化激しい。古いガジリ痕が縁辺にみられる。

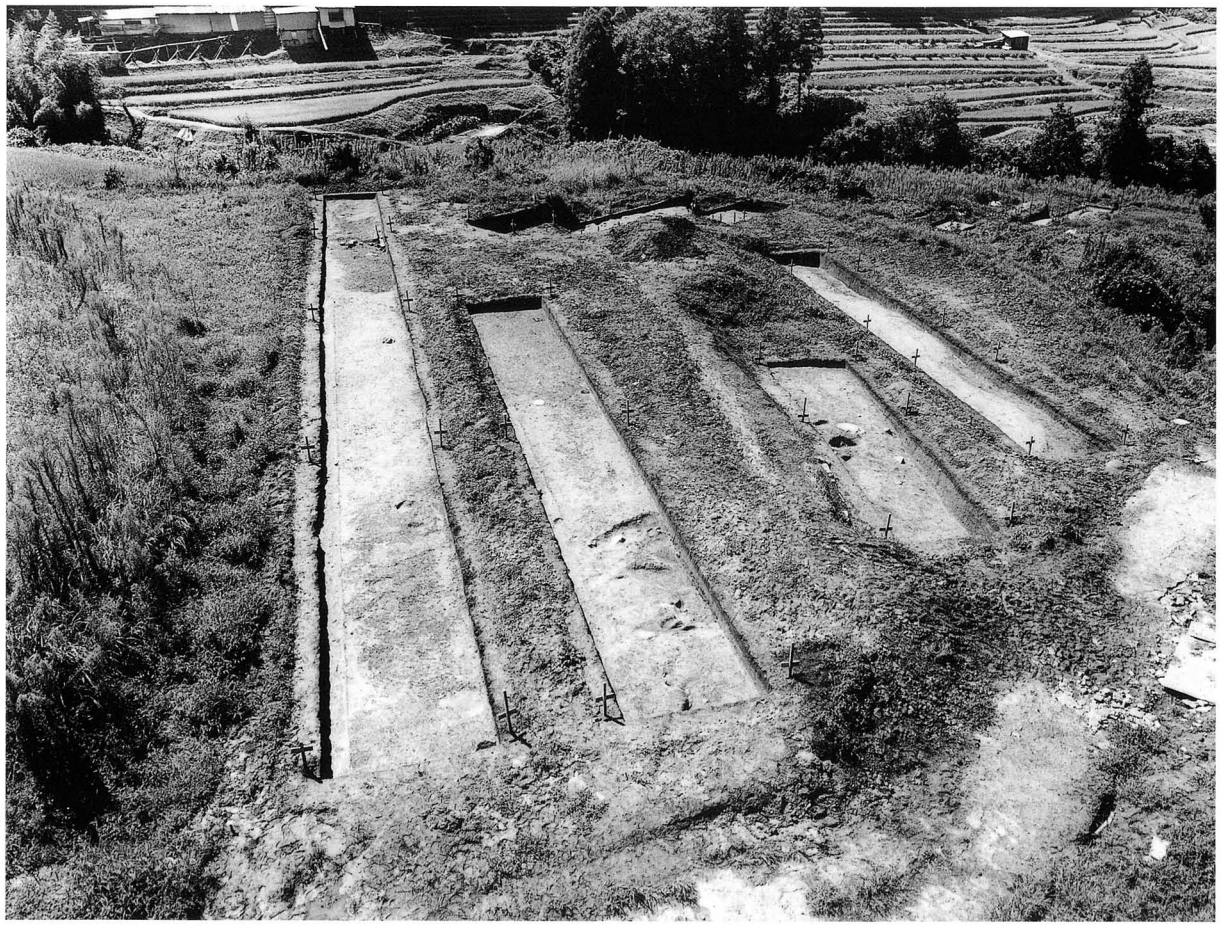
平成13年度調査区出土石器一覧

挿図番号	器種	出土個所		法量（cm・g）				材質	備考
		調査区	土層	長さ	幅	厚さ	重さ		
428	凹基式石鏃	6トレンチ南端	240層	2.25	2.61	0.42	2.0	サヌカイト	剥片を素材。円脚の抉りが比較的深いハート形をなす。
429	凹基式石鏃	7トレンチ西側	37層	2.30	1.40	0.30	0.6	サヌカイト	剥片を素材。脚部一端欠く。
430	鏃先	4トレンチ拡張部	32～33層	7.95	3.65	0.95	32.1	サヌカイト	剥片を素材。下端欠失。
431	不定形石器	23トレンチ		9.40	3.30	1.25	43.0	サヌカイト	風化
432	削器	6トレンチ南端	282～294層	8.10	3.70	0.75	21.9	サヌカイト	横長剥片を素材。風化
433	剥片	8トレンチ西側	2・25層	7.85	5.20	0.89	36.1	サヌカイト	一辺自然面残す
434	剥片	7トレンチ東側	47層	8.19	6.15	0.70	48.0	サヌカイト	縦長剥片。一辺自然面残す
435	剥片	4トレンチ	32～33層	6.22	3.30	0.70	17.2	サヌカイト	縦長剥片を素材。
436	削器	10トレンチ	12層	7.15	5.20	1.10	40.4	サヌカイト	縦長剥片を素材。風化して白っぽい

図　　版

図版1　調査区全景

北東から



第2～5調査区全景（北東から）

図版2　第1調査区

北壁断面（南東から）

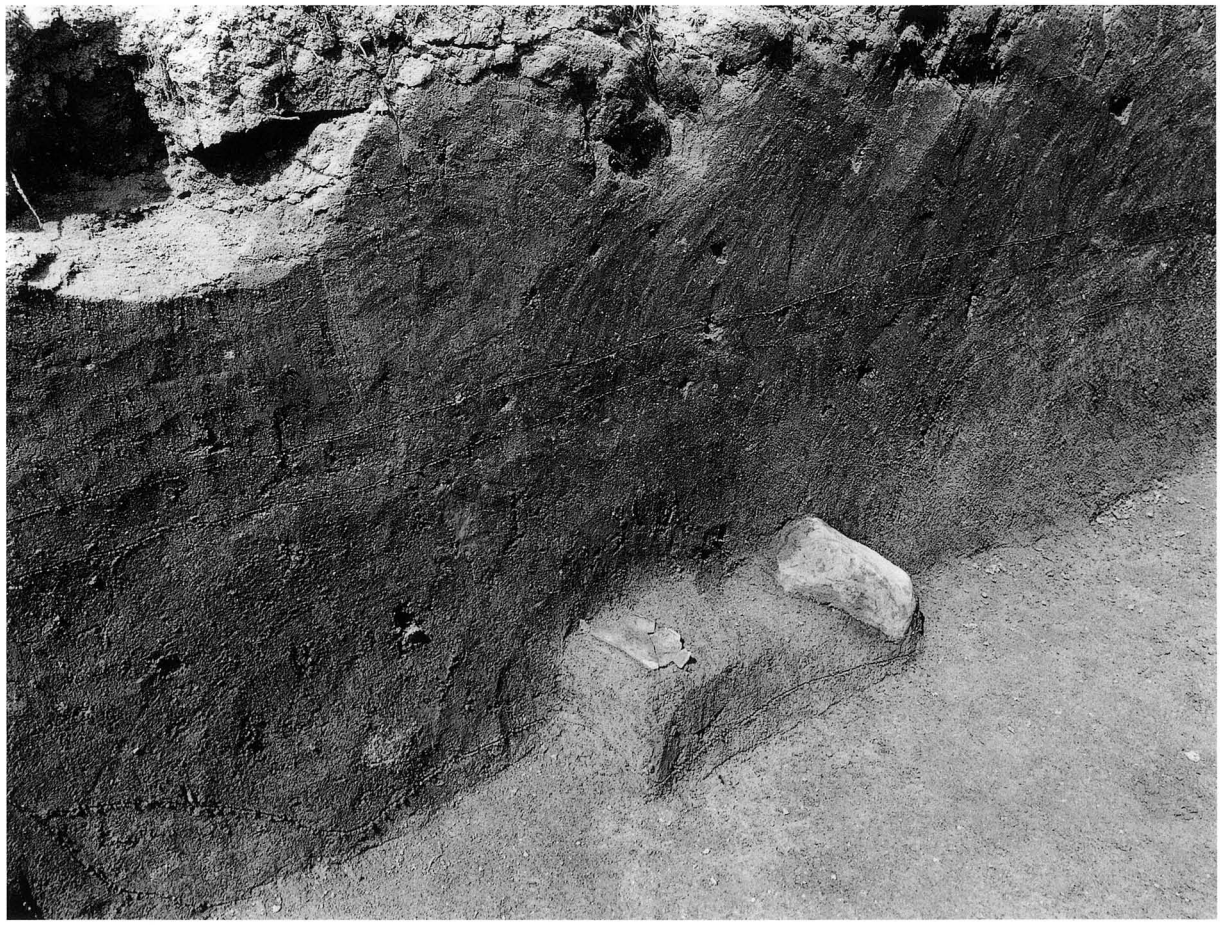
土坑検出状況（南から）

東西溝およびピット群検出状況（北から）

東西溝埋積土内礫出土状況（東から）

図版4　第9調査区

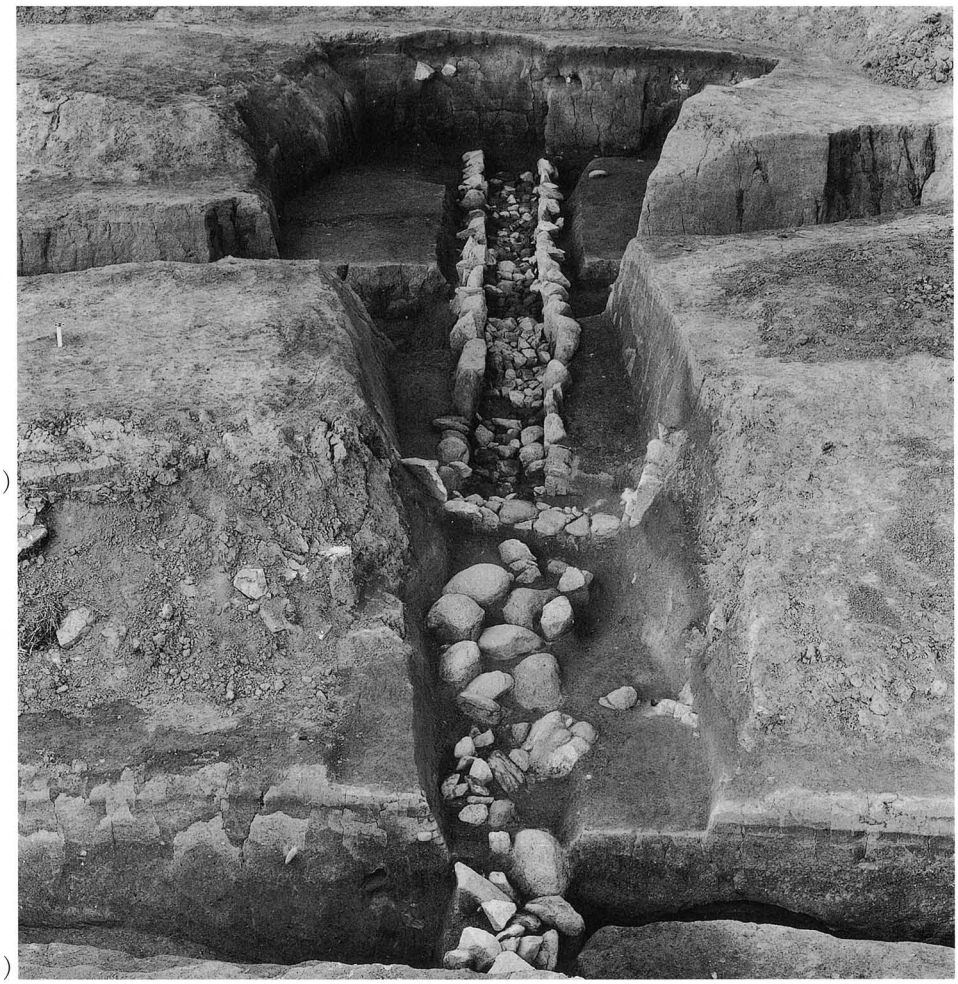
全景（南西から）



トレンチ西端土師器出土状況（南西から）

図版5　第9調査区拡張部石組溝（1）

右：全景（南から）



下：北半部（南西から）

図版6　第9調査区拡張部石組溝（2）

北壁断面（南から）

溝底内榛原石片出土状況

図版7　第9調査区拡張部石組溝（3）

北半部溝底細部（南から）

南半部溝底細部（南から）

図版8　第10調査区（1）

南東から

南西から

図版9　第10調査区（2）

南西から

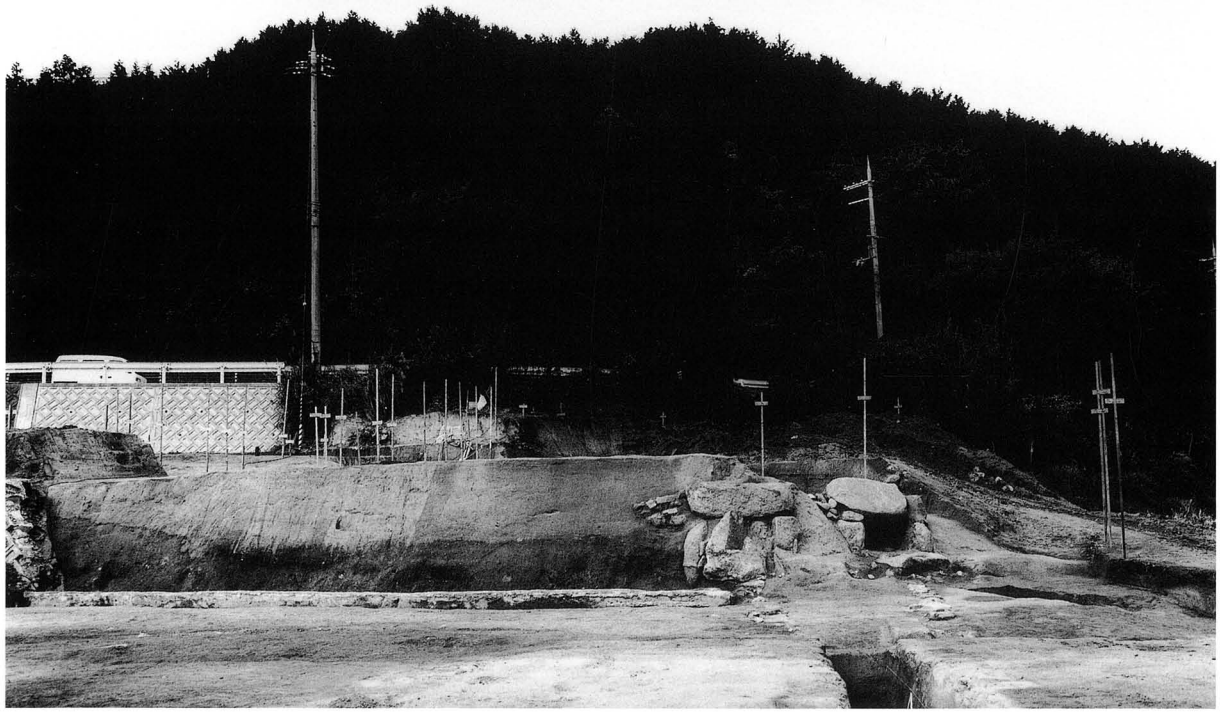
石溜り榛原石出土状況

小ピット上面須恵器坏身出土状況

図版10　第11調査区　駕田古墳（1）

右：東西石室（南から）

下：古墳正面（南から）

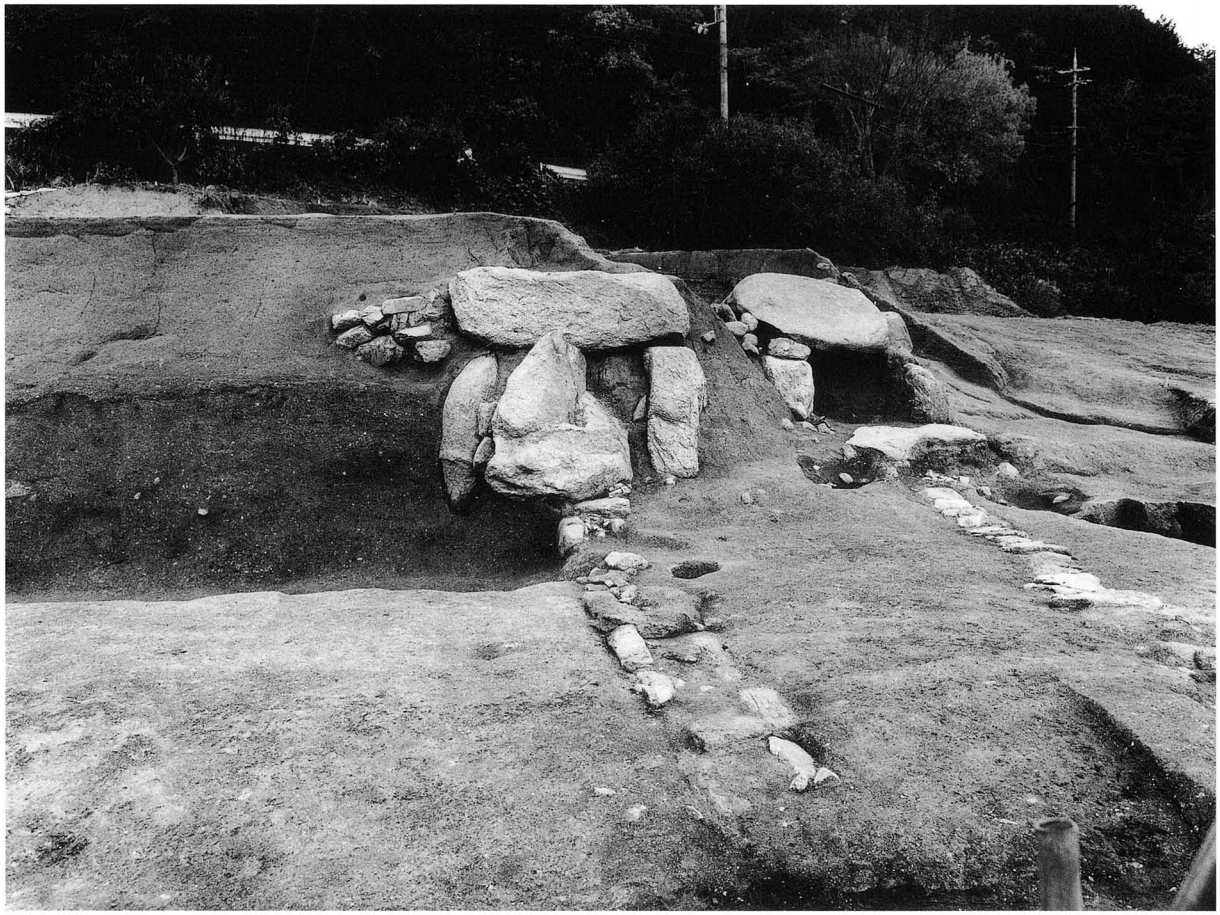


図版11　第11調査区　駕田古墳（2）

全景（南東から）

全景（南から）

図版12　第11調査区　駕田古墳（3）

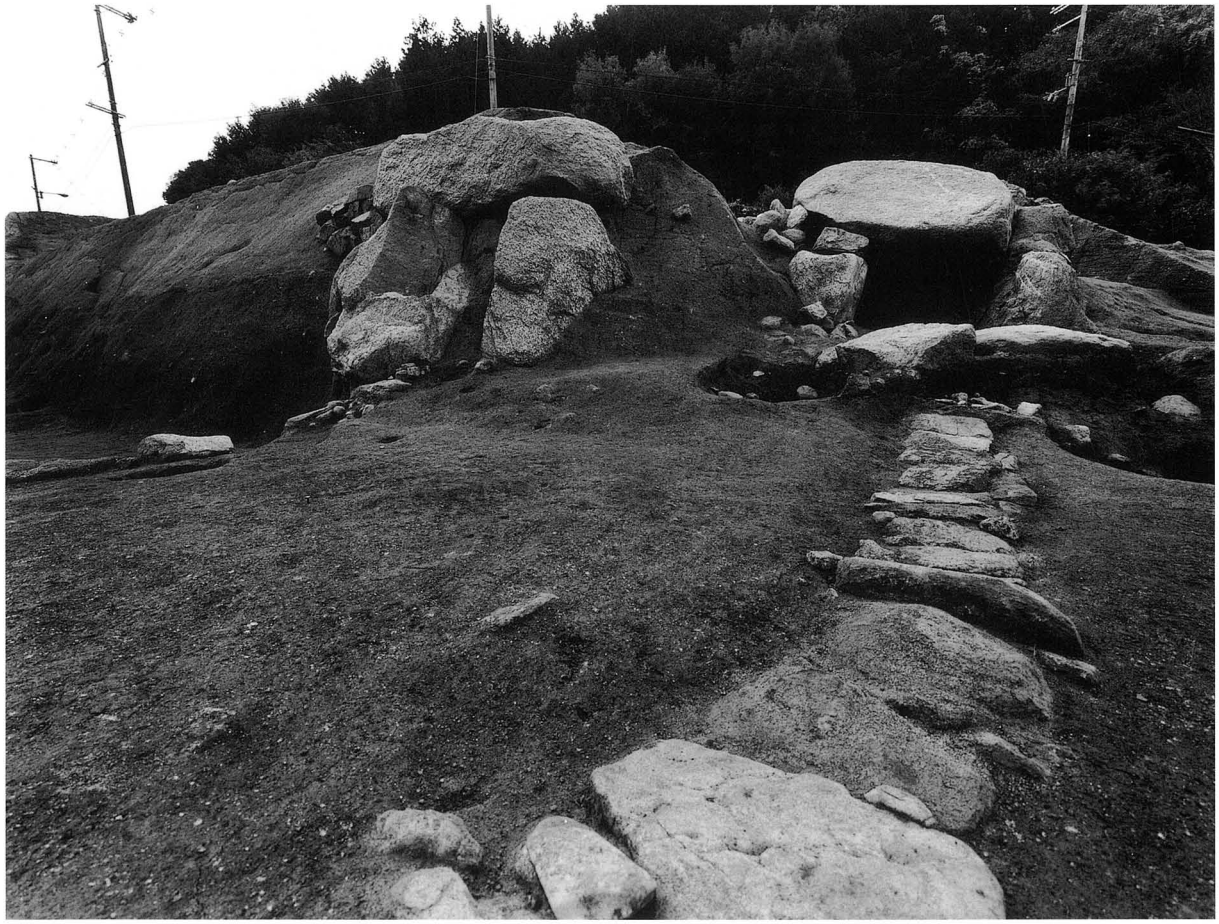


東西石室正面（南から）

東西石室（南東から）

図版13　第11調査区　駕田古墳（4）

東西石室（東から）



東西石室（南から）

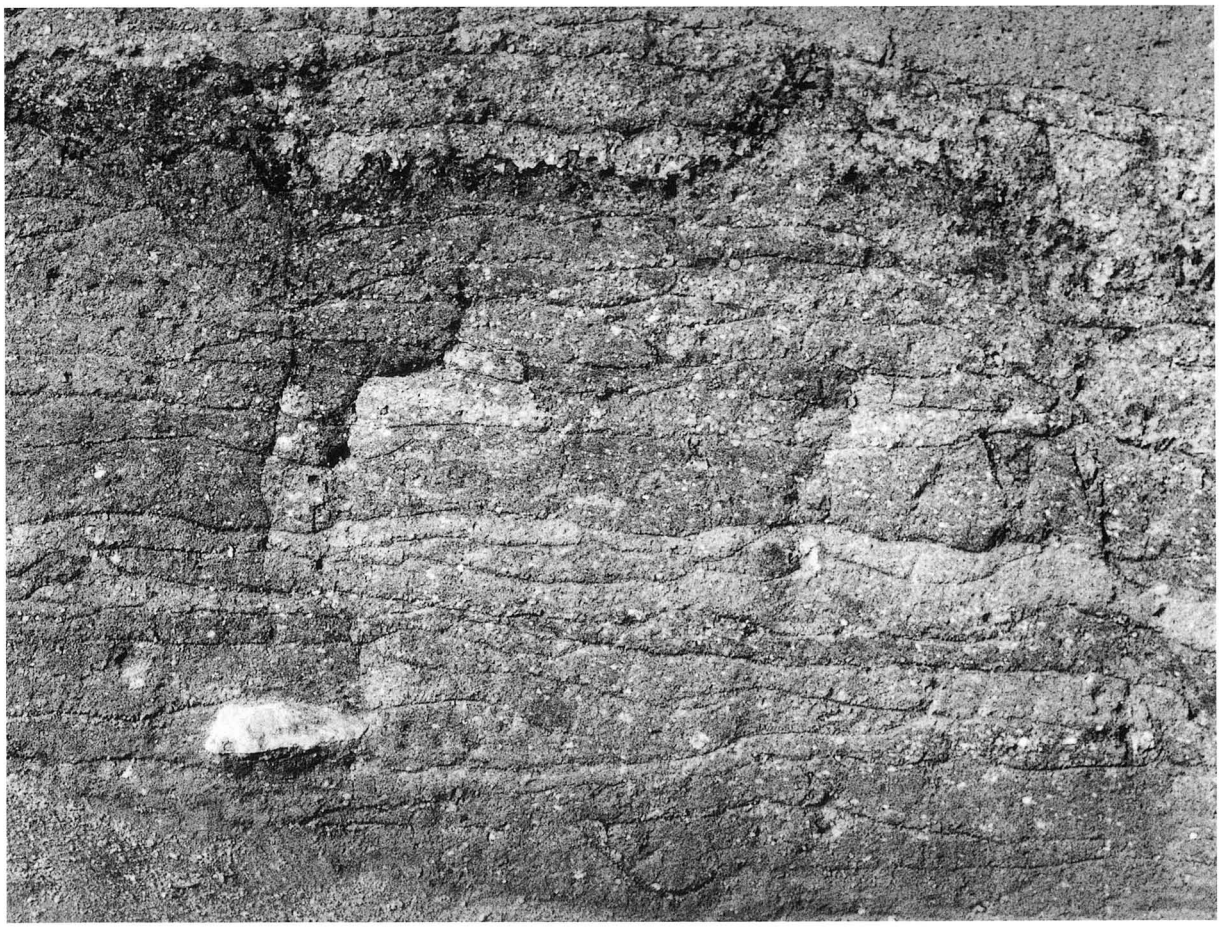
図版14　第11調査区　駕田古墳（5）

掘割・墳丘部断面（南西から）

掘割・墳丘部断面（北東から）

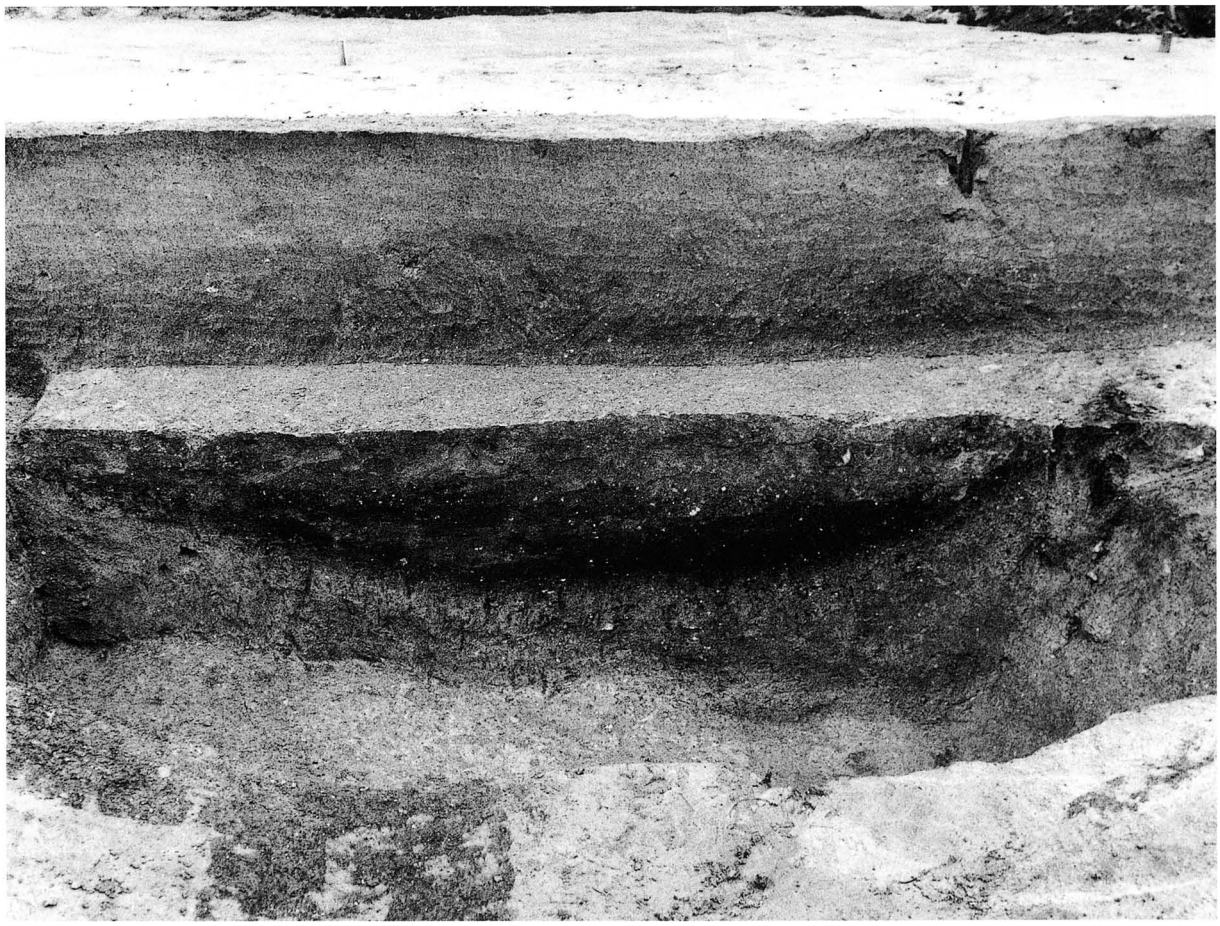
図版15　第11調査区　駕田古墳（6）

墳丘部盛土状況断面（南から）



墳丘部盛土状況細部（南から）

掘割・墳丘部断面（北西から）

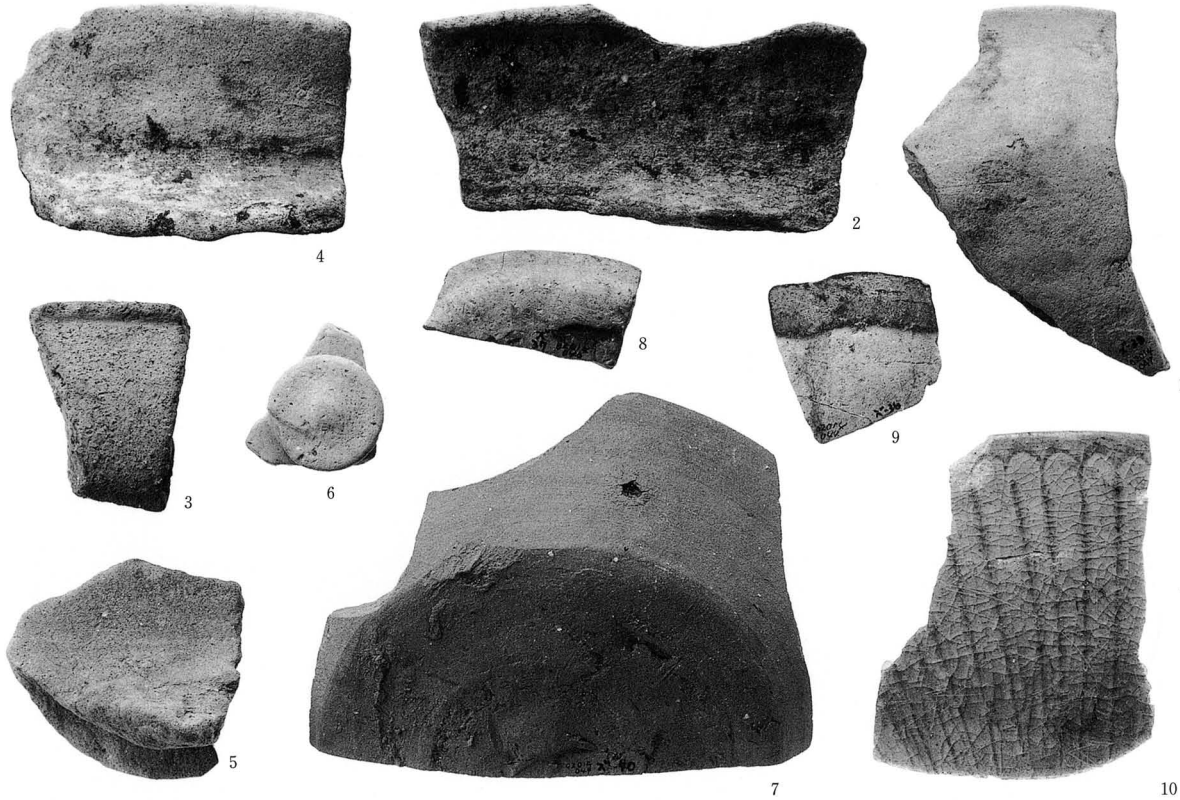


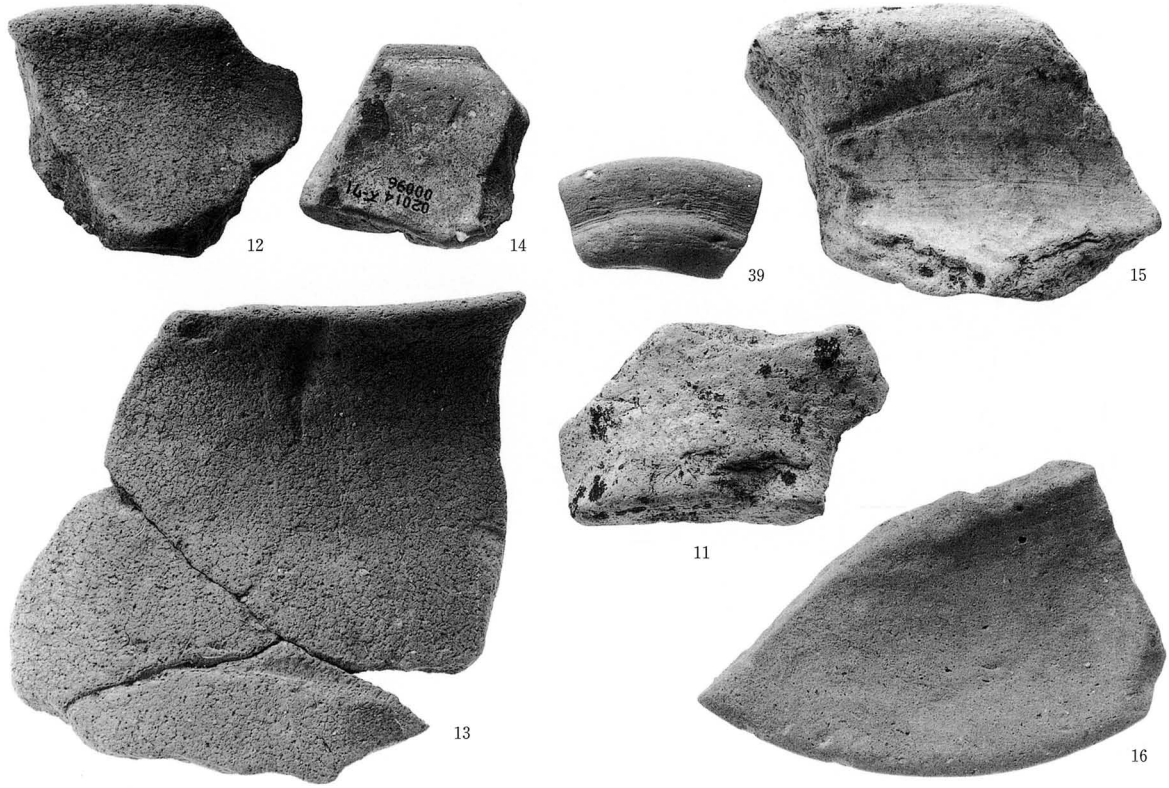
掘割断面（北から）

東石室天井石周辺攪乱部検出状況（西から）

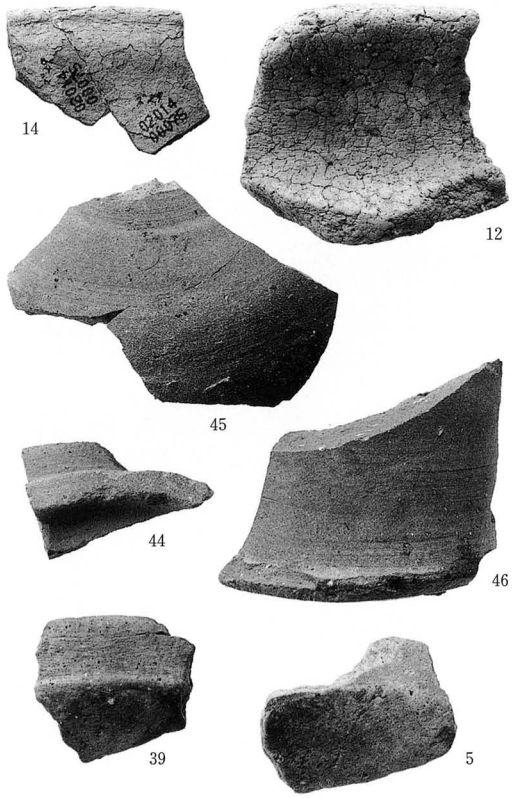
東石室前面凝灰岩出土状況（南から）

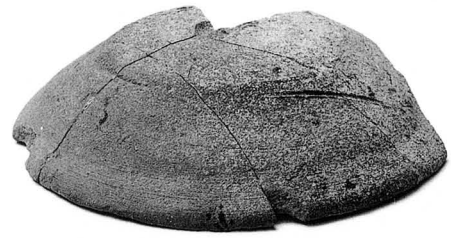
図版18　第1・2調査区出土土器



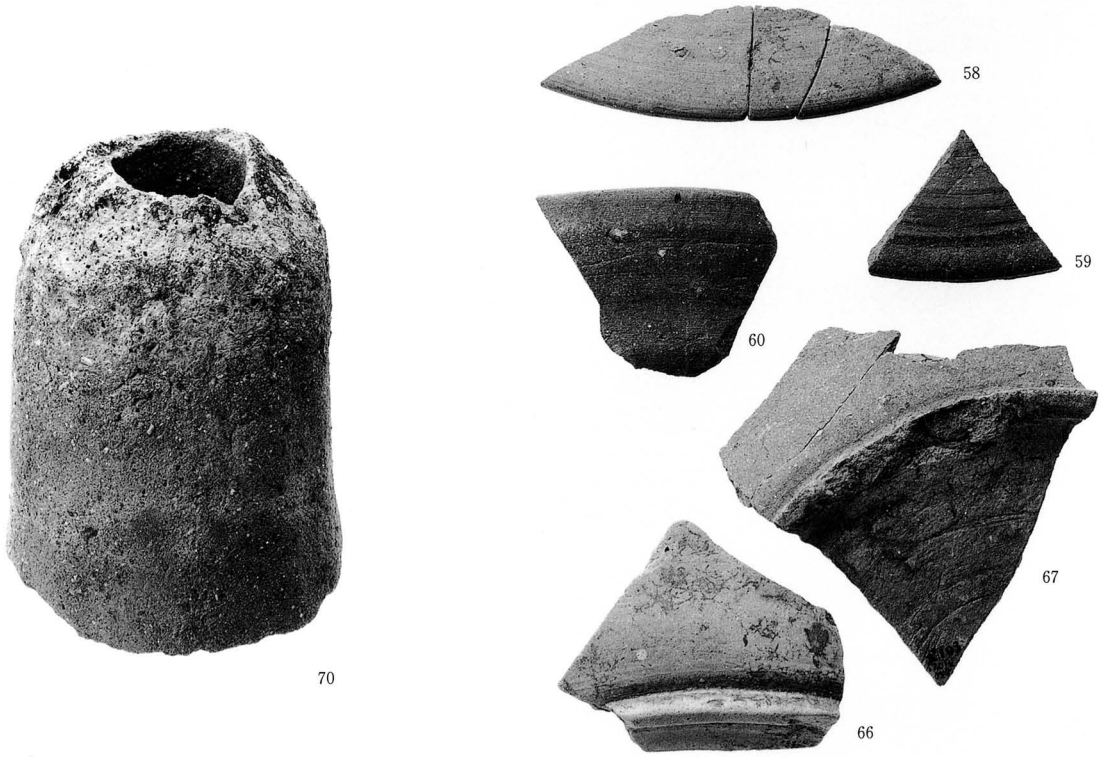


図版19　第1～3・5・7調査区出土土器

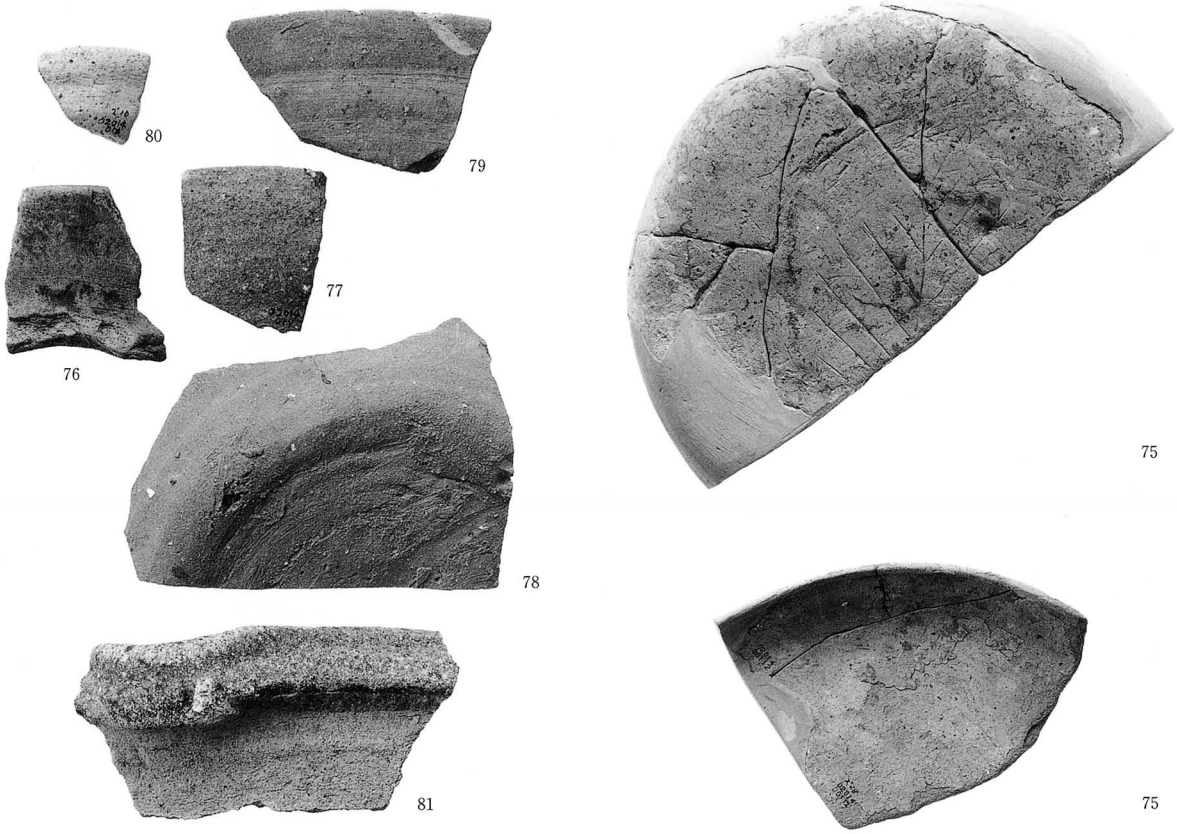


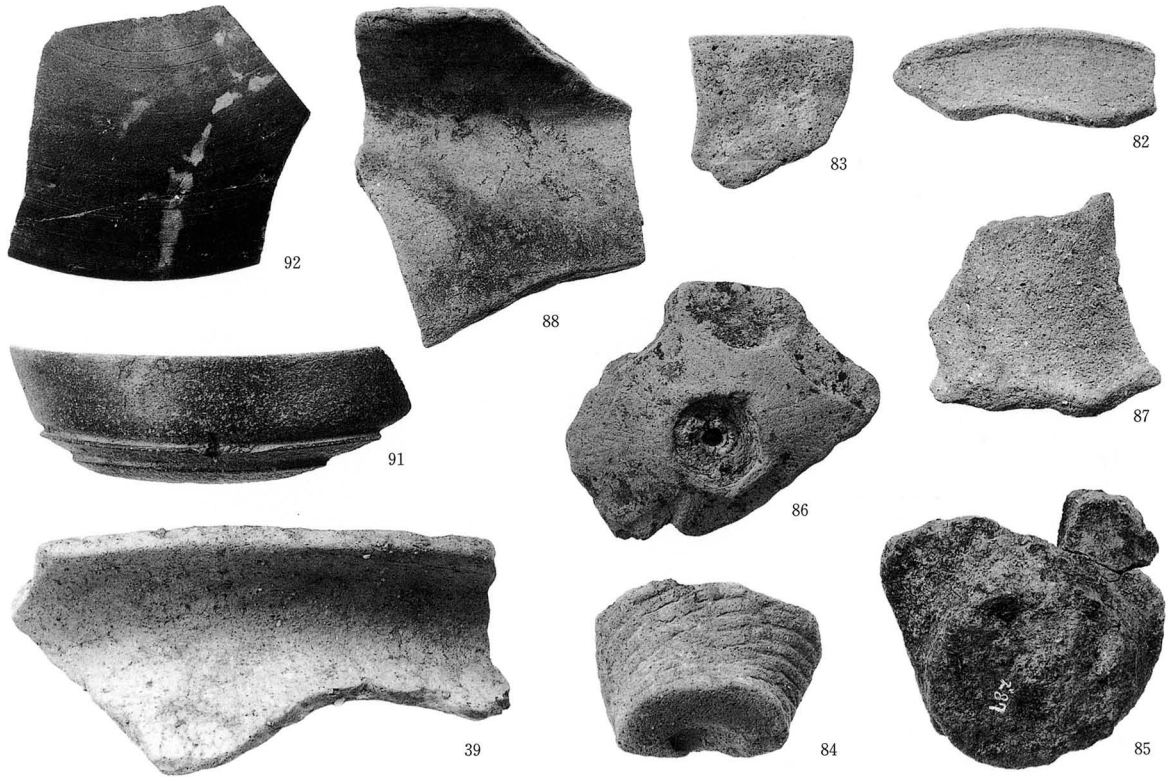


図版20　第8調査区出土土器・鞴羽口

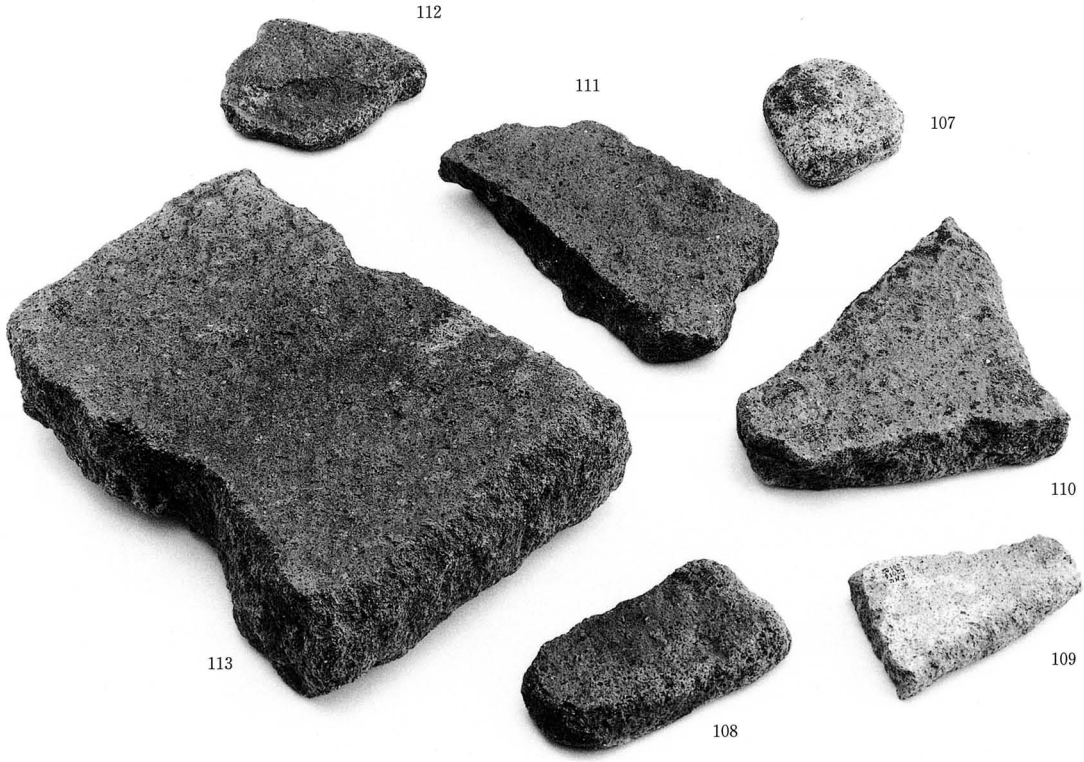


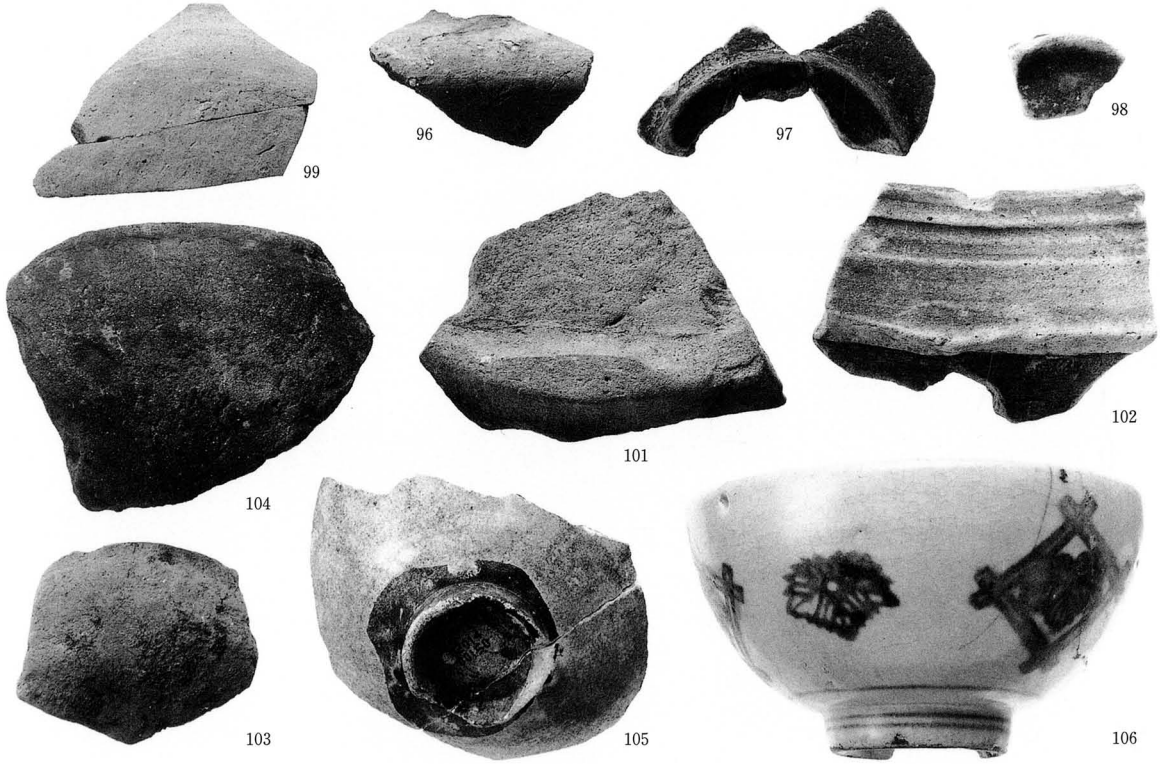
図版21　第9・10調査区出土土器





図版22　第10・11調査区出土榛原石・土器

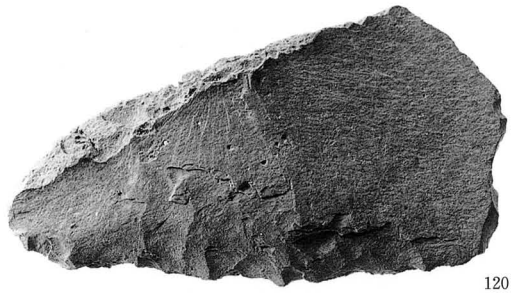




図版23　各調査区出土石器ほか

鴛田古墳東石室出土管玉

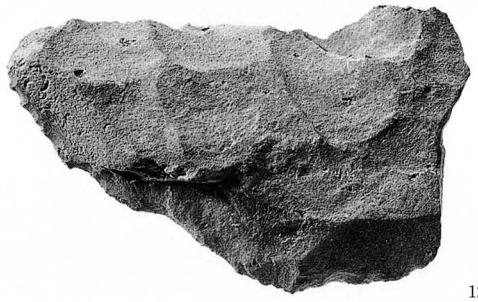
114



120

117

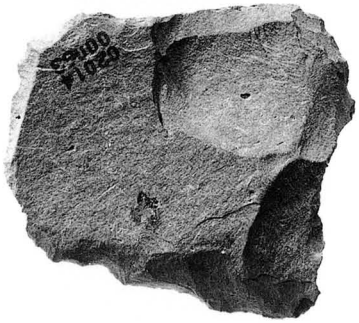
115



124

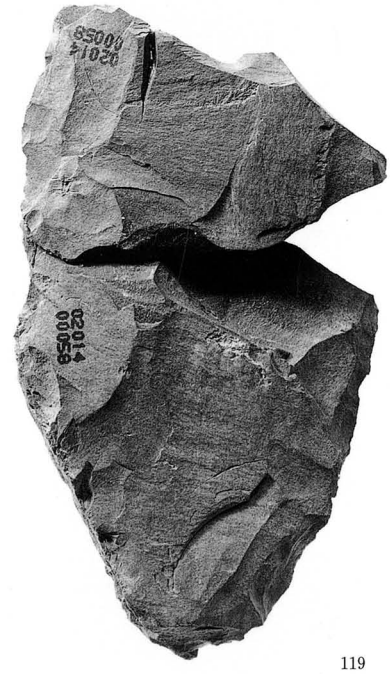
118

116



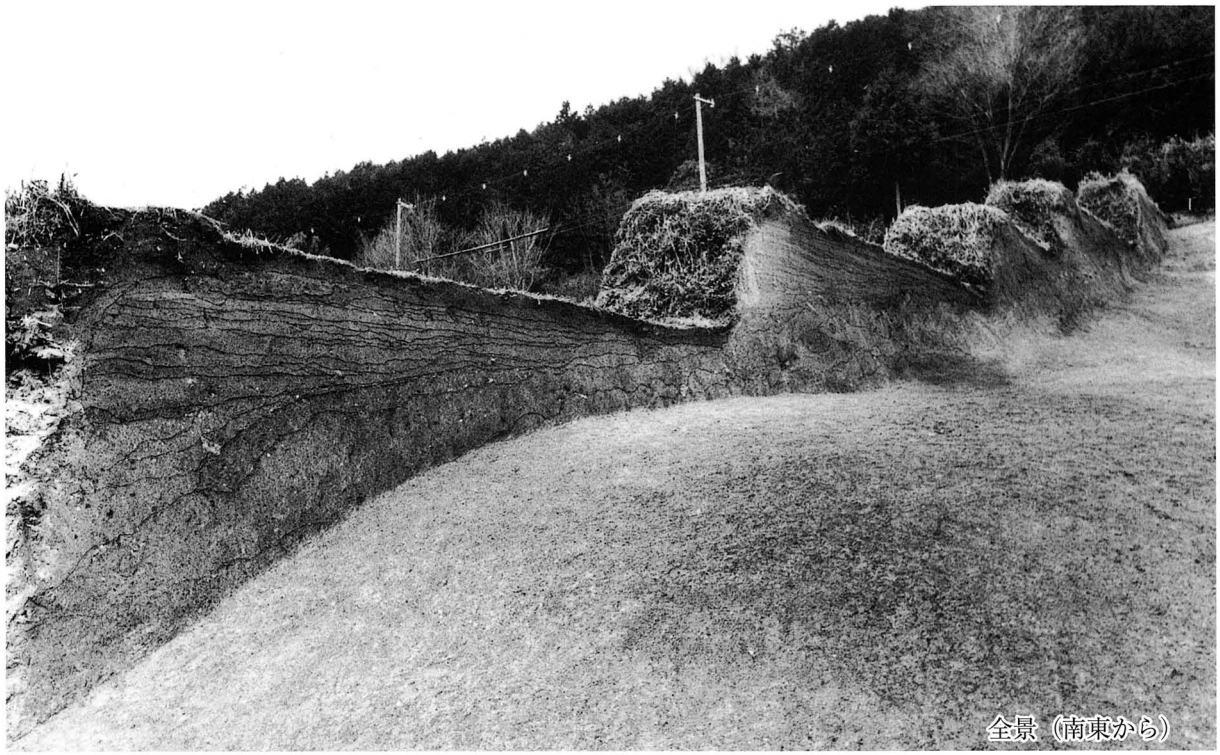
122

123



119

図版24　第3調査区断面



全景（南東から）

最上段（東から）

下段（東から）

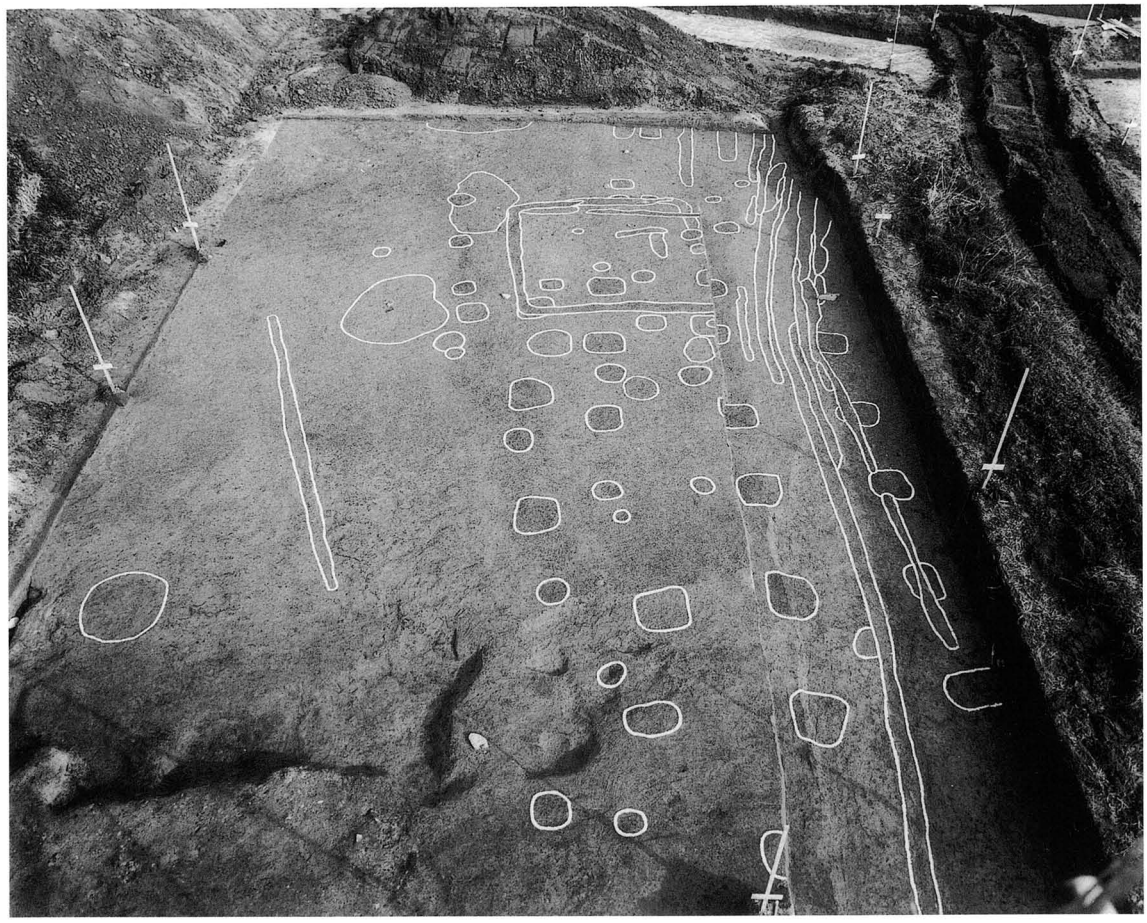
図版25　第4トレンチ拡張部

第４トレンチ拡張部全景（南→北）

第４トレンチ拡張部　加工木出土状況（南→北）

図版26　第9・12・22トレンチ

第9トレンチ検出面全景（東→西）



第12・22トレンチ検出面全景（西→東）

図版27　第14・15トレンチ

第14トレンチ全景（西→東）

第15トレンチ全景（西→東）

図版28　第20トレンチ（1）

第20トレンチ全景（西→東）

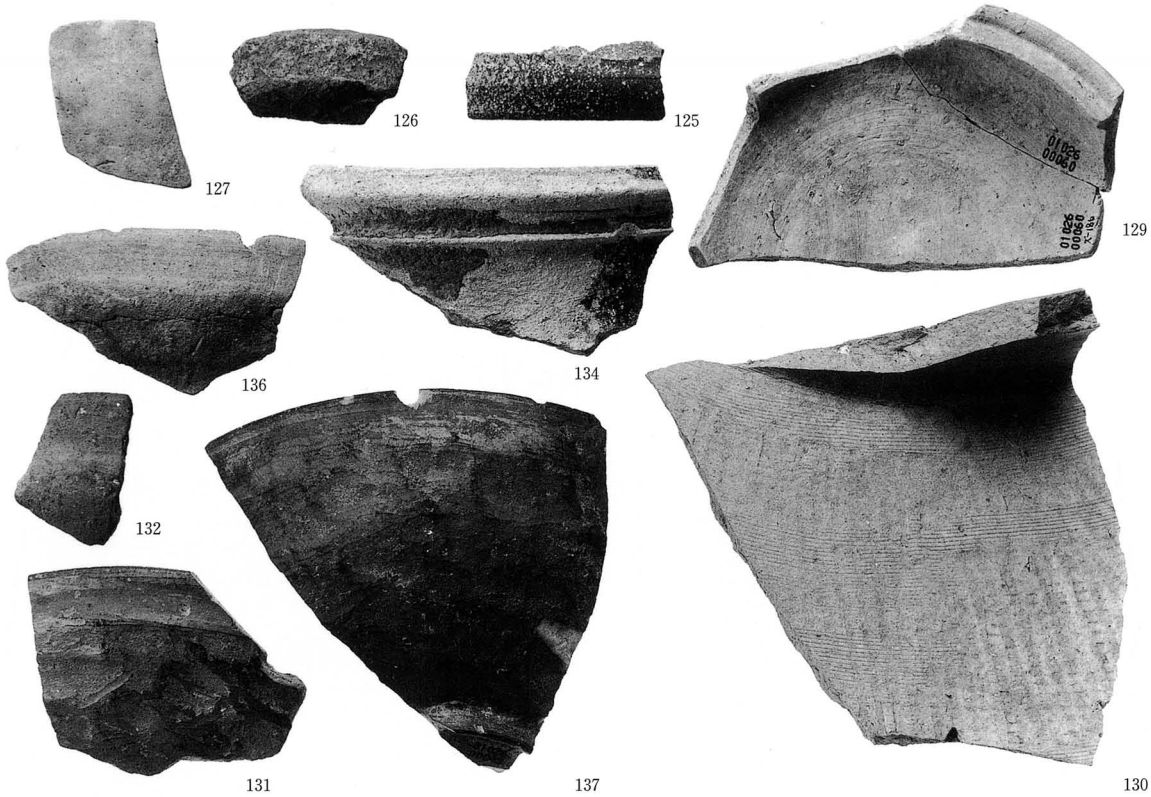
第20トレンチ南壁土層断面（北西から）

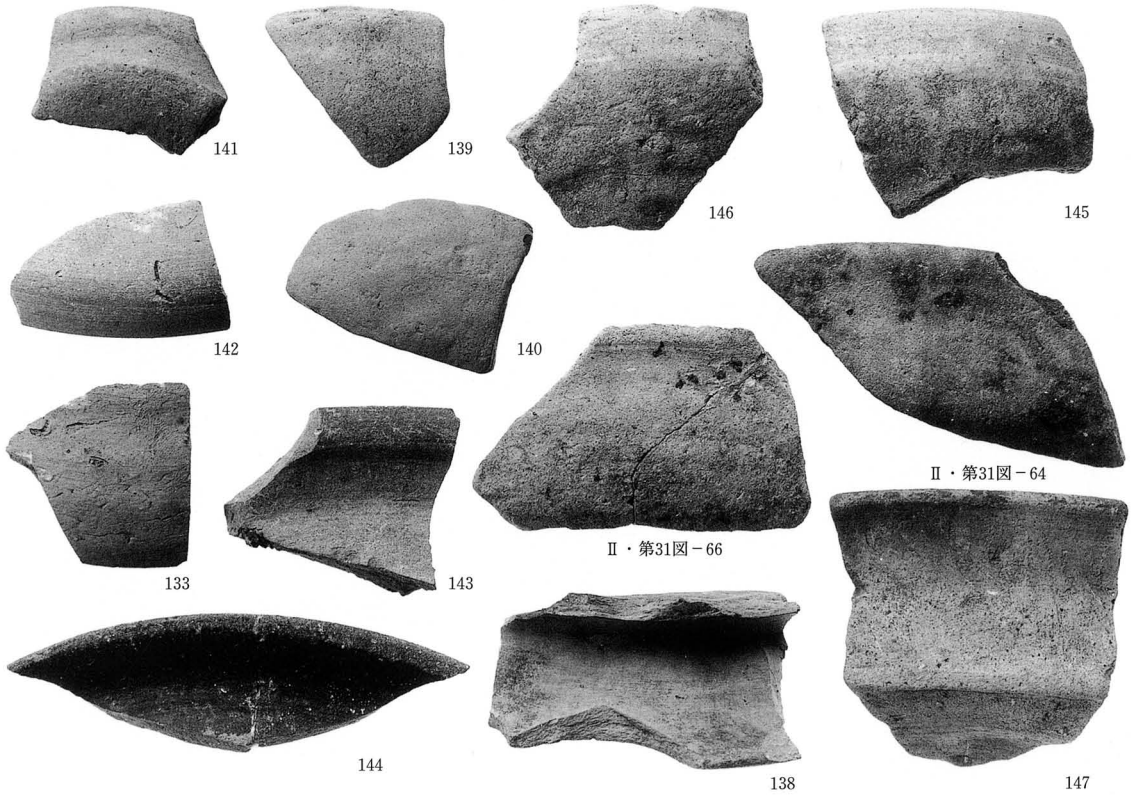
図版29　第20トレンチ（2）

第20トレンチ東端溝断面（北から）

第20トレンチ東端溝断面（北東から）

図版30　第2調査区・第4トレンチおよび拡張部出土土器

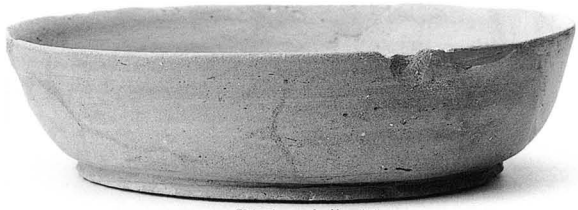




図版31　第2調査区・第4トレンチ拡張部ほか出土土器

128

135



『概要・Ⅱ』第31図101

160

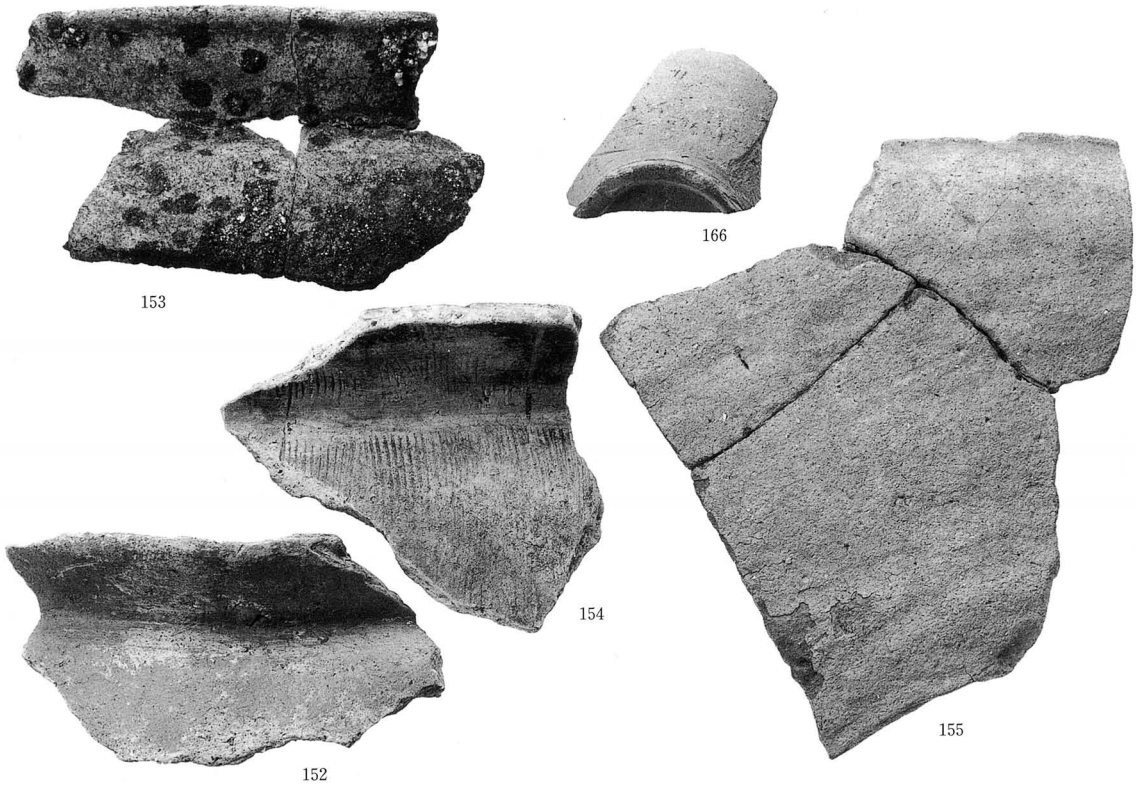
316

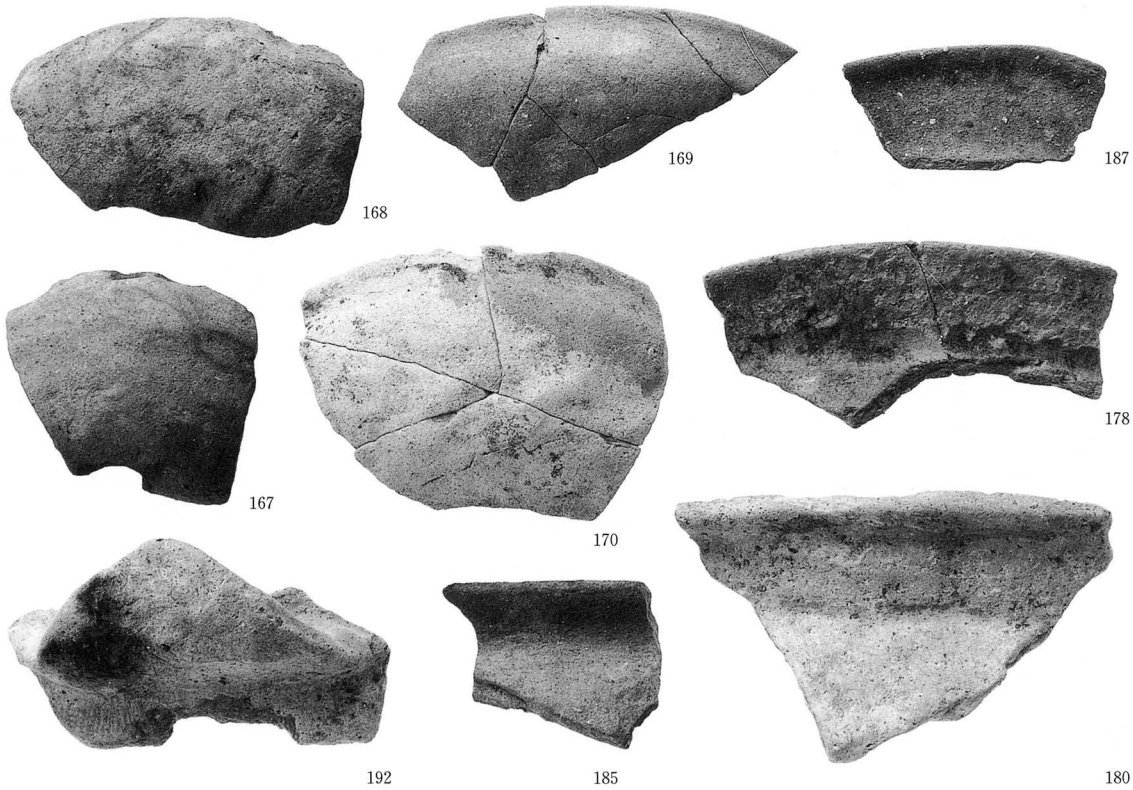
368

400

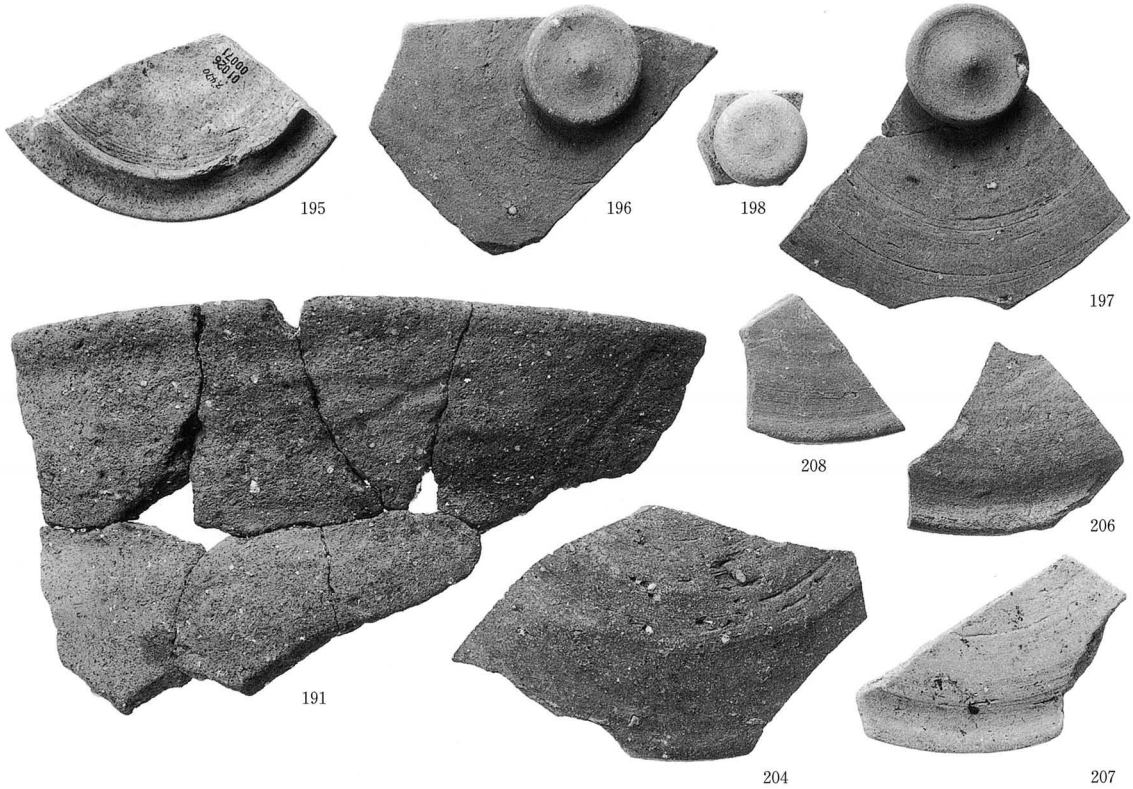
406

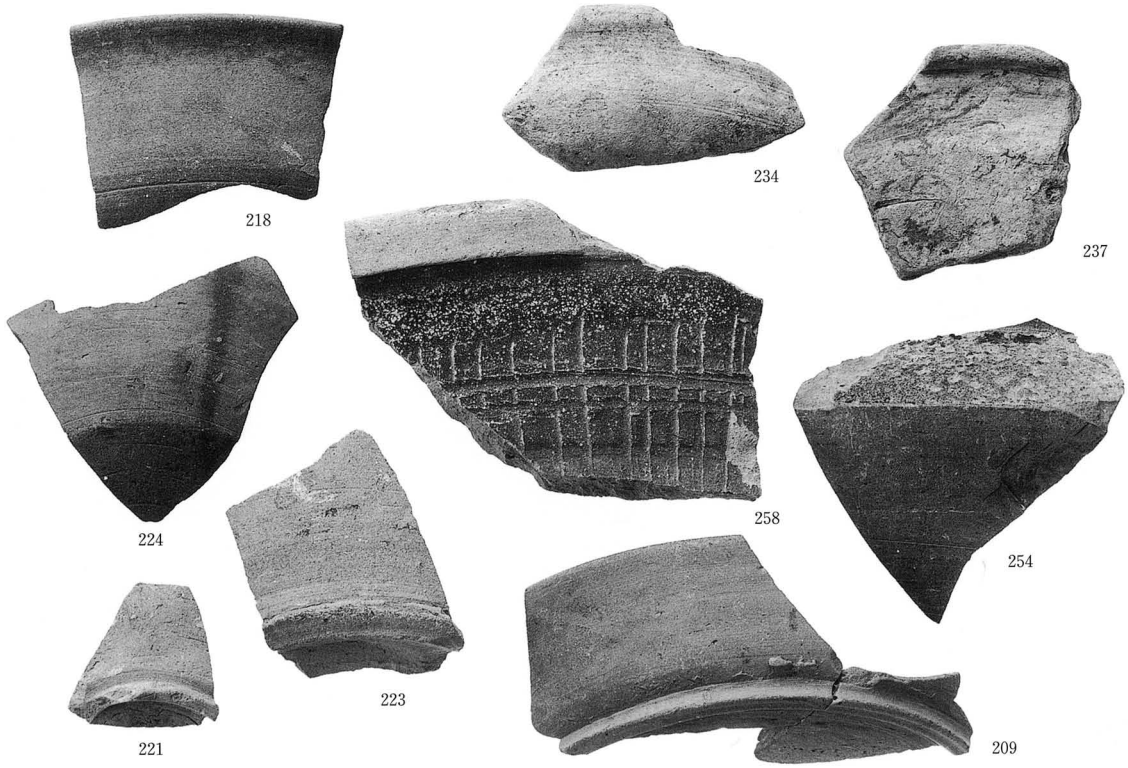
図版32　第9・12トレンチ出土土器



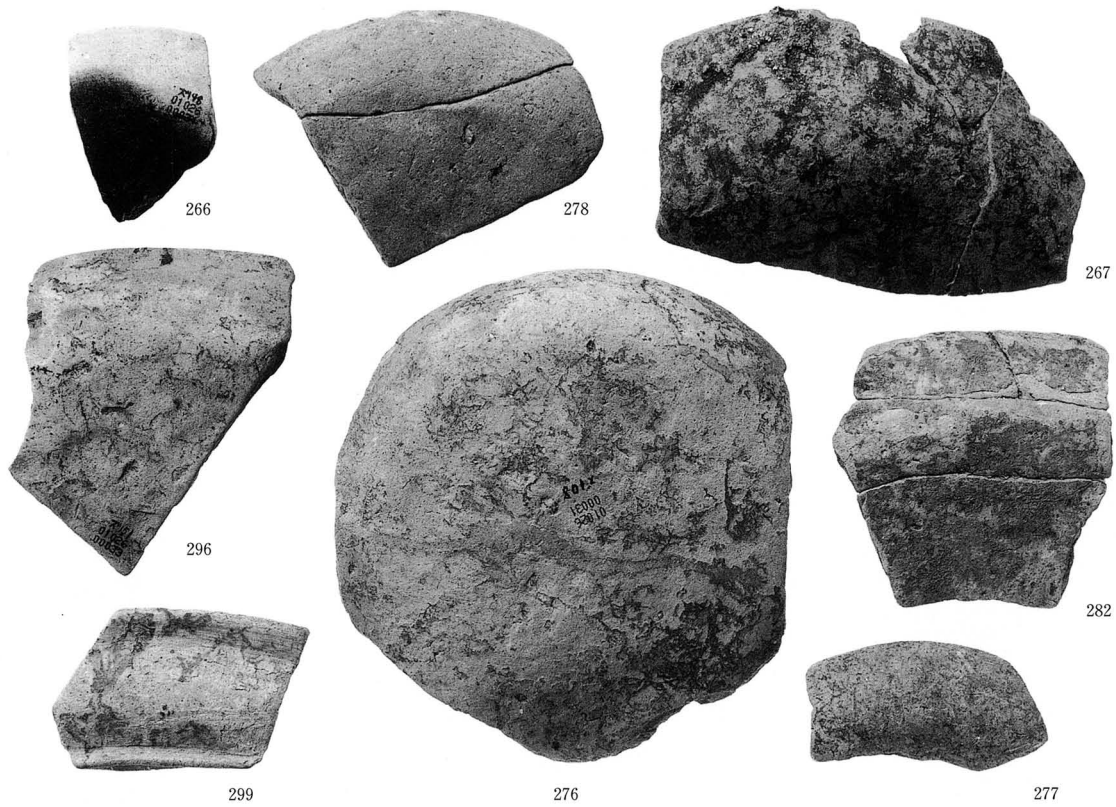


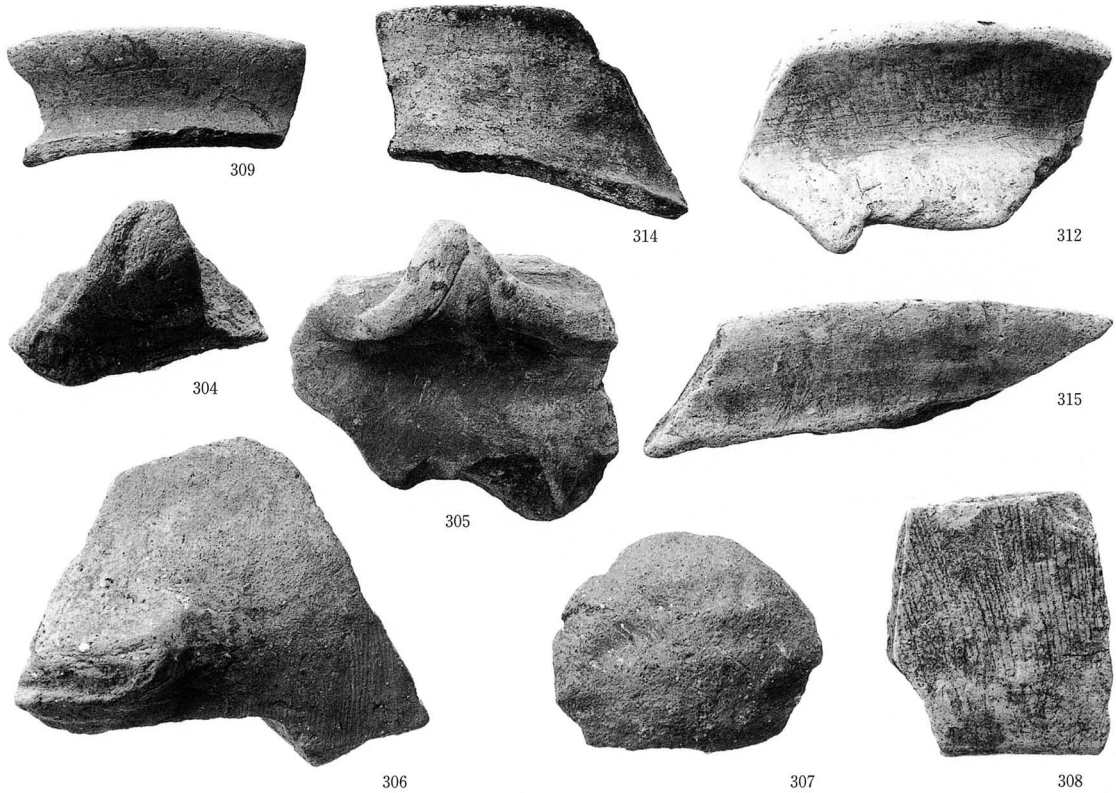
図版33　第12・14トレンチ出土土器



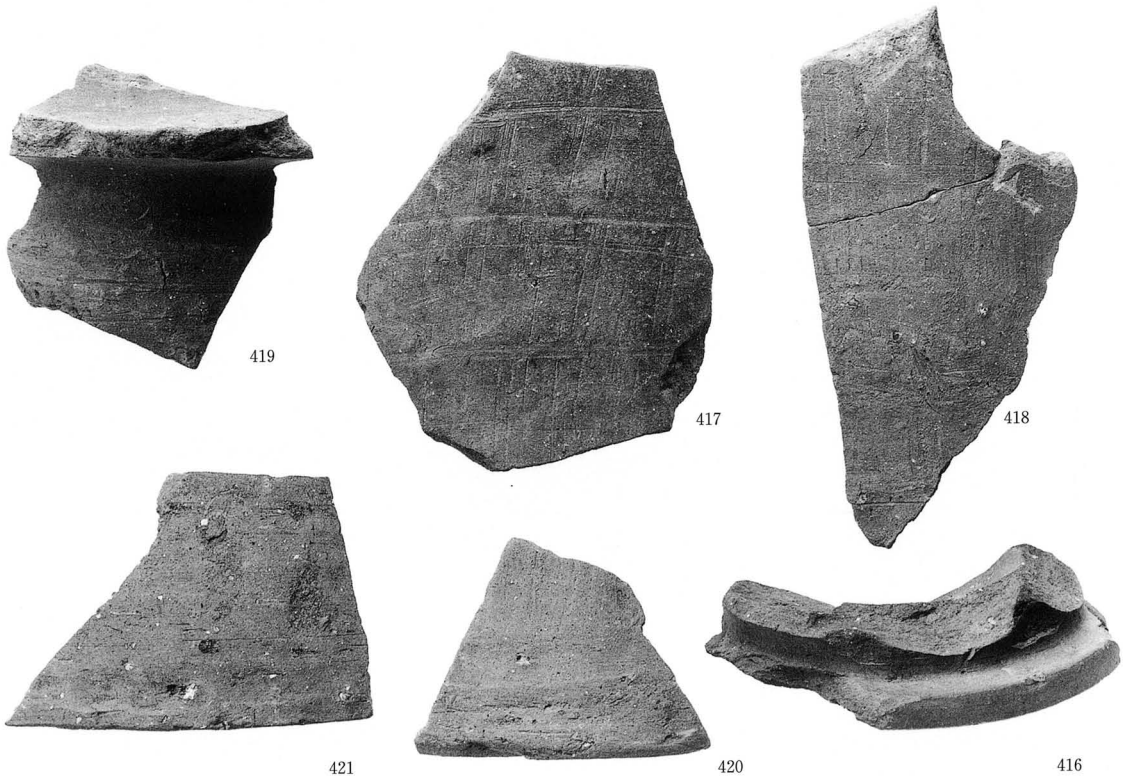


図版34　第15トレンチ出土土器（1）

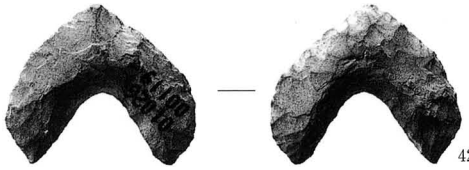




図版35　第15トレンチ出土土器（2）

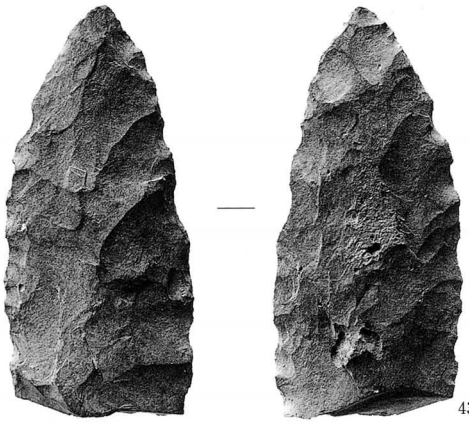


図版36　各トレンチ出土石器

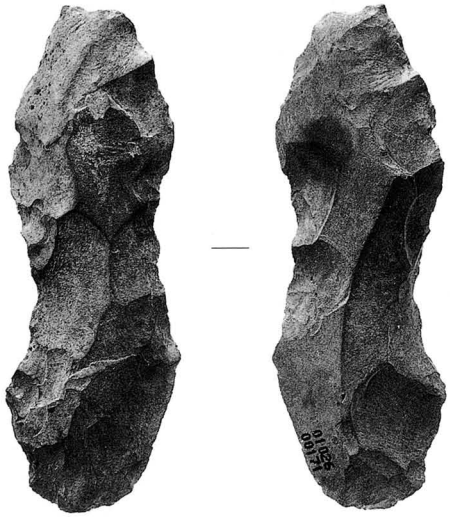


428

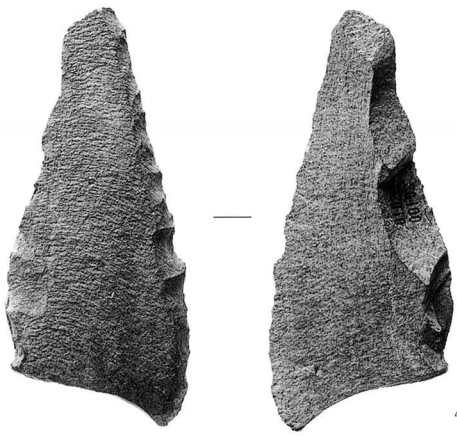
429



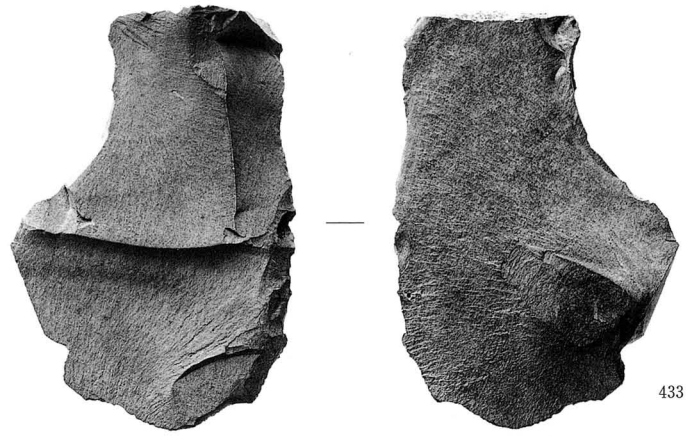
430



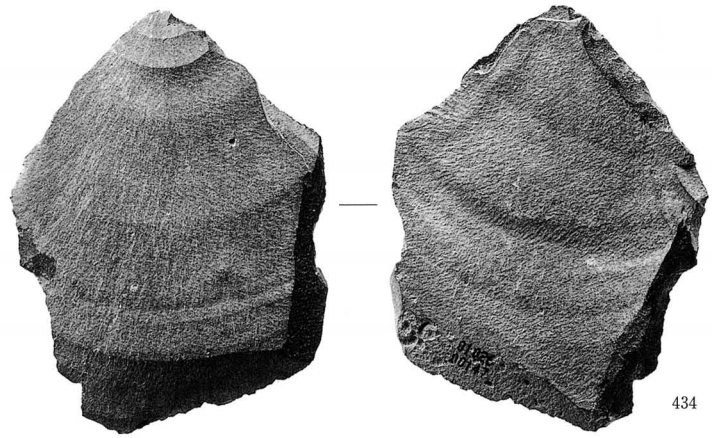
431



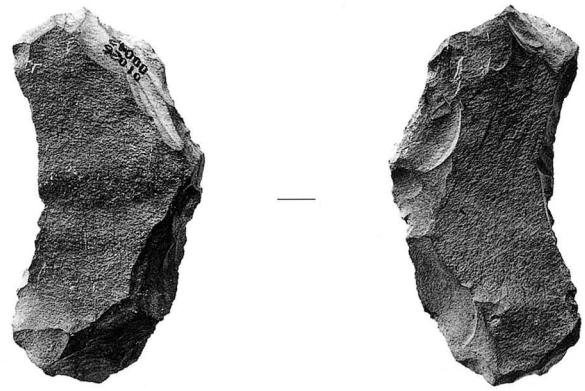
432



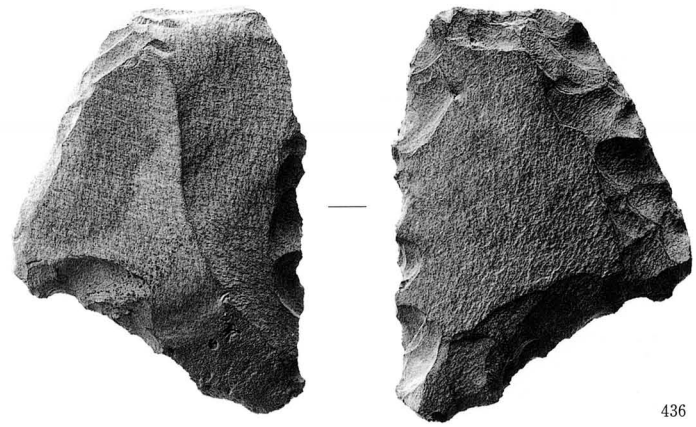
433



434



435



436

報　告　書　抄　録

ふりがな	かのうこふんぐん・ひらいしこふんぐんはっくつちょうさがいよう
書名	加納古墳群・平石古墳群発掘調査概要・Ⅲ
副書名	－中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」に伴う－
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	枡本哲
編集機関	大阪府教育委員会
所在地 発行年月日	〒540-8571　大阪府大阪市中央区大手前2丁目　TEL　06-6941-0351
	2004年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	面積 (㎡)	調査原因
かのうこふんぐん・ 加納古墳群・ ひらいしこふんぐん 平石古墳群	みなみかわちぐん 南河内郡 かなんちょう 河南町 ひらいし 平石	27382	37・24	34° 29′ 20″	135° 39′ 09″	2002年7月 ～ 2002年11月	1,399㎡	中山間地域 総合整備事業 「南河内 こごせ地区」

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
加納古墳群・ 平石古墳群	古墳・ 集落跡	古墳時代 ～ 奈良時代	・横口式石槨を主体部とする飛鳥時代の双室墳 ・奈良時代の石組の溝	土師器・ 須恵器・ 管玉・ 榛原石	・7世紀代と思われる横口式石槨を主体部とする1墳丘2石室の方墳 ・8世紀代に構築された石組の溝

加納古墳群・平石古墳群発掘調査概要・Ⅲ
－中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」に伴う－

発　行　大阪府教育委員会
〒540-8571　大阪市中央区大手前2丁目
TEL 06-6941-0351
発行日　2004年3月31日
株式会社　中島弘文堂印刷所
印　刷　大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL　06－6976－8761